

展をなし、就中機械工業の如きは眞に躍目すべき殷盛を呈せり。本邦機械工業界に異常なる躍進を遂げ斯界の新鋭として各方面の刮目を浴びつゝあるものに奈良機械製作所あり。自由粉砕機、奈良式空気分離装置、奈良式空気利用吸塵装置、奈良式微粉炭燃焼装置、奈良式空気利用輸送装置、コンベヤーステム電磁氣鐵屑分離装置、ロールクラッシュヤ、ローリングジャウ、クラッシュヤ、エレベーター、コンベヤその他各種の機械を製作しその製品の優秀なるは夙に内外各地に噴然たる好評ある所なり。宜なり。我政府に專賣特許並に實用新案權四十三種、滿洲國政府に專賣特許四種、印度政府に特許二種を有し、その装置精巧にして効率又卓絶せるを以て絶讃湧くが如し。當所は大正十二年奈良自由造氏個人經營を以て機械並びに工具商店を創設せしを淵源とす。同十四年に至り機械部を併設して、自由粉砕機の製作をなせし所、その製品俄然斯界に多大なる好評を得、需要相次いで殺到し、事業年と共に繁忙に向ふことゝなれり。奈良氏は頭腦明晰にして天稟の才腕あり。拮据勉勵して經營に没頭し、製品の改善設備の充實に銳意力を注ぎしに依り、業績大いに擧り、昭和七年には合資會社奈良機械製作所と改稱し、機械工具の販賣は廢して専ら之が製作を行ふことゝなれり。翌八年更に組

織を變更して株式會社となし、爾來幾多の新製品を發賣して愈々社業殷盛に向ひ、販路は國內より海外にまで及びてその業績ことに牢固たるものあり。現時資本金二十二萬圓（全額拂込済）、資本金額必ずしも大なりと云ふを得ざるも、その設備の整備せるとその技術の優秀なるは業界の比倫を許さず。工場を東京市品川區大井鮎洲町に置けるが、其敷地總坪數一千五百坪、建坪總數五百坪にして、最新式の設備を備へ、使用動力百五十馬力に上れり。従業員百餘名を有し、多數の優秀なる熟練職工を擁するが、更に鼓勵して技術の練磨研精に努力せしめつゝあり。當社に於ては製品の向上進歩を圖る爲めに試験研究室を特設し、ライツウルトロボーク顯微鏡、硬度測定機器其他必要なる諸設備を設置して、材料試験その他製作上の各種技術の試験に供し多大なる好成績を收めり。又需要家の爲めに實驗室を設け、自由粉砕機、奈良式空気分離装置等の製品に對し、顯微鏡、タイラー氏標準篩等の必要なる諸器具を整備して、試験の希望に應じつゝあるにより、需要家は充分に製品を吟味し効率を試験したる後に始めてこれを使用爲し得るを以て、安んじて當所の製品を購入するを得るなり。製品の優秀なるは廣く需要家の讚辭を惜しまざる所なるが、又内外博覽會共進會等に出品して賞牌賞状を受

くることその數を知らず。各博覽會に於て優良國産賞として金牌を受け、或は優良品として賞状を授與せられ、更に印度マイツール國博覽會に於て金牌並びに最高賞状を受領せり。當社は又販賣機關を内外各地に設置せるが、その販賣は直接取引を理想とせるも必要ある地方には代理店を置き、代理店の係従業員に對しては、特に工場の製作課程、製品の性能を知悉せしむる爲めに、數ヶ月間實地見習をなさしめ、進んでは需要家の爲めに實驗に必要な機械の設備をなさしむる等、まことに需要家奉仕の爲めに懇切なる用意をなせり。その製品の販路は從來内地市場にのみ限定せられたるが、昭和九年頃より海外よりの需要を見るに至り、毎年多額の輸出をなし、國際貸借上多大の貢獻をなしつゝあり。その販賣機關は全國各地、支那各地、印度、ビルマ、蘭領印度等に設置せられ、每期非常なる好成績を擧げつゝあり。
(所在地 東京市品川區大井鮎洲町)

事業家 田中周一

少壯敏腕にして俊秀聰明、數多の事業に關與して盛名隆々、次代の中京財界を背負ひて立つ人としてその前途を矚目せられる士に田

中氏あり。齡漸く三十歳に達せる青年事業家なれども、頭腦周匝緻密にして、頗る透徹せる洞察力あり。事業界に投じて日尙ほ淺しと雖も、俊敏天才にしてその手腕端倪すべからざるものありて、既にこれまでも鮮かなる鋭鋒を示して眇からざる事績を擧ぐ。質實堅確にして意志まことに鞏固たり。早出晩退その業に精勵し、八方に活躍して席の温まる遠なく、餘暇あれば事業の各般に關して研究をなし、或は謙虛に年長者の教を乞ふ等熱心に研精に努めり。これに依りて氏の知識愈々累加し業界の諸事情に頗る精通す。明朗審達、器局宏量、よく人の意見を採納し、各々の特質を發揮せしむる所實に人の將たるの器あり。濫情に富みて徒らに人の過疵を咎むることをせず包擁性頗る大にして、恭謙温厚、禮儀正しくして日常の舉措まことに端正、教養高く公平無私、不過不闊の好紳士たり。氏は名古屋田中貞二氏の長男として、明治四十年十一月十一日を以て生る。嚴君貞二氏は夙に衆議院議員に推され、政界場裡を馳驅して、その政治的才腕を顯はれ、又公共事業に盡瘁して郷黨の信望を受くること深し。周一氏は早稲田大學商學部に學び、昭和七年に同校を卒業せり。直ちに事業界に身を投じ、各種事業に關係し、幾多の會社に役員として列し以て華々しき活躍をなすに至れり。即ち日本護謨

製造株式會社社長、日本火熱工業株式會社取締役社長、國東鐵道株式會社常務取締役、靜岡倉庫、松竹映畫、新興キネマ各株式會社取締役等、幾多の事業會社の重役を兼ね、東奔西走その職に没頭す。齡未だ若しと雖もその眞摯なる努力と賦稟の手腕により、氏の主宰する事業は何れも每期好成績を收め、中京事業界に於て驚異の眼を以て見らる。氏は時代の動向に對する深き認識ありて、常に時流の



田中周一氏

進運に即して經營方針を樹立し、進歩積極を旨として成功を収めたり。又温情深くして従業員の福利増進の爲めには經費を惜しまず、従業員より厚く仰慕せらる。勞資の關係實に和氣霽々とし、上下一致して社業の發展に力を盡くし、氏の經營する會社は他の模範とせらる。事業榮え、家産富み、氏の名望益々高まりて家門愈々繁榮を見るに至れり。氏の前途大いに春秋に富む。この手腕この人物を以てせば、事業界に多大に驥足を伸すに至るべし。趣味に弓道あり。因に令閨鈴子夫人は大正四年に愛知縣丹羽郡布袋町村瀬小右衛門氏の長女として生れ、丹羽高等女學校を卒業す才色雙絶せる賢婦人たり。昭和十年生れの靜子嬢の一子ありて和氣家堂に充てり。
(住所 名古屋市中區下前津町一三五)

合資 細川鐵工所

世界的發明品として偉大なる性能を有し、理想的粉砕機として名聲噴然たる細川式微粉機（ミクロン・ミル）の製作を以て業界に翹を唱へるが、當細川鐵工所たり。當社は細川永一氏の主宰に拘り、大正四年獨立して創始す。氏は創業以來微粉機製作に没頭し、苦心研鑽心血を傾注して、遂に本品の發明を完成し、業界に於ける世界的獨權を確立するに至れり。細川式微粉機は堅きものは鑄鐵、亞鉛鉛、錫、軟きは寒天、甘草、除蟲菊の如きものを何れも超微粉末となして驚くべき性能を發揮し、一度これを使用せる者何れもその精巧なるに嘆稱せざるなし。現在粉砕機と云へばミクロン・ミルの別名なるかの如くに廣く世上に流布せられるの有様なり。同品の特長として擧ぐべきものは超微粉自由自在なること、粕を生ぜざること、冷却装置なきこと

織分の絶對に無きこと、經濟的なること、萬能なること、構造簡單にして取扱容易且つ普響なきこと等の諸點を擧ぐるを得べし。同品は染料、塗料、顔料、食品製造等に最適にして、殊に化粧品製造には缺くべからざる必要品たり。尙ほ當所は動力八十馬力を設備し、モートル十六、七臺を据付けたる實驗室を開放し、ミクロン・ミル各型の實驗を希望者に隨意になさしめて多大の好評を博せり。同機は世界に競争品なく、科學日本の誇りを多大に發揚せり。同品の優秀なるに着目して範多商會が總代理店として乗出し來れるも故なしとせず。當所はミクロン乳劑製造機、自動篩付粉砕機等の微粉機に關する一切の機械の製作をなし、業界に獨歩の地歩を獲得して業績頗る良好たり。將來の發展こそまことに目覚しきものあるべし。

代表社員 細川 永一 氏は夙に名古屋高等工業學校機械科を卒業し、後島津製作所に入りて大いに實績を擧げ、甚だ重用せらる。然るに氏は微粉機の製作に志して、大正四年獨立し、細川鐵工所を創立せり。苦心慘澹して發明に全精力を傾け、その熱烈なる努力に依りて遂に輝しき成功を齎すに至れり。資性温順厚、頗る温情に富み、襟度廣く、世人の

敬仰を受くること深し。
(所在地 大阪市港區高尾町二ノ三〇)

演藝家 篠田 實

澎湃たる歐米文化の侵入同化に伴ひ、所謂一方に新興藝術の提唱喧しと雖も、他面國土に培養されたる浪曲の如く、本邦固有の國民精神を如實に物語り、而かも興趣滿々として盡きざるものは、他に求む可らざる處なり。蓋し浪曲を目して我國大衆演藝の最高峰となすも異議なかるべし。而して古來斯藝の巨匠幾多輩出し、現今亦た名人紛ならずと雖も其の節廻しの變轉微妙、或は普吐高此意の如く、克く聽者をして恍惚夢幻の境に誘ふ至藝の持主、即ち我が篠田實師の如きは容易に比肩する者なき斯界の雄と稱す可きなり。

氏は京都府藤田信太郎氏の長男として明治三十一年二月十六日に出生。幼にして聰明俊才而かも藝操豊かなるあり。其の將來を浪曲界に致さんと決意するや、同四十二年當時藝界に緒々の名聲を博せる早川淺吉師門下に入り爾來鑠骨精進、凡ゆる艱苦困難を突破しつつ只管斯道に邁進する處、其の進境頗る顯著にして儕輩を凌駕すること數段、斯くて淡路島洲本に眞打披露をなし、斯界に本格的進出

を敢行するや、天賦の藝才愈々妙味を加へ、更に全精神を傾倒して尙ほも苦心精進せる結果其後各地に開演、壇上に立つ毎に人氣沸騰して湧くが如く、大衆の絶讚好評の的たるに至れり。斯くて斷然斯界の人氣者となり、藝名噴々として全國浪曲愛好家間に洽く、幾多優秀なる曲目あれども、殊に「紺屋高尾」の如きは絶世の賞讃を博して人口に膾炙され居れり。資性開放潤達なる反兩頗る情味に厚く、常に後進子弟の面倒を見つゝ指導激勵し、或は斯界他人の藝を賞揚する等の美德に富む處あり、其の圓滿玲瓏たる人格と、烈々たる任俠心は藝界稀に見るものと稱され、徳望翕然として聚り、遂に同業者多數の意志を反映して浪曲協會副會長の要職に推さる。以て益々斯藝の向上を圖り、更に業者の親睦融和に處して献身努力を怠らず、其の功績亦た没す可らざるものあり。今や藝味愈々洗練充實されて至妙の域に達し、名實共に現代浪曲界の大家たるを失はず。

(住所 東京市杉並區高圓寺四ノ五九四)

名古屋捺染合資會社

名古屋捺染合資會社は其の技術の優秀なる設備の卓越せるを以て、斯界にその名聲顯

然たるものあり。大正十四年十一月に創立せられたるものにして、資本金六萬圓の全額拂込済たり。當社の有する獨特の技術は非常なる好評を以て迎へられ、注文相次いで殺到し來り、日夜操業甚だ繁忙を呈せり。創立以來業績順調を辿り、社業年に共に發展し來る。當社は設備の改善改良に意を注ぎ、技術の研精に努力せるに依り、益々その聲價を高むるに至れり。當局者の熱心なる努力に依り今後發展には大いに期待すべきものあり。

代表社員 國立 恒吉 名古屋捺染合資會社を設立し、同社の代表社員として直接經營の衝に當れるが氏なり。岐阜縣羽島郡竹ヶ鼻町國立富次郎氏の三男にして明治二十六年九月一日を以て生る。氏は幼時より聰敏にして美術に關する天分に富み、夙に愛知縣立工業學校圖案科を卒業す。後ち服部商事に入り圖案部加工係販賣係を勤む。氏は誠實眞摯の人にして、早出晩退熱心に職務に當り、技術の研究に夜を徹して没頭し、種々と新工夫を創案して寄與する所尠からず。他面には販賣係として販路の開拓に、顧客の吸収に努力して多大の功績ありて、非常なる信用を受け大いに推重せられるに至れり。併しながら、性來獨立不羈の士にして、早くより事業界に打つて出でんと志あり。大正十四年に至り、

その職を退きて名古屋捺染合資會社を創立し當初幾多の困難に逢着せしも、少しも怯まず邁進し、遂にその大を成するに至る。氏は意志鞏固にして非常なる努力家たり。夙起晩寢技術の研究に顧客の吸収に力を盡して寧日なし。濃厚篤實にして質實謙仰、清高の人格を以て多大の信頼を得、名望高し。餘不惑を超越すること若干、その前途まことに洋々たるものありて今後の活躍こそ蓋し注目し値せん。榮夫人は名古屋市川合三郎氏の長女にして、明治三十二年を以て生る。甚だ聰明にして内助の功あり。三男六女の子福者にして家庭は至極圓滿たり。

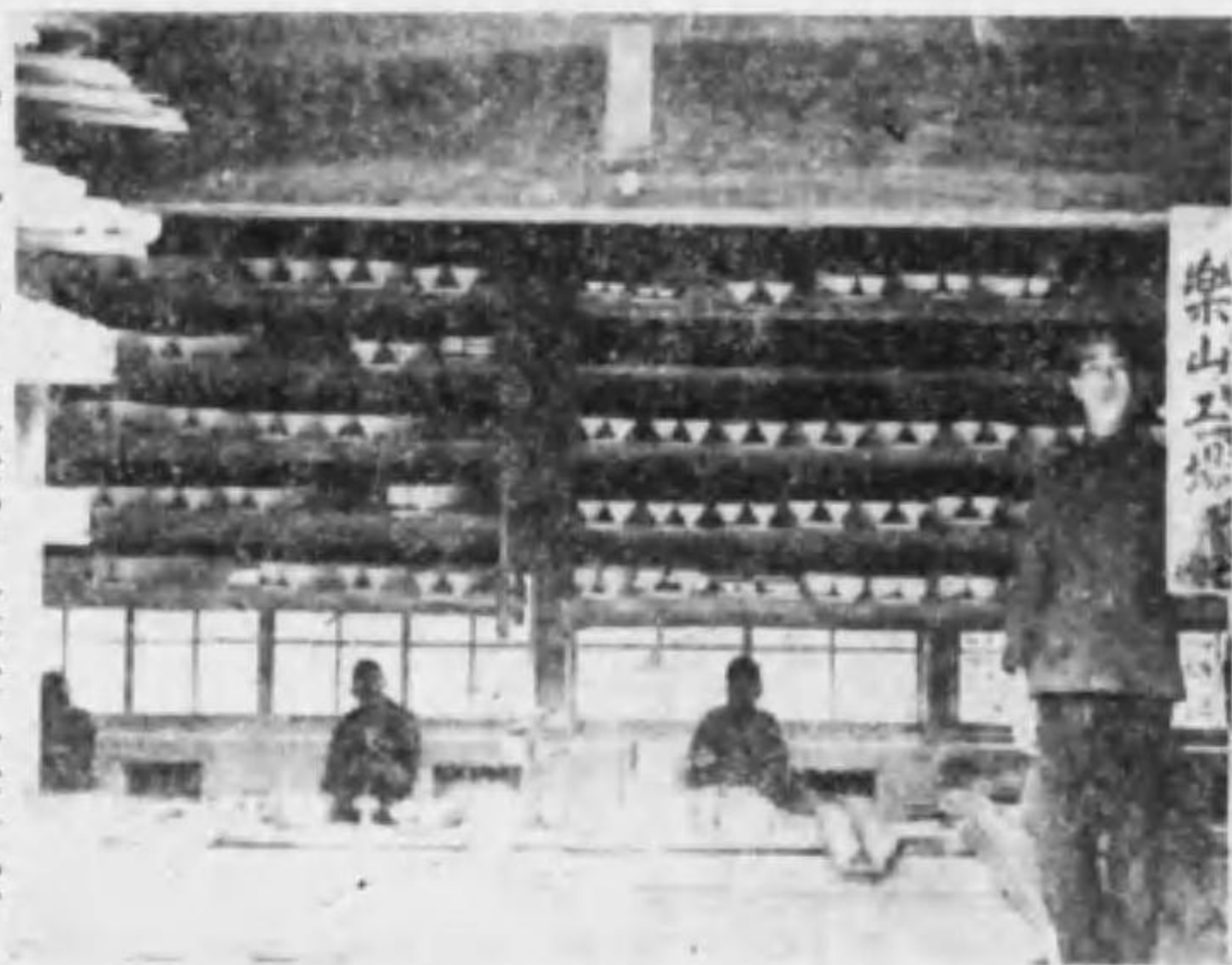
(所在地 名古屋市外萩野村光音寺高田)

事業家

小柳 吉藏

長崎縣波佐見陶磁器工業組合理事長の要職に就ける、小柳吉藏氏は明治二十二年二月、長崎縣東彼杵郡下波佐見村、小柳太五郎氏の四男に生る。

夙に大望を抱き羽翼を伸さんと竊かに機の小規模なる工場を創設す。時恰かも世界的不況時にして財界は極度に悪化せしが、氏は持据經營に當り、爾來幾度か危機に直面し工場



小柳吉藏氏の經營の工場

閉鎖も一再ならざりしが、不撓不屈の精神能く之れに耐へ之れを忍びて刻苦倍勤漸く、工場も活況を呈するに至れり。偉大なる氏の奮闘により、此處に業績成りその基礎を得るや、新業に對する研究的熱意

傍ら、又販路擴張にも餘念なく遠く滿洲國、朝鮮地方にも出張しその活躍頗る目覚しきものあり。特に南洋方面には、製品見本を送り其の豊饒なる色彩を賞讃され多大の註文を見るに至れり。

昭和八年第二工場を創設し食器、洋皿、喫煙セット、カッパ等の製造に着手せしが、其製品の優雅精巧なるに同業者を驚嘆せしむ。尙第一工場の和食器、第二工場の洋器等最近の製品は特に新界代表的製品を矢張り早に製出し、今や業界に燦然たる光彩を放ちて大いに名譽を博するに至れり。

而して昭和十年に至りて、九州沖繩各縣聯合主催、第二回工藝試作品展覧會には紅茶碗を出品して、熊本縣知事より輸出工藝品としてその優秀なるを賞揚されて賞状を授與されたり。昭和十二年には大阪毎日新聞社後援に係る長崎縣陶磁器工業組合主催の品評會に出品、審査の結果成績極めて優良品種として、一等賞に入選し、大阪毎日賞を授與表彰されたり。

如斯氏の製品は今や全国的に賞揚されるに至り益々信望を寬め、業績頗る顯著なるものあるは、之れ實に氏の不撓不屈の努力研究の芳果にして我が陶磁界の爲、邦家の爲、實に同慶の至りといふべし。

(住所 長崎縣東彼杵郡下波佐見村)

株式會社日本製鋼所 室蘭工場

製鋼事業こそ、戦時體制下に於ける基礎的産業として、一切の國策は茲に發し茲に歸着す。今や刻下の時局關係を受け、當社室蘭工場も近時著しく操業繁忙となり、國家の爲めに多大の貢獻をなすべしあり。抑々當社の沿革を採るに明治三十九年北海道炭礦汽船株式會社と英國アイムストロング及ウキカース會社との間に、資本金一千萬圓を以て本邦に製鋼業を起すの議成り、四十年七月三日の代表者倫敦に會して契約を締結し、同年十一月株式會社日本製鋼所の創立總會を東京に開き、事業の方針を確定して、北海道室蘭に工場を建設するに決す。明治四十二年資本金を更に五百萬圓増額し、翌年社債一千萬圓を募集、四十四年一月に至り工場の大半竣工したるにより營業を開始せり。超えて大正八年北海道製鐵株式會社を合併して資本金も總額參千萬圓となし、製鐵及採鑛業を兼營す。大正九年廣島市廣島製作所を買収して、その事業を繼承するに至り、更に昭和六年に及び輪西製鐵株式會社へ製鐵、採鑛並それに附隨せる事業を譲渡して資本金を一千五百萬圓に減資す。續いて十一年神奈川縣金澤町に横濱工場を新

設す。現在室蘭工場のみにて工場用地二十六萬坪、工場建物二萬九千坪に及び職員職工の全従業員は三千八百名に上る。鑄鋼物、鍛鋼物、鑄鐵物、合金物、各種機械類の製造並に販賣を主たる事業とせり。尙ほ従業員の爲めに社宅、病院、購買組合、學校、授産所等の福利施設をなし、工場設備に或は従業員に對する諸施設に我國屈指の模範工場たり。時局の重大なる折柄その任務の大なるに鑑みて、當工場幹部は協力一致して技術の向上、能率の増進に勵みつゝあることゝて、當工場今後の躍進は多大に期待せらる。

室蘭工場長 打越光保

明治四十一年東京高工機械科を卒業して直ちに日本製鋼所室蘭工場に入社す。春風秋雨當工場に勤続すること既に三十年の久しきに及ぶ。早出晩退眞摯精勵以て、その業に當り、終始一貫當工場の爲めに献身的に努力し、その業務に精通せること生引の如く功績又赫々たるものあり。濃厚篤實にして操行正しく稀に見る君子人たり。皇室に對しては敬崇の念厚く、又敬神崇祖の精神に富み、従業員に對しては人格陶冶に力を盡し、自ら率先して修養に努めて範を示せり。數千の従業員も亦君の人格を深く欣慕して、氏の指揮命令には悦服して一絲一毫の弛緩をせず。互に相戒めて技術を磨き

職務に相勵みて能率の増進に努むる所以のものは一に、氏の人格の感化に依るものなり。氏は従業員の爲めに幾多の施設をなして従業員の福祉の増進を計りて我子兄弟の如くに慈しみ、上下の麗しき機和を達成し得たるものは偏に氏の徳の發露せる所なり。氏は趣味を讀書となし、その知識該博にして百般の事物に通じ、殊に古典を研究すること深く古代の事情に精通す。明治十八年十二月打越萬二氏の長男に生れ、從七位豫備陸軍砲兵中尉たり。

(所在地 室蘭市 茶津町 四)

東武鐵道株式會社

その資本金額に於てその事業規模に於て、關東隨一の大電氣會社として新界に覇を唱へる東武鐵道は、その營業線の沿線に工場地帯、遊藝地、寺社、名所舊蹟、遊藝地等に富み、四季乗客多く電氣自動車共を運んで乗客著増し、近時業績頗る好調を遂げり。當社の營業線は伊勢崎線、宇都宮線、千住線、大師線、日光線、宇都宮線、大谷線、佐野線、桐生線、東上線、伊香保線等にして營業里程四百三十九・三軒に達せり。起點淺草に於て東京市電東京地下鐵と聯絡せるを以て、東京東部の工

場地帯、日光、鬼怒川、伊香保等の遊藝地或は宇都宮、桐生方面等に赴くに又至便たり。當社の創立は明治二十九年十月にして、資本金二百萬圓を以て創設せらる。明治四十一年十月五百三十萬圓、同四十五年三月佐野鐵道を合併して五百三十九萬圓、續いて大正元年十月九百萬圓、爾後數次の合併、増資を経て現在公稱資本金五千五百萬圓、拂込資本三千七百五十萬圓に上り、業績内容共に甚だ良好なり。九月末を締切りとせる昭和十二年下期決算に依れば、電氣收入五百二十萬六千圓に上り、上期より二十五萬八千圓、又前年同期に比し三十九萬四千圓をそれ、増加せり。電氣收入の増加は貸車收入の著増に依ること多く、近來時局關係の好影響を受けて各種工業は目覚しく活況を呈し、之が爲めに貨物輸送大いに激増せり。石炭、石灰石を主として更に工業用の砂利石材の荷動きも亦頗る活潑たり。又自動車收入に於ては昭和十二年下期十二萬圓を擧げ、前期に比し八千圓、前々期に比して二萬圓を増加す。當社の自動車業は規模小なるを以て成績の向上に寄與する處僅少なるとも、今後の發展を期すべきなり。十二年下期当期利益金一百四十六萬八千圓を擧げ資産償却に五十萬圓法定積立金に四萬九千圓を計上し、株主配當として年七分の割合を以て百一十一萬五千圓を配當せり。尙ほ今後に於

ても大いに期待せらる。即ち十三年春より富國セメントの葛生工場愈々操業を開始することとなりたるに依り、當社の收入も又從つて増加を見るの筋合にあり。沿線の工場も好況を持続すべく、貸車收入は一段と著増するに至るべし。客車收入に於ても事業界の一般的好調に依り、乗客は更に増加を見ることとなるべし。當社今後の業績は多大に期待すべきものあり。當社經營に拘る東武ビルは吾妻橋々畔に聳立し淺草繁華街の一偉觀たり。二階を淺草雷門驛となし、其他全館を松屋呉服店に賃貸す。日曜、祭日等には日光、鬼怒川温泉方面への團體客雲集してその混雑云はん方なし。尙ほ當社は鬼怒川温泉に鬼怒川温泉ホテルを設け、同温泉を天下に紹介せんとして極めて低廉なる料金を以て懇切なるサービスをなし、遊藝客に多大の満足を與へり。同温泉は近時一段と活況するに至りたるものにして風光幽邃を極め、温泉の湧出又豊富にして非常なる好評あり。設備完備せるホテル設置せられたるに依り、年と共にこの地に遊ぶ者多し。

因に當社の車役は社長根津嘉一郎、専務取締役吉野傳治、取締役原邦造、同子爵前田利定、同根津啓吉、同中川正佐、同畑中四郎、常任監査役須田立、監査役正田貞一郎、同宇都宮政一の諸氏なり。

社長 根津嘉一郎 我財界に聲望並びなき根津嘉一郎氏當社長として業務を總攬せり。根津合名、太平生命、日光電軌、富國徴兵、東京地下鐵各社長を始め、その關係事業數知れず。我國事業界に宏大なる事業網を張り、基礎牢固たる根津財閥を結成す。又氏は育英事業に力を注ぎ、根津育英會を設立して學校の建設、學生の學資の貸與等をなして多數の預材を世に出だせり。骨董の趣味は既に周知のことにして、その鑑定眼は堂々一家を成せり。萬延元年六月に生る。

軍務取替役 吉野傳治 氏は頭腦明晰にして俊秀高才、その卓抜なる事業的才腕を以て財界に多大に推敬せらる。卓學豪放にして剛毅果斷、裁斷流るゝが如くして、行動又疾風の如くに神速たり、資性温恭謙裕、人に接するに態度甚だ謙虛たると共に、温情豊かにして好んで衆庶の爲めに力を盡し、世人の瞻仰を受くること深し。明治四年千葉縣に生れ明治二十九年東京帝大電氣科を卒業す。山陽電氣鐵道技師、房總鐵道事務取替役、越生鐵道代表取替役、千葉貯蓄銀行取替役等を歴任して、現在日光登山鐵道、東京興産各社長、東武自動車、越生鐵道、京水モーターバス、東京灣汽船、下野電鐵各社取替役その他幾多の會社に關係して財界に絶大なる信望あり。

千葉縣多額納稅者にして、社會公共の爲めに貢獻する所多く、縣下屈指の名望家たり。(所在地 東京市本所區小梅町一丁目)

宗教家 梶本清純

本門佛立講總務局總理として、同宗門全徒の敬仰を一身に負ひ、身を持するに極めて謹直にして嚴格、今や一世の高僧として其名聲洽く知らるる師は明治十六年を以つて京都市の中樞四條木屋町に誕生す。幼にして智徳自から備はり、衆童の範として近隣にその名譽へられる。十七歳にして笈を聲轍の下に負ひ順天中學校に入り、同校を経て、早稻田大學に學びて明治四十年哲學科を優秀の成績を以て卒業す。次いで本宗立本門佛立校に迎へられて教鞭を執る事二ヶ年餘、惜まれて譽を退く。二十五歳にして得度して後ち伊賀國の古刹妙蓮寺の住職に推舉され、爾來爰に三十有餘年、一山の名住職として崇仰さるゝのみならず、常に宗門のため、國民精神作興の爲めを偷みては全國に布教し今や師の足跡の疎らざる地なく、高邁なる人格は宗徒のみに止まらず、教化の域擴大無邊たり。此間佛立財團理事長、教學院長の要職に推戴されて、この適任は知る人ぞ知る。次いで昭和十年遂ひに

本宗の高峯本門佛立講總務局總理の榮職に就く。師終始一貫私心なく只國民精神の振起並に教化に盡力すること著大にして、宗門を代表する大社會事業家と評するも敢て溢美にあらざるべし。一面國民授職會を主宰しては失業者の爲めに所有の鑛骨を累ね之れが就職救済に當りて恩威を稱へられ、宗維會を興しては宗教の刷新に奔走して席の温まるを知らず師こそは正に昭和衆代の宗教界の偉傑にして高僧と稱すべし。師近く某古刹の住職に内定せりと聽く。其適任は喋々の辭を要せず。今や我國は内外ともに多事多難、之れを過ぐる明治回天の資業時に較ぶるも、敢て遜らず。ことに國民精神總動員は既に敢行されつつある當今、國家は大聖人、大思想家、大宗教家の躍起を望むに頗る急なり。この意味に於いて我が梶本清純師の益々健在にして不壞の努力を切に祈念するものなり。因に師は閑暇の折は鳥鷲を戦はずを最上の趣味として其力量は既に定評あり。野球の觀戰も好むところにして師の野球持論は傾聴の値充分なり。(住所 京都市上京區御前通鍋町上)

事業家 高田民郎

三重縣下交通事業界に於て、其の名著聞す

る氏は、三重縣人高田顯元翁の四男として、明治二十四年九月、同縣三重郡菟野町に呱呱の聲を擧ぐ。向學の志篤く笈を帝都に負ひ大正四年中央大學商科を卒業す。直ちに大阪市所在中井洋紙店に入りたるも決するところありて壯學を懷きて渡支す。歸朝後、同七年四日市製紙會社に入社し、同十年静岡電力の創立に關與し、設立後營業課長に推選せられ、茲に於て且暮精勵社業の興隆に資すること多大なりき。次で同十五年に迫んで伊勢電氣鐵道より其の手腕力量を買はれて支配人として招かれ、爾來引續き精進のところに、昭和十一年同社が參宮急行電鐵に合併さるゝに及んで囑託となり、閑職に在ること僅かに二蒞、同年十二月三重鐵道常務取替役に推舉され、爾後之れを掌領して今日に至れり。氏資質頭腦緻密にして用意周到、事に當りて千慮萬顧、然る上に一舉斷行す。而も事に榮着するや敏捷迅速を極め縣下少壯放腕家の鉗錘たり。

現に參宮急行電鐵囑託、三重鐵道常務取替役たる傍ら、伊勢電氣自動車取替役社長、旭土地建物取替役等を兼務す。氏の綜統する三重鐵道の終點たる湯山温泉は氏の播種郷土にして、鈴鹿連山の峻峰鎌ヶ岳の山麓に位する古湯にして、三瀧川の源流、風光明媚の仙境たり。二十餘年前當鐵道開通するに至りて俄然遊覽湯治客來杖し、殷

輪を極むるに至れり。因に同鐵道は資本金六十五萬圓にして營業軒程二一・六軒に達す。業況逐期順調を辿りつゝあり。氏は軍用犬に多大の關心を有し、之れが飼養訓練を至上の趣味と爲し從而造詣亦深し。氏未だ知命の齒に達せずして如斯威名を馳せるも其の活躍は寧ろ今後にあり。切に加餐力闘を希望して罷ます。(住所 四日市市濱田)

北海道帝國大學

北方文化の魁としてエルクの鐘は明けに暮れに時代の登音を人の耳朶に傳へ、永遠の眞理に撞かれる若人達は此の地を慕ひて集り、北方の文化的躍進に北海道帝國大學は、まさに燈明臺たるの役割をなせり。當大學は大正七年に設置せられたるものなるが、その濫觴は遠く札幌農學校の淵源をなせる開拓使假學校に始まる。畏くも 明治大帝は明治元年三月北地經營に關する方策をば有司に御下問あらせらる。茲に於て北地開發の爲めに蝦夷開拓總督を派遣し、尋いで開拓長官を任命す。開拓次官黒田清隆は北地開拓の爲め人材養成の必要あるをみて政府に策策し、斯して明治五年東京芝山内に開拓使假學校設立せらる。

八年札幌に移して札幌學校と改稱し、續いて翌年札幌農學校と改めて卒業生に農學士の學位を授くるの制を定む。明治四十年東北帝國大學の仙台に置かるゝや、札幌農學校は其一分科として東北帝國大學農科大學とせらる、更に大正七年三月に至り北海道帝國大學設置せられ、農學部、醫學部、工學部、理學部相次いで設けらる。當大學は創始以來既に七十年、其間幾多の波瀾愛遷を辿りて、今日の如き綜合大學としての發展を見るに至れり。當大學の歴史は北海道の拓殖事業と密接なる關係を有し、他の帝國大學に見ざる特色と使命有り。次ぎに當大學の内容を見るに農學部には農學、農業經濟學、農業生物學、農藝化學、林學、畜産學の六學科あり。工學部に土木、鑛山、機械、電氣、理學部に數學、物理學、化學、地質學、礦物學、植物學、動物學の諸學科設けらる。醫學部四ヶ年にして他は三ヶ年を以て修養年限とす。この他大學部に附せんとする者の爲めに豫科あり。農學部に附設せられたる實科及土木専門部等の設けあり更に農學部に農場、演習林、植物園、博物館、家畜病院、醫學部に病院、理學部に臨海實驗所、海産研究所及び附屬圖書館、忍路臨海實驗所、當時低温研究室等その設備完備し他に見ざる幾多の特色あり。教職員數五百餘名、學生總數二千數百名に及べり。尙ほ、卒業生數

は各科合計八千名に達せんとし、それ／＼各方面に於て活躍せり。抑々創立の當初に於いては、北海道開拓に必要な人材を養成するを目的とせしが、現時に於て北海道樺太に於て活動する二千数百名の卒業生を除く他の者は、内地、外地或は海外諸國に於て活躍し、當大學の權威を廣く世間に發揚せり。現總長は今裕氏なり。青森縣士族第一翁の八男にして、明治十一年二月に生る。學殖深遠、人格高潔、その高風は多數職員學生の仰慕する所なり。醫學博士の學位を有す。曩に高岡總長の後を襲ふ。

(所在地 札幌市北八條西五丁目)

株式 大同電氣製鋼所

時局發生以來我が産業界、殊に軍需關係工業を中心とせる一聯の産業界が跳躍的進展を遂げつゝあり。我が大同電氣製鋼所も時運に均霑せる錚々たる雄にして、而も生産するところの特殊鋼は一天四海獨占的にして、今や其動靜を凝視さるゝ軍需工業界の驚異的存在たるの概あり。

當社は過ぐる大正十年十一月、本邦電力界の音宿たる大同電力株式會社より製鐵部を分離獨立し、資本金一百万圓の大同製鋼(現業

地工場)を創立し名古屋市内に同一事業を營む電氣製鋼所(現熱田工場)在り、翌十一年八月當社の合併實現し、茲に稱號を大同電氣製鋼所と改む。當初資本金二百八十萬圓なりしが、時局以來需要の激増に伴ひて積極方針に轉換し、製作能力の擴大に邁進し、既設築地、熱田兩工場の擴張はもとより、帝國發條會社の買収、築地興業、第二東海電機、大同機械、三泉工業、三重鐵器、大同機械製作所各社への投資に拍車をかけて、曩に六百萬圓に増資せしが、更に昭和十二年十二月末、第二大同電氣製鋼所並に名古屋電氣製鋼所を對等にて吸收合併七百萬圓を増加し、現に資本金一千三百萬圓、内拂込六百七十九萬圓を擁し以て特殊鋼業界に重要な地位を占有するに至れり。而して主要製作品は合金鐵、壓延鋼、鍛鋼品、鑄鋼品、電氣加熱爐、電氣弧光爐、バネ等にして、就中需要の主たるは鑄鋼品、鍛鋼品、バネなり。その納入先は從來民間を主とせしも、時運に乗じて最近軍需向旺盛となり全製品の過半に及び軍需會社の色彩愈濃厚となれり。

當社は時局以來好成绩を續し、毎期二割臺の利益率を挙げ、優先普通共九分配當を踏襲し十二年下期の如きも、利益率二割六分四厘の高率を挙げ、恒例九分配當は益々餘裕綽々たるものあり。如斯當社の前途は洋々にして

事變解決後は國內の需要増加は勿論、輸出の増進を期待され、滿洲國へは既に相當輸出されつゝあるが今後は北支への進出も將に時日の問題となり、益々繁忙を約束附けらる。一面全面的擴張も頗る緊急を要し、東京工場に於て新たに工場を新設すべく、着工も近き見込にして、其資金調達法として更に三千萬圓に一舉増資すべく決定せり。斯て當社は生産能力半期一千萬圓程度増大さすべき意圖なり。當社の重役陣は社長下出義雄、常務川崎合恒三、野長瀬忠男、取締役寒川恒貞、島田忠次、齋藤直武、志水懐民、小野秀一、坂下忠雄、監査役進藤甲兵、永松利熊の諸氏。

取締役社長 下出義雄 實業界の音宿。

下出民義氏の長子として明治二十二年東京に出生す。長じて大正二年神戸高商を卒へ、更に同四年一ツ橋專攻科出身の俊英たり。現に當社々長の傍ら十數社の重役を兼ね、尊父に劣らざる錚々氣鋭の士、東邦商業の校長として訓育に盡瘁せるは著聞するところなり。

常務取締役 川崎合恒三 明治十九年川崎

合定馬氏の二男として、風光明媚の瀬戸内海に臨む香川縣に生る。天性頭腦明晰にして剛直、長じて一高を経て、明治四十三年東京帝大工科電氣工學科を優秀を以て卒業、爾後電

氣工學の研鑽に一身を捧げ、昭和三年工學博士を授與さる。次で米國各地を經由、歐州各國の電工事業を研究遍遊す、歸朝後當社に迎へられて常務に推されて今日に及ぶ。曩に發明協會より功勞者として表彰さる。

(所在地 名古屋港區東築地)

函館製網船具株式會社

當社は北洋漁業の策源地たる函館市に本社を置き、本邦漁網界の王座を占め、北洋漁業發展に致せる功績燦たるものあり。抑々當社の沿革を尋ねるに、明治四十四年に古くより漁網の製造販賣に従事せし岡本商店主體となりて資本金二十萬圓を以て創立せられしに始まり、北海道に於ける製網工業は茲に其端を開かる。大正二年十二月に至り組織を株式會社となし、資本金を三十萬圓に増資し、名稱を函館製網船具會社となせり。營業も製網の外新たに船具類の販賣を開始す。爾來逐年業務は發展に向ひ、今日既に資本金は二百萬圓に達して、一大躍進をなせり。製網以外に撚絲をも行ひ、名實共に我國屈指の製網會社として重きをなす。當社現在の工場設備を見るに、新川工場に於ては各種製網用タンク並にパーキエームタンク、特許乾燥設備仕立作

業場等完備せる設備あり。一方龜田工場には撚絲機三十八臺、合絲機三十五臺、各種編網機百五十臺を備へ、あらゆる最新機の機械設備の下に作業能率を極度に發揮せり。斯て撚絲は大正の初期には四十四萬圓程度を上下するに過ぎざりしが、逐年増加して昭和四年には二百二十萬圓餘の記録的數字を擧げて驚異的躍進をなすに至れり。又撚絲も大正の初期には年産三十萬圓内外に止まりしものが、大正末期には七十萬圓に増進し、現在に至りては百萬圓を突破して、まさに創業當時の三倍の成績を擧ぐるの盛況なり。更に最近の沖取漁業用刺網の急激なる需要増加は、當社の前途をして愈々光輝あらしむ。現在既にミール

一、鮮鱈流刺網の産額百萬圓を超えんとし、北洋漁業家の大部分の需要を充たし、その製品の優秀なるは絶讚的となる。尙ほ當社は船具部を経営する外、魚船壓搾機、硫黃釜その他を製作する鐵工部を直營し、對露貿易の先驅者としてその方面にも多大の功績あり。尙ほ函館、小樽、青森、東京の各地に支店を置く。試みに昭和十一年度の決算を見るに總益金八十五萬八千圓、總損金五十八萬九千圓に上り、差引當期利益金二十六萬九千圓に達せり。株主に八分の配當を附して右金額十四萬四千圓、五萬圓を別途積立金とし、更に十萬九千圓を後期に繰越す等頗る手堅き決算な

り。以上の如くに當社は、我國漁業界の發展と共に躍進し、而もその將來は實に洋々たるものあり。殊に北洋漁業開拓の功績は永久に記録せらるべし。

社長 岡本康太郎 氏は和歌山縣日高郡

印南村の出身にして、夙に大阪に出でて商業に従事せしが、雄心勃勃として止み難く、北海道に於て新生面を拓かんことを期して、函館に來る。北海道が我國水産業の中心地なるに想到せし氏は、茲に漁網店を開業す。これ即ち岡本漁網店なり。掃風沐雨よく事業に精勵し、日夜馳驅して努力したるにより事業大いに繁榮に赴けり。斯くて函館製網船具の創立せられるに至り選任せられて社長となる。社業の發展には全力をあげ、神靈鬼策、縱横に才腕を揮ひ、これを以て當社は逐年目醒しき躍進をなすに至れり。斯くの如く氏の北海道漁業界の發展に盡くせる功績は實に顯著にて今や其聲望赫々たるものありて北海道財界に不拔の基礎を築く。三盛鑛業株式會社々長として同社の經營に當る外、函館商工會議所會頭として函館市商工業の發展の爲めに盡くせし功績しとせず。同會頭に再選せられて既に二期を勤め、就中中小商工業者に對する諸施設に多大の力を致せり。多年に亘る功績と其高邁なる識見と抱負とを以て、絶大なる信

望あり。卓學豪放にして、一度事に當るや用意周到而も裁決迅速にして、其措置には水も洩さぬ程に疎漏なし。事業の經營に當りては卓抜なる手腕の持主たり。人物温恭にして、他面情誼に厚く、衆庶の指導啓蒙に盡瘁せる所尠しとせず。明治七年三月に生る。

常務取締役 岡本榮三郎 社長岡本康太郎氏の三男にして、大正六年に東大政治科を卒業す。函館製網船具の常務たる外、角田無線電機、柴野商店各社長、三盛礦業、ウロコ製作所監査役等の椅子にあり。先年紐育商工業視察の途に上り、同地の經濟事情を調査して歸朝す。致養高く聰明にして時代の動向にも一見識を有せり。北海道財界第一線の實業家としてその才華を顯はる。

(所在地 函館市末廣町)

事業家 池永浩久

大衆をして時代現象の觀察と、時代精神の顯現發揚に適正の常識を與へんを念願とし、尊き生涯を我が國映畫の隆興發展に挺身し、減私軼身、今や其功績燦として輝き、信望殊に多大にして、其の將來への壯舉、快學を齊しく瞻目さるる新業界の大宗たり。

明治十年三月、人傑簇生の地たる大分縣に池永爲策翁の三男として生誕、本名を三治と呼ぶ。天與冷頭快手にして膽大、而も敏談たり。名にし負ふ中津中費の第一回卒業生にして、大正元年日本活動寫眞株式會社に入社せるを映畫界精進の第一歩と爲す。爾來會計、總務、調査各主任等に歴職し、同僚を凌駕して隨所に超凡の手腕力量を發揮し、同十二年三月擧げられて京都撮影所長に榮達す。同十五年九月に追んで取締役選任せられ、幾許もなく常務取締役に推轉せられ、大衆撮影所長を兼務するに追んで圓轉滑脱の才幹は内外を壓し、偉名隆々たり。風に日活の大功勞者として稱讃さるゝのみならず、輸入映畫の驅逐に努力し、我國新界の向上改善に貢献するところ亦尠からざるなり。昭和七年九月、取締役に還元して幾分閑地に就くと觀えしも、鬱勃たる潮氣は日本興業、京都土地興業、湊川活動寫眞各社重役に就任して精進す。同年四月、J・O・トーキースタヂオの姉妹會社として大衆發聲映畫株式會社を創立し、自ら其の宰領に任じて大飛躍を敢行し以つて今日に至れり。現時日本興業取締役、東寶映畫、京都土地興業各監査役、東寶國策映畫協會長たり。而して其の操履を顧るに其間突兀として發聲映畫出現して新界に一エボツクを劃するに至りて從業員の動搖を始め錯雜なる事情交

交湧出惹起せしが、氏は鮮かに之れ等諸問題を快刀亂麻を斷つ如く處理し、部下の欽仰益々濃厚なるは、蓋しその人徳の然らしむるところならん。

物事は總て常態と名附くるものに對する概念の情勢は新に起りし現象を變態として理解し去るの習慣に就かせ易し。我が映畫界亦然り、現下の斯界の情勢が常態なりや、果た亦變態なりやの議論は姑く措くとすも、何等か偶然ならざる力が現勢の背後に力強く夫れを推進しつづつあるを推斷し得る。斯界が國民大衆生活を據點として移行しつゝあるは相違なきも、國民大衆生活の何れを觀點とし、支柱として將來の發展に資すべきかは、時運に一步先んじて討究さるべきの要あらん。

今や映畫の觀賞時代は過ぎ去り、大衆生活に必須欠くべからざる一部を占有するの認識の聲を聞く時、氏の使命は重且つ大と言ふべく衆庶が氏の動靜に注目するは蓋し故なきに非ず。切に健闘を請ふ所以なり。

(住所 京都市上京區小山上總町六五)

仙臺市街自動車株式會社

交通事業の進歩發展が、一國文化の發展に極めて廣汎多大の貢獻寄與をなし、國民生活

に密接不離の利便を與ふるは、既に世の實例に徴して昭々たる事實なり。此の點仙臺市街自動車株式會社が整備せる交通網及び快速多數の車輛を以て、當市交通界に活躍雄飛を擅にするは、實に同地方交通事業を發達促進せしめ、東北文化振興に顯著なる功績を残すと云ふべきなり。抑も當社は大正八年八月業界の先覺者たる前社長伊勢久治郎氏の主唱下に資本金二十萬圓を以て創立せるものなり。當時本邦バス交通界は未だ黎明時代なりし爲め幾多の辛苦艱難前途に横はり、經營漸次困難となり、一時減資の已むなきに至りしも、多數株主の絶對的信賴を得、經營の全責任を痛感せる伊勢氏は益々勇奮健闘、凡ゆる研鑽攻究を累ね、遂に萬難千障を突破して克く今日の業礎を築き、其後現社長に就くや、更に拮据經營、全從業員の協力一致と相俟ちて、社運發展又發展、規模愈擴充され、今や輕快優秀を誇る新式大型自動車百二十臺並びに洗練されたる從業員四百數十名を擁し、親切可憐なるサービスを標榜なして迅速安全、能く衆庶の近代的足として重大なる使命を完遂しつゝある處、業績年と共に擧り、社名赫々として東北交通界の王座を占むるに至れり。因に十二年下期は二十九萬八千圓の收入を擧げ前年同期より一萬五千餘圓を増收し、餘裕裡に七分配當を行ひたり。尙當社は定期乗合の外

縣下互理町にハイヤー並に仙臺市内定期遊覽バスをも兼營し、現在全路線二十三線延長二百三十軒にして資本金の割合に營業頗る廣汎圓に亘り居り、曩に仙臺市當局當社を買収の議醸成して垂涎萬丈たるも故なしとせず。

取締役社長 伊勢幸太郎

氏は當社創立者前社長伊勢久治郎氏の令嗣、明治三十一年一月を以て生る。資性堅忍不拔の精神に富み、



針生權五郎 氏

斷乎初志を貫徹せずんば已まざる烈々たる氣概を藏する反面、克く人情を解し性格亦た圓滿、全從業員より慈父の如く敬慕さる。夙に宮城縣立第一中學校を経て、早稻田大學豫科獨法科に入り、雪の功を積みて卒業後、大正九年歩兵第四聯隊に一年志願兵として入營精勵格勤、能く軍務を完し、同十年豫備役陸軍歩兵少尉に任官除隊するや、翌十二年當社に入社し、昭和八年前社長逝去の後を襲ひて社長に就任す。其後同十二年九月、舉國一致以て斷乎暴支膺懲の聖戰起され、戰線擴大さ

れるや、同月十日若松第二十九聯隊付中尉に進級召集せられ、北支戰線に挺身奮闘、克く大和魂の精華を發揮して、武勳赫々たりしが遂に名譽の戦傷を蒙り、仙臺陸軍病院に後送されし盡忠報國の念勃々たる士。尙ほ常時幾多の事業に關與し、仙臺交通整理聯合會會長、仙臺タクシー協會副會長、仙臺事業青年會會長、東北殖林監査役、松島汽船監査役、在郷軍人本社分會會長、國防婦人會會長、財團法人日本乘合自動車協合理事兼宮城支部長、宮城自動車協合理事等の要職に擧げられ功績顯著なり

監務取締役 針生權五郎

東北交通業界の重鎮として名聲噴々たる氏は、亦た努力主義の權化とも云ふべく、常に自動車交通の進歩發展を圖りて種々劃策實行し、殊に自動車學校の設立經營、當社事業の運轉伸張に獻替せる功勞多大なり。氏は夙に仙臺商業學校を卒業後、大正十一年當社に入り、爾來奮闘努力常に社運と苦樂を共にし、殊に昭和元年社業最も不振を極めし時、心身を傾注して社運挽回に奮勵し、遂に躍進膨脹を實現せしめたる克腕稱讚に値すべく、其間大正十三年仙臺自動車學校を設立、昭和十年六月社團法人自動車協會直營宮城自動車學校と改め、現に校長たり。

(所在地 仙臺市裏五番丁)

久喜儀助

埼玉縣秩父町に於て織物工場を営み、少壯氣鋭の活動家として、將た又才氣煥發の故院家として、久喜氏の名聲近時隆々たるものあり。

氏は久喜文重郎氏の二男として、明治三十七年四月を以て生れ、つとに川越工業學校を卒業す。幼少より俊敏にして奔放不羈、烈々たる氣魄あり。昭和四年二十四歳にして獨立自營して機業界に活躍せんと欲す。剛毅にして嚴格なる父君文重郎氏は獅子の子を試練するの譬にならひ、氏の創業に許諾を與ふれど決して資金の提供をなすことをせず、氏亦父君より資金を受くることを欲せず、赤手空拳を以て斷乎として獨立を執行す。備か二三台の織機を唯一の資本となし、奮勉勵勵寢食を忘れて努力をなし、而も技術の研究に心血を注ぎ、品質の向上を圖るべく苦心慘憤し、更に販路の開拓の爲めに東奔西走して席の温まる道なし。氏は堅忍不拔、素志愈々堅くして事業に没頭す。斯くして事業は日を選ひて躍進をなし、業績益々向上して、驚異的なる發展を遂ぐるに至れり。創業の翌年昭和五年には織機十六臺となり、七年には二十四臺、八

年三十四臺、九年には四十七臺に躍進し、現在に至りては七十有餘臺に激増せり。工場敷地も亦大いに擴張せられて、現在敷地一千二百坪、工場三百三十坪、邸宅六十坪に達す。事業盛況を極めて、絶大なる信用を得るに至れり。氏の事業に關して特筆大書すべきは從來職工一人に就き織機一臺を擔當するが通例なりしを、氏は苦心研究の結果二臺の操縦をなし得る様工夫し更にこれを三臺とし、現在に至りては四臺を擔任し得ることとなり。製造高は飛躍的に増大し今日に於ては年約二萬疋を産出し、創始以來いまだ十年に達せずして、既にこの大を成す。氏の努力と手腕まことに驚嘆に値す。氏は情誼に厚き人にして邸宅を建築する迄は工場の一隅に於て従業員と起居を共に爲し、親身の如くにこれが幹旋をなせり。現在の數人の係長は創業當初年少の者を備入れて養成したるものにして、氏と文字通り苦樂を共にせる人士なり、主従の關係更に緊密たると共に骨肉を分けたる兄弟も尙及ばざる厚き情誼に結ばれり。氏は利益を私にするを欲せず、體ては創立以來苦樂を共にせる數人の人と共同組織となして、利益を分つことを計畫せり。この一事を以てするも氏の人格の一斑を知るに足らん。爾餘の従業員に對してもこれを愛すること深く、勞資の關係實に圓滿を極め、一同又協力して事業の

日本金屬工業株式會社

近時我國事業界に於て異色ある存在として多大の注視を惹き、その最新設備は業界一頭地を抜き、製品の優秀なるを以て斯界の華彩と仰ふがれ、毎期多大の好成績を挙げつつあるものに、日本金屬工業株式會社あり。當社は昭和七年六月に創立せられたるものにして創立以來目覚しき躍進を遂げ、昭和九年十二月日本電熱線製造株式會社を合併し、次いで横濱工業株式會社を傘下に收め、累次増資せられて現時公稱資本金三百五十萬圓、内拂込金一百八十五萬圓たり。その製品は各種金屬

鑄造及加工品製造販賣並びに關聯機械器具の製造販賣をなし、その製品は斯界に噴然たる好評を博し、賣行甚だ良好を極はめり。抑も當今ステンレス鋼として使用せられるものを大別すれば二種あり。第一種はクロム十一・十二%を含有し、焼鈍状態ではパーライト組織を有し、磁性あり、熱處理に依りて著しく性質變化をなす。又第二種に於いてはクロム十二・二十二%、ニッケル一・一二%を含有するものにして、焼鈍状態にては、オーステナイト組織を有し、磁性なく、熱處理に依りて性質變化すること少し。兩者はその特性に應じてその用途を異にす。當社に於ては上記第一種を日本金屬不銹鋼NFK、第二種を日本金屬耐蝕鋼NTKと命名し、第一種に屬するものにして炭素量著しく少く、軟質のものの特に日本金屬不銹鋼NFTと稱せり。當社の製品種目には日本金屬不銹鋼に標準日本金屬不銹鋼、硬質日本金屬不銹鋼、軟質日本金屬不銹鋼、日本金屬耐蝕鋼、軟質日本金屬耐蝕鋼に標準日本金屬耐蝕鋼、軟質日本金屬耐蝕鋼あり。日本金屬耐蝕合金に日本金屬耐蝕合金第一號、日本金屬耐蝕合金第二號、特許日本金屬耐蝕合金の各種ありて、更に高級特殊鋼各種を製造せり。而て此等各種合金より鑄造、鍛造、壓延、伸線其他の工作を経て、鋼、棒、線、管(焊接)帶、網、鍛造物

鑄造物、溶接物等より更に耐酸鋼筒、化學機械器具及部品の製造をなし一般に供給す。何れも最新發明として學界の驚異を喚起せし高周波電氣爐製たり。當社は金屬材料の研究機關としては世界的に名聲を博せる東北帝國大學金屬材料研究所の指導を受けつつあるを以て、その製品の優秀なるは斯界に並ぶものなく絶大なる好評あり。本社を東京に設け、大阪に營業所を置き、横濱、仙臺に工場を設置す。その生産設備は最新最優を誇り、業界に冠絶するの最新設備たり。時局關係に依り需要大いに殺到し、晝夜兼行して生産に忙殺せられたる爲めに、新たに川崎に工場を設立して一大躍進をなすこととなり。今後軍部並びに民間方面よりの需要は一段と激増して、社業益々發展を見るに至るべし。昭和十二年下期に於ては總收入二百五十一萬四千圓總支出二百二十四萬五千圓、差引當期利益金二十六萬九千圓を計上し、株主に七分の配當をなせり。重役には取締役社長田沼義三郎、常務取締役淺川省三、取締役村田敏太、同中村房次郎、同宮代彰、常任監査役植村金吾、監査役吉村桃麿呂、相談役植村澄三郎、同井坂孝の諸氏あり。

割烹 治 作

水たき島川魚料理店を以て著名なる治作は本店を神戸に、支店を關東、關西の各地に設け、好評洵に噴々たるものあり。當店は常に

常務取締役 淺川省三 氏は山梨縣人淺川元郎氏の長男として、明治二十年五月を以て生る。夙に事業界に入りて才腕を揮ひ、日本電熱線製造専務、横濱工業取締役兼支配人に擧げられ、獨創の業陳を張りて事業界に大いに名を成せり。頭腦緻密にして犀利、用意周到にしてその對策水も洩さず、業界を八方奔走して當社の發展に寄與せるところ僅少ならず。寛容にして敦厚、抱擁力に富みて部下をよく愛撫し、慈父の如くに敬重せらる。今後大いに頭角を現すことならん。

(所在地 東京市京橋區銀座西六丁目)

取締役社長 田沼義三郎 田沼氏は資性温厚篤實、人格又廉直を以て内外に信望甚だ高

材料の新鮮なるを選び、調理には技能を傾倒して精粹を發揮し、その美味を以て通人粹客の絶讃措かざる所たり。客を遇するに殷懇懇切、調度に設備に萬端整備し、店内清淨にして感興自ら湧き、名實共に一流割烹店の名に恥ざるものあり。現在本店を神戸市神戶區花隈町に、神戸支店を同市湊區多聞通六丁目、更に東京支店を同市京橋區明石河岸、深川支店を深川區平久町、神田支店を神田區小川町等各所に設けり。公私の饗宴に、會合に、或は粹客通人の味覺の靈賞に、來客引きも切らざる景況なり。業況益々活況を呈せり。

店主本多治作

誠實至直、奮勉砥礪以て今日の大をなすに至りたるものにして、氏の手痕足跡はまさに立志傳中の人として、世人の畏服する所たり。明治二十一年石川縣河北郡高松町に生る。幼少にして大志あり。船員たらんとし、神戸に至り、傳手を得て船員として服務中負傷し、之を加療中神戸市花隈町中現長と稱する旗亭の繁榮を見るを見て、斷然料理割烹業に雄飛せんことを決意す。茲に於て中現長の出前持となり、汝々としてその業に精勵すること三ヶ年。氏その間料理割烹の研究に努め、遂に同店に於てその餘地なきに至りたるに依り、九州博多舊柳町新三浦屋に至り、同地名物の水たきの研究をなし更

に苦心研精の末新調理法を創案す。これが爲めに三浦屋の水たきは俄然その名譽を恣にせり。氏は二十八才にして獨立を決意し、神戸市花隈町に於て僅少の資金を以て水たき専門の出前店を開業す。同店の安價にして美味なることは廣く流布せられて千客萬來の繁昌を來たし、爲めに同業者の嫉視反感は昂じて種々と陰險なる壓迫を加へしが、氏聊かも意に介せずして努力し、氏の優秀なる技能と手腕とは同業者を壓倒して、阪神一帶より注文殺到して其好評顯然たるものありき。斯くて神戸支店の開設を手始めに、昭和八年東京に進出して築地支店を設け、相次いで上記各支店を開設せり。東京に於ける幾多の水たき或は關西料理業者中、當店は他を壓倒して逸早く王座に就くに至れり。氏、生來人情深く數百人の従業員に對しては常に慈父の情を以て臨み、温情寛容家族の一員として遇す。されば二十年、二十五年の勤続者多數ありて、和氣藹々協力して業務に當り、當店の繁榮の爲めに力を盡せり。一面亦従業員の子弟の教育に力を盡し、更に母堂に對する孝養厚きを以て聞ゆ。ふで子夫人との間に四男二女の子福を誇る。昔畫骨董の蒐集鑑賞に、或は造園、茶道等趣味深く何れも深詣を以て謳はる。

原始の大自然に近代文化を配して以て、帝國の産業陣に、特異の地位を占有しつゝ急激に發展する臺灣を世上屢々「飛躍臺灣」の詞を以て形容す。而して「飛躍臺灣」は同時に「寶庫臺灣」にして、躍進日本南方の生命線として、戦時下に重要な使命を課せられつゝあり。而してこの臺灣の開発に、惡戰苦闘、形身の努力を捧ぐるに幾春秋、事業報國の社是を誠實以て一貫實踐し、今や我が産業界に指導的任務を課せられつゝあるは、糖業界の元勳たる我が臺灣製糖株式會社なりとす。糖業の既往並に其重要性を先づ瞥見するに明治三十三年、資本金一百万圓を以て當社の設立を見たる我が糖業界は、春風秋雨に四十年、當業者の辛苦と、當局の適切なる指導の下に、加速度的に大進展を遂げたり。勿論其間世界資本主義經濟の一環となれる日本が遭遇せし景氣變動の波に乗せられて、幾度の浮沈ありしと雖も、新興産業の意氣に燃えて赫々たる巨歩を示し、現時の二億數千萬圓の大産業に到達し、生産高に於ても、明治三十四年頃の一萬八千五百二十擔より、一千八百萬擔に増大し、而も國庫の消費稅收入に寄與

臺灣製糖株式會社

する類は、勿驚一億圓を突破する現況なり。更に亦之を國際收支の立場より觀るも、假りに砂糖を輸入に仰ぐものとせば、年額二億數千萬圓の對外支拂を節約しつゝあり。以上は財政問題に對象する重要性を述べたるが、製糖會社の目的は只單に製糖増産の自己満足に終るものに非ずして、明治四十年十九哩餘の製糖會社私設の鐵道は、今や臺灣を縱横に走りて延々二千六百哩なり。糖蜜を原料に仰ぐ工業用酒精は、現に十八萬石を製し、全日本總生産の八割を占む、前後五ヶ年に亘りし彼の世界大戰の教訓は、自給自足經濟の一語に盡きん。自由貿易の英國が懊惱せし問題も即ち之れなり。英國の宣戰布告の翌日、即ち一千九百十四年八月六日は前日に比し、砂糖價格は忽然二倍の暴騰を告げしにあらずや。八月二十日の砂糖供給委員會の設立は、砂糖輸入政策の破綻を暴露せる標識たり。一千九百十七年九月紐育に於て、國際砂糖委員會の設置、或は交戰諸國に於て、次々に發布せし戦時下食料品の各種措置法は、これすべて砂糖を主要項目に取扱ひしに非ずや。今や非常時局は進展し、産業總動員計畫、産業五ヶ年計畫實施等々々。全日本産業は、戦時體制を軸として、大轉回に移れり。重工業は猛烈と活動を開始せり。無水酒精製造、糖業者の製造すべき燃料用無水酒精の量を、昭和十九年

迄に、年産六十萬石に達せしむると聞く。一面亦バルブの生産！バガスを原料として、昭和十六年迄に、現計畫に依れば年産十萬石。其他化學工業、糖業其他に於て、將亦南進政策のための投資等、續々として計畫實行裡に在り。糖業を母體として南進、大陸政策は敢行され、而して國策産業の全面的樹立は達成されんとす。斯く述べれば如何に糖業が、國策産業に重要なかは瞭然ならん。砂糖力こそは無限力ならん。

當社は過ぐる明治三十三年十二月、國産糖業の確立と輸入防遏の二大乘的的を以て、資本金一百万圓を以て設立し、爾來拮据經營四十年、躍進に次々に躍進を以てし、今や日糖、明糖と鼎立して糖業界の覇權を掌握すると共に、其整然たる設備、その絢爛たる業績は、之を世界斯業會社に比するも敢て劣らざる、眞に躍進日本産業を活寫せる世界的偉業たるを失はざるべし。當初臺灣の製糖事業は極めて幼稚にして領臺以來數年間、毎年僅か十萬ピクセルに過ぎず、而も舊式製法に依る砂糖（主に赤糖）を製産するに過ぎざりき。一方當時内地一ヶ年の砂糖消費高は五億一千七萬斤、四國、沖繩の生産亦僅かに一億三千萬斤を出でず、依つて臺灣よりの移入を加ふるも一億七千斤に及ばず、不足高の三億五千萬斤は、必然輸入を餘儀なくせざる實況にあ

創立よりの資本膨脹ルートをみるに、明治三十八年總督府の補助金満期となりたれば、同年六月府令を以て製糖場取締規則を發布し、原料甘蔗採取區域の制度を確定し、同三十九年八月資本金四百萬圓を増資し、同四十年四月資本金五百萬圓の大東製糖を合併し、臺灣南部の舊阿緞下(現屏東郡)に工場を新設、茲に於て資本金一千萬圓の大會社となれり。同四十二年八月資本金二百萬圓の臺南製糖を合併、同四十三年十二月二千萬圓を増資、同四十四年十一月怡記製糖を吸収併合百五十萬圓を増資、更に同年十二月神戸製糖の工場を九十五萬圓にて買収、大正元年十二月資本金二百萬圓の埔里製糖を合併して、資本金二千七百五十萬圓と爲し、同年九月臺北製糖所を併合、三百萬圓を、九州製糖所建設の爲三千三百二十萬圓に、更に同九年四月六千三百萬圓に一舉大増資を敢行以て今日に至る。現事業規模は粗糖工場に橋仔頭第一、第二、後壁林阿緞、東港、東路境、三崁店、灣裡第一、第二、埔里社、臺北、旗尾、恒春に設置し、神戸、九州に精糖、橋仔頭及び阿緞に酒精工場を有す。生産高は粗糖四百五十萬三千餘擔精糖一百四十八萬四千餘英噸に達す。而して昭和十三年上期決算に依れば当期純益金(償却金控除後)七百二十四萬三千圓を計上し、各種積立金三百五十萬圓、後期に二十五萬圓

八千圓を繰越して利益金の大部分を内部に留め株主には恒例の一割二分配當を踏襲せり。その所有耕地は大いに擴大せられ、その首位を占め、爾後所有耕地の威力益々加り、且つ地價漸騰し、砂糖關稅引下も何等影響なく成績一割二分配當踏襲は依然安泰等々に想到せば、筆者亦何をか謂はんや。因に當社人的要素を見るに何れも鏘々たる人物を網羅せり。即ち、取締役社長武智直道、専務取締役益田太郎、同平山寅次郎、取締役朝吹常吉、同島居信平、同玉井義助、同中村第三、監査役丸田治太郎、ロベルト・ウオルカー、同アルウキン・ジュニオル、同城戸崎廣三の諸氏なり。

武智直道 終始一貫四十年製糖と共に生死を共にして斷じて素懐を枉げず。常に時代の推移を遠視し、堅實主義に基きて以て他に一步を先んずる事を念とし、今日の製糖を在らしめたる功勞者たり。資性飽くまで純潔にして清高、智略縱横にして威望隆々たるは江湖具眼の士の齊しく認むるところ。内に在りては社中に温情主義の大理想郷を建設し、外に在りては躍進日本産業の進展に格闘す。現に當社を統督する傍ら、推舉されて日本不動産取締役、臺灣銀行、日本徴兵保險、森永製菓各監査役、日滿亞麻紡織相談

役、日本工業俱樂部理事たり。

益田太郎 我が實業界の長老にして、製糖、農事、火災保險の發達に殊に貢献せる巨材たり。明治八年九月男爵益田孝翁の長男として生誕す。天分頭腦明敏にして亞賢、事業的才腕を有す。長じて慶應義塾に學を了し、向學の志厚く渡歐して、英國劍橋なるウエスレーヤン高等中學に學び、更に白國アントワーブ商業大學に學び、留學九ヶ年にして歸朝、爾來先考の良佐たる傍ら實業界に驅馳奔命す。其間先考の參與せる臺灣製糖の業績に盡すこと多大。昭和八年製糖仰附らる。曩に朝廷其功を録するに正五位に叙し昭和四年紺綬褒章飾版を賜ふ。現に當社専務に推舉さる。傍ら、益田農事代表取締役、千代田火災保險、日本煉瓦製造、森永製菓各取締役等を兼ね居れり。

伊藤重郎 臺灣製糖に入社以來既に二十餘年、其間孜々恪勤十年一日の如く、當社の發展に馳騁し、形影相伴ふ如く遂に今日の地位を占む。明治十二年三月、東京府士族伊藤重光翁の長子として出生す。資性聰明にして粗野、内に邪念の鴻毛なく、外に飾粧を好まざる巨魁堂々たる廉潔漢。長ずるに迫んで贊を慶應義塾に選び、同三十七年之

を卒ふ。大正三年當社に入り現職に榮達す。總務掌櫃の適材として内外に名を馳せり。(本社所在地 臺灣高雄州屏東縣來) (東京出張所 麹町區有樂町有樂館内)

河野 與助

氏は京都府の名望家山本新次郎氏の長男として明治六年四月同府に於いて誕生せり。長子に及び京都府河野家に入り、後明治三十八年分家一家を創成せり。氏は生來發明機智に富み、その半面頭腦極めて緻密の持ち主たり。今日を去ること四十年前、即ち明治三十年頃既に洋傘、シヨールの將來性に着目し、殊に洋傘の製造に就ては其の材料の主なる布を用ふるに、名にし負ふ京洛の高級織物を之に供すべく、凡ゆる研究辛酸を嘗めて遂に之に成功し、藝術味豊富にして氣品頗る高雅たる高級婦人洋傘を製作し、専門店の樹立を目標に精進す。氏の眼と倦まざる努力は美事實を結び、逐年店務は發展の一途を辿り、業礎の確立は信用の向上と相俟つて、遂に京阪は愚か、全国的に洋傘シヨール専門店河野與助商店の名を恣にするに至れり。現に當店の製品は何れも最高級品として、全國一流専門店は勿論、各都市の百貨店に納入して頗る

好評を博し居れり。現に氏は鑒鑒として河野廣三郎、山本幸助、金木清輔諸氏の幹部店員を督勵し、四十數名の店員を統帥し、壯者を凌ぐ氣概を持って店務に精進しつゝある傍ら小林正治商店、西島製糖等の重役に列して事業界にも馳騁せり。茲に特筆すべきは氏は眞に徳望高き人にして常に社會的公共事業に盡瘁し、その半面新業界の重鎮としてその令名は京洛に洽聞す。而して四十餘名の店員を遇するに肉身の情愛を以て接し、店員亦慈父の如く畏敬し、大家族主義の實踐に躬行せる等は、氏の人格を反映するものとして尊敬に値するに充分たり。圓滿を以て開ゆる家庭には、養父與右衛門翁長女たる令閨ヨネ子夫人は淑行の賢夫人にて養子信一氏は福井縣人中村伊右衛門氏六男として明治二十九年生。まさ子夫人(明治三十二年生、養父二女)との間に良子嬢(大正十一年生)千枝子嬢(大正十二年生)久枝嬢(大正十五年生)清子嬢(昭和三年生)あり。(住所 京都市下京區室町通四條角)

氏家 竹次郎

し、手腕の秀拔と識見の高邁とを以て氏は縣下に著名なり。當家はその創業古く嚴考竹次郎氏明治二十三年これを開業す。爾來取引は順調に發展をなし歷年業績は向上に向へり。嚴考は至誠眞摯にして、人望高く商況大いに發展を極む。現店主竹次郎氏は福島市早稲町に於て沼崎九藏氏の二男として、明治十九年四月を以て生る。幼名を貞藏と稱し、氏家家に迎へられて養子となり、岳父に忠實に仕へ孝養至らざるなく専念事業に没頭す。昭和七年十一月嚴考長逝せられるに及び、氏は襲名して業務の一切を總攬す。近時事業益々發展をなし、氏の名聲愈々顯著となれり。而してその間業界幾多の波瀾曲折に遭遇せしも能くこれを突破して、經驗愈々豊富となり手腕又大いに練磨せられたり。先年當地織返絹糸衰微を極めし時、率先同業者と謀議し、自己の意見を提示して、福島絹糸改良家行會を組織し、自ら會長に就任して之が改良に力を盡くして多大の貢献あり。尙ほ福島信用組合理事福島絹糸業組合副組合長に選任せられ、福島事業界發展の爲めに東奔西走する傍ら、福島商工會議所議員に推されて盡瘁しつゝあり。温恭謹恪にして清廉潔白の福島縣下切つての人格者たり。徳望高く世人に敬仰せられること深し。(住所 福島市柳町四七)

九州鐵道株式會社

人事百戰年を遂ひて複雑多岐に赴くは、自然の理にして、従つて人事物貨の移動頻繁となり、これが交通運輸機關の整備發達を欲求するは之れ亦必然の結果なり。斯る情勢に適應し動的社會の需要を満たすに廣汎なる鐵路網、迅速安全なる客車貨車を以て正確に能力を發揮し、九州鐵路交通界に偉大なる足跡を印するものを九州鐵道株式會社となす。蓋し古來文化の發達を見たる處には必ずや交通施設の進歩ありと云はる。是を以て當社多年の業績に徴し、如何に同地方の發展發展に獻替せるか、其功績顯著なるを窺知すべきなり。

抑も當社は正四年九月を以て設立營業を開始し、以來着々基礎を確立、更に營業範圍を擴大し、時に業績芳ばしからざりし事ありしも常に堅實主義を以て經營方針となす處逐次發展を遂げて遂に今日の確乎不動の基礎を築き、今や北九州屈指の優良交通會社として名聲頗る高まればなり。即ち昭和十二年四月資本總額を五百十六萬五千七百圓に減少せるも翌五月大川鐵道株式會社を合併、資本金三百六十萬圓を増資し、該社の事業を繼承、大牟田延長線工事に着手し、今や福岡、津福、二

日市、大宰府、甘木、福岡、櫻津、上久留米間に鐵路社線を有し、福岡、久留米、大牟田の諸都市を連絡する重要交通網を把握、其の特色を遺憾なく發揮す。現在資本金八百七十六萬五千七百圓を擁し、東邦電力株式會社の子會社と知られ、其の營業課目の如き乗合自動車並びに電燈電力供給をも兼ねて沿線各地の開發、人事物貨の移動に利便を圖るは勿論同地方産業發展に盡瘁寄與する處多大なり。



進藤甲兵氏

因に當社第四十四期(昭和十二年上半期)に於ける營業日數百八十二日にして、乗車人員四百九十七萬五千六百三十名、此の賃金六十八萬八千九百餘圓にして、之を前年同期に比すれば乗車人員に於て八十二萬一千四百九十名、賃金に於て三萬七千三百餘圓の増加を見、亦た貨物の取扱數量は九千八百一十一應餘、賃金一萬八千七百餘圓にして前年同期に比し區數三十五應餘の減少なるも賃金に於て七十圓餘の増加をなし、自動車營業成績は乗車人

員百二十萬二千二百六十七名、賃金十三萬六千六百餘圓にして前年に比し、人員に於て十六萬四千九百一十一名、賃金に於て一萬五千三百餘圓の増加なり。一方電燈電力に於ては期末現在電燈數二萬二千八百七十七燈、電力五百九十九馬力、此の收入金十萬六千二百餘圓にして、之れ亦た前年同期に比し三千百燈、四十一馬力、八百五十五圓餘の各増加を示せり。斯の如く麤生の實を擧げつゝある當社前途の發展は業界注視の的たりと云ふべし。尙ほ當社重役陣容を述べんか、即ち取締役社長進藤甲兵氏、常務取締役橋本幹氏、取締役藤山啓次郎氏、同古川與四吉氏、同鈴木利十氏、同西山信一氏、同大島小太郎氏、監査役松永安左工門氏、同福岡芳太郎氏、同堀三太郎氏等の諸氏にして何れも斯界屈指の偉材たるを失はず。

取締役社長 進藤甲兵 自力自前の偉材を業界に求めて、榮達の顯著なるを摘記すれば、吾人は必ずしも適例の妙きを嘆ぜざると雖も自己の天稟を能く理解し、之れを砥礪して着々進むべきに進み、開拓すべき方途を開拓して更に將來の大活躍に備ふる精神力旺盛なる士を求むれば、其の類例多しと云ふ可らず。而かも努力奮闘克く一介の事務員より身を起し、遂に榮達立身、赫々たる名聲を顯は

株式會社 山中商會

る、我が進藤甲兵氏の如き、正に當代稀觀の人物と稱すべきか。由來峽中甲斐は傑物を産す。往古は扱て措き之を近世に徴するも、輩出せる各層各界の亞賢擧げて數ふべからず。氏も亦堅忍卓抜の峽中魂を具備せる一種の傑物にして、明治十七年十月を以て山梨縣北巨摩郡小淵澤に生を享け、夙に豪毅不屈、勃々たる霸氣を識し、然かも明敏果敢、頭腦また透徹し、同三十九年七月中央大學法科を卒業するや、東京電燈株式會社事務員となり、以來名古屋電燈株式會社書記、九州電氣株式會社調査課長、九州電燈株式會社諸課長及長崎支店長を経て昭和八年三月大川鐵道株式會社社長に就任し、更に同年六月當社社長に推挙さるゝに至る。其間東邦電力理事及常務岐阜電力常務、王子電氣軌道、東北電氣各取締役其他幾多會社の重役として非凡の人物を顯はれ、更に昭和八年以後太宰府軌道取締役、築紫運輸代表取締役、昌榮土地取締役社長、或は平戸電燈製水、福岡電車、三信鐵道、愛岐水力等の監査役をも兼ね、同十二年三月には連絡自動車株式會社社長に推されるゝ等、賜翼正に九州實業界を蔽ふの觀あり。斯くて風勵卓發、往くとして可ならざるなき不撓過往の精神を有する反面、人格高潔にして烈々たる義侠心を藏せり。

(所在地 福岡市天神町五八)

我國は明治維新以來數次の戦役に依りて赫々たる勝利を博し、忠勇義烈の皇師の向ふ所敵無きを全世界に示せるが、我國民の眞意は外侮を斥けて皇國を泰山の安きに置き、東亞永遠の平和を確立するにありて、斷じて好戰國民には非らざるなり。我國國民は本來平和を愛し、優雅温厚を内に藏し、他國民に見ざる風韻雅懷を有して高き精神生活を營めることを、我國の優秀無比なる藝術品を以てして之を證するに足る。當山中商會は早くより我國美術品を海外に紹介し、日本美術の精隨を各國民に知らしめて日本の偉大なる精神文明の眞價を理解せしむるに多大の貢獻をなせり。當商會はその創業まことに古く、今より約百年前山中家の中興の祖山中吉郎兵衛氏に依りて美術商創始せらる。商況順調なる發展を辿りたるが、明治二十七年に至り山中家の同族にて美術品輸出業山中商會設立せられ、同年直ちに一門の山中定次郎、山中繁次郎兩氏渡米して紐育に店舗を設けたり。三十二年にはポストンに支店を置き、翌年英京倫敦に支店を開設する等多大の飛躍をなし、三十三年組織を合名會社となせり。次いで大正六年北京

に出張所を設置して後之を支店となし、翌七年資本金二百萬圓の株式會社に改組し、山中吉郎兵衛氏社長に就任す。同十年山中吉郎兵衛氏逝去せられたるを以て、嗣子山中定次郎氏後任社長となり、持据經營に當りて業運隆々として勃興するに至れり。氏は歐米各地の販路開拓に至大の努力をなし、之が爲めに各國美術館、博物館と密接なる聯絡を圖り逐年店員の歐米各地に派遣せられる者十數名に達せり。昭和三年には市俄古に支店を設け、翌年資本金を三百萬圓に増加す。山中定次郎氏の我國美術品の海外紹介に對する功績顯著なるものあるを以て、長くも綠綬褒章下賜の光榮に浴せり。又英國皇室より皇帝皇后兩陛下御用のローヤル・ワラント御紋章を賜り、昭和三年には佛國政府より勳章を授けられ、同八年獨逸政府より勳章を授けられる等、氏の各國文化の爲に寄與せる功に依り斯くの如くに顯彰せられたり。昭和十一年十月山中定次郎氏長逝せられるや、長き邊より從六位に叙せらる。同十二年六月に至り山中吉太郎氏社長椅子を襲ひ、社業を刷新して陣容を新にし、資本金を更に四百萬圓(換込三百二十五萬圓)に増資せり。新古美術品その他の輸出入を營み、業陣を全世界に張り、業礎の鞏固にして信用の堅確なる斯界隨一にして、その名聲は世界各國に顯然たるものありて、事

業頗る殷盛を極めり。時局多難の際當商會の海外諸國に於ける活躍は我國民精神の眞髓を各國人に知悉せしめるに偉大なる貢獻ありて一片の外交辭令に優ること數倍數十倍に値するものありと云ふべきなり。尙ほ當商會重役以下の如し。社長山中吉太郎、常務森太三郎、同岡田友次、取締役兼美術部長宮又一、同兼米國部長白江信三、同兼米國部長八橋春通、同山中吉郎兵衛、同山中福次郎、同山中次郎、常任監査役瀧川三五郎、同兼經濟部長橋本隆相、相談役山中松次郎、歐洲部長菅野外三郎、支那部長高田又四郎、支配人石見守三郎、紐育支店支配人田中吉次郎、ボストン支店支配人中川金正、市俄古支店支配人下間豊吉、倫敦支店支配人井上久四郎、北京支店支配人大川季一の諸氏なり。

取締役社長 山中吉太郎 氏は天資高邁にして俊英緻密の頭腦を有し、關西財界に名望噴然たるものあり。將來大いに頭角を現すに至らん。明治二十三年六月山中定次郎氏の長男として呱呱の聲を發す。大阪市に於て小學教育を了へ、明治三十九年八月米國へ赴き、大正二年四月紐育イーストマン商業學校を卒業して一時歸朝せしが、同三年再び渡歐し英佛兩國に於て約二ヶ年間美術の研究をなし、大正四年九月山中商會に入り、同七年六月紐

育支店勤務となり、爾來毎年日米間を往復して大いに天稟の商才を示せり。昭和十一年七月に至り山中商會取締役となり、翌年六月には取締役社長に就任す。氏は實業堅確にして周匝厚利、眞摯業務に没頭して秀技の手腕を揮ひ關西財界に異彩を放てり。謙讓にして敦



長社中山と會商中山

厚、品性高く、教養具り、海外の事情に精通すること深く、洗練せられたる好紳士として内外人の間に多大に推敬を受く。祖考にも優るとも劣らざる題材にして、氏の活躍に依りて山中家の家道益々榮えて、氏の聲望愈々揚り。

常務取締役 森 太三郎 森氏は濃厚篤實の人格と業務に對する勤恪熱直を以て、上下の信望甚だ高し。幼少にして山中吉郎兵衛氏の店に入りて熱心にその職に勤精し。大いに頭角を抜んづ。明治三十年特拔せられてボストン支店の支配人を命ぜられ、同地に於て大いに敏腕を發揮せり。當商會の發展に貢獻すること多大にして、株式會社に改組と共に重役に擧げられ、常務取締役に推されて經營に執掌す。氏は日米間を往復すること數十回に上り、斯業に關する經驗蘊蓄豊富にして、當商會の大長老たり。

常務取締役 岡田 友次 山中商會の社實的存在と仰ふがれ、その卓勁の手腕と峻潔の人格を以て關西財界に赫耀たる信望ある岡田氏は大阪市の生れにして、夙に青山學院に學ぶ。明治三十三年當商會に入り、眞摯業務に淬勵し、大いにその頭角を現せり。明治三十六年米國に派遣せられ、紐育支店に在動し、次でボストン支店に轉ず。氏の奮勉砥勵の努力と俊秀篤敏の才腕に依りて、多大の業績を擧ぐるに至り首腦部より大いに囑目せらる。次いで倫敦支店に轉じ、同地に於いて八方馳驅して獨創の業陣を布き、倫敦業界にその才腕を顯はれたり。氏は日英間を往復すること實に十數回に上り、歐洲大戰當時倫敦に在り

て直接間接國家の爲めに寄與せること僅少なからず。その間瑞典、土耳其、希臘、伊太利その他の各地を歴訪して、日本美術工藝品の販路の開拓に力を盡くせり。又英國皇室の御用命を拜し、宮殿に伺候せしこと數回に上る。氏は歐洲の名流貴顯紳士の間に多大の信望を博し、何れも好んで氏との取引を開けり。氏は山中商會に在ること多年、歐米各地の足跡至らざるはなし、當商會の爲めに献身的に活躍し、寄與せることまことに絶大なるものあり。資質温厚、明朗闊達にして磊落落、襟度宏く、仁情に富み後進の指導に力を盡くして部下より慈父の如くに敬仰せらる。思慮圓熟し、品性典雅にして優雅温厚の情を内に藏する好紳士たり。

(所在地 大阪市東區高麗橋一丁目)

宇部市長 紀藤 閑之助

宇部市長紀藤閑之助氏は、市民の多大なる信認を得、高邁なる識見と卓抜なる手腕を有し、他に比肩し得可き者なき、稀世の逸材として推賞するに吝ならざるなり。氏今日此の榮譽を獲得して、威望隆々たるは、又決して偶然に非ず、臥薪嘗膽幾星霜、孜孜として奮む處を知らず、人生只奮闘ある

のみの念慮を抱きて、能く成功の彼岸に達したる處にして、その間千辛萬苦して幾多の辛酸を嘗め、氏の前半生こそは、正に一編の立志奮闘史と云ふを得べし。明治二十一年十一月宗介翁の長男とし、宇部市東本町に呱呱の聲を擧げ、長ずると共にその頭角は、隣人の嘆稱する所となり、將來の大成を夙に囑目せらる。明治二十六年第三高等學校を卒へ多大の研鑽を積みて歸郷す。英智の向ふ處坦々たる大道拓けて、宇部實業方面に活躍の緒に着く、忽然敏腕發揮數年にし同市達總會會長に推薦さる、以て氏の全貌を窺ひ知るに充分なり。越へて、同三十八年共同義會會長、同四十四年には、宇部信用購買利用組合組合長として、大正二年の辭職に至る迄長期間に亘りての功績又顯著なるものあり。氏生涯の光榮たるは即ち、大正十五年、畏くも皇太子殿下、地方行啓の御前、實業功勞者として、御治所に於て、拜謁を給はるの光榮を擔ひたる一事は氏が如何に實業界に貢獻せるの多大なるかを證するに足らん。一面政治方面にも雄飛活躍し大正八年以來昭和二年迄連続宇部市會議員に當選し、其間議長、副議長の重職に就く事又再度ありて、確たる政治手腕を認識せしめ得たり。昭和二年衆望を重めて宇部市長に推薦され、同四年之れを辭し閑地に着く暇なく同年復た亦宇部市會議員に當選し、市參事會

員となる、昭和十年には再び宇部市長として市民の絶大なる信認を受けて擁立さる等、市會議員、市長の交互の就任に依りて、氏の市政に貢獻せる所まことに多大にして、その幾多の功績には市民の嘆服してやまざる所たり。今や時局は戰時體制の下に、愈緊迫を加へ國民の責務重且つ大なるものあり。之れを統御する顯職者亦その任や重大なれば、市長としての氏の職責また輕るからざるものあるは衆言の要なき處にして、市民舉つて、氏の手腕に期待するに切なるものあり。折角自愛の上、邦家の爲め、更に活躍あらんことを望む。

(住所 宇部市川上八六九)

壱岐立 粕壁 高等女學校

壱岐縣下に於ける校風純朴にして、學業成績の顯著を以て鳴る當校は、明治四十四年四月を以て粕壁町立實科高等女學校設置の件認可され、當初粕壁尋常高等小學校長川上定之丞氏初代校長に兼任を命ぜらる。大正五年三月に及んで補習科附設の件認可され、同七年二月補習科卒業生に對し、小學校裁縫専科正教員及び尋常小學校准教員の資格を附與せらる。次いで昭和四年四月組織を革め、作業年

限を四箇年と爲し、翌五年四月全校を擧げて
埼玉縣移管となり、埼玉縣立相模高等女學校
と改稱し、同時に埼玉縣立師範學校教諭沼田
龜之介氏學校長兼教諭に補せらる。同年十一
月新築校舎落成、同六月五月開校式を舉行
し、同七年四月二十一日、兩陛下御眞影、勅
語贈本衣戴、同年五月千葉縣立松戸高等女學
校長兼教諭石井深氏學校長兼教諭に補せらる
同九年三月埼玉縣立秩父高等女學校教諭大
森元幸氏學校長兼教諭に補せられ、同年十一
月高崎市乘附練兵場に於て御親閱を拜受す。
同十二年四月埼玉縣立相模中學校教諭馬淵友
次郎氏現學校長兼教諭に補せられ以て今日に
至れり。而して現職員を掲ぐれば

校長馬淵友次郎 教諭三木重雄 同松本愛
三郎 同細井房夫 同福村實 同坂井隆 同
鈴木淨憲 同飯野よし 同鈴木喜美子 同西
保須美子 同池田尙志 同所春雄 同水谷俊
子 書記刈部常次郎 囑託山下澄子 同山口
ま津 同押田金藏 同鈴木とみ 同堀内清
校醫安孫子榮 囑託齋藤村豊次 同三須洋亨
同大橋正の諸氏なり。

校長 馬淵友次郎 明治二十七年三月山
梨縣馬淵菊藏氏の令息として、同縣東八代郡
一宮村に呱呱の聲を掲ぐ。天賦伶俐にして出
藍の譽れあり。長じて山梨縣立師範學校に學

び、大正五年優秀の成績を以て之を卒業し、
更に東北帝國大學法文學科に學び昭和二年卒
業す。爾來文教に携はり埼玉縣立相模中學校
教諭を経て當校長を拜命す。當校就學生徒の
六割は農商工の父兄を持つ關係上、氏は常に
全校指導綱領の樹立に此の職業色彩を反映せ
しむる一方、教育の地方化、實際化を期する
に努めつゝあり。且つ訓育方針の樹立と之が
徹底を期する爲に、訓育部を設け、又學年の
經營案の作製活用を爲す等、現下の時局に關
心せる教育方針を勵行し、稱嘆さる。
(所在地 埼玉縣南埼玉郡相模町川久保)

畜産工作所支配人

谷田 誠一

我が國策上よりして重要産業中の重要産業
たる自動車工業界に洽く知られたる齋藤工作
所と共に、名譽を博せる支配人谷田誠一氏の
新界に於ける貢獻頗る大なるものありて、氏
の將來こそまことに多大の期待を以て囑望せ
らるゝ處なり。

本邦自動車工業界の先驅者、齋藤工作所の
製品に、オリンピックスプレイヤケープル、スピ
ードメーターケーシング、スピードメーター
シヤフチング等があるが、それ等は何れも外國
の有名自動車會社が嚴密なる試験を成せる結

果、外國品に比して毫も遜色なく否寧ろ、之
れを凌駕するの優秀品たりとの絶讃を受く。

工業日本の誇りとして又業界の榮譽の爲め
に萬丈の氣概を吐けるものといふべし。當社
が今日のこの躍進をなせし礎石となり、粉骨
碎身して業務の研鑽に盡瘁して能くその功を
收めたるは、實に當工作所支配人たる谷田誠
一氏その人なり。

氏は、夙に業界に身を投じ不撓不屈の鐵石
心を以て、體驗に研究に孜孜營々として倦む
ことを知らず、之が進歩發達に全力を傾注し
その眞摯なる態度は世人の崇敬の的とせられ
たり。今日我が自動車工業が驚異的躍進を遂
げ世界進出を目指し、隆々たる勃興を遂ぐる
に至りし裏面には、氏の功績没す可からざる
ものあり。

氏の熱烈なる努力に依り、今や當所製作品
が外國製品を凌駕するの優良品として推重せ
られ、國産製品の先驅となり、我自動車國策
に貢獻することまことに甚大なるものあり。
當工作所及び氏の偉大なる功績を賞讃するの
聲大いに顯著なるものありて、業界に多大の
信望を博せり。

而して當工作所は、大阪市東成區深江町六
ノ二四(電話東、三五〇番)に所在す。
氏は頗る剛毅果斷にして、小事に拘泥せず
度量廣く、清濁併呑の大雅量を有し、斯業を

以て自己の天職となし、敢爲邁進せるその烈
々たる熱意は以て今日の大成就を爲さしめたる
處にして、氏の活躍には今後更に期待すべき
ものあり。

(住所 大阪市住吉區田邊西ノ町四ノ二二)

東部硫酸販賣株式會社

時局關係の影響を受けて、重工業を始めと
なし、化學工業、各種の製造工業近來頗る活
況を呈し、これが爲めに硫酸の需要は多大の
著増をなして、東部硫酸販賣會社は近時非常
なる好成績を挙げつつあり。

當社は大正八年三月の創立にして、財界に
幾多の變動ありしも、創業以來順調なる發展
を遂げ、歴年着實に向上を爲して現時資本金
二十萬圓(全額拂込済)たり。専ら加盟各社
の硫酸の販賣をなすつゝあるが、現在の加盟
會社には日産化學工業、大日本特許肥料、新
潟硫酸、日本硫酸、東部化學工業、日本製煉、日
本化學工業の各社あり。何れも斯界に於ける
錚々を以て稱せられ、生産設備の完備せる
と、製品の優良なるは事業界に多大の名譽
を博せる所なり。當社はそれ等の製品を一手
にて供給せるが、其販路は全國各地に及び、
更に製品の一部は海外に輸出せらる。一ヶ年

の販賣高は二十二、三萬トン内外なるが、逐
年増加の趨勢を辿りつゝあり。十月末を締切
となす昭和十二年下期決算に依れば、總收入
五萬五千三百八十八圓總支出三萬八千三百五十七
圓となり、差引當期利益金一萬二千一百八十八
圓に達せり。株主に六分の配當を附せり。

當社は本社を東京市麹町區丸之内に置き、出
張所を新潟市下大川前四ノ町に設置す。
因に當社重役は以下の如し。取締役會長石
川一郎、専務取締役川口秀基、取締役小西安
次郎、同安部邦太郎、同齋藤庫之助、同兵藤
藤吉、同伊藤英夫、同大塚寛治、監査役大濱
龜太郎、同小田代慶太郎、同石谷傳兵衛、同
小澤國治、同金澤重、同吉米地義三、同鈴木
徳三郎、相談役田中榮八郎の諸氏なり。

取締役會長

石川 一郎

氏は明治十八年
十一月東京府人石川卯一郎氏の長男として呱
々の聲を掲ぐ。夙に東京帝大工科を卒業し、
同校助教に任ぜられて、その學才を顯はれ
しが、後實業界に身を投じ、大いに頭角を現
はして化學工業界の重鎮として仰ぶがれるに
至れり。頭腦明晰にして斯界屈指の英才とし
て推敬せらる。日東硫酸、大日本特許肥料、
大阪アルカリ肥料その他數多の事業會社に重
役として列し、業界有数の材器としてその聲
望赫たり。

専務取締役 川口 秀基

頭腦緻密にして
犀利俊敏、その群抜の才腕を以て近時大いに
業界に名譽を博せるが川口氏にして、明治十
四年五月岩手縣士族川口秀俊氏の長男として
生る。同三十七年東京高等工業を卒業し、直
ちに關東酸會社に入る。後關西酸會社販賣會
社に迎へられて、支配人の要職に推さる。同
社が大日本人造肥料に合併せられるに及び現
職に就く。資性濃厚にして謙讓、學殖蘊蓄又
甚だ淵博にして業界に大いに敬仰せらる。
(所在地 東京市麹町區丸ノ内海上ビル)

京都染織試験場長

猪飼 博

染織界の指導機關として、又斯界の最高權
威としての市立京都染織試験場は其の設備、
内容の完備を以て東洋に君臨するものにして
之と共に猪飼博氏の存在は、正に斯界の至寶
と謂ふべきなり。氏は明治二十八年四月、滋
賀縣手原村舊石部藩士猪飼庄三郎氏の令息と
して生れ、第三高等學校を経て、京大工科應
用化學科を卒業したる工學士にして京都市工
業研究所に勤務、その學識の優秀と技術の卓
越は直に上司の認むるところとなり、異進し
て技師長となり、昭和六年十二月、現職に榮
進す、場長就任以來八ヶ年、其の間、氏は自

己の責務の重大たるを痛感、日夜新業の向上
發展に碎身し、業界の指導には進んで場内に
講習會を開催、講習生の教育指導に萬全を期
する等、技術の開発研究に献身的努力を惜ま
ざりき、その獨特の手腕は諸般の設備の改善
に大いに見るべきものあり斯界に一大飛躍を
與へたる功績は絶讃すべきものと謂ふべし。
人格識見共に卓越し、謹厚にして清廉而も
能く時勢を洞察し、人情の機微に通じたる紳
士にして、その資性の森嚴にして犯すべから
ざる半面、極めて情誼に厚く、部下を愛する
こと肉親の如く、後進を導きて懇切に到らざる
なき模範的官吏と謂ふべし。

今や地方商工技師としての上長への信頼は
實に厚く、業界の信望を一身に擔へるは、又
故無きに非ざるなり。氏の學徒としての將來
は大に期待するに足る。

氏は學生時代より萬能選手の稱あり、殊に
庭球は今尙一家をなす伎倆を有し、明朗スポ
ーツマンたり。

家庭には淑徳のほまれを誦はるゝキミ子夫
人との間に長男進一君、長女智津子嬢、二女
登美子嬢、三女さだ子嬢、四女賀津子嬢、五
女俊江嬢の一男五女を擧げ、和氣篤々として
近隣美望の的たり。

(所在地 京都市上京區烏丸通り上立賣上
ル)

惠美須神社

當社は應社なれども其創建まことに古く、
土御門天皇の建仁年間の創建にして、世人の
崇敬を受けること甚だ厚し。八重言代主神
少彦名神 大國主神の三神を鎮祭す。八重言
代神は大國主神の御子にして、耕作、漁獲の
守護神なり。魚類を以ては米穀に易へ、米
穀を以ては魚類に易ふ、商賣の道此れより始
まる。凡そ商人の物價を定めて賣買の約を結
ぶこと毎に双方言を以て恃とせり。八重言
代主神は靈妙不測の神徳を以て其言に幸した
まふ。乃ち商賣の福神なり。少彦名神は高御
產靈神の御子におはしまし、常に業を開き以
て人を榮えしめ、榮ゆれば則ち見て笑み給ふ
是を以て惠美須神と申すなり。大已貴神と御
力を讃せ御心を一にして天下を經營し、又醫
藥禁厭の法を定め給へり。大國主神は素戔鳴
尊の六世の孫、天之各衣神の御子なり。陰徳
陽報は大國主神の御心にして、是を以て善良
の人はこの大國主神を以て福徳自在の神と崇
奉る。以上三神を常に敬ひ、尊び奉りて厚き
神徳を蒙らん者、事として成就せざるはなく
福として身に得られざるはなし。終身無病息
災にして能く長壽を保ち、子孫の家門繁榮す



中川 一郎 氏

に名狀し難し。

社 司 中川 一郎 中川家は惠比須神社
の舊五社家中殘存せる唯一の名門たり。氏は
大正十年國學院大學高師部を卒業し直ちに同
志社中學教諭となり後京都府警察部に入る。
大典當時高等課高等部長となり、新聞記者接
判役を勤め、全國より參集せる記者に適切な
るニュースを提供して好評を博せり。京都神
職界きつての新聞消息通として知らる。官界

を辭して後神職を勤め、惠美須神社々司たる
の外地主神社々司を兼ね。資性濃厚圓滿、玲
瓏たることまさに玉の如し。人格清白高朗に
して高義清節、社會公共の爲めに常に誠私挺
身の實を擧げ、衆庶より深くこの風骨を畏懼
せらる。現に新道學區青年團顧問に推舉せら
れ、氏子兒童の爲めに惠風塾を經營す。又多
趣味多藝の人にして、日本犬愛護聯盟會員、
銀の壺社同人、平安雅樂會々員、觀海流水泳
師範等何れも一道の達人たり。

(所在地 京都市東山區大和路四條下ル)

玉村 勇助

氏は架空索道工事設計の事業に活躍し、そ
の名聲斯事業界に顯著にして、その信望頗る
大なるものあり。明治三年十一月福井縣に颯
々の聲を揚ぐ。笈を負ひて上京し、東京帝國
大學工科土木科に學び、明治二十八年同校を
卒業す。後獨立を決意して玉村工務所を起し
架空索道工事設計請負を業とす。年と共に事
業繁榮して成績頗る見るべきものあり。相次
いで設備の擴張をなして、社業は發展の一途
を辿り、昭和五年二月組織を變更して株式會
社となし、氏は社長に就任して今日に至る。
時局景氣に基づく事業界の活況により、當社

に於ても頗る好況を呈して、事業愈々繁忙に
向ひ、歐洲大戰以來の好景氣となりて受註高
は新記録を作るに至れるが、尙ほ相次ぐ鑛山
の開発により、索道の需要は今後共に益々増
大するの筋合にあり。試みに最近に於ける主
たる需要先を見るに、北海道住友餘市金山の
一日運搬量百二十尾、距離七千五百米、價格
五萬五千圓の大物索道を始めとして、山形縣
愛國金山の五十尾、交走式三百米、北海道湯
ノ川三盛鑛業所の百尾千六百米、朝鮮住友高
原金山の百尾三千五百米並に百尾八千五百米
日本鑛業岩手縣赤石鑛山の二百尾二千三百米
四國中央電力株式會社のダム建設用の三百三
十尾二萬三千米索道、越後湯原高島事務所の
燐産物運搬用三十五尾千五百米索道等あり。
三盛鑛業以外は何れも新開設の鑛山にして、
今後に於て各種機械附屬品の需要益々激増を
期待せらる。斯る當社製品の需要の旺盛なる
は、一に玉村式索道の優秀にして同種品を遙
かに凌駕するものあればなり。株式會社玉村
工務所の前途こそ洵に洋々たるものあり。
(住所 東京市淀橋區下落合四丁目)

堀川土地株式會社

當社は大正十一年創立、資本金壹百五十拾萬

圓にして、中京財界の大立物磯貝浩氏を社長
として土地建物、木材倉庫、製氷、冷蔵事業
を目的の下に設立せられ、創業爾來頗る順調
の成績を以て躍進しつゝあり。役員には中京
實業界に錚々たる名を馳する一流人物を網羅せ
り。即ち社長磯貝浩、専務渡邊久三郎、取締
役荒川寅之丞、同兼支配人塚本源二郎、取締
役小栗七郎、同安藤竹次郎、同荒川長太郎、
同大澤重右衛門、監査役下出民義、同生駒重
彦、同安藤俊三の諸氏なり。

取締役兼支配人 塚本源二郎 明治二十二年
七月愛知縣塚本末右衛門氏の二男に出生し、
長じて愛知縣立第一中學校を卒業す。夙に新
嘉坡に航して護謄栽培事業に従事し大正十年
歸朝。翌十一年當社の創立に參與し、その設
立を見るや取締役兼支配人に推舉さる。即ち
當社の柱石的人物にして、克く社業の運営に
献身的努力を傾注し來れり。氏は資性濃厚質
實にして、常に公私の差別なく清廉潔白の聲
高き典型的紳士なり、夙に内外の信望厚く、
その英才手腕は同社の進發に萬全を期しつゝ、
あり、然も才智縱横の氏は又人情に厚く、部
下の敬仰すること慈父の如し。今日その才腕
は圓熟の極に達し、その動向は各方面より注
目されつゝあり。
(所在地 名古屋市熱田區西町米田五三)

株式 群馬大同銀行

縣下の産業振興を經と爲し、縣民の福利増殖を謀と爲し、今や縣下に三十支店を有し、新業界に於ける赫然たる業績を誇る、地方銀行異数の存在たり。

由來群馬縣に於ける銀行の發端は、過ぐる明治十一年九月、銀行條令に基く第三十九國立銀行の創業を嚆矢となし、以降上毛物産銀行、前橋商業銀行、群馬銀行等々設立せられ其後合併を襲ね來りしが、昭和四年に發生したる彼の金融恐慌以來、縣下に於ても其の餘波を蒙り、極度に金融梗塞し、延ては各商工業の不振を招來し、其途頗る憂慮すべき事態となりたるが、昭和七年八月群馬縣會を通過せし金融統制案に立脚して、前橋市所在の群馬銀行並に高崎市所在の上州銀行合體して、同年十月資本金五百八十萬圓を以て設立せられしが、即ち我が群馬大同銀行なり。而して設立以來金融統制案に則りて、只管内容の改善充實に主力を注ぎ來れるが、最近に迫んで頗る諸勘定の増進を示し、就中昭和十二年下期に於ける總預金は實に四千七百萬圓に達し、縣下銀行預金勘定の首座を占め、手許資金には相當の餘力をも生ずるに至りし爲、當行首

關部に於ては、昭和十三年新春を迎ふると共に、換而研究中たりし各方面の金融緩和、即ち農村に對する耕地を擔保とするもの、市町の中小以下商工業者に對しては、信用に依る小口貸付を開始し、以て資金の餘力を斯方面に注ぎ、併而縣下産業經濟の振興に資して當行本來の使命の一端を果す目的にて、既に簡易小口貸付實施に關する各種内部規定の改正を完了し、各地所在支店に對し、指令を發せしため、金融緩和の著大の功績を有するものとして絶讃されつゝあり。

因に昭和十二年下期決算は、前期同様優先株のみに對し、年四分七厘の配當を踏襲し、後期に十一萬三千餘圓を繰越したり。

役員諸氏左の如し。

頭取 平田健太郎 常務 森村亮太 岸浩 取締役 齋藤虎五郎 木島自柳 柳澤庄平 田村茂三郎 田村庄作 阿久澤太郎 監査役 森宗作 吉野藤一郎 桑原三之助の諸氏なり。
(所在地 前橋市本町)

名 達 賢

四國地方實業界に歩武堂々と君臨し、名聲燦然として輝きてその聲望比肩するものなき安達賢氏の天性の聰明は業に秀で、濃厚恭謙

にして伶俐、氏の一言よく人生の鑑戒となり一行よく衆庶の典範たる處なり。

氏の祖先、安達家は、紀元千九百三十年頃讃岐國讃歌郡造田村に住せる、眞鍋次郎右衛門氏を祖とし、五代目小平太氏は、明治三年四月、三十八歳の時高松藩士安達齊氏の家名を繼ぎ、爾來安達姓に改稱せり、小平太氏に四男一女あり。長男保太郎氏家督を繼ぎ、次男眞一氏は高松藩士岩瀬家に入りて之れを繼ぎ、長女ムメ女は中山仲太郎氏に嫁し、四男友一氏は白川家の養嗣子となれり。

安達賢氏は小平太氏の三男、熊三郎氏の長男にして明治二十二年八月香川縣讃歌郡造田村字内田に生れ、丸龜中學を優秀の成績を以つて卒業せり、同校五ヶ年間皆勤生として賞牌を授與せられたり、拔群の秀才にして氏は當時帝大入學を切望せるも不幸にして父熊三郎氏健康勝れず且つ長男の故を以て帝大入學志望を許されず、最短期間の専門學校に入るの止むなきに及び、早稻田大學專門部法科に入學、四十三年七月、拔群の成績を以て卒業し、同年十二月一年志願兵として、歩兵第五十四聯隊に入隊、後三等主計に任官し除隊す。歸郷するや、教育者、青年團員及び有志に法律、劍道等を教へ地方民啓發に盡瘁し、他面華道、池ノ坊をも教授せり。後に推されて、同地在郷軍人分會長に就任せり。

斯くて氏の手腕識見信認され、同四十四年には第十一師團管轄聯合支部監事、丸龜支部監事に推され、今尙在任し功績又多なるものあり。

次で大正三年八月廿五日滿二十五歳を以て吉野村村長に推舉さる。若冠二十五歳の村長は當時全國最少者として多大の世評を喚起せしが、可惜翌四年岳父白川友一氏の衆議院議員立候補に際し岳父の選舉違反に連座し村長を辭任せるも村民の懇望により幾何もなく再就任し、前後十余年勤続せり、大正十四年二月後進に之を譲り辭任せりと雖も、氏の在任中の功績頗る顯著なるものあり。即ち學校の移轉改築、道路修理擴張、縣道移管、時間勵行の習慣、虚禮惡習の打破等枚舉に遑あらざる處なり、就中氏が提案せる原案は常に全部滿場一致を以て可決され、會議兩日に亘る事無かりきと云ふ、村民の信望如何に厚かりしかを知る可し。氏の業務に對する熱意頗る多大にして、常に喜々快々自ら日本一の幸福なる村長なりとして、關係者一同に感謝狀を發せりと云ふ。嘗て生活改善同盟會長伊藤博邦公より表彰されたる事あり、大正七年一月、父熊三郎氏に代りて吉野村信用組合長に就任組合員の増加、倉庫の建築、購買販賣利用の各部増設、農業倉庫の區外設置發展等に盡力多大にして、現に同組合長の要職にあり。



氏 賢 達 安

氏又頻發する小作争議を頗る憂慮し、大正十三年頃より、小地主聯合して會社的經營方針に依り土地經營の合理化を高唱同志と謀りて翌年六月、讃岐土地株式會社を創立し、取締役に就任せり。是れ實に同種會社の本邦に於ける嚆矢にして業績逐年舉り、今や全國より視察に來たる者多しと云ふ。

昭和二一年九月、普選第一回、香川縣々會議員選舉に際し、立候補を固辭したるも、衆望是れを宥さず、氏の承諾を求めず推薦届出をなし開票の結果美事當選せり。是れ眞に理想選舉にして、讚嘆の聲喧嘩なりしは蓋し當然なりと謂ふべし。縣會に於ては、都市計畫香川地方委員會委員、參事會員に選任せられ、同六年縣會改選にも再選せられたり。一面氏は大正七年、岡山縣下津井鐵道監査役より取締役に就任し、現在在職中なり。

越へて昭和三年、岳父白川友一氏の請負へる、琴平急行電鐵株式會社の建設一切を一任され、僅々一ヶ年間を以て之れが完成をなし關係者をして驚嘆せしめたり。同七年十一月會社の紛擾勃發し、容易ならざる状態に立至りたる際、同會社株主の懇望に依り、その調停を託されるや、一舉に之れが解決を成し、次で同社更生の重任を受け、取締役に就任せり。昭和八年一月地方有志、氏の手腕に絶大の期待を持ち、同地方金融界の圓滑を圖らんことを乞ふ。茲に於て氏は、繰銀銀行との特約を締結することに成功し、同取締役に推され、同行琴平支店長の重責を託さるに至る。氏の就任前迄の同行預金高は二十五萬圓内外なりしが、一舉に之を、八十五萬圓餘に増加せしめて多大の成績を擧ぐ。同行木村頭取は氏の敏腕に痛く信賴し、氏と相謀りて同行の資本金を一躍三倍増資の、金百五十萬圓と成し、益々繁榮を招來し、大内銀行を合併、更に、岡山第一合同銀行をも合併する等。此間氏の活躍は實に目覚しく、斯界に幾多顯著なる功績を揚げたり。如斯、縱横無盡の活躍の傍ら、更に事業界にも曠足を伸し、現に白川保善社代表取締役、白川製陶、讃岐土地各專務取締役、下津井鐵道、琴平參宮電鐵、兩備バス各取締等役の要職にあり、寔に、經綸の才、先見の明、常に時流を抜き思慮亦周密正世の巨擘と謂ふべき歟。

(住所 香川縣琴平町八二五)

井堀賢三

建築器具の螺番製作を専門となし、その製
品堅牢無比、その規模宏大にして生産能力關
西隨一を以て誇れるが、井堀製糖製作所た
り。當工場を經營せるは、井堀賢三氏にして
事業經營に甚だ才腕ありて業界にその名聲赫
々たるものあり。

同工場は明治三十六年嚴考井堀吉藏氏に依
りて創始せられしものにして、拮据困勉幾多
の難關を突破し、不撓不屈その職に没頭し、
棉風沐雨苦心研精して遂に今日の發展を遂ぐ
るに至れり。氏は剛毅果斷、素志堅剛にして
その經營に一身を傾倒し、粉骨碎身苦辛慘憺
大いに活躍す。經營に力を注ぐと共に又工場
に於ては設備の改良と技術の研鑽に心血を注
ぎ、汗と油に塗れて職工に伍し、製品の向上
に銳意努力せり。氏の苦心は次第に功を奏し
優秀精巧の螺番の製作に成功して、非常なる
好評を博し、その製品業界に匹敵し得るもの
なし。當所製品に對する需要年と共に激増し
て、操業頗る繁忙を加へ業績大いに揚れり。
氏はもつばら設備の充實に力を盡し従業員を
督勵して技術の練磨に努めしむると共に、近
時の一般建築界の變遷に伴ひて製品にも大い

に改良を加へて多大の賞讃を博せり。當所に
對する高き信用によりて、近時愈々その需要
旺盛を極め、晝夜兼行してこれが供給に當
り、大いに殷盛を極めて溢れたる活況を呈せ
り。先考吉藏氏大いに手腕を揮ひて斯界に牢
固たる地盤を築き、その信望赫々たり。然る
に昭和十年十月氏は病を得て卒去せらる。茲
に於て當主賢三氏嚴考の遺志を繼承して家業
を繼ぐ。氏は明治三十九年生れにして胎未だ
若き白面の一青年なり。頭腦緻密にして明敏
萬才、斯業に携りて日尙ほ淺しと雖も、其經
營の才腕まことに俊敏にして、世人の深く嘆
服する所たり。明朗快活にして才氣煥發、實
に聰明無比の前途に光輝充てる青年事業家た
り、襟度深宏にして統率の才に富み、情誼に
厚く、従業員の爲めに幾多の施設を施して師
父の如くに仰がる。現在従業員四十餘名に達
し、上下協力一致して一糸紊れざる統制の下
に業務に精勵して事業甚だ活況を呈せり。天
稟氣宇活潑、霸氣縱橫。その將來業界人の多
大に期待する所たり。
(住所 京都市伏見區深草相深町九)

株式会社 北海道銀行

當行は明治二十七年三月の設立に係り、兩

餘萬圓、前年同月對比七分一厘を貸出は三億
五千五百餘萬圓、前年同月對比三分八厘を各
増加し、共に從來の最高額に達せり。而して
貸出に於ては特に商品擔保貸付の前年同月對
比二割一分七厘増、信用貸付の九分三厘増加
を示せるに徴し、金融界の動向を察するに難
からず。然者當行の業績も亦大體之等金融界
の狀勢に倣ひ、預金は上半期末七千八百六
八萬圓に上り、前年同期に比し、六分九厘を
増加し、貸付は六千三百八十九萬圓となり、
同様四分七厘を増加し、金銀取扱高は四十一
億二千六百萬圓に達し、前年同期に比し六分
三厘の増加を示すに至れり。而も當行は前述
の如き經濟情勢裡に細心の注意を怠らず、業
績の順調なる發展を期したる結果、堅實なる
成績を擧ぐるに至れり。

因に當行の重役は、取締役頭取中山豊 取
締役小熊幸一郎 橋原英太郎 相馬哲平 稻
林林之助 常任監査役佐藤源 監査役葛西耕
芳の諸氏なり。

取締役頭取 中山 豊

大分縣士族中山
茂木氏の二男として明治十六年九月に出生。
同十四年東京帝國大學法科政治科を卒業し
翌四十五年日本銀行に入り、漸次其才腕を揮
ひ、本店營業局調査役、松本支店長を経て、
昭和七年同行松山支店創立準備長に推舉され

同支店設置さるゝや、初代支店長に任ぜられ
四國金融界の爲、貢獻するところ尠からず。
次で京都支店長に榮進す。曩に當行頭取とし
て本道財界に永年活躍せし加藤守一氏の後を
襲ひて取締役に就任し今日に及ぶ。爾今の活
躍刮目に値するものあり。
(所在地 小樽市色内町七ノ二〇)

株式会社 山本最商店

凡そ文化生活に必要なものは、その大衆
と個人たるを問はず、最も經濟的に、最も合
理化されたる文化施設に俟つべきもの至大な
り。殊に耐寒性稀薄なる我が木造建築に於け
る暖房裝置の如き、或は酷暑身を焼く夏期に
於ける室内冷房裝置の如き、之が完全に希
求するところにして、之が優秀は一國の文化
の發展をも左右するものとして重要意義あり
と言ふべきなり。我が株式会社山本最商店は
即ち燃料機械、家庭用品製造販賣、冷暖房、
給水設計工事請負等凡ゆる文化施設事業を營
業目的として昭和十年五月、資本金六十萬圓
(内拂込額三十萬圓)を以て設立されたるもの
なるも、其の淵源は現代代表取締役山本最純氏
が大正五年大阪に於て創業したるに始れり。

代表取締役 山本最純

氏は德島縣山本
大藏氏の四男にして明治十八年三月を以て、
同縣名西郡鬼籠野村に生れ、大正五年來阪し
センターストロブ發賣所、川崎電氣扇一手

來四十餘年頗る順調の業績を擧げ、以て道内
金融界に君臨し、能く其使命を達成す。而し
て其間増資に増資を重ね、現に資本金七百八
十萬圓内拂込額五百四拾四萬五千圓を擁し、
支店、出張所道内を通じ四十數箇所並に東京
市にも支店を有す。爰に當行最近即ち昭和十
二年六月末現在の業績を見れば、本道財界の
一般狀勢として産業の大宗たる漁業は、近
年稀有の不漁に終り、水揚石數僅々拾壹萬石
に過ぎずと雖も、鱈漁業は頗る好漁にして、
且つ海産物は一般に價格の騰貴を來し、依存
關係筋を潤はすに至れり。又石炭は内地需要
愈々増大し各地に炭礦の開發を見、其他金銀
鐵礦等の採掘、賣山等頻繁に行はれ木材も亦
品不足と需要増加に依り、價格の騰貴を示し
頗る活況を呈せり。本道商取引を鐵道輸送高
に見るに六月迄累計四百二十八萬圓に上り、
前年同期に比し一割四分四厘を増加せり。本
道五市手形交換高に於ては枚數六十七萬二千
餘枚金額五億百餘萬圓に達し、前年同期對比
枚數六分七厘、金額三割四分九厘の激増を來
せり。本道主要六港對外貿易に於ては、輸出
二千四百八十一萬餘圓、輸入一千二十二萬圓
となり、前年同期對比輸出三割九分九厘、輸
入六割七分九厘の増加を示したり。本道金融
界は之等財界の趨勢を反映し、預金貸出共に
逐日増勢を辿り、期末殘額預金三億六千四百

現時我が國新業界に製品の優秀と事業の堅實
を以て號名を馳せつゝあり。其暖房關係に於
ける主なる製品は、石炭の薄層燃焼を最適と
せる學理に基き製産されたるセンターストロ
ブを初め、センター煉炭ストロブ、センター
風呂釜、センターオガクズ籠等最も有名にし
て、其の優秀性能は主務官廳は元より世上一
般の好評噴々たるものありて名實共に斯界の
中心的存在となれり。而も之等製品の性能は
點火簡易なること、放熱迅速なること、熱力
強大なること、燃料半減すること、熱度平均
なること、除灰容易なること、連續燃焼なる
こと、調節自在なること、堅牢優美なること
多産廉價なること等に於て、既に當局の表彰
數回に及び、江湖の定評甚大なるを以て窺知
し得べし。今や其の製品は官廳に、會社に、
工場に、學校に、或は社交場裡に、或は家庭
に浸潤して其の販路は日本全國は勿論、遠く
滿洲、支那より諸外國に堂々進出を極め、營
業の堅實と研究技術の優秀而も低廉優美を以
て、社運は隆々として旭日の如く盛業を極め
つゝあり。

販賣を開設したるものにして、爾來各種文化事業に盡瘁し、昭和十年五月株式会社山本最商店を一族と共に組織、現職となりたるものなり。

資性重厚圓滿にして、一面恬淡にして調達研究心に富み、天賦の商才極めて豊かなり。而も常に社會文化事業に貢献し、清原源白の人格者として衆望風に高し。秀子夫人は大部分多喜田友作氏の令妹にして、夫妻の間に長男勝通君、長女佳津子嬢の一男一女あり。宗教は眞宗にして家庭和氣藹々たり。

(所在地 大阪市西區信濃橋交又點)

東條 虎 輔

世に舊家名門の出身者多しと雖も、單なる傳統を誇る名門後繼者とは自ら其の趣きを異にし、人格識見共に卓越し謹厚にして清廉、而も能く時勢を洞察し、人情の機微に通じたる士が我が東條虎輔氏にして、其の異色ある手腕と經綸を以て、帝都事業界に聲望隆々たる實業家として存在を知らる。氏は從三位藤原友經二十七代の孫にして、舊防州藩士東條龜輔氏の三男として明治十六年十月を以て岩國町に生誕し、同四十五年分家して一家を創立し、夙に山口縣立中學校を経て、日本大學

に學び、實業界雄飛を志して石炭業に従事、次で同四十二年東京電燈委託店經營を創め、同四十五年東京商業合資を興して代表社員に就任、大正二年には近榮電球製作所を創立、昭和五年之を資本金五十萬圓の株式會社に改組して社長となり今日に至る。斯くて氏の事業的色彩は一段と絢爛さを加へ、其の事業は遺憾なく、面目を發揮せり。今や氏は積極進取最も特色ある經營運用により、帝都實業界の龍兒と謳はるる著大なる存在となれり。天賦の資性調達にして襟度宏く、清新發刺の活動力を有し、而も燃ゆるが如き公共心を包懐して、至誠熱直、以て事業の合理化と正道化を以て、衆庶の福利に貢献しつゝあり。趣味として書畫を愛好し、宗教は神道たり。

(住所 東京市澁谷區原宿三ノ三五八)

庄内川レヨン株式會社

當社は我國人紳會社中堅級中内容に於て將又その業績に於て優秀双絶を以て名あり。資本金三百萬圓の全額拂込済にして、豊田紡績の子會社たり。昭和七年十二月に創立せられ九月上旬より操業を開始し、新會社中最も早く製品を市場に出して同業各社より驚異の眼を以て見られたり。生産設備完備し、製品又

優良、九月上旬に操業を開始して、同年下期には早くも五分配當を行ふの好成绩を挙げたり。爾來成績順調を辿り、更に六分に増配すると共に他面手堅く利益の社内保留に努め固定資産の償却に意を注げり。且つ又設備の擴張にも力を盡せしにより業績内容共に逐年向上に向へり。斯る當社の好調も一に重役陣に人材の網羅せられしによるものなること論を俟たず。左に簡單なる紹介を試みて、その片鱗を傳ふることとせん。

取締役社長 豊田利三郎

巨頭として令名噴々たり。故日本綿花社長兒玉一造氏の令弟にして明治十七年三月を以て生れ、後迎へられて豊田家の養子となりしものなり。夙に東京高商を卒業す。内閣調査局専門委員、名古屋商工會議所副頭豊田自動織機製作所、豊田紡織各社長、中央紡績代表取締役、豊田紡績常務等を始め、幾多の事業に關係す。昭和三年には紺綬褒章を下賜せらる。卓犖豪放、識見高邁の偉材たり。

常務取締役 豊田喜一郎

明治二十七年六月豊田佐吉氏の長男として生る。嚴考佐吉翁は豊田式紡織機の發明者として知らる。氏は尙ほ豊田自動織機製作所常務、豊田紡績、豊田切切紡織、中央紡績各取締役その他關係事

業頗る多く少壯敏腕の事業家としてその名聲高し。慧敏にして才腕あり。嚴考の名を恥づかしめざる人材にして將來中京財界の中心人物たるべき將器を備ふ。

取締役 三好甲子郎



庄内川レヨン株式會社

當社の實權を委託せられ、賦稟の才を發揮して業績を躍進せしめつゝある人こそ氏なり。明治二十八年九月、三好勝一氏の二男として佐賀縣に生る。夙に名古屋高工染色科を出で、農商務省工業試験所に入り、後富士瓦斯紡に轉じ更に昭和三年庄内川染工所に迎へらる。曩に英、米、獨等に留學して彼の地の工業界の調査研究を行ひ、最新學理と各種技術の研究に邁進し、多大に秘奥を極めて歸朝、斯界技術者の一方の權威として推重せられるに至れり。頭腦明晰にして濃厚實實、事業には眞

摯以て之に専念す。謹厚溫雅の人格には多數從業員の深く悦服する所たり。當社今日の發展を遂げしは、氏の手腕に負ふこと大なるものあり。年々飛躍的に事業は躍進せるが、昨年々初に着手せられし擴張工事は更に大規模を極め、之が完成に依りて當社は從來に比較して二倍以上の大工場として膨脹するに至るなり。順風滿帆事業は愈々繁忙を呈しつゝあるが、これと共に氏の才腕一段と冴へ、將來更に事業界に頭角を現すことと期待せらる。庄内川レヨン取締役たるの外、庄内川染工所取締役をも兼ね。

(所在地 愛知縣西春日井郡庄内町堀越)

熊谷商業學校

當校は商業學校規定に依り、商業に關係せる業務に従事せんとする者に對し、必須なる教育を施すを目的として大正九年四月設立開校す。昭和三年十月十一日御眞影を、同四年十月二十二日教育勸諭勸本を、同六年一月二十四日御眞影(舊御眞影奉還)を各奉獻す。當校は開校以來二十年に滿たすと雖も、校内諸設備既に萬全を期して整然校風逐年舉り今や縣下屈指の優秀商業費として其名編々高

し。而して開校以來昭和十一年度までに至る卒業生數は一千二百七名にして、其内實業に就ける者四百二十四名、銀行會社員二百二十三名、店員五百三十名、官吏其他七十二名、上級校入學者十九名、死亡三十九名の状況は、實に當校の誇りと爲すに足る。當校開費以來代々の校長に人材を得て故々として其職務に精勵し、職員亦大いに賢材を集めて、終始一貫校長の玉條を體して努力し、多大の好成绩を挙げつゝあり。當校學則の概要を掲ぐれば

- 一、編制—第一本科(修業年限五ヶ年)第二本科(同三ヶ年)專修科(同一ヶ年夜間)
- 二、定員—第一本科二百五十人、第二本科百五十人、專修科五十人
- 三、入學資格—本科は尋常科卒業程度、專修科は高等科卒業程度にして何れも品行端正身體健全なるものを選定す
- 四、授業料—第一本科は當市内居住者は三圓五十錢、他は四圓五十錢、第二本科は當市内居住者は三圓他は四圓、專修科は當市内居住者は一圓五十錢他は二圓とす

職員
校長兼教諭笠原貞治 教諭掛川勝 同大島近六 同長谷川昇 同比企武雄 同栗田紋平 同新井久三 同田中岩太郎 同

名野沖一 同田畑勇次 同鴨田宗一 同
石谷隆光 同中島加一 書記兼囑託淺見
藤八 囑託梅澤好三 同連沼鐵男 同片
山正三郎 校醫小川良次 齒科醫高橋朋
治

校長笠原貞治 明治三十三年十月熊

谷市熊谷に呱呱の聲を擧ぐ。長じて埼玉縣立熊谷中學校を経て笈を帝都に負ひ、東京商科大学に學び、優秀なる成績を以て、商業専門部を卒業す。資性穎才溫和にして謹直、昭和三年三月當校教諭に就任し、翌四年一月初代校長高塚幾治郎氏の後を受けて校長事務取扱に拔擢され、同九年七月校長となる。以來終始一貫商業教育に邁進し、市民の敬仰愈々深し。而して其抱負極めて至高至純にして、『郷土たる本市の商業教育に従事し、幾分にも微力を盡して子弟の幸福、市の發展延ては教育奉公を念願とし、既に本校に服務すること十餘年、昭和九年七月若輩にも不拘、重責を擔ふに至り、昭和十二年四月に至りて乙種商業學校より甲種商業學校に昇格を實現し、現時學校施設、教育方針確定等に貢獻的努力を捧げつゝあり』と。眞摯なる態度にて語る氏こそ、縣教育界にその將來を囑望さるゝこと多大なる所以なり。

(所在地 埼玉縣熊谷市熊谷)

編譯士 谷口榮藏

南薩萬世町の士にして、明治二十七年七月人材淵藪として著聞せる鹿兒島市加治屋町に誕生す。

天性聰敏、少時健兒社に入りて心身を鍛磨して、傍ら花田中佐(花大人)の主宰したりし會文舎及び花田塾に學び、夙に駿秀の聞え高かりき。總て一中を経て七高を卒業するまで、峻嚴なるスパルタ教育の下に砥礪琢磨して舊藩傳統の土風を體得せり。大正九年京大法學部卒業、同十年五月東京市電氣局に入り、其中樞部に在りて審査企劃等の事に當り、舊來の弊習を交除し、局内の統制刷新に殊功あり。少壯氣銳の故腕家として、井上局長、齋藤理事等の殊遇を受け、偶々大震災に遭遇するや、幹部の人々と最後まで踏み止りて必死獻替、其善後處置に方りては諸種の獻策を試みて、悉く幹部の採擇するところとなり、事後市より其功を表彰され、主事に昇進、同事に辯護士の登録をなして、市の訴訟事務囑託となり、茲に法曹家としての端を開くや、第二東京辯護士會の創立を主唱して短時日の間に目的を達成し、爾來屢次其理事に推され、二回に亘る東京市大變獄事件を首め

株式三原造船所

本邦造船業界に異彩赫々たる存在を示し、

其の業歴の古きと基礎の鞏固なる、加ふるに斯界に誇るべき小型及び中型船舶建造技術を有し、業績亦た顯然たるを株式會社三原造船所とす。

抑も當所の發端は安永四年の創業に始まり當時海運界の需要に従ひて、多年大型大和船の建造に従事したり。其後明治年間に入りて歐米文明移入され、世界貿易の發展急激なると共に、我國運の興隆に伴ひ、本邦海運界に漸次西洋型汽船が重要な地位を占め、從來の和船驅逐さるゝや、慧眼克く時世の變轉推移に着眼せし時の經營者は、率先此種西洋型造船建造に着手せり。爾來、不斷の研究練磨を重ねて技術的向上を圖り、更に堅實なる營業方針を持って邁進せる處、其の建造船舶の優秀卓越せること嶄然他所を抜んじ、克く需要界の要望を充足せしむる一方、業運亦た旭日昇天の概を以て發展又發展、斯くて大正十一年組織を合資會社に改め、現所に工場一切を新設、次で昭和八年五月更に事業の擴張伸展を期して株式組織に變更し、株式會社三原造船鐵工所と改稱、同年末當市大正區難波島町に第二工場を建設し、茲に面目全く更新せり。其後昭和十年二月、海軍省指定工場たる榮譽を膺ふや、更に工場の増築、諸設備の充實を圖り、鋭意専心新機巧の設計と最良の價格をモットーに、斯界に貢獻寄與する處其

の功績紛ならず、今や多年に亘る特殊の研究と豊富なる經驗に基き、新小型及び中型船舶建造技術は眞に業界に卓絶し、各官省、大會社を始め、各方面需要界の絶好好評を博すること多大、而して内鮮沿岸隨所に當所建造の小蒸氣船及び中型貨物船を見ざるなく、就中、大阪、神戸、下關各港に於ては獨歩優勢なる地位を占むるに至り。

現在工場敷地は今木町工場五百九十九坪、難波島町工場九百八十六坪、亦た建物坪數は前者三百九十九坪餘、後者百五十八坪を有し、各種機械器具を始め、最新式諸施設を完備せしめ、多數熟練工他職工二百餘名を擁して益々繁忙多端なる業況を展開しつゝあり。因みに昭和十二年度第九回事業報告に據れば、當期純益金一萬五千七百餘圓を擧げ得、而かも我國海運界の状況、小型汽船の需要益々急迫を告ぐるの秋、前途の飛躍發展正に刮目に値すべし。尙重役諸氏は、取締役會長山口眞一、常務取締役三原治郎、同長島儀一郎、監査役三原定兵衛。

取締役會長 山口眞一

氏は大阪府山口忠治氏の三男、明治九年七月廿日を以て福岡縣に呱呱の聲を擧ぐ。夙に斯界に雄飛活躍せんと勇氣勃然たる處、東京帝國大學工學部造船科に學びて研鑽勉勵を累ね、同三十三年後

秀技群の成績にて卒業するや、先づ邊信省海軍部技師を拜命、卓腕を揮ひ次いで同四十二年小賀鐵工造船所に轉ぜり。以來至誠努力、克く同所技師兼營業主任の重責を完遂して聲名を馳せしも、將來獨立不羈の精神に富める氏は大正六年敢然として木津川造船所經營を開始し、幾多の功績を收めたる後、昭和八年三原造船鐵工所創立さるゝと共に現職に就けり。資性濃厚篤實にして思慮周密、人格亦た高潔玲瓏たるものありて、内外に絶大なる尊崇を蒙り、殊に造船技術に關する一權威として偉名隆々たり。

常務取締役 三原治郎

氏は明治二十七年九月を以て當市に生れ大阪府人三原萬之助長男たり。夙に聰明穎智、出藍の譽れ高く、大正七年大阪高工造船科を卒業後、家業を繼承するや、天賦の才幹益々光輝を發し、殊に最新式造船技術の眞骨髄に達せる、卓腕を縱横に發揮して拮据經營、父業に一段たる發展隆盛を加へしめ、祖先傳來の家名を光彩陸離たらしめし守成の功勞者。斯くて業運の伸展興隆に伴ひて合資會社を組織、更に株式會社に改組して業務の一大擴張を圖り、今や關西斯業界の重鎮として聲望噴々たり。資性着實穩健なる反面裂帛の氣魄に富み、而かも溫容親しみ易き處、全従業員皆慈父に對するが

如き敬慕心を寄す。因に趣味を旅行に有し、業餘閑暇あれば各地に遊歴、浩然たる英氣を養ふと聞く。

(所在地 大阪市大正區今木町二ノ三二)

日本加工織布株式会社

當社は各種の防水布の製造販賣を営み、多年の研究なる卓越せる技術を以て、優秀無比の製品を産出し、斯界に噴々たる好評を博せり。その創立は大正八年十二月のことにして、創業以來督勵して従業員之技術の練磨に研精せしむると共に、更に販路の開拓に鋭意盡瘁したるに依り、その製品は頗る優秀となり、需要年々著増なし、全國各地を始めとして滿洲・支那・南洋方面にまで進出を見るに至れり。尙ほ當社製造の撥水・フェルト加工並びに草履製製品は品質堅牢にして、耐久性ありて、近時大いに需要は増加しつゝあり。資本金一百万圓にして、内拂込資本五十三萬圓、毎期多大の好成績を挙げ、資産内容又甚だ堅實たり。昭和十二年十月突發を見たる支那事變は當社の營業にも撓らざる影響を及ぼし、上海向防水布類の輸出は杜絶したるのみか、彼の地在庫中の商品及び舟陸上中の一部は戦禍を蒙れり。乍併、他方に於て時

局關係に依りて綿帆布類の注文著しく数量増加せり。當社が最近發賣せる撥水は支那向のものは現在停頓せらるる内地方面に於ける需要はその眞價認められて次第に増加を見つゝあり。北支の安定、中支の明朗化と共に、對支輸出の前途には多大に期待せられ、當社今後之業績はまことに發展性に富むものといふべし。昭和十二年下期決算に於ては五萬圓の利益金を挙げ、上海の戦禍損失に一萬圓を償却し、株主に七分配當を附せり。専務野村保之輔、常務木口重彦、取締役野村豊次郎、同見玉宇之助、監査役小澤安之助、同酒井俊介、同山本勇の諸氏經營に執掌す。

専務取締役 野村保之輔

資性濃厚にして磊落落、社内に信望高き野村氏は、他面又業務に淬勵して八方活躍し、天賦の才腕を揮ひて多大の好成績を挙げつゝあり。今後の氏の活躍こそまことに刮目すべきものあり。

常務取締役 木口重彦

木口氏は明治十六年岡山縣に生る。夙に早稲田大學を卒業し、後實業界に身を投じ、第一洋行取締役に擧げられて手腕を揮ひて財界に名を成せり。温恭謹恪にして徳操堅固を以て世人に敬仰せらるゝこと深し。

(所在地 東京市神田區元岩井町)

東洋フェルト總經理長

濱崎長門

堰水も満つれば奔流となり、成熟せる甘果は、呼ばざるも人を招じて樹下に小憩を作らしむ。

されど内に空しき者は、外觀を嚴めしく装はんとして、空名の獲得に狂奔するも其効薄く、之と反對に實力あるものは、從容乎として靜かに機軸を待ち、然かも自ら其の勢威を伸展せしむ。況んや現時我が國狀の充實と教育の徹底は年々幾百人の青年有識者の徒食するの結果を見るは、之實に生産過剩的現象に非ずして、寧ろ空名獲得に狂奔して罷まざる時代錯誤的自己過信の至すところに非ざるや。今や幾多大學出身者の世に埋れるは、自己過信を悟らず、實力養成に邁進せざるの結果と謂ふべきなり。茲に論ぜんとする濱崎長門氏は如上人士の規範となるべき人物なり、大學を出でて僅に八年、既に一家を爲す人物として東洋フェルト株式会社の中堅社員として、將來を囑望されつゝあるは、誠に從容機を待つ蛟龍的人物と謂ふべきなり。

氏は大阪市濱崎會藏氏の二男にして明治三十九年八月の生れ、昭和五年東京帝大獨法科を卒業後、直ちに日本毛織株式会社に入社、

本社庶務課に勤務中家事の都合を以て同社を退社、同時に東洋フェルトに轉じて經理部長兼庶務課長に推され今日に至る。

氏は學憲時代より謹嚴實直の聲高く、その熱ゆるが如き雄飛の信念は、社會の第一線に出でても克く誠實を旨として研鑽努力したるは勿論たり。今や同社に於ける氏は社業に専心専ら將來に待機しつゝあるが、社内の信望夙に厚く年齒少壯なりと雖も前途春秋に富み將來の大事としてその期待大なるものあり。然も氏は資性濃厚、典型的好紳士なり、家庭には神戸市の名望家内野政市氏の二女葛子夫人あり、兵庫縣立神戸第一高女出身の才媛にして長女美那子嬢あり。夫人の内助と共に氏の前途正に洋々たるものあり。

(住所 名古屋市南區開平町二ノ一四)

北海水力電氣株式会社

北海道電燈電力事業に覇を唱へ、内容堅確業礎不動、成績又優秀なるを以て聞ゆるは北海水力電氣とす。當社は我國製紙界に君臨せる王子製紙株式會社の傍系會社にして、王子製紙社長たる藤原銀次郎氏自ら社長として當社を統率す。その他の重役中にも中央財界の巨頭の列するありて、當社の財界に於ける信

用の程を證するに足らん。資本金三千一百十二萬五千圓、内拂込資本二千一百七十八萬八千圓なり。毎期好成績を挙げ、株主配當に八分を附せり。今後共に好調を以て推移するは疑なき所なり。その供給區域は札幌、小樽の二大都市を中心として、九町二十六ヶ村に及ぶ。十二年五月末現在に於ける電燈總數四十七萬二千燈に達し、之を前期に比較するならば、四千三百餘燈の増加に當る。又動力は二萬五千キロワットにして、前期に比較し、約六百キロワットの増加率を示せり。過般藻岩發電所の建設工事成し、更に引續き函館線昆布驛附近尻別川の河水を利用して昆布發電所の建設を行へるが、その出力九千キロワットに上る豫定なり。近時軍需景氣は中小工業界に浸潤して之が勃興を促すこととなり、一面に於て鑛業の盛況も亦電力の需要を著増せしむるに至りたるにより、當社の前途まことに輝かしきものあり。

専務取締役 櫻井久我治

北海水力電氣の専務として、北海道事業界に名譽顯著なる氏は、夙に軍職に在りて國防の第一線に參畫しその材幹を大いに矚目せられたるものなり。即ち陸軍士官學校に入り、後更に陸軍大學に學び、學績優秀、優秀の材幹は早くもその存在を明らかにす。現役將校として隊付となり

勤務すること數年、頗る信望を博せしが故ありて軍職を辭し財界に飛躍せんことを志す。されど容易に志を伸ぶべき機会なく不遇のうち空しく荏苒日を過せり。堅忍不拔氏の鐵石の如き意志は聊かも怯まず、淬勵刻勉その難局を克服すべく奮闘す。斯くて北海水力電氣の創立せられるや、氏は招かれて同社に入らず、熱誠以てそのことに當り精勵格闘、早出晩退大いに努力す。氏は頭腦敏捷にして事に當りて慎重、周到なる用意をなし綿密なる検討をなして始めて斷行し、裁決の慎重、行動の神速はその事業活動に功を成すこと大なり。

温恭謹恪にして、内に温情を豊に溢へる柔和なる風貌に接する時、何人もこれに魅せられざるはなく、人物は圓滿無礙にして、圭角とれ、部下に對するに慈父の情を以てし、人に接するに辭禮懇懇にして、内外の名望頗る高し。藤原社長は氏を信頼することまことに厚く、當社の一切を氏に一任して何等の顧慮を費すことなし。氏の人格才幹は札幌財界の重鎮として過く人の景仰する所なり。家庭には梅子夫人との間に長男武氏あり。氏は東京高商出身の秀才にして、現に三井鑛山社員たり。

(所在地 札幌市大通東一ノ二)

株式 有本嘉兵衛商店

有本嘉兵衛商店は明治拾九年の創業に係り先々の鞏固なる意志力に基き経営の機宜を得、逐年著大なる發展を來たし、先代嘉兵衛氏亦中興の偉業を収め、今や業界の元老的存在として堂々の陣容を張りて新界に君臨す。而して先づ當店の特徴を擧ぐれば、業界の先鞭を付けて英國マーデンに羅紗製造工場を、支店を同國並に佛國に有し、歐洲全土の凡ゆる毛織物工場の經營を重視し、有名工場より製織の高級品を厳選し、本店よりの指令に基き訓練されたる數十の社員に依りて歐洲の流行を基調として之に加ふるに日本人の趣味嗜好を加味されたる服飾品、或はサンプルを共に各航路毎の便船に、航空便に、極度の文明利器を利用して本店に送達され、之を羅紗部に於ては、全國有名の特約專屬二十餘工場に配達され熟練工に依つて直ちに製織されつゝあり。即ち昨日の歐洲の尖端を行く流行は、今日の有本嘉兵衛商店のサンプルとして現はれり。この最高級品最流行品と、最良國産品の生産は到底同業者の企及し得ざるところにして、現に營業組織を輸出、羅紗、洋服、婦人服地部の四部門と爲し、各部專任の部長



有本嘉兵衛商店上原市合望

を配し、輸出入部は神戸並に横濱に於て注文先に發送す。羅紗部は羅紗地の切賣、洋服部婦人服地部は注文其他の仕立を夫々分掌す。昭和十一年一月現嘉兵衛氏時流に即して資本金壹百萬圓内七十五萬圓拂込の株式組織となし業礎の不動各部一糸紊れざる統制強化に一

を配し、輸出入部は神戸並に横濱に於て注文先に發送す。羅紗部は羅紗地の切賣、洋服部婦人服地部は注文其他の仕立を夫々分掌す。昭和十一年一月現嘉兵衛氏時流に即して資本金壹百萬圓内七十五萬圓拂込の株式組織となし業礎の不動各部一糸紊れざる統制強化に一

を配し、輸出入部は神戸並に横濱に於て注文先に發送す。羅紗部は羅紗地の切賣、洋服部婦人服地部は注文其他の仕立を夫々分掌す。昭和十一年一月現嘉兵衛氏時流に即して資本金壹百萬圓内七十五萬圓拂込の株式組織となし業礎の不動各部一糸紊れざる統制強化に一

る陣容は
取締役社長有本嘉兵衛 専務取締役近藤保之亮 取締役有本嘉助 同有本チカ 同有本久 同有本時之助 監査役安久仁介の諸氏なり。

由來有本家は代々舞鶴に居住し、舊家を以て附近に著聞す。初代嘉兵衛氏に及んで明治十九年上洛し新製の洋服商を創む。二代目嘉兵衛氏は、明治二十年八月十三日京都府近藤久兵衛氏の三男として出生。先代嘉兵衛氏の養嗣となり、大正九年家督相續と共に前名辰之亮を改む。先是京都一商卒業後、大正四年歐米を視察して歸朝、先代歿後遺業を繼承し爾來益々業況振ふ。氏天賦豪放にして膽力に富み、大正四年以來海外に渡航すること屢々歐米最新流行の粹を究むるに留意し、其新進氣鋭の營業振りは、業界重視するところにして全國的に洽聞す。氏日常社會事業に貢獻するを怠らず、昭和元年搖籃の地、舞鶴町の役場内に有本積善社を設立して、叔父有本國藏氏と共に各五萬圓を提供したるを初め、功績枚舉に遑あらず。昭和四年紺綬褒章飾版を賜はる。

社長 有本嘉兵衛 先代嘉兵衛氏の長男として明治四十二年一月を以て誕生。長じて神戸商科大学に學び、優秀の成績を以つて之

を卒業す。昭和十年三月先代嘉兵衛氏の計に遵ひ、家督相續と共に政之亮を改め襲名す。昭和十一年一月當店の業務一切を擧げて株式組織に率め、氏は取締役社長に就任、以て今日に及ぶ。氏能く父君の血を享して卓抜の人材にして紳商の器自ら備はる。餘未だ若冠の將來洋々たるものあり。

(所在地 京都市中京區三條御幸町角)

事業家 三木康作

本邦字消ゴム界の最大權威者として、業界に歴例的名譽を博せる、合資會社三木康作護謨製造所代表社員三木康作氏は、事業は人格の反映なり、と高唱し實踐躬行の範を垂れ、今やその製品は大量輸出の盛況を呈し、海外市場を席捲せり。三木製品の多大の輸入に依り、米大統領を憂慮せしめりと云ふ、以て其の活況を知るに足らん。

氏の經營する事業が、世界的に名譽を博し最優良品たるは夙に世人の知悉せる處なり。同社が今日あるは社長三木康作氏の國家的見地に立脚せる犠牲的精神と明放なる氏の頭腦より創案したる、科學的經營法に依る、生産並に販賣の合理的經營法に基く處にして、加之同氏の温情主義能く社員一同に欽仰され、

舉社一致、業績に精勵せる賜に外ならざる處なり。

氏の新業に對する熱意頗る大にして之れが發展の爲粉骨碎身して當り、洵に其の努力は何人も深く嘆服せる所なり。氏は曩に同社に研究部を設け、社是として、より優良により廉價に、より迅速に、より正確にたるの儼然たる營業方針の下に一路邁進し、遂に國內需要を滿たし、剩さへ輸入を逆に輸出に轉ぜしめ、就中同社製品、オットセイ印、シード印は世界各市場に絶讃を博して愛用されるに至れり。之れ實に氏の名譽たるのみならず、我が國の誇となすに足る處なり。

世界字消ゴム界に威風堂々君臨し、遂に覇を掌握したりしが、益々需要殺到して遂に工場の大増築となりたるに依り、昭和十年工場の大増築をなし、内部設備に至りては、最新式優秀機械を増設し、大量生産に依る廉價主義の徹底を期し、加之同社獨特の技術を以て製作し、従業員又氏の人徳に深く感化せられ堅實なる信念を持って鋭意社業に精勵し、當社の爲めに大馬の勞を盡せり。

斯くて業界の先覺者、世界字消ゴムの權威者として、新界に重きをなしたるが、氏の今日の大威の裏面には、勞苦辛酸又筆舌の盡し能はざるものあり。「國內より外國品を排除せよ」との目標下に敢爲邁進し、全力を傾注

して奮闘努力の結果にして、今日、氏のモットー達成せられ、舶來品の驅逐を見たるのみならず逆に海外に輸出せられるに至り、正に不朽の功績として、特筆大書すべき處なり。傾來氏は寸暇を割きて、關西實業界に盡瘁する處又紛からず。即ち、旭工業會の常任理事として、工業大阪の樞軸を成す同會の發展の爲め、本邦ゴム工業の爲活躍する所又多くなるものあり。

(住所 大阪市旭區中宮町六七六)

山口市長 高橋忠治

山口市民の輿望を一身に蒐め名市長の名を恣しいまゝにせる、高橋忠治氏の奮勵努力こそ世人の瞻仰措かざる所たり。由來山口縣は明治維新發祥の地とも云ふ可く、志士、國士英傑を生めるの地たるは、我が國歴史の示めせる處なり。往時には官尊民卑の風ありて、英才の士は悉く官途を志せり。殊に長州人に此の風多分にありて、青少年の多くは官職目指して研鑽に努むる者頗る多かりき。氏亦これが影響を受けて明治三十六年、海軍兵學校に入學、同四十年同校を優秀の成績を以て卒業す。次で同四十一年海軍少尉に任ぜらる、同四十三年海軍中尉に昇進し、海軍砲術學校

に學び、越へて、大正元年には海軍大學を卒業して、同二年海軍大尉に任ぜらる、大正三年日獨開戦するや、馬公、汕頭方面の戦役に於て抜群の功を顯し、大正四年、勳功に依り勳五等瑞寶章を賜ふ、同年大禮記念章授與さる。大正六年、舞鶴鎮守府副官兼參謀に任ぜられ、少佐に進級、勳四等を賜ふ、同十年三月、利根水雷長兼分隊長、同十一年、菱驅逐艦長、同十二年十一月海軍水雷學校教官となり、正六位を賜ひ、海軍中佐に任官す。同十四年勳三等瑞寶章を賜はる、同十五年警手副長、昭和二年第七驅逐隊司令、第五驅逐隊司令、第一驅逐隊司令等に歴任、昭和四年從五位海軍大佐に進み三十驅逐司令となり、同五年佐世保鎮守府附被仰付られしが、同六年三月待命となり、次で豫備役に編入、正五位を賜ふ。如斯躍進して遂に正五位勳三等海軍大佐に陞進し、此處に官途を辭して閑地にありしが、逸材は徒に野に朽ちる事なく衆望期せず一致山口市長に推薦さる。氏一度、市長の重職に就くや日夜勞苦を惜まず、奮闘努力し、多年の抱負を傾注す。斯くて市の業績頗る揚り絶大の信頼を博せるに至れり。即ち、山口市多年の懸案たる、上水道の完成、魚市場移轉改造、小學校改築、尿尿處理の市營、山口商業學校の創立、道路大改修等々、氏の功績を擧ぐるに枚舉に遑あらざるなり。

如斯、一意専心市政の爲、國家の爲、寄力して他を省みざるの献身的活躍こそ、當世得難き人材と云ふ可し。文武兩道に通曉したる氏、今日戦時下に於けるの秋、氏の手腕に多大の期待する處あり、益々健闘を祈る。
(住所 山口市上金古會)

栗原組經營者 栗原源藏

秋田市は明治二十二年四月市町村制實施と共に市制を施行し、爾來産業の發展、文化的諸施設の充實等日進月歩の勢を以て長足の進歩をなせり。即ち明治三十五年十月奥羽北線鐵道開通し、翌年には上水道の敷設に着手し同四十年より給水を開始、又同年十二月公衆電話創設さる、等年を逐ひて諸施設は昭和七年には秋田放送局開設され、下水道工事の完成、道路舗装の着手、諸官衙の設立等逐年發展の道程を辿れり。現時隣接町村の合併に依り、戸數一萬八百餘戸、人口六萬一千餘人を算し、頗る發達を極めり。當市の建築物、鐵道或は水道工事等の諸事業に對し、これが達成の爲めに直接間接に献身的奮闘をなし、多大の貢獻を爲せる人に栗原氏あり。氏は秋田市事業界屈指の人傑にして、勢望頗る高く、立志傳を飾る頌材として前半生將に筆

舌の盡し難き苦闘史を有し、若冠の頃北海道に於て工夫の間に身を投ぜし事ありしも、操守飽くまで堅固にして、堅忍不拔の精神と剛毅果斷の性格は、如何なる難關をも屈せず突破し、遂に今日の大成功を遂ぐるに至れり。氏は現在栗原組を經營して土木建築請負業を營み、秋田電氣社長、秋田信託取締役等の要職にあり。頭腦秀抜にして勇斷敢爲、頗る卓抜なる手腕の持主たり。現時後記の場所に堂々たる大邸宅を構へ庭園甚だ數奇を凝らし丹頂の鶴を飼ふ等まことに豪奢なるものあり。會て高貴の方の宿舎に供せられて、無上の光榮に浴せり。氏は土木建築請負業組合會長に推され、斯業の爲めに貢獻する所多く、又商會議員に選出せられて、同地産業界の發展の爲めに盡瘁し、或は秋田市農會會長に推されて農事方面にも不斷の活躍を爲せり。昭和三年公共事業に盡せる功績を以て、紺綬褒章を下賜せらる。温箱謹厚の士にして當市に於ける徳望まことに高し。埼玉縣人栗原磯五郎氏の長男として明治五年東京市に生る。元氣旺盛にして、その發軔たる活躍振りは壯者も尙ほ及ぶ所に非らず。チヨ子夫人との間に長女登利子嬢あり。秋田高女出身の才媛にして一枝氏を婿養子に迎へり。氏は敏腕を揮ひ、岳父の良佐として威望を高めつつあり。
(住所 秋田市龜ノ丁東土手町)

國產電機株式會社

第七十三議會は幾多重要戦時立法を協賛し更に昭和十三年度豫算並に事業費八十三億餘圓を通過して、眞に萬古未有の一大記録を史上に記すこととなり、舉國一致の國民的決意を中外に宣布したり。斯る尅大なる財政の支出に依りて經濟界の活況は彌が上に刺戟せられ、生産力の擴充大いに促進せられるに至りて、國力の増強に資すると共に、日滿支の緊密化に拍車を加ふること、更に多大なるものあるべし。國產電機株式會社は内燃機關、着火用磁石、發電機その他電用一般機械の製作並びに販賣をなし、その生産設備整然充實し、技術又秀拔なる所より其の製品他の比肩を許さざる優秀品として斯界の絶讃を受け、需要日に月に激増して、社業目覚しき活況を呈しつつあり。當社は昭和六年七月に創始せられたるものなるが、その製品はまさに時代の要求に合致し、需要の殺到より増資、設備の擴張相次いで行はれ、現時資本金二百七十萬圓(繰込資本一百三十五萬圓)に達し、その資本は創業當初の約十倍に膨脹し生産設備又著しき完備を遂げ、短日月間のその躍進振りまことに驚嘆すべきものあり。當社は本社

工場並びに絶縁物工場を東京市豊島區高田南町に置き、更に奉天工場を奉天市西區南一路に設置せり。尙ほ其他に自動車用部分品の専門下請負工場を、昭和十二年の夏東京市蒲田區下丸子町に設立し十月初旬より作業を開始せり。同工場は最近設立せられたる總資本金五十萬圓の第二國產電機株式會社に於て經營せられ、その株式の半數は當社の所有たり。又東京本所工場に於て新築中なりし、検査工場一棟は昭和十二年十一月下旬竣工し、絶縁物工場一棟、火造及プレス工場一棟も亦完成してそれ々々移轉を了し、從來の絶縁物工場は徒弟實習工場に充當せり。奉天工場に於ては支那事業の勃發以來航空機用、自動車用電氣部分品、計器類の修理に忙殺され皇軍の活躍に寄與せる所尠しとせず。同工場に於ても設備に大擴張を加へたるが、更に進んでは航空機用、自動車用電氣部分品の製作其他航空機部分品の加工下請をも行ふ豫定にして今後の發展大いに期待せらる。當社は近年陸海軍よりの注文逐年増加しつつあるが、支那事業の勃發以來受注は一段と激増を見たり。茲に於て生産設備の急増に鋭意力を盡くしたるが各種機械類の入手に相當の困難を感じ、且つ又諸材料の供給圓滑ならずして、十二年下期に於ては設備は未だ増設途上にありたるに依り生産高は充分なる増加を擧ぐるを得ざりし

も、業績頗る好調を示せり。即ち、損益計算書に依れば總收入三十二萬七千圓、總支出二十萬九千圓となり、差引當期利益金十一萬七千圓を擧ぐ。株主配當を九分とせり。十三年より増設せる諸設備は本格的活動をなして、生産高は多大の増加をなし、當社業績は一段と向上をなすものと期待せらる。尙ほ當社は從業員の技術の訓練には多大の意を注ぎ、又新式設備の採用に努めつつあるに依り、その製品は頗る優秀を以て知られ、各方面より絶大な讚辭を受けつつあり。今後の躍進こそまことに矚目すべきものあるべし。重役には取締役社長岩井豊治、取締役徳川守、同佐藤柱助、同阿部一郎、同加藤正俊、同藤谷澄、監査役山本義民、同野村靜の諸氏あり。

取締役社長 岩井豊治

關西財界の俊彥として、その才腕を顯はれる岩井氏は、東京府人木村徳兵衛氏の二男として明治二十三年十一月を以て生る。同四十五年塾望せられて岩井文助氏の養子となる。四十四年東京高等商業學校を卒業し、後事業界に身を投ず。資性温厚篤實にして夙起晩寢して業務に精勵し大いに天稟の手腕を發揮す。財界場裡を八方馳騁して獨創の業陣を張り、事業界に確固不拔の基礎を築くに至れり。當社々長たる外岩井商店、永田積機、關西ベイント、日本橋梁

徳山鐵板、大阪鐵板製造、大日本セルロイド
其他數多の役員として、その名聲赫々たるものあり。氏は至誠謹直たると共に寛容にして敦厚、衆に範たる長者の風格を具へ、社會公共の爲めに盡瘁し、また衆庶の指導啓蒙に意を注ぎて世人の景仰を受くること甚だ厚し。

(所在地 東京市豊島區高田南町三丁目)

事業家

山田吉太郎

長崎縣水産業界に於けるその功績頗る顯著にして、同縣業界に、今や水産王と迄激賞せられ、信望洵に隆々たる上に山田吉太郎氏あり。氏の斯界に對する奮闘努力は絶大なるものありて、同縣水産業發展に盡瘁する事恰も乳なき幼児を育成するに等しく、その苦心如何に至大なりしかは容易に想像爲し得る處ならん。

氏の如き活躍は獨り水産界に止らず、驥足を實業界方面にも伸ばし、縦横無盡に活躍し、天賦の才腕を揮ひて多大の事績を擧げつゝあり。即ち西彼電燈、道尾ラヂウム鑛泉、山田證券株式會社各取締役社長、山一モータース、鹿兒島モータース株式會社取締役、長崎合同運送株式會社相談役、名譽職としても長崎魚市場問屋組合總代、帝國水産會特別會

員、大日本水産會評議員、長崎水産會評議員、長崎縣山林會名譽會員、長崎市港灣調査委員、長崎商工會議所議員等々數多の重職に就きて活躍せり。氏の絶大なる精進振には何人も崇仰の念禁じ難く、その聲望まことに赫々たるものあり。

氏は昭和三年、御大典地方賜宴の光榮に浴し、記念章を下賜されたり。同六年大日本水産會總裁宮殿下より有功章を賜はる等、氏の



山田吉太郎氏

名譽愈々噴々として輝けり。

如斯、水産界は勿論、實業界に在りても功績頗る顯著なるものあり。氏又熱烈なる佛教信者にして昭和十二年釋尊生誕の地印度に渡りて各地を巡禮し、佛教の眞髓を體得して歸朝するや、直ちに雲仙國立公園内に、三百餘年の歴史ある古寺一條院再興の念發起し、自ら之が再建委員長として拾年計畫を以て此處にその壯舉の緒に就きたるは、我が佛教興隆の爲誠に慶賀に堪へざる處なり、現下未曾

有の非常時局に際會し思想國難の叫ばれる折柄之れが社會人心に裨益する處頗る大なるものある可し。

(住所 長崎市引地町一三)

帝國電力株式會社

函館支社

北海道開發に貢献すること偉大なる帝國電力は函館市、廳田郡、上磯郡、茅部郡、松前郡、山越郡等の本道南部各要地に營業網を敷き、電燈、電熱、電力、電車等の各種營業をなせり。その創立は明治三十九年一月にして當初渡島水電株式會社と稱し、一百万圓を以て資本金となす。幾多の變遷を経て昭和九年七月帝國電力と改稱、資本金を二千八百萬圓に増資す。當社は需要家の便益を圖り、料金の低廉その他サービスの改善に意を盡すに依り、需要は年と共に増加に向へり。當局者は本道第二次拓殖計畫に呼應して、其使命遂行に邁進せんとせるにより、今後の發展刮目せらる。最近の取付電燈數二十二萬燈、供給電力量一萬二千馬力に達す。又電車は市内及市外湯ノ川温泉へ通じ、函館市の交通上寄與せる所大なるものあり。近時函館市の人口増加に依り、今後大いに收益増加を見ん。當社最近の成績を見るに利益率は毎期一割二三分を

擧げ、九年下期以來引續き八分配當を實行し來れり。取締役會長として當社を總攬するが本邦電力界の香宿穴水熊雄氏にして、敏腕の間へ高き石津龍輔氏事務の椅子にあり。本社を東京に置き、支社を函館に設くれども、その本據の函館にあるは云ふを俟たず。

函館支社支配人 谷田部平治郎

氏は函館支社支配人として當社の事業を實際的に處理しその才腕を以て名聲赫々たり。明治十六年七月茨城縣に生れ、茨城中學を経て上海東亞同文書院に學び、卒業後日本郵船、日清汽船等に勤め、支那各地に於て活躍せり。當時支那に相次いで革命起り戰亂頻發せしが、氏は自己の立場を利用して各方面より情報を蒐集し之を帝國陸海軍に送り國益に寄與すること多し。尙ほ戰禍の襲來する毎に上海、漢口等の居留民安全を計る爲めに、自ら死地に入りて活動する等幾多の隠れたる功績あり。大正初年大隈内閣の當時二十一ヶ條問題より日支關係險惡となり、引上命令發せられ邦人陸續として退去するにも拘らず、氏は頑として踏止まりて活躍す。大正九年歸朝して早川電力に入り、大正十二年斯界の香宿大日本電力に轉じ旭川倉庫主任として就任し、次で北見野付半事務所長、釧路事務所長に累進し更に帶廣事務所長となりて十勝一圓の供給に當り

て頗る手腕を示し、茲に於て簡拔せられて旭川事務所營業主任となる。氏愈々職務に精勵し東奔西走して努力奮闘寧日なく、拮据勉勵に努めしにより、その成績飛躍的に上進す。その才腕を認められて一昨年十月傍系たる當社函館支社支配人に拔擢せらる。氏は支那滞在に幾度か戰禍の中に身を投じ、生死の間を去來せし事屢次にして、從て常人と異りて磨練の如く、器局宏量、剛毅不屈の偉丈夫たり。淡然泊如、磊々落落、抱擁力大にして清濁併せ呑むの概ありて、部下の斡旋に努るを以て名あり。事業に熱心にして、機略縱橫、熱情熱誠の故腕を以て北海道事業界に名聲高し。

(所在地 函館市東雲町二二八)

醫學博士

佐多愛彦

一代の醫學野口英世出でて世界人類史上に偉大なる貢獻を殘したる我が醫學界の進歩は最早や世界の日本醫學として堂々覇を唱へたりと言ふべきなり。斯くして築かれたる貢獻は世界醫學殿堂に燦爛の一角を飾り得たるものとして、邦家萬代の爲欣快措く能はざる榮譽たるべし。斯くの如きは實に我が醫學人の挽まざる決死の研究と努力に依るものにして或は研究の犠牲に、或は治療の爲め人跡未踏

の山間避地に病を得て噎れたる幾多の尊き犠牲ありたるを追憶し、深甚なる感謝を拂はざるを得ざるなり。醫家に二種あり、一は直接患者に接して治療に當るを以て人類に貢獻するもの、一は飽くまで學術研究に没頭し、ひたすら病理探求の爲め闘ふ學徒なり、この二者相俟ちて合作されたる時、人類は救はれ、健康の幸福に醉ふを得るものにして、其の使命の遠大にして崇高なる之を他に求め得ざるならん。我が佐多醫學博士も亦人類平和の戰士として我が醫學界に重きをなし、關西に於ける斯界の第一人者たり。夙に大阪醫大研究所長として其の深遠の研究を以て盛名高く、身を以て醫學報國の實を擧げつつある我が刀圭界の巨人なり。鹿兒島縣士族佐多直正氏の令弟にして明治四年九月を以つて生れ、夙に東大醫科を卒業、同大學助手、市立富山病院を経て、同二十七年大阪府立醫學教授を拜命獨逸に留學、彼地に於ける醫術の深奥を究め同三十三年歸朝すると同時に醫學博士の學位を授與され、同年大阪府技師に任官同三十五年府立醫學校々長兼同校病院長に就任、尋で大阪醫科大學長となり、現時佐多醫學研究所長たり、その間昭和二年、フラトブルグ大學名譽評議員に擧げられ我が醫學界の爲めに萬丈の氣を吐きたり。

其の品性崇高にして濃厚篤實、圓熟せる人

格は信望を一身に集め、動もすれば同業相食み、嫉視反目する中にありて、常に推されて幾多の要位に就き、未だ曾て他の批判を受ず毀譽褒貶の聲を聞ざるなり、由來醫は仁術なり、世を代ふるも敢て渝る事あるべからず。而も今の世、往々にして其の本能を没却するもの尠からず、斯の如きは假令その術に於て卓越するとも、醫として生命を託すべきにあらず。是故に醫は其の學を修め術を學ぶと共に、その精神の修養に亦頗る重きを措かざるべからず、斯る中に在りて氏の如きは眞に醫人として好典型なり。氏に對して衷心忼慨たるざるはなき乎、現時躍進の途にある我が醫界に氏の如き名國手を有するは、國家の爲めに寔に誇たらずんばあらざるなり、繁劇なる業務の余閑を割きて公共事業に盡瘁し貢獻する所又多。趣味は讀書、園藝にして、後者深詣風に著聞す。

(住所 大阪市北區堂島北町一)

藤本蠶業株式會社

遠くとも一度は詣れ善光寺、救ひ給ふが彌陀の誓願、善光寺と共に蠶業地としての信州長野は餘りにも有名なり。然れども、蠶業王國信州も世界經濟恐慌の嵐には如何ともなし

難く過ぐる數年間不況のドン底に呻吟せざるを得ざりし處、近時我が國力の伸張と對外貿易の活況に拍車づけられ又々生氣と更生を取り戻し著しき發展を呈し「信州信濃はお意どころ！」の叫聲と共に新興の意氣は潑刺として訪れつゝあり。我が藤本蠶業株式會社は長野縣小縣郡鹽尻村鹽尻に在り、大正十三年四月、資本金十五萬圓、全額拂込済にて設立せられたるものにして、蠶種業界の第一人者として廣く信州一圓に亘る農家殖産工業を助成貢獻するところ甚大なり。創立以來幾多の經濟的影響を蒙りたるも、業礎益々鞏固にして着々進展を遂げ、現時蠶業王國長野を堂々リードし、錯錫的活躍と躍進を續けつゝあり、我が海外貿易の首位を占める斯業界の爲め萬丈の氣を吐くものとして期待するところ大なるものあり。東京出張所を本所東兩國に、土浦支店を茨城縣新治郡に設けて業績更に擴張され、我が國産業界の一員としての同社の存在は刮目して見るべきものあり。

社長 佐藤尾之七

當社は佐藤家一門を以て組織されたものにして、佐藤嘉三郎、同八郎右衛門、同平作の諸氏を取締役に、佐藤省吾、同博四郎兩氏を監査役に堂々の陣容を以て極めてなごやかなる社風と協力を自負したる理想會社と爲し、氏は社長として之を

主宰し、國家的使命達成の爲め、夙夜健闘を續けつゝあり。然も現時農村更生を叫ばるゝ折柄、氏の如き人材を以て農家新生への側面的助成事業に専念されつゝあるは誠に有意義にして、國家の爲め慶福措く能はざるところなり。資性極めて濃厚にして廉直方正、人格高邁にして頭腦明敏たり。而も天稟潑刺機を見るに敏、卓動緻密の資質に富み、赤心誠意を以て奮闘努力、初志を貫徹せざれば止まざるの活動家なり、手腕家なり、従つて業界を問はず、縣下大衆の信望殊に高く、身を以て農村更生運動に盡瘁しつゝあるは當代稀に見る國士肌の人傑なりと言ふべきなり。

(所在地 長野縣小縣郡鹽尻村鹽尻)

株式 神奈川縣農工銀行

農工債券を發行し、神奈川縣下金融界に貢獻すること四十年に餘り、全國農工銀行の白眉冠冕にして卓然と斯界を抜く古來的存在たり。

當行は過ぐる明治三十一年五月、縣當局並に縣下有力者發起の下に資本金四十萬圓を以て創立せられ、同四十三年下期倍額増資を行ひて八十萬圓と爲し、越えて大正二年下期に一百萬圓、同六年上期二百萬圓と増資し、更

に同十一年下期四百萬圓に倍額増資し以て今日に至る、現に縣下に支店十三箇所、代理店二箇所を設置す。創立以來堅實なる經營は逐期異常の好成績を挙げ、近年三十萬圓臺の純益金を挙げ、餘裕ある八分配當を恒例として行ひ今や聲價昭々たり。

而して昭和十二年下期決算に於て、純益金三十八萬五千餘圓を挙げ、株主配當は八分を踏襲す。當期は頗る緊迫せる國際情勢に順應して極めて多事多難の推移を示し、遂に支那事變の勃發となり、舉國戰時氣分の横溢を觀るに至れり。しかし經濟界には大なる衝動もなく、金融界は短期方面は多少引締り傾向を呈せるが、政府の緩和策は効を奏し次で臨時資金調整法の實施を見たるが左したる影響なく唯長期資金のみ遂に引緩みを見るに至らざりしも金融は極めて緩慢裡に當期を了せり。諸物價は懸念する程の騰勢を示さず、唯米穀を始め新炭類の騰貴に依り、農山村經濟は幾分好況を示現せり。併し不動産の移動は警戒氣分も手傳ひて前期に比し稍々不振の傾向を呈せり。この間當行は資金の豊富なるを以て四分三厘付農工債券三百萬圓の繰上げ償還を行ひ、同時に之れが乗換を勧誘する目的を以て、四分利付新農工債券一百萬圓を發行し、應募額過八十萬圓の好成績を挙げ、債券利息負擔の軽減に専處す。一方貸付方面に於ては

資金の需要依然として不振にて貸付金額は前期末に比し約百萬圓の減額を見るに至れり。而して當期中貸付金の回収は頗る順調にして貸付金總高の減少せるに不拘利息収入は却つて増收を來し、餘裕金豊富なりし關係上割引其他の運用収入も増加し、一方支出に於ても債券利息支拂の著しく軽減されたる等の關係よりして、諸税に於ても時節柄急激の増加を來したるに不拘、各種償却を行ひ、尙ほ且つ差引純益金に於て前期に比し増額を示すに至れり。

因に錚々たる重役陣を見れば、取締役頭取早川茂一 取締役田邊徳五郎 同金子角之助 同中島兼吉 同鴨田清俊 同草柳正治 監査役飯田助夫 同萩原博 同小鹽堅二

取締役頭取 早川茂一 蘊蓄の該博經濟的才幹を噴噴さるゝこと久しく、縣下實業界に於ける特異を誇る顯賢たり。明治十六年神奈川縣人早川耕藏翁の長子として平塚市に呱呱の聲を擧ぐ。元來早川家は縣下に於ける素封家にして其家名冷閑す。氏は長ずるに違んで學を早大に修め、政治科を優秀の成績を以て卒ふ。操縦界に入りて日本新聞記者たりし事あり。後ち當行に入り當に常務取締役たりしが、現職に推されて今日に至る。現に帝國火災保險取締役、商工會議所議員に推選され、

橫濱土地協會常任理事に就任する他、縣下實業界の爲めに盡瘁しつゝあり。

(所在地 橫濱市中區櫻木町一ノ一)

南洋廳

我が南進生命線たる南洋群島は、小笠原諸島の遙か南方赤道以北の太平洋中に星散甚布する舊獨逸領諸島にして、彼の世界大戰の際大正三年十月我が海軍が占領し、大正十年我が國の委任統治となりし地域なり。

東經百三十度より百七十五度、北緯零度より二十二度及び、其の抱擁する海面は東西二千七百哩、南北一千三百哩に亘り、六百有餘の島嶼より成れる、陸地は概ね面積狭小にして其の最大島に於て三百七十餘方呎に過ぎず、總面積二千餘方呎(東京府の面積に匹敵)の火山岩は珊瑚礁によりなれる不規則なる環状を描き、海中より姿を現したる一大群島にして、氣温は一年を通じ、變化なく熱帯圈内にあるを以て一般に焦土酷熱の地を想像するも、群島特有の驟雨と海風とにより寧ろ内地の盛夏より凌ぎ易き程なり。

南洋廳は即ち之れ等諸群島の統治行政府にして大正十一年四月一日を以てパラオ諸島コロル島に開設せられ、島民の物質的及精神

的福祉並社會的進歩を極力増進し、一視同仁の世界に誇る我が皇道を以てし、國際規約の如何に關せず、島民の福祉安寧の爲め飛躍的治績を収め、大正三年我が占領以來既に二十幾星霜、其間幾多の障礙を貫き、教育に、産業に、衛生に、其の他諸般の施設と文化の開發にあらゆる努力を傾倒したる結果、爾來業績著々として擧がり、獨逸領有の十六年、西班牙施政四百年の歴史に比し全く驚異的發展充實を遂ぐるに至りたり。

同應の機構は南洋廳官制の定むる所なるも同官制は大正十一年三月勅令を以て公有せられ、後數次の改正を見、現行官制に依れば南洋廳に南洋廳長官を置き、拓務大臣の指揮監督を受け長官官房の外、内務、拓殖の二部に分ち夫々部長を置き、長官官房には秘書、文書の二課、内務部には地方、財務、警務、土木の四課、拓殖部には農林、商工、水産、交通の四課を置き、事務官警視、技師又は屬を以て、夫々其の長に充任し、又群島須要の地に支廳及支廳出張所を置き戸籍、救恤、警察、衛生、徴稅、教育、産業、土木、港灣等他の特殊官署の權限に屬せざる一切の行政事務を掌理せしめ、其の他實業學校、小學校、公學校、土木徒弟養成所、熱帯産業研究所、醫院郵便局、觀測所、法院等を必要の地に設置して夫々特殊の事務に當らしめつゝあり。斯く

して今や隆々の發展を招來せる同群島は、日に月に文化の惠風に平和と希望の生氣は全島に漲り、邦人の居住進出は目覺しく、占有當初僅かに數十名に過ぎざりし邦人數は逐年増進して現在五萬を越え、堂々島民五萬を凌駕し、事業に於ては南洋興發會社の製糖事業を初め、昭和十一年には南洋拓殖會社の創立せられるに至り、産業投資の膨脹は擴大せられ年産一千萬圓を超える盛況を呈するに至り、水産業の如きは實に躍目すべきものあり。又帝國内地との航路も一時に開け堂々五六千噸の優秀船を配して、交通網を確立せられるに至り、同島今後の飛躍は軍事的に産業的にも正に帝國南方生命線たるの重要性は益々重且大なるものとなれり、斯くして南洋廳は從來國庫より補充金を受け、歳出に充てたりしは昔日にして去る昭和七年より全然補充金を受けざる獨立會計となり、愈々茲に財政の獨立を見るに至りたるは邦家の爲、欣快に堪えざる處にして、現時國際政局の暗雲低迷する秋に更に一段の飛躍こそ望ましかれ。

長官 北島謙次郎 從來南洋長官の職は中央官吏の最後の奉公職として、稍ともすれば考朽停年の人をして當らしめたる憾みありたれども、現時我が南進政策と同群島の重要性に鑑み、前途有爲なる明敏手腕の大人物を

充てるに至りたり。即ち我が北島長官の如きは其の尤なるものにして、氏の手腕力量は既に定評あるところなり。氏の行政治績の偉大なるは、今日の同群島繁榮を見るに明かなるところならん。氏は佐賀縣土族北島憲治氏の長男にして明治二十六年十月を以て生れ、大正六年東京帝大政治科を卒業し、大藏省銀行局員、福島稅務署長を経て内閣拓殖局書記官、拓務書記官、大臣官房文書課長、管理局第一課長、殖産局長等に歴任し、昭和十一年現職に勤任せられたるものなり。曩に歐米各國に出張、佛國よりコンマンドール・レ・チヨンドール勳章を贈られ現に從四位勳三等たり。人格識見共に備はり、その政治的手腕は、中央の認めるところにして、氏の將來は正に洋洋たるものありとす。家庭には父憲治氏、養母タミ刀自共に健在にして、女子學習院出身の貞子夫人との間に、長男淳男君、三男敏君、長女美智子嬢あり、令妹ユキノ女は佐賀縣江口胤俊氏三男胤秀氏に嫁せり。

(所在地 南洋群島パラオ諸島コロール島)
(出張事務所 拓務省 内)

足立銀次郎

日本司法書士會聯合會理事
氏は京都府天田郡上豊村石場に於て明治二

十三年三月二十一日足立八十平氏の長男として出生す。資質濃厚にして才氣煥發、一面人格圓滑常識に富み、人に接するに寛如才なく、業務に熱心なることは「趣味即業務」の遊奉者として知る人ぞ知る。氏は二十三歳の若冠にして司法書士會に入り、苦學力行遂に輝々たる今日の地位を築きあげたる立志傳中に入る可き士なり。過ぐる司法書士法改正に際しては、直ちに同志と糾合上し、心裡一點の私心無く、大局に着目して贊、衆兩議員其他關係知名人士と堂々會談し、其目的達成に、寢食を忘るゝ態の献身的努力を爲せしは、斯界人の未だ記憶の新たなる處、其他斯界刷新の爲には常に身を賭しての活躍に専心すること枚擧に遑なく、その功績は著大なり。

宜なる哉、氏は衆望を擔つて遂に京都地方裁判所々屬司法書士會々長並に日本司法書士會聯合會副理事に推舉され、氏の面目河に躍如たるものあり。今や京都司法書士會に於ける至寶的存在として推重され、日夜奮闘多忙を極めつゝあり。氏の將來こそは期して俟つべきものあり。

圓滿の家庭には淑徳の譽れ高きアイ子夫人との間に一男好一郎君あり。君は父君のよき性格を享けて篤實にして朝氣縱横、その將來を矚目される青年にして、曩に滋賀縣蒲生郡金田村の素封家木本重太郎氏の長女照子嬢を

娶り琴瑟相和せり。而して日曜日、祭日等には一家舉つて趣味と爲せるピクニックに和氣霽々として山紫水明の近郊に行を爲す等、一家の團樂は近隣の羨望の的となれり。因に母堂みね刀自は桑梓の地たる上豊村に於いて賢婦人と謳はれ郷間婦女の總鑑として近村にも令名を馳せり。

(住所 京都市中京區竹屋町富小路西入ル 菊屋町)

宮崎電器製作所

電燈、電力、電熱、電話等々我々現代人より電氣を排除したるならば、我々の日常生活は再び原始の世界に戻ると云ふも過言に非ざる程、電氣の我々の生活に於ける存在は絶對價值のものにして、將た亦國家興隆の一大根幹と謂ふべきなり。

我が宮崎電器製作所は大正十一年の創業にして、其の電氣配線器具のメーカーとして又耐熱電氣絶緣物のモルダールとして、専ら製品の優良、確實を以て斯界に雄名を馳せ、而も製品の化學的に、電氣的に克く機械的試験及研究設備の完璧と使用材料の選擇乃至製品検査の改良に一新紀元を劃したる努力を傾注我が國電器工業界の爲萬丈の氣を吐きたるは

正に斯業界の麒麟兒を以て稱讃さるべきものなり。

今や一般業界の活況の波に乗り、總て純國産品を以て堂々進出し、本邦需要の大量を供給し、海外市場への進出を遂げつゝあるは非常時に直面せる現今國家的に慶賀措く能はざるところの盛觀と云ふべきなり。而も昭和十



宮崎電器製作所の全景

年邁 信省 年に 於之 縮規 則を 發布 せら 逸ち 早く 製造 認可 及型式承認を申請、同所製品の優良且つ獨創味を天下に再認識せしめたり。個人經營を以て克く斯界の第一線に伍して隆々たる盛業を以て躍進しつゝあるは、蓋し讚嘆すべきなり。

所主宮崎茂三氏は幼少の頃より秀でたる頭腦の所有者にして、夙に事業界立身を志し、日夜健闘努力、その商才と才力と腹は克く今日の業績を収むるに至りたるものにして、關西財界に於ける氏の信望は絶大にしてその颯爽たる存在は一段の飛躍を期待されつゝあり。

責任濃厚篤實にして、情誼に厚く、部下多數の従業員より慈父の如く尊仰さる、又氏は夙に國家奉公の念厚く、曩に軍用大を陸軍に航納して表彰されたることあり、其の愛大家としての存在は餘りにも有名なり。

(所在地 大阪市東淀川區三國町七〇一)

余語彌一

余語氏は中京砂利製産組合長、中京相互運搬組合顧問等に推されて、中京事業界に赫耀たる名譽あり。明治二十二年七月二十八日愛知縣東春日井郡後岡村に於て、余語嘉助氏の三男として生る。幼にして大志あり、奮勃たる野望を制するを得ず、大正六年一旗擧げんことを志して敢然渡支す。上海の地に上陸し乍浦路四六四號に於て余語料理店を開業し、力を盡くして業務に精勵せしかば遂時多大の好評を呼び、頗る昌榮を呈して、業績大いに見

るべきものありき、されど大望ある氏は之を以て満足する能はず、虎視眈々その機に至るを狙へり。大正十一年に及び勵志を伸張すべき時機遂に到来す。即ち有志と相圖りて東方製氷株式會社を創立、社長に鈴木重孝氏を推して氏は専務取締役に就任、決然製氷事業に進出す。氏は同社の發展の爲めに渾身の努力を傾けて日夜奔走し、席の温まる迄なく、その努力次第に現はれて、日に月に業績向上し社礎は大いに強化されるに至れり。斯くして名望高まり上海財界に於て大いに頭角を現はせり。然るに昭和七年上海事變の直後、餘儀なき事情に依り歸國することとなり、後任専務として木村正司氏を推挙す。越島巢南枝の念禁じ難く名古屋に居を定め、同業者の爲めに専ら特産盡力に努め、宏量豪膽の士にして、好んで人の世話をなし、氏を徳として慕ふ者多し。反面又頗る風雅なる趣味ありて、囃碁に通じ蝸牛庵拙齋と號して生花、茶道等に堪能たり。政子夫人は鈴木庄三郎氏の二女にして、家庭には二男一女ありて頗る圓滿なり。

(住所 名古屋市昭和區永金町一〇一七)

ラサ工業株式會社

南方の開発は南進日本の據點を確固不拔の

ものとす、帝國の最も緊要事たるは言を俟たず。殊に現下の國際情勢に於て痛感せらるものあり。この意味に於てラサ工業株式會社の存在は輝ける南進日本の最前線に點火されし炬火にして、羅針盤なり。昭和九年三月懸案を一舉に解決せし當社は現所に工場の組織を改善し、ラサ島の原石山を活躍せしめて大進展を敢行す。爾來大阪工場の運河改修、ラサ島に於ける設備を實に依り能率の増進及び經營の合理化を圖り之を實踐す。當社の事業は肥料及工業藥品其他各種化學製品の製造販賣、鑛業並に開鑿事業、船舶の所有又は運輸業各種重工業及輕工業にして化學藥品會社たると共に鑛業會社なり。而して前記營業目的に於て見る如く其大部分は近代科學戰の素材となるべきものにして、我軍需工業中に於ても最も非常的價値高きものあり。

南方生命線に燈されたる産業躍進日本の前戰の燈火は端なくも非常時日本に缺くべからざる化學藥品の源泉たりと謂ふ奇縁に結ばれたるラサ工業こそは、眞に非常時日本の龍兒と稱し得べし。而して當社の寶庫はラサ島並に田老の原鑛山にして前者よりは燐鑛石を後者よりは硫化鐵を産す。昭和十二年四月より同年九月末に及ぶ當社の營業概況を見るに燐鑛石は當期に入り船腹不足運賃昂騰益々著しく輸入難の折柄時局に依る爲替管理強化によ

り一層外國品輸入著減を豫想せられ市況強調なりき。硫化鐵に就きては硫安、人絹類其他化學工業用硫酸の需要増加せるも、原料鑛石の供給は不足、從て硫黃値段は七月以降約二割餘の値上りを見たり。銅貨は當期中平均一、二六圓餘を維持したるが、内地需要不足なるにも不拘、米銅「ストック」増加のため期末軟調を呈するに至れり。過磷酸は前期來市況引續き強調にして、需要増加に加へ、燐鑛石の昂騰は一層値段を引締め活況を呈せり。此間に於て生産販賣に善處し、概ね所期の成果を納め得たり。硫酸、鹼粉等は順調に經過し期初強かりし奇性青連鹽酸等は時局の影響を反映し稍低調を示せるも、全般的には好調裡に當期を了したり。尙大阪工場の化成肥料工場に就いては、其需要は益々一般的に増加せるを以て、之が製造設備を更に完備し、粒狀化成肥料として聲價を博しつゝあり。研磨材(ラサンダム、エメラサンド)等の需要は軍需工業の活躍に依り著しく増加せるを以て、目下製造装置擴張中なり。田老鑛山起業中の機核選鑛場、第二案道、第二宮古鑛石貯藏庫等の第二期建設工事は完成し、操業順調を辿り居れり。殊に機核選鑛場は優秀なる成績を収め引續き更に第二期機核選鑛場を建設せんとし其他第三案道、従業員住宅増設等諸設備の建設進行中なり。一方坑内状況も採鑛坑道間警

掘進につれ、鑛況更に良好となり、目下採掘準備坑道内及坑井の増延開鑿を急ぎ、銳意内容の充實と増産を圖りつゝあり。猶米人技師エム・チエー・エルシング氏外二名の米人技師を招聘し、經濟的採掘法により本邦鑛業界に一新紀元を劃すべく着手中なり。

尙は當社の昭和十三年三月末決算に於ける總益金は八百二十九萬一千圓、利益金二百十九萬二千圓を計上し、之を處分するに法定積立金七萬五千圓、特別積立金十二萬圓、役員賞與金五萬六千圓、株主配當金八十八萬一千圓(年一割二分留置)、後期繰越金三十六萬二千圓と餘裕綽々たるものあり。尙七月一日を期して未拂込金一株當り十二圓五十錢を徴收すると共に、資本金二千五百萬圓の倍額増資を斷行するに至れり。斯くて當社の前途は將に北冥の鯨化して鵬となり、正に碧漢を冲するの概ありと云ふべきなり。

貝島炭礦株式會社

九州炭礦界に鞏固たる地盤を占め、我國炭業界に富嶽の如くに屹立せる貝島炭礦は、明治三十一年に創立せられ、現時資本金三千萬圓(内拂込額二千二百五十萬圓)にして、貝島同族の出資經營の下に飛躍的發展をなしつつあり。抑も當社の聲譽をなせるは明治七、

八年の頃故貝島太助翁炭礦の開採に着手せしに始まる。次で同十七年大之浦炭礦を入手して飛躍の端緒を開き、次いで菅平田、満之浦大辻その他の礦區を買収し、岩屋炭礦を買収して三十一年資本金二百萬圓の貝島礦業合名會社を創立せり。四十二年には二百五十萬圓に増資して株式組織となし、大正八年には一千萬圓に増資し、他に貝島合名、貝島商業、大辻岩屋炭礦各社を創始して貝島家の炭礦事業は茲に一大飛躍を遂ぐるに至り。兩來財界に波瀾曲折ありたれども當社は順調なる發展をなし、昭和六年八月には貝島礦業は貝島商業並に大辻岩屋炭礦を合併して貝島炭礦と改稱して、現在見るが如き大發展を遂ぐるに至り。當社は現在大之浦、満之浦、大辻、高江、岩屋、東松島の諸礦區あり。大之浦炭は筑豊一等炭として好評を博し、汽船燃料、工場汽機用、鐵道汽機専用として賞用せられ、内外各地に廣く需要せらる。満之浦炭は鐵炭製造、瓦斯原料炭に最適にして全國主要瓦斯會社に使用せられ、最近に於ては歐洲航路汽船燃料に供せらる。大辻炭、高江炭は火力強く、塊炭は硝子工業、窯業等に用られ、煉房用、家庭用としても賞用さる。岩屋炭は唐津一等炭として知られ、海陸汽機燃料、硝子工業、窯業用炭として他の追隨を許さず、帝國海軍より第二種炭の指定を受く。同社の採

炭及び送炭設備は頗る整備し、採掘機構は高度に機械化され、數多の大小船隻を有し、若松、戸畑、大阪、川崎に廣大なる貯炭場と最新式の石炭積卸機械を設置して、その大規模の施設は業界にその比を見ず。近時の事業界の活況に依りて、その需要大いに激増し、相次いで供給の増加をなせるも、増大する需要に應じきれず、社業頗る盛況を呈して多大の好成績を挙げ、貝島炭礦の名は炭界を風靡せり。當社重役は社長貝島太市、取締役玉井磨輔、同山口平平次、同草場義夫、同井上達五郎、同黒部貞夫、同末次好太郎、同坪内正吉、同今野原郎、監査役山英一、同西端領次郎、同貝島義之の諸氏なり。

社長 貝島太市

九州の炭礦王として中央財界に聲望高き貝島氏は、資性温恭謹厚にして周匝高敏、賦稟の才腕あり。心性甚だ峻潔にして教養高く、品性典雅の好紳士として衆庶の尊崇を受くること頗る深し。氏は明治十三年十一月貝島太助翁の三男として生る。三十九年東京高等商業を卒業して三井物産に入り、歐米各國を視察して歸朝の後當社長に就任せり。識見高邁にして蘊蓄該博、我財界一方の偉材たり。貝島合名代表社員、若松榮港、貝島化學工業監査役等を兼ね。(所在地 下關市唐戸町)

大日本除虫菊株式會社

當社は我が國に於ける除虫菊業界の獨裁的霸王にして、其の雄名は海外にまで「ウエヤマ」の除虫菊を以て知られり。大正八年四月除虫菊其他天産物輸出、蚊取線香及薄荷を販賣目的として資本金百五十萬圓（内拂込額六十萬圓）を以て設立せられたるものなるも、其の創業沿革は最も古く、現社長上山勘太郎氏の嚴父英一郎氏に始り、氏は日本に於ける除虫菊の元祖として、除虫菊の時代的需價を識るや、率先して、和歌山縣下有田郡に於て之が栽培製造を開始せしに、需要は急速度に加はり、而も多量の海外輸出に成功、事業は時代の要求の波に拍車づけられ爾來堅實主義に終始して、着々と業礎を固め、更に全力を以て漸次事業の擴張を行ひたれば、同一家族は數年にして一躍百萬の利を占むるに至りたり。

而して、當社は親族一統を以て組織され社長上山勘太郎氏、常務取締役上山英一郎氏同上山英夫氏、監査役岸高藏氏、同山口孫一氏和衷協力になる真に圓滿堅實なる一大家族會社にして、特異の營業政策は社風となり一般社員も又上山イズムの統制下にあり、絢爛た

る勞資協調の善風を範示しつゝあり。今や紐育、旭川に支店を、東京、北海道野付牛に出張所を設置し、紀州、尾崎に工場を有して躍進を續け、我が國斯業界のキャプテンング・ポストを把握したるのみならず、世界の上山として馳名は全世界を風靡し、其の飛躍的發展振りは實に旭日昇天の勢を示し、正に潑刺たるものあり。

社長 上山勘太郎

氏は明治二十三年を以て我が除虫菊の創始者たる和歌山縣上山英一郎氏の長男として生れ、先代勘太郎氏の養子となり、前名笑之助を改め襲名して偉業を繼ぎ今日に至りたるものにして、夙に東京高等商業學校を卒業したり。現に當社長として颯爽たる存在を示す外、大日本藥業、箕島倉庫、東京金鳥販賣、關西金鳥販賣各社長、南海水力電氣、岸和田煉瓦綿業、上山殖産、白濱温泉土地各監査役たる傍ら大阪商工會議所議員、大阪バルカン近東輸出組合理事長、大阪輸出協會理事として關西財界に重きをなせり、資性剛毅剛直にして濃厚篤實、而も人情にもろく常に社會公事に念を致し、斯業に盡瘁したる德行は教學に暇なし。頭腦明晰にして判断力の正確は周く萬人稱讚の的にして、然も大物、小物たるを問はず相手に充分の腹藝を打つ妙腕は政治家として一家をなすとい

合名會社 小林織染工業所

ふも過言に非ず、當代稀に見る俊材なり。賢婦人の譽高ききみ子夫人との間に、綾子、富美子、美恵子の三嬢あり、和氣霽々たる模範的家庭なり。(所在地 大阪市西區土佐堀通三ノ二九)

秩父銘仙の産地として全國に著名なる秩父地方に於て、染織事業を營みて技術の優秀を以て名を博し、事業大いに隆盛を極むるが小林織染工業所とす。近年事業大いに躍進して最近に追ひ設備擴張を告ぐるに至りしに依り新工場を建設せり。新工場は敷地九百坪に上り、工場、住宅四百坪に達し建築總費用數萬圓を投ぜり。新工場は代表社員小林貞次郎氏多年の経験に基づきて設計せられしものなるが故に、設備には最も合理的に能率的に配慮せられたり。即ち、ボイラーの据付に擦染機の配置に或はその他の施設に於て能率増進に重點を置きて設備せらる。多年研究を重ねて改善に改善を加へたるに依り、その設備頗る優秀にして、技術の卓抜なることは、同業者の追従を許さざる所たり。秩父織物の品質を向上せしむるに絶大なる貢獻あり。現在五十有餘人の職工を使用し、一ヶ年の扱高は十數

萬反を計上す。秩父地方切つての有數染織工場として名あり。業績好調を辿り操業大いに繁忙を呈して、日に日に發展の一途を行く。蓋し當工場の前途こそ刮目するに足らん。

代表社員 小林貞次郎

氏は丹波篠山の産にして同地豊鳴義塾にて學び後熱ゆるが如き功名心を抱きて郷關を出づ。京都に於いて染織業を經營せる叔父の許に暫時足を留め、その間に染織を以て身を立つべく決心し、京都染織學校に入る。卒業後一時染織業に従事しつゝありしが、二十三歳の時獨立して工場を經營す。勤儉力行、刻苦奮闘して創業後二三年の後には數萬の富を積むまでに發展をなせり。氏はこれに甘んぜず自己の遠大なる抱負を實現せんとして、事業の發展に腐心努力を爲すと共に、寢食を忘れて技術の研鑽にも意を盡くせり。然るに歐洲大戰直後の經濟恐慌の襲來に依り、氏は非常なる打撃を蒙りて工場閉鎖を爲すの餘儀なきに至り、若年の氏はこれが爲め失意絶望に陥りしも、驕然大悟し一切を整理し終りて、捲土重來密そかに再起の機會到來を待ちしが、氏の不撓不屈の意志熾烈たる氣魄はこの間に於て練磨育成せられせり。氏の發明せる機械はまことに優れ、技術亦秀抜にして注文殺到し、相次いで設備

の擴張をなし遂には四百餘人の従業員を擁する大工場となり、事業隆盛を極めて將來の大實業家たる主として約束せられたり。然るに適々氏の恩人たる某氏の破産に遭遇するや、氏は敢然之が救済に乗り出して運命を共にし再度没落の悲運に陥りたり。これより先氏が發明せる捺染機を秩父に設置したる人ありしもこれが操作の法を知らず、切に氏の指導を乞ふ。茲に於て固辭するを得ず、昭和元年秩父に來る。當時秩父の捺染事業は技術的に頗る遅れたるものありしが、熱心にこれが改革と向上に助力して、同地捺染業の發展に至大なる貢獻をなし、秩父織物の品質向上に資せる所測り知れざるものあり。氏は性來眞摯誠實にして直情徑行たり。氏の直言同地の人の容る所とならず、その人物又誤解せられ、四面楚歌の中に措かれたることありき。然るに氏は聊かも屈せず、信する所に邁進し、その意見は次第に實現せられて多大の功績を挙げ、遂には同地方人より絶大の尊敬を以て迎へられるに至り。氏天資高邁にして豪膽、誠實にして卒直、事を爲すに勤勉努力、人に接すに温情を以てし、仁俠の士にして人格清廉たり。趣味に能樂、雅樂、詩曲あり。現在加工組合組長に推されて秩父機業界の爲めに盡瘁する所多し。明治廿八年十二月を以て生る。

文化の程度を測るのバロメーターとも謂ふべき化粧品、洗滌料、洗髪料の消費量は、世の進運に伴ひ、益々増大し來れると共に、之れが製造販賣業者も驚くべき増加率を示現し、盛衰消長常ならざる中に、當社は多年斯業界發展の爲に鍊骨碎身所有る近代科學を對象として研鑽に挺身する斯界の古豪的存在にして、今や帝都の中樞丸之内街に世界三大の一たる「レイト美容院」を完成し、「レイト」の名は全國津々浦々に喧傳さるゝのみならず、遠く海外にその名を馳するに至り。元來當社は現社長平尾贊平氏が、遠逝個人經營を以て開基せる業界の老舗にして、創業以來、凡ゆる化粧品の上進に寄與し、逐年堅實なる發展を達成し來れるが、大正七年十二月に造んで、時運に順應し、全經營一切を擧げて株式會社に革め、以來順調なる業績を擧げて以て今日に至れるものなり。而して其間當社は昭和四年、即ち我が經濟界不況の眞底に在りし時、同業他社に率先して經營の合理化を斷行し、經濟部門に於ては仕入、生産、販賣、宣傳、廣告の各組織を根本的に革新強化せるは勿論、大阪工場を合理化して之を東京工場に

レイト化粧品本館
株式 平尾贊平商店

併合せしめ、大阪支店の根幹事務は悉く東京本社に移管して、完全なる統制合理化の實を擧げ、一方經營執行機關を單一化して、代表經營者絶對中心主義とする所謂統制經營を敢行せり。即ち經營計畫を設定する者、經營計畫を經營全線に亘りて實行する者、經營計畫を統制代表する者の三者を同一人にて執行するの意味なり。此體制に依りて始めて經濟市場の急テンポの變化動向に處し、活殺自在の手腕を發揮して、時流即應の對策を講じ得たり。而して當社の特色はこの代表者經營者と社内一同とが恰も兩輪の如く協力一致、相互苦樂を頌ち一心一體となり、眞摯敬虔なる事業精神を以て、經營者中心の大家族主義統制經營の完備を期すると共に、更に百尺竿頭一步を進めて之を當社販賣市場關係、即ち全國海外其他遠隔各地を包含する廣汎なる一大レイト市族の家族的統制經營を實行するを得、遂に今日の興隆を爲すに至り。當社最近の業況を大觀するに、其資本金は一百八萬二千圓（全額拂込済）にして、昭和十二年九月末現在決算に於ける總収入は二百七十六萬四千餘圓にして、總支出は二百五十五萬五千餘圓差引二十萬九千圓の利益金を擧げたり。之れが拂込資本金に對する利益率は、實に四割強に相當し、前期に比し一割の向上に當れるが當期は時局に鑑み、配當は依然六分を据置き

後期に五萬八千七百餘圓を繰越し、餘裕輝々の決算を了したり。當期利益金二十萬九千圓は前期利益金に對比して十萬圓の大増益なるが之は主として製品値段を引上げたるに拘らず消化良好の結果なり。即ち當社製品が如何に優秀無双たるかを立證するものなり。因に當社長平尾贊平氏の美事善行枚舉に遑あらざるも、去る四月末當社創業六十周年を記念して學術研究の資として金一萬圓を文部省に献金せり。（文部當局は之を東大工學部應用化學科の研究資金に充當）之れを以て氏の操履の一斑を想見するに足らん歟。

專務取締役 板倉安兵衛

我國化粧品業界の惑星的存在にして、レイトの統帥者として赫々たる名聲を馳するのみならず、斯界進展に貢獻するところ亦多大なり。氏は所謂將に將たるの器材を備へ、智機縱横、平尾社長に代りて一社の統轄に當りて大刷新を敢行し、新感覺漲溢の現經營機構を完成し、以て當社今日の覇業を樹立せしめたる當社の重石たり。明治十九年二月、先代板倉安兵衛氏の長子として、東京府に生誕す。後ち家督相続を爲すと共に、前名隆太郎を改め譽名す。長じて東京高商に學び、同四十二年之を卒業、更に同校専攻科に入り同四十四年卒業後、十五銀行に入り、大正八年日本興業

銀行に轉じ、日本橋支店支配人たりしが、幾許もなく之を辭す。昭和四年に至りて、レイト化粧品本館株式會社平尾贊平商店に入り、爾後斯業界に先鞭を付けて同社の大刷新を斷行、忽然として其手腕を顯揚し以て今日及び其將來を囑望されつゝあり。

事業家
山根鐵藏

防長財界の重鎮山根鐵藏氏は、家業の酒醬油の醸造業を營む傍ら、社會各方面に才腕を揮ひその類材多大の推服を受くる所なり。剛毅果斷にして先見の明ある氏は明治十四年に生れ、夙に上京して大成中學に學ぶ。適々日露戰役の勃發するに及び歸國して軍需に身を投ず。その戦功に依り勳七等瑞寶章を賜り、賜金百五十圓を下賜せらる。除隊後家業の醸造業に携り、傍ら地方自治の爲めに盡瘁、大正六年四月、棒村々會議員となり、次で同年六月所得稅調査委員に當選、同八年四月、防長米同業組合委員。同年十二月、阿武郡酒造組合長に就任。同年同月、阿武郡會議員に當選。同十二年四月、山口縣會議員に當選せり。昭和三年十一月十六日、御大典に際し地方鑿鑿の光榮に有し、同五年五月、家



山根鐵藏氏

金融界の前途を憂ふる事又切なるものありて此處に持株全部を、藤田銀行に譲渡し、實權を同銀行に移したる爲彼の關東大震災後に於ける財界大動搖に當り、地方財界金融界の影響甚大なるものあるにも不拘、同地方は微動だもすることなかりしは、偏に氏の功績にして同地方民の多大なる感謝を受け、今猶其の徳を思ふる處なり。大正十四年十月には、時

一の大事に着手せし時、氏率先之れが折衝の任に當り、中外、山陽、宇部の三會社買収に成功し、同時に發電、防府電兩社買収に着手せざるも不幸協調整はず、荏苒推移中偶々發電供給区域内に於ける料金値下に端を發し、本邦未曾有の電燈争議勃發し、同地方暗黒世界化して拾有る日に互り遂に治安問題を惹起し縣當局之れが調停に乗出したると雖、問題は益々深刻化したるを以て、此處に兩社買収の喫緊なるを痛感敢然氏之れが奮に當り買収に盡瘁遂に縣當局をして買収せしめ、初期の目的を貫徹せるは、氏の手腕盡力絶大と云ふ可し。今や百萬縣民此の恩澤に浴する事多大にして、氏の功績を賞讃せざる者なし。氏は酒造業を営むと雖始んど家業を省みずして、公共事業に専念し、樺信用組合を組織されしが、組合長となりて、三十年の長期間善く重職を果たし、其の他小作調停委員、相続税審査委員等の名譽職、小野田セメント製造監査役に推選さるゝ等身邊頗る繁忙を極めり。

(住所 山口縣萩市椿町)

八王子織物同業組合副組合長

中村幸四郎

氏は八王子織物同業組合副組合長として、八王子地方機業家の爲めに寄與貢獻し、その

信望まことに著しきものあり。中村幸三郎氏の長男として明治十四年五月を以て生る。郷費を出るや直ちに山梨縣立織染學校に學び、同校卒業と共に家業に従事せり。由來當家は婦人物の織物製造を業とす。氏は頭腦緻密にして研究心に富み幾多の新考案を爲して大いにその天分を發揮せり。後に至り現八王子織物同業組合長塚本三藏氏と相圖り、柄ノ會なるものを創立し、業界の爲めに盡瘁せり。氏は婦人物の織物研究並にこれが製造は自己に與へられたる天職となし専心これに没頭す。氏の織物業に對する熱烈なる研鑽とその考案の斬新にして生彩豊なると、他業界の發展の爲めにする献身的活動とに依り、同業者の指導的地位に就き、推されて八王子織物同業組合副組合長となる。同地方業界に盡せし功績は遍く人の認むる所たり。資性濃厚にして質實、謙虚にして誠直。豊かなる才能に恵まれ織物業に關しては藪著まことに深淵なり。先考幸三郎氏は養蠶並に織物の熱心なる研究家にして之が爲めに産を蕩盡し、八王子機業家に致せる功績多大なるものありて、今も尙ほその德行は人の稱へる所たり。先覺者の後に當主幸四郎氏の如き傑物あるは偶然ならずといふべし。家庭にはハツ夫人との間に一女ありて、和氣霽々四隣羨望の的とさる。

(住所 東京府八王子市元本郷町)

東京シャリング株式会社

東京シャリング株式会社は過ぐる大正十五年九月、淺野造船所(現鶴見製鐵造船)の采配に依り設立し、鐵鋼材切斷、伸鐵、ボンヂング並に鐵鋼材販賣を目的とす。創立當初資本金三十萬圓なりしが、淺野家の實着堅實主義を懐ひて、爾來遂時好調を辿り現に資本金百五十萬圓内拂込百萬圓を擁し、斯業界の精銳と爲れり。而して當社の近業(昭和十二年下期)を見るに、前期末に於ける一時的沈滞の我が鋼材界は七月に入り、支那事變の勃發を契機として商狀一轉し、爰に俄然奔騰氣勢を見せたるも、統制經濟機構の強化法令實施に伴ひ、日鐵中心に新たに設立の各種共販組合の鋼材市價抑制策と相俟ち、他面市場亦自重自製の實を擧げたれば、懸念せられたる大波瀾もなく、漸騰氣配を含みながら、穩健裡に當期を終れり。當社は斯く環境、即ち戰時體制下に在りて能く材料の入手に銳意努力し運營上寸毫の支障もなく、豫期の成績を擧げたるは意を強ふするに足るべし。當社の總資産は實に五百三十八萬九千餘圓にして、同期の利益金は四十四萬五千八百餘圓を計上し、内固定資産償却に五萬圓、税金引當に十五萬

圓を當て差引純益金二十四萬五千八百餘圓を得、之を處分するに諸積立金十萬圓、株主配當金十萬圓(普通配當年一割、特別配當年一割)役員賞與金二萬四千圓とし、後期に六萬一千餘圓を繰越し好成績を収めたり。

而して當業界は依然戰時體制下に在りて、原料部門の統制、最高統制機關の設置、配給機關の改善等あり。他方生産力の擴充問題あり、需給緩和策として配給統制の強化、消費の統制等に問題山積の状態に在るも、當社は老練なる手腕を以て必ずや善處好調を續くと必然と思料す。

因に當社現役員は左の如し。代表取締役社長淺野義夫 常務取締役市原伊三郎 取締役富田三之助 大村正篤 末兼要 齋藤四郎 監査役井上長太夫 清宮嶽壽 相談役河野良三の諸氏なり。

常務取締役 市原伊三郎 京都府市原伊右衛門氏の四男、大正三年淺野石材會社に入りて才腕を揮ひ、同六年淺野造船會社(現鶴見製鐵造船會社)に轉じ、庶務課長兼事を經て、昭和五年支配人に榮進し、曩に當社常務取締役に推さる。所謂淺野家股肱の臣たり。資質濃厚にして才氣煥發、殊に事業的才腕に秀で、其將來を囑望さる。

(所在地 東京市京橋區新島西町三丁目)

浦和第一尋常小學校

抑々教育の重大なるは言を俟たざるところにして、其の及ばすところ直ちに國家の消長をも左右するものあり、殊に國民教育の根幹を爲す小學教育は我が第二國民養成の鍵を握るものとして其優秀直ちに國家興亡の素因たるのみならず、精神的に於ては、人間一生の礎軸を掌握するものとして、其の責務洵に重且つ大なるものありと言ふべきなり。文化の中心、東京を背後に控えたる、我が埼玉縣は農業、機業の地として知られたるところにして又小學教育の普及を以ても、全國有数の縣と言ふべきなり。我が浦和第一小學校は浦和市に在り、其の校舍設備の完備せる縣下に首位を占めるものにして殊に衛生設備の如きは優秀校醫を擁し、醫藥設備と共に縣下唯一の稱あり。而して教育状態も何れも優秀なる教職員指導よろしきを得て好成绩を収め逐年上級學校へ多數の入學者を續出せしめて縣下に於ける模範小學校として令名風に高し。本校は人格識見共に卓越したる主任校長竹内正雄氏の統制訓育方針を以て、一には忠良なる國民養成、二つには圓滿なる人格培養を主眼として着々教育の成果を収め、今や竹内校長を

中心に職員生徒は渾然一體となり、善風を作興し、浦和第一小學校の名を全縣下に宣揚しつゝあり。

校長 竹内正雄 氏は浦和第一小學校首席訓導より榮轉校長となりたる人にして、

卒業後一意小學教育に畢生を捧げ、今日に及びたるものなり。天資篤實にして熱直、人格頗る玲瓏圓滿、而も寛厚にして能く人を容るる大器あり、又一面社交にも長じ名校長としての手腕躍如たり。常に國家的信念に燃え、責任感殊に旺盛にして、夜中と雖も屢々校舎を見廻ることあり。以て氏の如何に熱情眞摯なるを窺知し得べし。職員、生徒を見ること我が子の如く、職員、生徒も氏を慈父の如く敬仰し、従つて縣當局の信任又厚く、現時奏任を以て遇せられ、氏の將來は瞞目すべきものあり。

(所在地 埼玉縣浦和市)

金井トラペラー製造所員

四ツ井基之

金井トラペラー製造所名古屋出張所長として元氣澄朗、才氣煥發、少壯氣銳の敏腕家として、中部地方事業界にその名を轟るゝが四

ツ井氏なり。卓犖豪放にして、器局宏量の士たり。如何なる難關にも屈せず勇往邁進し、強毅の堅心は不撓不屈の目的を貫徹せしむるに止まずの迫力を有せり。才智慧敏、機略縱横、機に臨み變に應じてよく事態に適應しその智囊盡くるなし。思慮周密にして、明斷果敢、事を決するやまことに敏速なり。神壽の鬼策に賦禀の才腕は事業活動に披群の功を収めて、業界にその存在畏敬の的とせらる。他面寡慾恬淡、情誼に厚くして、好んで人の爲めに盡くす等、頗る義氣に富む士なり。人格清白高朗、心中に一點の邪氣をも止めず、常識又圓満にして、禮儀正しく、態度頗る謙虚たり。寡言にして語らずと雖も胸中に見識を蓄へ、折に觸れ行動を以てその機鋒を示せり。人物、才腕、識見業に秀ぐれて、その人格は世人の仰慕措かざる所。氏は兵庫縣西宮市に於て四ツ井米太郎氏の長男として、明治三十二年四月九日を以て誕生す。幼少より俊秀にして學を好み、郷費を終ふるや大西簿記學校に學ぶ。卒業後金井トラペラー製作所に入り、汝々營々としてその事に當り、眞摯業務の各般に亘りて研鑽し、大いに實績を擧ぐ。その努力と手腕に依り同製作所の爲めに貢献する所大にして、樞要の地位に登用せられ、中堅人物として重きをなすに至れり。同製作所は年と共に躍進をなし、昭和五年に及

びて名古屋出張所を開設して、中部地方に進出せしが、首腦部は少壯敏腕の氏に着眼して、名古屋出張所主任に起用す。氏は赴任するや拮据砥礪粉骨碎身、全力を盡くして活躍し、俊敏なる智能を驅使して巧に商機をとらへ、よく成功を獲得せり。斯くて名古屋出張所は年と共に發展をなし、商況隆々として盛大に向ひ、名古屋事業界に大いに名を成すに至れり。これによりて金井トラペラー製作所の業績に寄與する所絶大にして將來同所を率ひて立つ材幹として多大の期待をかけらる。金井トラペラー製作所は、兵庫縣尼崎市大物町二丁目にありて、我が鐵工業界の一方の旗手たる金井壽太郎氏の經營に拘り、その目的とせるは紡績機械、トラペラー製造販賣にあり。これ等の製品は従來三井物産に依りて輸入せられたる外國品が我市場を獨占し、一ヶ年の輸入總額は一時八百萬圓に達せしことありたり。金井氏苦心努力の結果同製品の製作に參着するに及び、其の品質の優秀なるを以て大いに歡迎せられ、漸次外國品を驅逐して遂には殆んど我市場より跡を絶つに至りたり。

近代社會の進歩と共に、電燈に電力に或は電信に電話に都部を問はず、現代人の生活に必要缺くべからざるものとなりて、文運の興隆に一大寄與をなしつつあるが、之と共に電線の需要は歴年多大の著増を見つゝあり。當社は電線の製造販賣を業となしその製品の優秀なるは夙に斯界に定評のある所にして、牢固として揺がざるの地盤を築き、業運の躍進まことに顯然たるものあり。その創立は大正十二年七月のことにして、創業以來順調なる發展を遂げ、現時資本金二十萬圓（内拂込資本金十四萬七千五百圓）たり。當社は常に設備の改善充實に力を盡くすと共に、従業員を奮勵して技術の研鑽に専念せしめつつあるに依り、その製品の卓絶せるは夙に斯界に名聲ある所にして、需要は日を逐ひて激増し來り、事業の擴張相次ぎ、操業又頗る繁忙を呈して多大の盛況を極めつゝあり。毎期多額の利益金を計上し株主に對しては高率の配當をなせり。時局關係に依る事業界の活況よりして、製品需要は今後愈々増大するの筋合にありて當社の前途まことに洋々たるものあり。重役に社長谷口直之、取締役寺町東馬、同谷

太陽電線株式會社

口直次、同増田憲造、監査役山中福之助諸氏。

取締役社長 谷口直之 氏は氣格俊邁にして、心性清高を以て業界に多大の聲望ありて、財界場裡を八方馳驅して披群の手腕を揮ひ近時その名聲まことに赫耀たるものあり。夙に奈良中學校を卒業して後事業界に入りしが、大正十二年當社を創立し、兩來經營の重責に任ず、眞摯業務に砥勵して當社今日の發展を齎らせり。資性溫雅謙厚、人格清廉潔白たると共に襟度廣く、内に優雅温厚の情を含む好紳士として世人の欽仰を受くること甚だ厚し。現に大阪商工會議所議員に選出せられ同市商工業の發展の爲めに奔走して貢献する所多く、その信望噴然たるものなり。氏は明治十六年十二月奈良縣に生る。氏(所在地 大阪市淀川區大和田)

日本毛織名古屋工場事務課長 田村千代二

現時日本毛織名古屋工場事務課長の要椅にある田村千代二氏は、徳島縣の素封家として著名なる田村忠次郎氏の四男に生れ、徳島縣立富岡中學校四年修了の上、第四高等學校を経て京都帝大法科へ入學して昭和二年之を卒業す。直ちに日本毛織株式會社に入社し、

岐阜工場に勤務せしが、その勤務の精勤なるを認められて本社に轉勤を命ぜらる。後ち間もなく拔擢せられて姫路工場庶務主任となり昭和八年には名古屋工場に榮轉し、同時に事務課長に昇進して今日に至る。氏は頭腦綿密にして事務的手腕に富み、その爲す所周到細密水も洩すことなく而も職務にはまことに熱心にして責任觀念強、細事と雖も疎にせず



田村千代二氏

熱誠以てこれに當り貢献する所多し。人物温厚にして眞摯、部下を受すること厚く、公平無私を以てこれに臨む。上下の信用厚くその將來を嚆望せられること甚だ大なり。富子夫人は徳島縣森鹿雄氏の二女にして、明治四十五年に生れ、徳島縣立高女出身の才媛にて、賢夫人の聞え高く家庭頗る春風駘蕩たり。因に氏の兄弟姉妹の諸氏は何れも社會的に相當の地位にありて家名を揚げ、世間の羨望の的

とさる。長兄隆一氏は早大高等師範部出身にして徳島縣立美馬高女の教頭として多大の尊敬を集む。長姉光恵女は奈良女高師出身にて前代議士野野村太郎氏に嫁せり。次兄省七氏は上海東亞同文書院を出で、現に京都市水道局庶務課長の椅子にあり、三兄頭吉氏は金澤醫大を出で郷里に於て醫院を開業、その他の令弟妹の諸氏又何れもそれ／＼知名の會社に勤め、或は相當の家に嫁づく等、家門大いに繁榮せり。(住所 名古屋市中區岩塚町)

埼玉粕壁中學校

教育は經國の大業にして、皇道の宣揚は之に依りて求む可く、國運の隆昌は之に據りて期すべきなり。茲に建國の大精神に基き、他日國家社會に有爲の人物を養成す可く、德育智育而して體育の三大綱領を以て教育方針となす埼玉縣立粕壁中學校は、創立以來歴代校長を始め、教職員に人材多數を擁し、常に文教報國の大勳を擧げて、一致献身、克く學生の指導訓育に當れる處、既に幾多有能の逸材を輩出し、教育の成果昭々として擧がれる縣下屈指の模範中學校なり。抑も當校は環境靜閑にして大氣清澄、而かも交通至便なるま學

好適地に學舎を構え、創立當初は其の規模施設より完備せざりしも、爾來星霜を閱すること幾春秋、其間時代の變遷、文化の進展に伴ひて着々諸施設の整備を圖り、今や各學級普通教室及び特別教室を始め、講堂、運動場、武道場、其他附屬建築物等一切の設備整ひ、更に幾多教材資料完備せること間然する處なし。而かも校内實質剛健の氣風横溢し、當校生徒の意氣昂然たるや、時に過激穩當を缺きしことありと雖も、今や全く剛毅奮然として颯爽潑刺たる状態、正に青年日本の一翹微とも稱すべく、而して亦た優秀生徒の多きこと斷然他校に比を見ざるものあり。

蓋し、當地方隨一の名學園として逐年入學志望者増加し、學燈煌々たるも當然と云ふべきならん。

校長 淺見喜平 氏は當縣人淺見彌平氏の五男、明治十三年八月三日を以て縣下飯能在に呱呱の聲を擧げ、夙に頭腦明晰にして才氣煥發、其の前途を囑望されしこと多大なりき。

斯くて長ずるに及び、將來教育家たらんと決然意を固め、廣島高等師範學校に入りて勤勉研學、克く師道把握して卒業後、大阪夕陽丘高等女學校に教鞭を執りて、斯界に第一歩を印せり。爾來銳意研鑽、只管自己修養を



前 壁 中 學 校

専らざると共に、常に育英報國の丹心を披瀝しつゝ、忠實眞摯なる態度に一貫し、故々として教へ、淳々として訓し、名利を遺はず、富貴を求めず、専心天職に身を傾倒せる處、稀に見る模範的の教諭としてその聲名を誦はるゝこと久しきものあり。即ち、其の後高

知縣立 第三中 學校教 諭、文 部省囑 託、東 京府立 第一高 等女學 校教諭 埼玉縣 視學等 に歷任 し、各 地の教育界に獻替すること甚大、斯くて昭和十二年四月、校風刷新の重責を擔ひて現職に就くや、盡瘁奔走、克く赤誠を吐露して努力し遂に大任を完うしたる偉材の士、爾來日猶ほ淺しと雖も、全校生徒の絶大なる尊敬追慕を贏ち得、更に教職員は勿論、一般父兄の信賴欽望の的たり。而かも資性敦厚篤實にして、亦た

謹嚴端正、其の崇高廉潔なる人格と深遠該博なる學殖は相俟ち、學德隆々として當縣斯界に冷きものあり。宜なる哉、從五位勳五等を賜はり稀に見る名校長として令名噴々たり。

(所在地 埼玉縣 蕨 町)

西田英夫

太平洋海上火災保險株式會社名古屋支店長 西田英夫氏は、至誠熱直の士にして卓効の才華を以て重用せられ、累次拔擢の後、遂に同社支店長の職に推さる。

氏は、明治三十六年六月、奈良市の素封家西田房之助氏の長男に生る、後奈良郡山中學校に學びしも、家事上の都合に依りて大阪府に移住し、次で今宮中學に轉じ、同校を卒業し、直ちに大阪高等商業に入學す。卒業後、京都帝國大學經濟學部に學び、優秀の成績を以て同大學を卒業せり。學志を出づるや太平洋海上火災保險大阪本社に勤務し、爾來業務に勉勵して、能く社内の信望を擔ふに至れり。猶ほ氏の祖父は、奈良市に在住せるの時、我が國古寺として、有名なる興福寺の五重塔を買収し、之れを更に同寺に寄附し、以て興福寺の財政難を救助したる義俠家として世人の崇敬厚かりしと云ふ。

氏、人と爲り謙遜温恭にして恰惻、經綸の才、先見の明、常に時流を抜き思慮頗る周密典型の好紳士たり、又名古屋市に於ける大和會員たり。氏の將來まことに洋々たるものありて、今後の活躍こそ大いに刮目すべきものあり。

喜志子夫人(二十六才)は京都市、小西辨次郎氏の四女にして、市立第二高女出身の才媛たり、琴瑟頗る相和して家庭頗る圓滿たり。長男忠弘君(四才)、三男元彦君(一才)の二男あり。

(住所 名古屋市中區榮町四ノ二)

日本クロス工業株式會社

當社はブツクロス製造及び織物業再加工を營み、その製品の優秀なるは斯界の追従を許さず、斯業界に獨歩の地歩を築き、斯界の發展に貢獻せる所洵に多大なるものあり。ブツクロスは從來我國に於ては専ら輸入品の供給を仰ぎつゝありしが、當社の苦心研鑽なる製品の市場に出づるや、その品質の優良なるよりして忽ちして噴々たる聲價を博し、需要大いに著増して、輸入品は漸次市場より姿を没するに至れり。當社の製品は國定教科書及び中學校教科書を始め一般書籍、

帳簿に使用せられて多大の好評あり。更にトレーシングクロスも他社製品の比倫を許さず海軍工廠、民間造船所、鐵工所等に於て使用せられて絶讚を浴びつゝあり。又織物業再加工を營みつつあるが、これは主として人絹製ポプリン、縞子地並びに服裏地を取扱ひ、その卓越せる技術は夙に斯界に名ある所なり。當社は創業以來技術の研鑽、設備の改善に力を盡くし、輸入品に對抗して苦心慘愴經營に幾多の苦難を嘗め來りしが、上下戮力一致して社業に精勵したりしに依り、事業は歴年躍進し、輸入品を我市場より驅逐せしのみか、更に海外にまで進出し、本邦事業界の爲めに萬丈の氣を吐けり。即ち内地の各地は勿論、上海、濠洲、香港、南洋、シンガポール、フィリッピン、ジャバ、スマトラ方面にまで進出し國際貸借好轉に資する所尠しとせず。當社は大正八年八月の創立にして、現時資本金一百萬圓(拂込六十三萬五千圓)を擁す。而して昭和十二年下期には九萬二千圓の利益金を擧げ、一割配當を行へり。當社製品は斯界獨歩の逸品なるを以て、今後更に業績の好調を持續するは疑ひなき所たり。

專務取締役 **坂部 三次** 資性温恭謹恪にして眞摯熱誠、其處重なる人格と、高潔なる心情は業世の多大なる尊崇を受くる所たり。

古賀硝子製瓶所

現時非常時局は法的に社會組織を統制し、現状維持機構を打開し以て各種業者の國家的貢獻を促進せしめるの機運に向ひつゝあり。新規工場法は全面的之が促進に拍車をかけたるものなり。我が製瓶界も又經濟界好調の機運に乗り、全國斯業界の躍進的活動を見るに至れり。古賀製瓶所は北九州に於ける錚々たる斯業界の王座を占め逐年隆盛を極め、其の製法の完備と技術の優秀を誇れり。

代表社員 **古賀重次郎** 氏は明治十年二月小城郡津津町に生れたれども、當時氏の一家は貧困を極めたり。かくて辛苦を共に嘗めたる氏は一家再興を誓ひ硝子瓶製造工場の見習工となり、技術修得に寢食を忘る。幸ひ苦闘

の妻ありて、二十一歳の時小工場を創立したりと雖も、其の規模の弱少なるは論を俟たざる所。

然れ共、氏は克く力闘、自ら勞務に従事し、徒弟と共に晝夜兼行、業務に精勵したり。時たまノノ日露の戦雲漲り遂に開戦となるや、瓶の需要激増するも、當時同業者少かりし爲、氏の事業は正に追手に帆を揚げたるが如く、



古賀重次郎氏



古賀五郎氏

て偶然に非ず、彼々營々として晝夜の別なく八方馳驅し業務に對して眞摯、克く精勵奮闘したる賜にして、立志傳中の人と謂ふべし。

現在氏は家業を令弟五郎氏に委ねて、令息の成長を樂しみつゝ餘生を送りつゝあるも、夙に商工會議所議員一期、市會議員二期、現在家屋稅調査委員、土地賃賃價格調査委員、金錢貸借調停委員等に推戴され、其人格の潔白と共に業庶の信託を擔へり。尙令弟高次氏は目下中南支へ出征中なり。

古賀五郎

氏は重次郎氏の令弟にして、夙に明敏なる頭腦の所有者として聲望高く、昭和十二年十月、硝子工業者に組合組織の命を下るや、西日本同業者四十四名の初代理事長に推される。氏の手腕力量は既に定評あるところにして、一度是と信ぜんか、何處までも男性的に押し切る太つ腹は實業家としてのみならず、多分に政治家として一家を爲す。内に在りては令兄重次郎氏と協力、専心一意家業繁榮を計り、日夜販路擴張に工場監督に奔走する一方、出ては商工會議所議員(三期)、市會議員(二期)として、縦横無盡に活躍、其の頭腦の明敏、舌端の雄辯は精力の絶倫と相俟つて將來の縣議、代議士たるは疑ふ餘地なく、氏の前途や正に洋々たるものあり。資性剛毅調達にして、而も温情に富む、其慧敏の洞察力は克く世相の推移を把握、善處して誤らず世の信望絶大なり。令息重雄君は目下九州醫專に在學中なり。

(所在地 久留米市梅満町)

株式ベニヤ商店

化學の進歩は單なる文化向上の側面的事實たるのみならず、今や凡ゆる事物の藝術的再生化に偉大なる力となれり。ベニヤ板は木材

を経済的に使用すると云ふ目的を以て生れ出たる科學製品にして、廢物を利用して化粧され再生されたる強力なる文化製品なり。然も其の強靱力は一割二分なりと謂はれ、價額も一割内外にて製産される一大美術品にして、近代生活に缺くべからざる存在たり。我がベニヤ商店は我が國斯業界の最高權威にして其の所産されたるベニヤ板は全國至るところ其の優秀美を以て進出、絶讃を博しつゝあり。同店製になる京都美術館のベニヤ板は科學材として價額七萬圓に及び、既に十年を経過したるも、儼然として今尙其の優秀美を誇り、又夙に名古屋博覽會に出品され、銀牌を獲得したるなり。我が國ベニヤ板界の最高峰を行くものとして、今や同店の存在は斯業界の王座を占め、隆々たる成果を遂げつゝあり。

社長山本末吉

氏は稀に見る謹嚴力行的士にして、事業も又國家社會に貢献するを以て目的としたる念願に生き「先づ國家の爲に働く」て主義は氏の信望をいやが上にも、高揚せしめつゝあり。現に早朝より町内の道路清掃を行ふ奇篤者として知られ、幾多の社會公共事業に、財を投げ出したるあり。其の人となり濃厚篤實にして、毫も高ぶるところなく、酒食を口にせざる典型的君子人なり。ふさ子夫人との間に民子、昌子、文尙、

谷口豊

勝子の令息令嬢あり。長女民子嬢は高松藩主松平家令の息成城氏に嫁し、英國輸出向ベニヤ貿易店を營みつゝあり。

(所在地 京都市右京區西院三藏町二〇)

織物事業に於て全國に冠絶する京都市にて染吳服加工を業となし、卓越せる技術を以て斯界に君臨せるが谷口氏其人とす。氏は明治時代に於ける京都陶磁器界の權威として、名聲響くれもなき谷口清山翁の嫡孫にして、幼少より預悟にして、祖考の血を受けて頗る藝術的天分に富む。十五歳の時に錦光山に於いて陶磁器の下繪及加工に従ひ、天眞の技術的才能を揮ひて人々を嘆服せしめたり。氏は將來陶磁器業の經營を志せしも、中途にして感ずる所ありて錦光山を辭し、吳服下繪並に加工の研究に轉向す。該方面に於ても逸ち早く天分を發揮し、十七歳にして獨立して、忽ち業界の視聽を呼び好評湧くが如し。氏は技術を練り想を凝らして更に精進し、奮勉砥勵して、その業に没頭し、他方又業界頗る活況を加ふるありて、染色吳服界に目覚しく躍進せり。身邊甚だ繁忙なるにも拘らず、その研究奮勉ゆるが如き氏は、京都陶磁器試験所夜學部

に通ひ、研究に盡瘁す。氏の努力に依りて吳服下繪並に加工の業大いに盛況に向ひて甚だ信用を博せり。間もなく徵兵適齡となりて検査を受けしに見事合格し野砲兵二十二聯隊に入營す。入營に依りて事業に一頓挫を來たし再起不能なるまでに痛手を受けしが、聊かも介意せず、終始軍務に精勵して、帝國軍人たるの本分を全うせり。滿期退營するに及び捲土重來の意氣を以て奮然として躍起し、類盛挽回に全力を傾注す。氏の熱誠猛烈たる奮闘に依りて事業の復興も次第にその緒に着くを得たり。二十五歳に至り時代の趨勢に乗じ染吳服加工業に邁進して多大の成功を収む。爾來變動常なき業界の波瀾もよくこれを切り抜け、氏の優秀なる技術と共に、その群抜なる手腕によりて、事業大いに繁榮し、遂に現時の如くに斯界に重きをなすこととなれり。京都の丸紅商店、安藤商店を始めとして、京阪地方一流の商店は擧げて氏との取引を開始せり。氏は明治三十六年十月に生れ、未だ白面の青年なれども、多數の同業者を率ひて斯界の發展の爲に縦横に活躍しつゝあり。氏は剛毅不屈、素志堅剛、如何なる難關にも屈することなき満々たる開志の持主たり、責任觀念強く、確固不動の信念を有し、個體不羈にして旺盛なる氣魄あり。情誼に厚く従業員より熱父の如くに慕はる。尙氏は眞に丸紅商

宇部窒素工業株式會社

創業僅々一ケ年後に八分配當を行ひ、爾後一割配當を踏襲する我が化學工業製品界の最高權威にして、既に原料自給に奔命して採礦に着手し、その將來性を畏怖するゝ斯業界の霸王たり。當社は昭和八年四月西日本の奇傑故渡邊祐策翁の發起に依り、資本金五百萬圓を以て生誕せる硫酸、硫酸、硝酸、アンモニア其他の化學工業品の製造を目的と爲せる新進氣鋭にして、同十年一倍半増資の一千二百五十萬圓と爲し、同十一年資本金一千二百五十萬圓の第二宇部窒素工業株式會社を設立し之を變態形式に依る合併を斷行して、資本金二千五百萬圓と、數年を出ずして健全なる資本膨脹を遂げ、以て今日の盛況を爲す。而して創業と同時に前社長故渡邊祐策翁は、直ちに依田專務並に大山技師の兩氏を渡歐せしめ基本的研究調査を行はしめ、歸朝後諸般の準備

(住所 京都市中京區二條下ル)

備を整へ、操業を開始せしめられたるなり。由來渡邊の事業は宇部財閥の異稱を有する事業界の鴻鵠にして、當社今日在るは、翁の献身的努力の芳果なり。殊に翁は沖ノ山炭礦を中心として宇部セメント其他各種事業を統轄して、沖之山炭を最も有利に消化し、縦斷的會社經營の範疇たらしめんと當社設立を企畫せるものと思はる。幾許もなく石炭水を原料とするフアウザー式合成法によりアンモニアを製造して硫酸アンモニアの製出に見事成功せる等も特筆すべし。而して創業以來、堅實經營に終始し、東洋高壓滿化と共にアウトサイダーとして有利に活躍し、毎期三四割臺の利益率を挙げ、配當一割の好成績を維持し、業界先覺を畏怖せしめ來り。

茲に昭和十二年十一月末締切即ち同年下期の近況を大體し、以て當社の偉貌にまみえんとす。同期初は支那事變の勃發に依る本邦經濟界の準戰時體制より戰時體制への移行の影響に、當業界にも更に肥料配給統制法等の發令を見るに至りし他、引續き第二部窒素工業の擴充(十萬トン)工場擴張工事其他に資金需要は不可避の情勢に、期初第一、第二新各々一株に付き十圓總額四百萬圓徴收を行ひし際はあり、當期成績に對する關心は相當深きものありしが、決算の結果は當期利益金百六十九萬圓にて前期より僅か十九萬七千圓

内外の減益にして、之が平均拂込資本に對する利益率も前期より三百四十六萬二千餘圓増加の一千五百三十三萬七千餘圓に對し、二割二分と、前期の三割一分に比して約一割の低下に當るが、叙上の如き環境下に於ける業績として實に堂々たるものと云ふべし。而して株主配當は一割を踏襲の外、固定資産償却も一百萬圓を行ひ、依然堅實なる處分振りを發揮したり。當社確安生産能力は第二部窒素工業の十萬トンを合して二十萬トンを目標と爲し、當期末増産工事も殆んど竣工、十三年春より本格的なる操業開始を見つゝあるが、十二年度の實生産高は約十五萬トンを見當にて、當期生産高も六萬トン内外の模様なり。尙販賣高は事變直後の影響並に季節關係等に前期より稍や劣り、當期製品及びストツクを合して五萬三千トン内外の成績と推量さる。市價も公定價格は當期間は最低三圓五十錢、最高三圓五十八錢と抑制されしが、實際は之れを上廻る情勢にて特に期央以後は原料硫化礦石炭、電力、勞賃等の値上に受託活況を呈せり。而して當社は原料たる石炭の低廉豊富なる供給の特殊關係に加へ、電力も一部自給發電装置を有する等採算上頗る有利にして、トシ當り利益三十圓と推して、少くも百五十萬圓程度ありし筈なり。殘餘十九萬圓は工業藥品方面の販賣益なるが、硝酸(日産十トン)

硝安(日産五トン)等の日本火藥への販賣を除き、其他のベンゾール、ソルベントナフサパラフィン等は、今後の業績に期待する所著大にして、殊に當社は近く石炭低溫乾留事業への積極化を意圖して居り、兼業なる工業藥品部門の當社業績に占むる重要性も漸次具體化しつゝあるは各方面より注視され居れり。之れを要するに當社は今後も事業の多角化並に原料の自給策として、事業擴張に積極的に進出すべく、朝鮮曠山開發の外、硫酸、硝酸兩工場の増設擴充を企圖しつゝあり。されば當社の前途は洵に洋々たるものあらん。

確固不動の布陣左の如し。取締役社長渡邊剛二 専務取締役依田明 常務取締役國吉省三 取締役高良宗七 同二神藏吉 同岡和同藤本繁雄 同村田美夫 同兼工務部長大山剛吉 監査役加藤亮吉 同金野藤衛 同宗像英一 同西村宇吉 相談役鮎川義介 合成部長島羽雄吉 確安課長原田幸之進 瓦斯課長藤田亮 庶務課長村田義一 經理課長水野數術營業課長西村禮治郎

(所在地 宇部市小串一九七八)

日本ホリドール販賣會社 取締役大阪支店長 勝間外次郎

健全にして明朗、甘美にして快適なる歌謡

は大家の絶唱措かざる所、更に藝術の香氣高き本格的歌曲は斯界一流の大家の吹込みになりて、設備の優秀なるより音聲真を傳へ、圓盤界の寵兒として江湖に湧くが如き好評あるが日本ホリドールなるが、勝間氏は日本ホリドール販賣株式會社取締役大阪支店長の要位に在りて、賦稟の快腕を發揮し、社業の伸張に寄與する所鮮少なからず、業界屈指の俊英として敬仰せらる。氏は明治三十四年二月勝間徳兵衛氏の四男として、滋賀縣大津市に於て出生し、學業を了ふるや事業界に於て勵志を張らずとして、昭和二年當社に入る。眞摯熱誠業務に全力を傾注し、才鋒を示して幾多の殊功を挙げ、頭才を囑目せられて儕輩を抜きて登用せられ、昭和八年に至りて現職に特拔せらる。氏は頭腦敏密にして犀利周匝、その事務的才能象に超脱し、而かも販路の開拓の爲めに東奔西走、拮据奮勉して努力奮闘を怠らず、業務日を送ひて躍進業績の向上に多大の貢献あり。資性温恭勤惰にして、明朗磊落、温情瀟々として流露し、後進の指導誘掖に力を盡くし、衆庶の深く悦服する所たり。

氏は斯界の情勢に精通し、その敏腕は斯界第一人者を以て目せられ、少壯氣銳の前途洋々たるものある實業家として推服せらる。氏は現時日本ホリドール蓄音器株式會社監査役を兼任し、音楽・スポーツ等を趣味となし、品

井村商店

性典雅にして洗練せられたる好紳士として崇敬せらる。因に貞子夫人は明治四十一年に生誕し、札幌高女出身の才色双絶の賢婦人にして、子女の教養に當りて内助の功多し。長男哲君、二男信君、長女陽子嬢の二男一女ありて、和氣家室に満ちて世人の羨視の的たり。(住所 兵庫縣武庫郡鳴尾村甲子園)

時局の重大化に伴ふ軍事費の膨脹よりして軍需工業多大の隆盛を呈したる所へ、支那事變の惹起するありて、鐵鋼需要は一段と増勢を加え、遂には品不足となりて事業界各方面に悲喜交々の異變惹起したるが、當井村商店は鐵鋼需要の旺盛よりして、近時商況多大の繁忙を見て瞭目すべき業務の飛躍は關西業界羨視の的たり。當店は鐵鋼材賣買を營みつゝ、あるが、經營の堅實にして業礎の鞏固なるを以て多大の信認を得て、曩に尼崎製鋼所の指定販賣店となり、近來特殊鋼に主力を注ぎ斯界の雄を以て稱せらる。當初合名會社にしてその資本金五十萬圓なりしが、昭和十一年六月合名會社村岡商店と合同し、更に株式會社に改組して資本金を一百萬圓に増加せり。當店の合名會社當時の代表社員なりしが井上長

太夫氏にして、又村岡商店は井上氏の令姉の夫君村岡大太郎氏代表社員として之を主宰し、兩氏姻戚關係にありたるが、兩店合同後兩氏共に第一線より退き、村岡大太郎氏の二男義雄氏社長として經營の衝に當り、尙ほ當店株主は村岡、井上兩家の一門並びに店員より成り、店內の統制一糸不紊、上下和氣瀟々として和衷戮力店運の躍進に邁進せり。社長村岡義雄氏は明治四十三年を以て生れ、夙に市岡商業學校を卒業し、直ちに家業に従事せしが、推されて當社長に就任す。資性温籍勤惰、頭腦敏密にして超凡の商才を具へ、快腕を揮ひて斯界にその頭才噴霧の的とせられたり。支那事變の勃發を見るや逸早く應召、直ちに北支に出征、輝々たる軍功を現せり。當店首腦部には練達堪能數多の俊魁網羅せられ、取締役井上長太夫氏は川合商店、村岡商店を歴勤せしが、大正七年獨立して鐵鋼材賣買を創始し、大阪シャヤリヤ、東京シャヤリヤを創立して才腕を揮ひ、牢固不拔の業陣を築きて事業界に名聲噴然たるものあり。同じく村岡大太郎氏は頭腦敏密にして才略に長じ、社會公共方面に貢献する所多く、氏の郷里佐賀に多額の寄附をなし、郷黨より絶大な尊信を受け居れり。爾餘の諸氏に於ても多年斯界を馳騁して材質敏密せられし斯界有数の老練の士にして、協力して經營に盡瘁

し、熱誠業務に執掌せるに依り、業績累期躍進し、毎期高率の配當をなすつゝあるが、昭和十三年上期の如き實に三配の配當をなせり。業礎確く取引堅實なるを以て信用絶大なり。

(所在地) 大阪市西區立賣堀北通四丁目

日本曹達株式会社

時局景氣に伴ふ事業界の活況に依りて、幾多新興事業間の相次いで露出しつゝあるなか、日曹コンツエルの進々しき擡頭こそ、その規模の大なると躍進の急激なることは他に類を見ざるものあり。抑も當社は電解曹達工業を中心として發展したるものなるが、更に化學工業會社に轉換し、遂に今日の發展を見たるものなり。その製品は曹達、酒粉、鹽化物、合成鹽酸、硫酸、電氣亞鉛、硫酸亞鉛、特殊鋼、金屬カドミウム、テトライト、エチレングリコール、其他化學藥品たり。大正九年二月の創立にして、數次増資の後現在資本金八千萬圓(拂込四千六百三十三萬圓)に上り、日曹コンツエルの主體として、業礎頗る確固たるものあり。日曹コンツエルは當社を始め九州曹達、日曹鐵業、日曹製鋼、日曹人絹バルブを中心とし、大小二十數社の

關係會社より成立し、化學工業を中心に、鋼業、製鋼、製作工業、纖維工業に及び、原料自給と製品の融通行はれ、經營上大なる利便あり。當社の工場は新潟縣二本木、黒井、會津、富山、高岡、東京にあり。その製品は前記の如くなるが、化學藥品並に特殊合金鐵は何れも近來昂騰し、非常なる好成績を挙げつゝあり。當社は業界中に於て、最も鹽素利用の進歩せる會社にして、曹達以外に多種の電氣化學藥品を製造し、その製品頗る優秀なるを以て著名なり。今日まで相次いで設備の擴張をなし來りしが、更にアルミニウムその他の新製品の製造をもなして頗る好成績を擧ぐ。毎期一割二分の高率配當を行へり。當社今後の躍進こそ、世人の多大の興味を以つて注目せる所たり。當社重役以下の如し。社長中野友禮、専務取締役野澤正周、常務取締役小長谷新太郎、同末廣幸次郎、常任監査役高橋眞男の諸氏當動東役として經營の第一線に立ちて才腕を揮へり。

(所在地) 東京市麹町區大手町二丁目

丸金金鋼株式会社

各種金鋼製品の製作販賣を爲して、その製品多大の讚辭を博し、斯業頗る殷盛を極めて

業界隨一と稱せられ、大阪事業界に近時大いに名譽揚れるが丸金金鋼株式会社なりとす。當社の創立は大正五年にして、創業以來既に二十有餘年の星霜を閉みし、業礎鞏固にして業績又頗る優秀、其信用牢固たるものあり。當社は創始以來設備の改善と技術の練磨に多大の苦心をなし、鋭意研鑽なして、數十件の新案特許權を有し、その製品の優秀なる所より一般需要者の好評噴然たるものあり。經營の合理化、技術の改良に依りて極力コストの低下を圖り、價格の低廉に努めつゝあるが、徒らに廉價に依りて品質粗悪の製品を提供するは當社の採らざる所にして、極力優良品の製作に意を注ぎ、改良に次ぐに改良を以てせるに依り、而も多年の経験と研究に依る當社の技術は他の比倫を許さざる所にして、絶對他の製品の追従なし能はざる優秀品たり。登録商標丸金印は優良金鋼製品の代名詞たるの感ありて、その低廉優秀の製品は一般需要家の争ひて購入なす所たり。その生産高に將た又その賣行に並ぶものなく、まさに斯界の覇者として活況を呈しつゝあるなり。その販路は全國各地より滿洲、支那方面にも及び、毎期多大の好成績を擧ぐ。當社の商標は滿洲國にも登録せられ、丸金印金鋼は滿洲國をも風靡せり。各種茶、米洗茶、茶碗籠、米洗棒、箸籠、茶籠し、把薬入、胡麻煎、豆煎、餅

網、パン焼、うどんてば、瓦斯火起し、文書籠蓋付、文書籠蓋なし等の各種金鋼製品を製作し、何れも數多の特徴を具備して實用新案の特許あり。各家庭より多大の讚辭を博し、その賣行何れも良好を極めり。尙ほ當社に於ては不老連鎖枕を製作せるが、同品は純白清爽なる小型磁器を特殊の連鎖方法を以て連結しその下に合金製スプリングを嵌め込み如何なる形の枕にても使用するを得。その使用は非常に簡單にして、その使用心地は全然磁器の硬痛感なく、而も磁器特有の冷さあるを以て氣分まことに爽快にして、快適に安眠をなすを得。頭腦の休養には寸時も離し得ざる特長あり。頭腦對血障害よりの耳鳴頭痛、目眩、逆上、腰痛、口熱、不眠症、神經衰弱症、高血壓症(動脈硬化症)中風等の罹病者に治病上絶對の効果を齎し、更に右諸病の豫防に功あり。されば毎日義務に携れる人或は諸官廳、會社、銀行等に於て緻密なる仕事に従事せる人に對しては頭腦に充分なる休養を與へ、翌日に於ては神氣爽快を覺え元氣發利として職務に當るを得るなり。尙ほ同器には「不老安眠芳香料」の發香装置を有しこの芳香料の環裝に依りて濃郁たる薰香枕邊に漂ひ、不知不識の間に安眠に導かれ、治病上に保健にその効果多大なり。「不老連鎖陶枕」は小型硬質磁器の連鎖結合せられたるも

のなれば、絶對に破損の憂なく、治療上、保健上にも前述の如き効果ありて、他品の比肩を許さざる所にして、一生使用し得て更に子々孫々の後までも傳ふるを得るなり。一度本品が世に公にせられるや、知名の學者或は名士より賞讃を受けつゝあり。尙ほ學童の爲めにB型學童用を發賣して好評を博せり。不老連鎖陶枕にはA型とB型ありて前者十圓、後者八圓にして、大阪市西淀川區姫島町一二五不老健康の會に於て一手發賣をなせり。

(所在地) 大阪市西淀川區姫島町一二五

株式 竹馬商店

本邦羊毛工業の躍進には、全世界の齊しく驚嘆せる所にして、金輸出再禁止後國爲替崩落の爲めに輸入品大いに割高となりたるに依り、羊毛工業一時に勃興して急速に輸入品を驅逐すると共に一躍して輸出産業として目覚しき進展をなし、世界市場は本邦毛織物多大の進出を見るに至れり。株式會社竹馬商店は毛織物卸商並に輸出を營み、業界屈指の大商店にして、その名聲響々たるものあり。當店は明治三十六年現社長竹馬三郎氏に依りて創始せられ、當初は個人經營なりしが、同

氏の眞摯なる努力と卓抜なる才腕を以て事業多大の發展に向ひ、歴年販路は擴大せられるに至りたるに依り、大正十五年六月之を株式會社に改組し、時代の進運に鑑みて經營組織に一大刷新を加へたり。斯くして事業は一段と躍進をなし、社礎愈々鞏固となり、業運隆々として勃興して業界に多大の信用を博するに至れり。昭和三年には日本毛織株式会社と特約を結びて、同社の製品を取扱ふこととなり、更に當時未だ幼稚なりし國産羅紗の改善に大いに力を傾し、品質の改善に努力して斯業の發展に貢献せる所多大なるものあり。又國産羅紗宣傳の爲めに「羊毛より洋服になるまで」と題する映畫を作製し、全國主要都市に於て之を公開し、國産羅紗愛用の運動を行ひて、業界より非常なる感謝を受く。昭和八年に至りては、帝國羅紗株式會社をして生絲補償法に依る滯留生絲を原料としてレイコンコートを製織せしめて發賣をなし利益を度外視せる、その犠牲的行爲は衆庶の嘆服措かざる所となれり。次いで昭和十一年當店主唱して八方奔走し、同業者の同意を得て東京に於て洋服青年修養會を組織し、全國洋服商の青年從業員を集めて一ヶ月間講習會を開き、技術の研修並に心身の鍛鍊を圖りて多大の効果を收めたるが、之に對しても當店は至大なる援助をなして全國洋服商より絶大なる謝辭を

受けた。以上の如くに當店は常に業界の發展の爲めに犠牲を惜しまず盡す。その貢獻せる所測り知れざるものありて、羅紗の竹馬として、その名聲全國に噴然たるものあり。卸商として業界に獨歩の地歩を築くと共に、毛織物の輸出に於ても華々しき活躍をなし、斯界の彩華として仰ぶがれる所なり。現時資本金二百萬圓（内拂込百五十萬圓）にして、毎期多大の好成績を擧げて一割五分の高率配當を行ひつゝあるが、將來の發展には更に期待すべきものあり。



氏 清 馬 竹

社長 竹馬準三郎 氏は兵庫縣人梶原彦三郎氏の三男として、明治七年一月を以て生る。後竹馬利兵衛氏の養子に迎へられて竹馬姓を稱することゝなれり。早くより毛織物業に携り、洋勤勉して奮闘し、群技の才腕を揮ひて業界に大いに名を成せり。氏は心性清純にして名利に超脱し、國家社會の爲めに寄

與せんことを念願となし、業界の爲めに奔走し、或は衆庶の指導に没頭して貢獻せること絶大にして、師父の如くに尊崇せらる。岡山製織、合同土地各社長、阪神國道自動車監査役に推されて事業界を馳騁し、又縣會議員、市會議員に選出せられて地方自治の爲めに奔走し、更に神戸商工會議所議員となりて神戸市商工業の發展に多大の功績ありて、氏の聲望赫々たるものあり。最近一切の公職を辭して専ら當社の經營に當り、傍ら後進の訓育に努めつゝあり。識見高邁にして雄渾なる氣魄を識し、俊秀の智能と清廉なる人格を具へ、まことに財界稀有の材器といふべし。

取調取調役 竹馬清作

氏は頭腦萬敏にして、才氣煥發の少壯實業家として神戸財界に多大の名聲あり。大正九年神戸高商を卒業し、直ちに太平洋海運會社に入る。後當店に入社して大いに敏腕を揮ひ、貢獻する所多く、累次榮進して現職に就く。曩に歐米に遊びて各方面を調査研究して海外事情に精通せり。業務に對しては頗る勤惰にしてその資性又甚だ温恭たり。温情に富みて部下を愛すること深く、内外に多大の信望あり。夙に神戸商工會議所議員に推され、岡山製織、鹽崎商會その他數社の重役に列し財界に重きをなせり。富山縣人吉田丹兵衛氏の二男として明治卅二年

に生れ大正十四年竹馬家の養子に迎へらる。
(所在地 神戸市神戸區元町三丁目)

太陽生命名古屋支社長 加藤高茂

太陽生命保險名古屋支社長、加藤高茂氏は明治二十三年七月を以て生る。名古屋市の加藤鈴松氏の養嗣子として迎へられ、爾來加藤性を稱せり。愛知一中を経て、早稻田大學法科を卒業す。學志を出づるや愛知銀行に勤務せしが、大正十二年、一年志願兵として、第三師團に入隊し主計少尉に任官し正八位に叙せられ除隊す。同十五年太陽生命保險名古屋支社に就職し、孜孜として職務に精勵せり。由來太陽生命は明治二十六年の創立にして名古屋生命と稱し、同三十八年に太陽と改稱し大正十四年に及んで新潟縣西縣家一門の買収する處となりて今日に至る。

氏當社に勤務するや、業務に對して頗る熱心にして恪勤精勵す。大いに支社内の信望を得て遂に本社に榮轉の好運に恵まる。本社在勤二十餘年各方面の業務に執掌し研鑽餘念なく遂に新業に精通するに及び將來重要地位を約束せられ廣島、岡崎地方に派遣せられ、四國支社長に拔擢せらる。次いで昭和九年一月太陽生命の發祥の地たる名古屋支社長として

名 産 家 大田民藏

榮轉し、越へて昭和十一年一月、遂に同支社長に榮進し、同社中京探題たる重要地位に坐し、此處に名聲を博するに至る。保險界の角逐亦熾烈を極め、各社競ひて新機軸發見に腐心し、他社を倒して自己の優位を確立せんとなし、寸時の油斷もならず、誠に難事の營業なるが、氏は奇才を揮ひ、堂々是れに伍し眞摯熱腸を以て部下を督勵し、多大の成績を獲得しつゝ今日に至れり。



氏 茂 高 藤 加

氏の人と爲り潤達明朗、頭腦亦明敏にして剛毅果斷に富める氣鋭の士たり、氏は頗る野球を好み、曩に早大在學中野球部選手として渡米す。現にオール名古屋野球俱樂部總監督として、我野球界に偉名を馳せ盡す處又多大なり。明朗なる家庭には乙女母堂を始め、才媛を誕はるゝ明子夫人との間に道江、玲子の二嬢あり。春風胎蕩たるを以て近隣に羨視せらる。

(住所 名古屋市東區主税町三ノ五)

由來、中央政界或は事業界に活躍せる士はその功績手腕の如何を問はず、名聲顯著なるものあるに反し、地方に於ては手腕に拔んで功績大なるものあるにも拘らず世上に認められざるを常とす。大田民藏氏は地方の功業者にしてその功業多大にして終始一貫地方發展の爲盡力せるは、その業績の雄辯に之れを實證せる處なり。

明治六年三月、山口縣阿武郡山田村に産聲を擧げ、壯齡に達するや、日清の役に出征、越へて日露、北清の兩役にも出征し、拔群の戦功を顯はせり。後推されて在郷軍人分會長となる。是れ氏の社會的活動の第一歩にして次いで同村々長、同農會長等に歴任して名聲愈々重きを加ふるに至りたり。大正拾二年山田村の萩町合併に盡力し同時に、一切の公職を辭し閑地に就かんとせしが、世人之れを許さず、氏の出馬を乞ふて罷まず、遂に萩町々會議員に選出せらる。曩に萩町市制施行に當りては、市會議員に當選し、引續き議員としての重責を全せしが、昭和十一年七月には、滿場一致の推薦を以て同市々會議長に推立せらる。由來長州萩は、我が明治維新發祥の地

とも云ふ可く幾多の英傑を生めるを以て著名なり。即ち、吉田松蔭、伊藤博文、木戸孝允等々歴史の偉傑輩出し、一般に早くより政治的知識の發達著しきものありき。氏は斯る事情を察知して、八方馳驅して地方自治の發展に盡瘁し、堂々地方政界に、王者の如く君臨し、確固たる基礎を築くに至りたるは、氏の卓抜なる手腕を示せるのみならず精勵苦勞の賜といふべきなり。

氏の地方開發の熱意たるや烈々たるものありて、常に之れが爲めに献身的に活躍せり。即ち先づ山田信用組合を組織し、自ら組合長となり同組合を中心として同地方民を説得、千町歩に餘る山林に植林の事業を完成し、地方將來の經濟基礎を強固にし、他面、漁業發展にも留意怠りなく、同地在來の消極的の近海漁業を一變せしめて遠洋漁業へと進出し、魚船六十有餘隻を有する一大水産事業を達成し今や其の年産額七十萬圓に餘るの盛況を呈するに至り、氏の功績誠に絶大なり。同地方民の氏に寄する信認まことに深く、聲望隆々たるものあるも、氏、何等誇示する處なく、平然縁下の力持を以て任じ、孜孜として活動せるは誠に稀代の逸材と評する外なし。奇傑久原房之助氏其他の諸賢は常に氏の力量に敬服す、以て氏の全貌を知るべし。

(住所 山口縣萩市宇山田)

關西製絲株式會社

當社は創業の古きを以て關西製絲界に著名なる存在を爲し、業績亦頗る優秀、その輝耀たる好調に世人をして矚目せしめしこと屢々あり。明治二十九年一月同地方有力者によりて、資本金一百萬圓を以て創立せらる。爾來社業順調を辿り、成績大いに見るべきものあり。製品需要の増大により、設備は年と共に擴張せられ、曩に公稱資本金二百八十萬圓、内拂込資本金二百十九萬三千圓に増資を斷行せられ以て今日に及び。工場を本社工場、松阪、高岡、伊賀、三田の各地に設立せり。業績まことに好調を以て推移し、昭和七年度まで一割配當を行ひしが、生絲市價の崩落に遭遇して打撃を蒙り、内容整理と社業の建直しを必要起りて、昭和十二年重役陣の大改造あり。多數株主の懇望を受け取締役會長に田中林助氏、常務取締役兼中山武雄氏就任す。兩氏共に手腕名望既に世評に高く全力を擧げて當社の更生に盡瘁せしに依り、内容整理も著しく進捗し、業績又可成りに回復し、往時の旺盛を見るは近きありと觀せらる。

取締役會長 田中林助 三重財界の巨擘

瓦、鑛滓バラス、鑛滓綿、硫酸アンモニア、ベンゾール類、クレオソート油、タール、ピッチ等あり。製鐵設備は我國全設備の九割以上を占む。即ち、昭和十一年度純鐵生産を見るに當社は二百三萬五千噸を生産し、社外工場十七萬六千噸にして、當社のそれは九十二パーセントに達す。又鋼材は百七十八萬六千噸に上り、社外の生産高は二百六十五萬五千噸たり。當社工場は福岡縣八幡、北海道室蘭岩手縣釜石、朝鮮兼二浦、神奈川縣川崎、大阪市並に福岡縣二瀬に炭礦を經營す。尙ほこの他に第三次擴張計畫として北海道室蘭に新工場を建設し、第四次擴張計畫として兵庫縣飾磨郡廣村に廣加工場の設立をなし、鋭意工事を進めつゝあるを以て、完成の曉には多大の威力を加ふるに至らん。當社は製鐵五ヶ年計畫の下に鐵鋼生産設備の擴張を行ひつゝあるが、既に八幡に一千噸爐を十二年二月に完成せしめ最近兼二浦と室蘭、輪西工場の三百五十噸爐の火入をなせり。尙第二次増産計畫に屬する八幡の一千噸爐、釜石の七百噸爐、第三次計畫の輪西七百噸爐、三基廣畑の一千噸爐二基と、製鋼壓延設備の建設あり。右擴張計畫は昭和十六年末迄に完成の豫定にして、右増産計畫竣成せば裕に一千萬噸を突破する等なり。當社は鐵鋼一貫作業を行ひ、コスト低廉にして副産物の處理巧に行

を以て稱され、その聲望縣下を蔽ふ。嚴考田中林助氏は津米穀取引所理事長として名聲を博せり。氏は明治十八年五月に生れ、前名政太郎を改めて製名す。現在津商工會議所會頭津米穀取引所理事長、三重商社社長、津市倉庫、三重共同貯蓄銀行各取締役等に就任縣下財界の爲めに奔命しつゝあり。

常務取締役 中山武雄

氏は明治二十二年二月、三重縣人中山武平氏の長男に生る。幼少より頭腦俊英にして學業を抜く。明治四十四年仙臺高等工業電氣科を優等の成績を以て卒業し、直ちに京都市電氣局に奉職す。幾多の難工事を完成し早くもその名を揚げ、後神戸電燈に轉じ豪傑なる氏は大工事に依つてその手腕を發揮し、懇望せられて島津鐵業社に永野金山に移り、更に神戸市電氣局に入りて、その間幾多の貢獻あり。昭和七年關西製絲に迎へられて同社の樞機に參畫し、縦横に手腕を揮ひ盡瘁する所大なるものありしが適々嚴父武平氏病を得て、再び立つ能はざるにより、職を辭して歸郷す。尙は監査役に選出せられて同社の事業に携りつゝありしが、昭和十二年二月重役陣の大改造により、衆望を擔ひて常務取締役に就任す。爾後業務の大刷新を斷行し、内容の整備充實に努力して、近時著しく成績回復の曙光を見るに至れり。

日本製鐵株式會社

國家社會の榮枯も産業經濟の盛衰も製鐵事業の發展如何に拘るは賢言の要なき所にして當社は製鐵國策遂行の大使命を帯びて、昭和九年一月官設八幡製鐵所を始め、輪西製鐵、釜石製鐵、富士製鐵、九州製鐵、三菱製鐵、東洋製鐵六社の現物出資によりて創立せられ後大阪製鐵を買収し、現時資本金三億五千九百八十二萬一千圓、我國屈指の大會社たり。總株數七百九十九萬六千株中政府五百六十八萬四千株即ち七割九分を所有し、政府の監督下にあり。尙ほ近々五億圓に増資斷行決定す。主要製品は鉄鐵、棒鋼、型钢、厚板、線材なるが其他あらゆる鋼材を製造し、副産物又多岐に亘る。即ち、鉄鐵には製鋼用鉄、鑄物用鉄、低炭鉄、合金鉄。鋼塊及鑄鋼物に普通鋼鋼塊及鑄物、合金鋼鋼塊及鑄物。鋼材に棒鋼形鋼、軌條鋼、厚板、中板、薄板、鉄力板、硅素鋼板、線材、外輪、鍛鋼品、鑄鋼品、其他合金鋼。又副産物に高爐セメント、鑛滓煉

智識淵敏、才略縱横の士にして精勵格勤以てその職に當る。當社の今後期して俟つべきものあらん。
(所在地 津市津興柳山)

はれ、鉄鐵の自給をなし得ると共に二瀬炭坑を所有して、使用石炭の一部の自給をなす等經營上幾多の強味を有せり。近年の鐵鋼市況の好調と共に相次いで生産設備の擴張をなし供給の増加を行ひ、毎期非常なる好成绩を擧げつゝあり。昭和十二年下期末總收入二億五千八百五十萬八千圓、總支出二億一千三百九十三萬一千圓に上り、差引當期利益金四千四百五十六萬九千圓に達せり。利益率二割四分七厘にして、七分配當を行へるを以て決算頗る餘裕綽々たり。重役には取締役會長平生三郎、社長中井勵作、常務取締役中松眞卿、同景山齊、同藤澤正雄、同飯田九州雄、取締役井上匡四郎、同磯村豊太郎、同渡邊義介、同米山辰夫、同吉田豊彦、同松田貞治郎、同松本健次郎、同荒城二郎、同尾形次郎、同崎榮十郎、同山縣愷介、常任監査役太田嘉太郎、監査役濱田彪、同西村小次郎、同樺山愛輔、同福田庸雄の諸氏なり。

社長 中井勵作

中井氏は温厚篤實にして清廉潔白、徳操堅固にして襟度寛容、人格者として財界に徳望甚だ厚し。氏は明治十二年一月を以て生れ、明治三十六年七月東京帝國大學法科を卒業す。後農商務省に入り、累次榮進して大正八年七月特許局長に任ぜられ、次いで山林局長となり、大正十三年農商

務次官の要職に就く。同年八幡製鐵所長官となり、爾來専ら同所の經營に携り、設備の改善と技術の研精に銳意力を盡くし、從來赤字続きの業績を黒字に一變して、一躍名長官の名を恣いまゝにせり。尙ほ長官在任中八幡市の爲めに多大の力を藉し、同市の發展に貢獻する所多く、市民の徳望を一身に集めたり。昭和九年當社の創立せられるに及び、朝野の要望を受けて社長に就任す。社業の發展に日夜盡瘁して、多大の業績を擧げつゝあるは周知の如し。
(所在地 東京市麹町區丸ノ内二丁目)

田村合名代表社員 田村市郎

才と徳とは夫れ一致せざるものか。されど茲に人あり。その才智よく衆に超え、事に處するや機先を制して果決斷行、眞に世の範となすに足るも、一度其の性行を窺ふに至りては、醜狀紛々正視する能はざるものあり。又愛に人あり。恭謹仁慈能く人情に厚く、德行常に衆の範とするに足る。されど一度事を成すに當りては、逡巡姑息鈍刀を以て物を裂くが如き、到底事業の第一線に立つを得ざるあり。人類數億を數ふると雖も、前者に非ざれば後者、眞に才徳兼備の士に至りては、泥中

に眞珠を探ぐるが如く、曉天に響々の星を數ふるに似たり。我が田村市郎氏の如きは當代稀に見る才徳兼備の士たり。宜なる哉、氏は本邦財界に特異の華彩を添へる久原家の元締にして、久原房之助氏の實兄に當り、人格識見共に卓越、事業的の手腕力量又凡庸に卓絶す。氏は山口縣人久原庄三郎氏の長男にして久原房之助氏の實兄に當る人、慶應二年一月を以て生れ、明治二十八年先代田村コウ女の養嗣となり家督を相続して田村姓を稱す。夙に實業界に雄飛して幾多の業績を積み、其の記録枚舉に遑なし。然して大正九年十二月不動産有價證券賣買を目的として、田村家一門の出資を以て、資本金二百萬圓の田村合名會社を創立して氏之が代表社員たり。又先是大正四年十二月に創立されたる資本金一千萬圓(全額拂込)の日本汽船株式會社の社長として氏の事業的の面目を躍如たらしむ。この外オリエンタルホテル、日本毛織、日伯拓殖、昭和毛織紡績各取締役等に敏腕を揮ひたり。資性豪放にして大膽なるも周到にして卓効、財政經濟に通曉し、經驗極めて豊富なり。而も一面至誠謹直、衆に範たる長者の風格を備へ、社會公共に盡瘁し、また衆庶の指導啓蒙に意を注ぎ、所謂才徳兼備の生ける師表として上下の欽慕敬仰大なるものあり。現に國際港神戸無二の仙境たる平野天王谷西服山に本邸あり。

湯原標記製作所

當所は銅、眞鍮看板、ネームプレート、眞鍮ニューム、洋銀マーク、自動車看板、七寶メタル、硝子腐蝕等各種の製品を製作し、その技術の優秀なるを以て著名なり。湯原慶造氏の經營に成るものにして、昭和二年の創業に拘る。氏の努力苦心に依り、標記湯原の名聲大いに高まり、近來需要頗る激増して、設備甚だ膨脹を見るに至り。名古屋工場は大量生産を圖りて供給増加に努めしも、著増する需要に應ずるを得ず、操業まことに繁忙を呈せり。尙ほ金澤市長田町に支店を設立し、湯原慶造氏の次男外之丞氏支店長として經營の衝に當りて大いに活躍す。その販路内地の各地より更に朝鮮、北海道、滿洲の各方面にまで及び、範圍頗る廣汎にして、注文の著増



湯原慶造氏

と共に業績年を逐ひて躍進をなせり。斯業界に於ける屈指の優秀製作所としてその眞價は廣く世人の認むる所にして、その將來に就いては大いに期待すべきものあり。

所主湯原慶造 湯原標記製作所主たる氏は富山縣東礪波郡城端町に、明治二十八年十二月を以て生る。工業界に於て身を立てんと欲し、單身上京して東京ナセンロールに

に努力奏功して發展に向へり。尚技術の改善と製品の品質向上に寢食を忘れて力を盡し、或は販路の開拓に東奔西走する等、その活躍まことに目覚しきものあり。氏頭腦緻密にして犀利俊敏、實業界の努力家にして、温籍謹厚を以てその信望高し。少壯氣鋭、才氣發刺たる實業家にしてその將來こそまことに期待に値す。

(所在地) 名古屋市昭和區東郷通九丁目

株式 大丸京都支店

舊都京都の繁華街四條通りに巍然として聳つ七階層のスパニッシュ、ルネッサンスの華麗豪華の大建築こそ斯界の雄大丸にして、現在の建築は昭和十年十二月に完成し、本館地上七階、地下一階、延坪數六千六百五十七坪に達す。設備には最新式の技術を採用し、調度萬端善美を盡くして、京都に於ける一名所となれり。中央ホール、屋上廻廊、特別陳列室のモダニズムパニッシュ、ルネッサンス・スタイルは、殊に眼も眩ゆきばかりに鮮かなり。商品運搬及破損し易き品物を運ぶ爲めに大丸独自のサーヴィス、トランススファーカーを設置し、耐震耐火の爲めに慎重なる配慮をなし、絶對安全を期せり。冷房設備は米

國キヤリア會社の「キヤリアー」式を採用し同式特許の「スロテッド・アウトレット」により、夏は冷風を冬は暖風を吹出して、室内の空氣を絶えず新鮮爽快ならしむ。又屋上には天氣豫報臺を設けて、顧客、行人の便宜に供せり。従業員は一千六百五十餘人に上り、その訓練よく行き届きて、何れも親切懇篤、顧客に對する接待至らざるはなし。我大丸は紺の暖簾の昔より「京都の大丸さん」といふ愛稱を以て呼ばれたる老舗にして、古くより頗る繁榮をなして多大の信用を得、傳來の營業方針を今日に至りても尙ほ墨守す。即ち、大衆に奉仕して始めて報はれる所ありとなしてサーヴィス第一を標語とし、最良の品を豊富に取揃へ、最低廉の價格を以て顧客に提供し、懇切丁寧に應接して不行届なきよう細心の配慮を盡せり。店内の裝飾に商品の陳列に多大の苦心拂はれ、豊麗なる色彩の配合と明瞭にして瀟洒たる雰圍氣とは、顧客にとりては最大の魅力なり。歴史ある老舗の信用を背景として、更に近代的經營法を以て常に同業者に一步を先んじ、大衆の間に噴々たる好評あり。顧客の入場は毎日約四、五萬に上り、食堂の客は一年百五十萬を下らず、甚だ殷盛を呈せり。土地柄故に觀光外人の來りが故國への土産物を求むる者頗る多く、これが爲めに顧客部に通譯を置きて接待す。又外

人用大丸紹介のリーフレットを發行して、これが參考に供せり。現在幹部として經營の衝に當れるが、取締役兼支配人の津村甚之助、副支配人磯部善一、北川彌一の諸氏なり。何れも經驗學識備はり練達堪能の手腕家たり。

取締役兼支配人 津村甚之助 明治三十五年

專修大學を卒業して、第一銀行支店に勤む。後朝鮮出張所に移り、明治四十三年朝鮮銀行の創立と共に同行に入りて多大の貢献をなし大正七年には滿洲銀行に迎へられて、常務取締役に就任、同行に於て敏腕を示し、大いに手腕を揚げ、大正十四年その職を退く。昭和九年株式會社大丸に入りて、十一年九月京都支店に赴任す。元氣旺盛、氣魄凛烈、その健康の頑健無比なるは西式健康法を以て鍛練せるによるといふ。明朗調達にして人格玲瓏玉の如くに圓滿たり。又氣格俊逸にして衆を統率するの利器にして、明晰果敢その行動頗る神速なり。手腕の群技俊秀を以て、京都財界に名望高く清白高朗の人格は衆庶の深く畏慕する所たり。多數従業員より深く敬仰せられ、氏の命には衷心より悦服す。大丸京都支店の發展氏の手腕に負ふ所多大にして、今後の活躍こそ大いに期待せらる。因に氏は傍ら、大丸興業、今市大丸各監査役たり。

(所在地) 京都市下京區四條高倉角

名 家
神 原 孫 太 郎

愛知縣縣政に盡瘁し、或は青年團の爲めに奔走する等、公共事業に献身的活動をなして名望全愛知縣下に高きを我が神原氏とす。夙に愛知縣第一師範學校に學び大正二年に同校を卒業し、直ちに八名郡加茂小學校に赴任、眞摯至誠を盡くして教育の事に當る。その熱心なる態度と、謹直にして徳操堅固の人格は多大の人望を集めたり。次いで三藏小學校に轉じ、同校に於ても教育上幾多の功績を残して、その材幹は縣教育界に於て大いに認められ、簡拔せられて新道小學校長に榮進せり。氏は教育家として才徳兼備せる人物なるが、又頭腦俊秀にして研究心に富み、孜孜として倦まざる研精は縣下教育界に於て、篤學者としてその名を知らる。大正六年には文部省の囑託として、露西亞、ポーランド、獨逸、瑞西、伊太利、埃太利、洪牙利、佛蘭西、白義耳、和蘭、丁抹、英吉利、北米合衆國の各國に派遣せられ、實業教育及び數學教育の視察調査をして歸る。廣く海外の事情にも精通しその蘊蓄該博にして、抱負識見又遠大たり。氏は校長として新道小學校に赴任するや、教育勸語の聖旨を體し、兒童の知育徳育體育の



氏 郎 太 孫 原 神

爲めに、苦心研究して幾多の諸施設を施し、多大の成功を収めて、縣下の教育界注視の的となれり。氏の小學教育に於ける根本方針は來るべき時代に於て、社會的活動を爲す者の人格涵養にその基礎を置き、精神的訓練を行ひて社會の中堅たるべき人物を養成せんとするにあり。校長として同校に就任以來校務に一大刷新を加へ、鮮新なる空氣を注入して、多大の實績を挙げ、模範校として大いに同校の名を高めたり。氏の絶えざる努力と不斷の精進は世人の口を極めて嘆稱なし、その高潔なる人格は衆庶の深く欽仰する所にして、縣下教育界に於て第一人者たるの地歩を占むるに至りたり。昭和十年有志よりの切望を固辭するを得ず、擁立せられるまゝに縣會議員選舉に打つて出で、多數の得點を獲得して當選す。同時に教育界より身を引き、専ら縣政の爲めに東奔西走せり。氏は何れの政黨にも組せず、嚴正中立の立場を堅持して、政界の淨

化と教育行政の刷新の爲めに多大の活躍をなし、縣會に於て重きをなせり。又青年の訓育重大なるに鑑み、進んで青年團に投じ、現在新道聯區青年團長、或は愛知縣青年團代議員等の要職に就き、青年團の爲めに献身的活動を爲し、その功績著しきものあり。人格廉直なると共に才氣煥發、霸氣橫溢せる題材にして、而かも又熱誠に學理の探求に精勵する學徒たり。寸暇には擧げて數學研究に没頭し、既に今日までに幾多の著述あり。即ち「算術教育」、「珠算學習論」、「珠算教育」、「實際算術の學び方」、「一元的算術教育」、「兒童數學」を始めとして四十餘種に上る名著あり。氏の研究は既に學界に於ても注目せられ、多大の價值を認めらる。因に氏は愛知縣知多郡武豊町の出身にして、明治二十六年十一月を以て生る。その前途春秋に富み、將來大をなすの材幹として刮目せらる。
(住所 名古屋西區新道町三ノ六三)

嘉 納 合 名 會 社

美味芳醇にして左黨萬人の垂涎措く能はざる天下の銘酒、即ち日本酒の王座を占むる、「白鶴」の醸造元として、斷然本邦清酒醸造界に君臨する嘉納合名會社の設立を見たる

は、明治三十年十月なりと雖も、既に當灘地方屈指の大酒造家として、連綿家歴を閉し、而かも歴代該銘酒の聲價甚なると共に、家名亦た顯然たる嘉納家一族の遠く萬延年間に創業せるに發し、爾來星霜幾に幾變轉、明治維新以來の澎湃たる歐米文化の侵入と共に、業界更に多事多端となり、企業形態の大を要求せるに至りし爲、從來の個人經營を廢して合名組織に變更せるものなり。

斯くて規模内容共に漸次擴充されし一方、傳統たる獨特優秀の醸造法に更に不斷の研究を異ね、原料の精選、風味の吟味に腐心没頭するは勿論、凡百の方途を講じて銳意最良品の製出を圖る處、既に幾多の博覽會、品評會等に出品するや、毎回最高の榮譽に輝く金牌、賞狀等を授與されし事故學に違あらず即ち醸造品の眞價愈々世に喧傳せられ、天下の左黨に絶讚激賞を博すに至れり。而して他面販路の開拓擴張にも只管努力を怠らず、全國各地に支店、代理店、取次販賣店等を設置して一大販賣網を整備する他、更に滿洲方面は素より、我が同胞の居住する地にして、當社醸造品を見ざるはなき途に進出發展を措にし、遂に需要の一層著増を齎せると共に、業運亦た隆昌盛大となりて今日の偉容堂々、名實共に斯界に壓倒的存在を顯はるゝに至れり。現在資本金五百萬圓を擁し、其資本機構

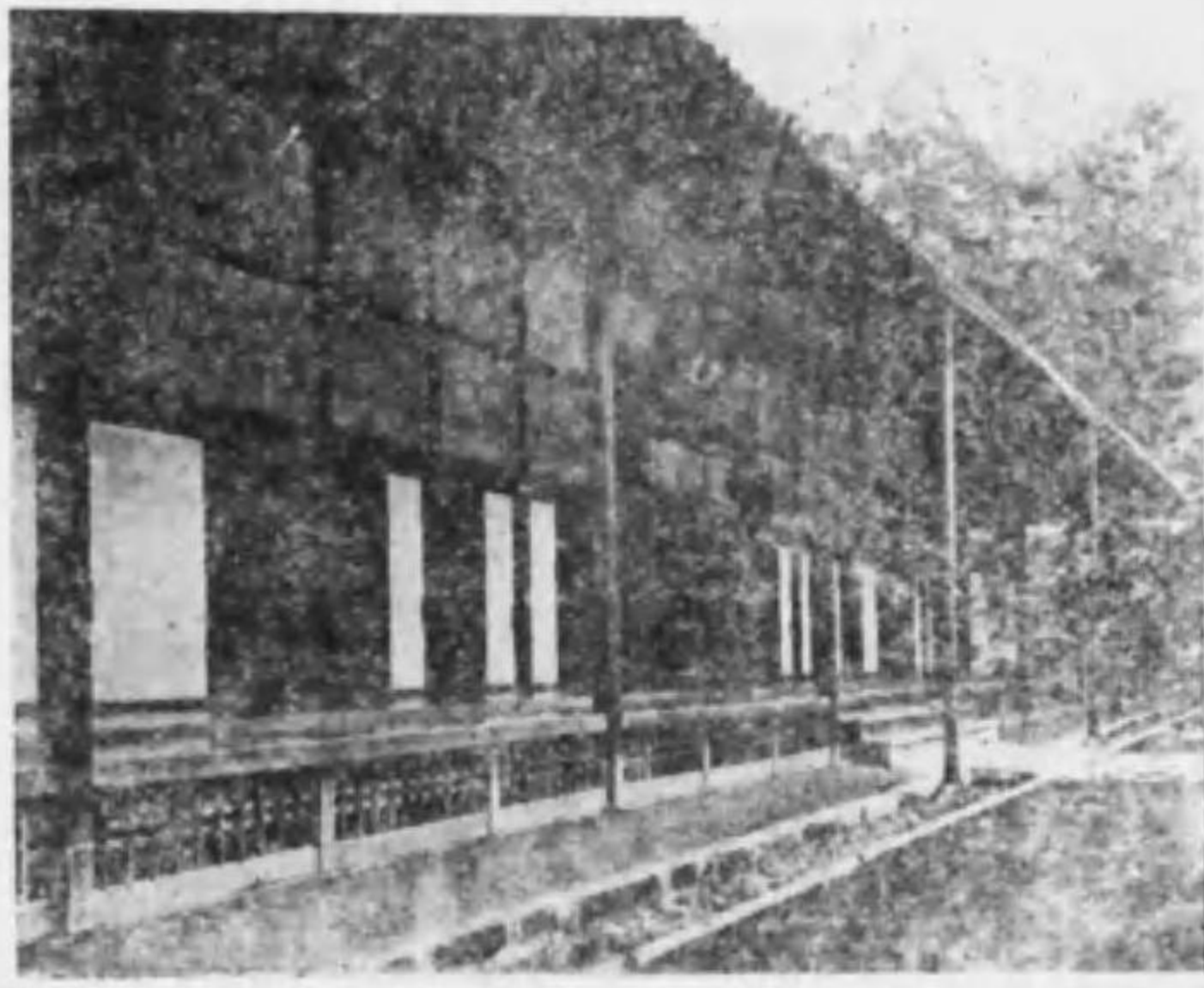
は代表社員嘉納治兵衛氏二百萬圓、代表社員嘉納純氏百五十萬圓、嘉納けい女七十五萬圓、嘉納正治氏七十五萬圓の家族四名出資なるが嘉納純氏の個人經營と何等異るところなし。現に支店を神戸市神戶區元町通七丁目、東京市京橋區木挽町五丁目、大阪市東區橫堀一丁目、大連市監部通二六、奉天若松町八、京城府長谷川町五十に設置し、最近の業績は自釀四萬石、他釀買酒二萬石の年販賣高六萬石を計上し、更に副業としてアサヒ麥酒、龜甲萬醬油、燒酎、味淋、清涼飲料水等の問屋卸を營みて一ヶ年の販賣高實に一千九百萬圓に達せるが、本副相半ばする商況に在り。當社は前叙の如く夙に朝鮮、滿洲方面に進出して販路の開拓に全能力を發揮し來れるが、今回更に北支に一大飛躍を敢行すべく計畫中にて之れが具體化の曉には、益々その偉力を發揮すること明かなり。

代表社員 嘉納治兵衛 當家は嘉納家の始祖にして氏は文久二年一月の出生、明治二十二年先代治兵衛氏の養子となり、前名政久を改め、襲名して家督を繼承するや、精勵奮闘、克く養父祖傳來の家業を益々盛大ならしめて、業界の覇者たりし一方、亦た天賦の巨腕を縱横に揮ひ、曩に滿洲銀行頭取の權柄に在り、現に武庫汽船社長、神戸銀行取締役等

の要職を占め、當地方實業界に貢献する處多大、斯界の長老なり。家庭に在りては昭和四年、養子純氏に家督を譲りて隱居せり。
代表社員 嘉納 純 氏は明治十八年三月の出生、現在當社代表社員たる一方、奉天嘉納酒造取締役會長、武庫汽船監査役等幾多の重責を擔ひて活躍縱橫なるものあり。眞に同家一族中の錚々たる偉材として、其の透徹せる頭腦、奔放自在の手腕を誦はれ、更に宏量襟度、渾然璧の如き人格の所有者として敬仰を蒙り、夙に嚙詰工場を同業者に先鞭を付けて最新式機械設備と爲し、大量生産と品質の統一を圖り不斷に進歩的且つ眞摯なる商策を採り銘酒白鶴の聲價を一段と高揚せしめたる業界屈指の闘士なり。現に兵庫縣多額納稅者に列し、亦た從七位陸軍二等主計の官位を賜はり、曩に紺綬褒章並に同飾版を賜はる。
(所在地 兵庫縣武庫郡御影町上東)

新義眞言宗 智 積 院
總本山 山 智 院
京都東山の一角、景勝の位置を占めし五百佛山根來寺智積院は、弘法大師を高祖と崇め興教大師を派祖と欽仰する、新義眞言宗智山

派の總本山にして、全國三千有餘の末寺を有する本邦屈指の靈刹たり。願ふに派祖興教大師覺鑒上人は、八百餘年前、即ち嘉保二年六月十七日を以て、肥前國鹿島に降誕、佛門に歸して以來、善知識として其英名一世に高く、鳥羽上皇の尊信最も重厚にして遂に勅令に依り、高野山金剛峯寺並に大傳法院の座主職に補せられしが、上人の聲譽日に月に昂揚、皇室の敬信年と俱に加はるを妬みて一山の衆徒中、事を構へて上人を擯す事屢次。最早高野の天地は己が身を措く地に非ずと悟りし上人は、黙々下山し、紀州根來山圓明寺に退住せらる。時に上人の德行を敬慕して下山する者七百餘人。爰に法幢を樹てしが、即ち現存の根來山大傳法院の基と爲す。爾來根來山は高野山に劣らざる眞實密教加持門の大道場として宇内に著聞し、根來七十萬石の守護となり、寺領河内和泉の兩國にまで迫ぶの盛觀を極むるに至れり。然るに天正十三年三月豊臣秀吉の忌む所となり、遂に一山破却堂塔燒燼の悲運に遭ひ、全山の大家悉く處に迷ふに至る。當時根來山に於て學德共に超凡、能化職として衆望を萃めし智積院玄有能化は、同職の小池坊專譽能化と一時難を高野に避けしが、幾何もなく下山し、王城の地たる京都に來りて、徳川家康の尊信を享け、慶長五年豊國神社の梵宇三區及び寺領二百石を寄進せ



智積院方丈

識續出し、自宗他宗に拘らず遠近を論ぜず、幾多の學侶參集する有名なる學山とはなれり。由來總本山智積院は、一般總本山或は大本山と其趣を異し、學山即ち現時の學費の如き制度の下に佛教學研鑽の中樞として立ち、一

般檀信徒の參拜、參詣を重きと爲さざりき。其最も旺盛なりしは第十五世覺能化の享保年中には諸國より參集せる學侶實に一千七百餘人を超え、學侶の宿泊する學寮七十餘棟を敷へ宇内第一の研學道場として一世を風靡する觀ありき。隨而自ら寺院擴張せられ、且つ寛文七年に至りて開山堂及び鐘樓等を建立、延寶二年には東山第一と稱せられたる、庭園の造築完成し、寶永二年には全堂落成し、更に寛政元年大師堂竣工する等、内容外觀俱に整然たる大道場を出現す。斯くの如く總本山智積院は、簡單なる靈山に非ずして學術專攻の學山として一般世俗より遠近せる關係上、時の權威者に對して、敢て阿諛する事なかりしが、諸國より名僧知識雲集して王城第一の學山を築きたため、自づと各方面より崇仰するに至り、殊に皇室と徳川幕府よりは常に特別待遇を與られたり。其例として元壽僧正及び運徹僧正の兩能化は勅を蒙りて、高足十人と共に仙洞御所へ伺候し、兩度に亘りて智山獨特の論議を開きて敬感を辱し、殊に運徹能化は後水尾太皇の敬信篤く勅に依り論議註記、學洞二字義等を認めて奉呈す。次で各宮殿下並に法親王の駕を智積院に枉げさせられて親しく學山の内容を御視察あり、其他代々の能化は就職の際は其都度天顏に咫尺し、或は勅命を蒙りて祈雨祈禱を行ひ、御即位及

御大葬の際には毎時參内して、天機を奉伺する等、皇室と智積院との關係は深きものありき。一方徳川幕府よりの尊信あり。即ち寺域寺領の寄進、堂塔伽藍の建立等常に最大の外護者として援助を受けたり。故に當院よりも能化補任の際は勿論、幕府に吉凶ある場合には必ず參候して慶弔の意を表し、或は出府して將軍に謁見するを例となせり。斯の如き盛況たりし當院も明治維新を一轉機として、多年最大の外護者たりし、徳川幕府は潰へ、參集の學徒も漸減す。而して本坊は文久三年以來土佐藩兵士の屯所に充てられ、恒例の法會すら完全に行はれず。加ふるに二萬五千餘坪の境内中約一萬坪を土地せしめられ、學徒の減少、收入の激減は不安を醸成せし時、不幸之に止らず、明治二年十月、勸學院を、同十五年二月金堂火災に罹りたり。加之世は明治に入りて一般の學校、學舍勃興し、最高學府として唯一の智山勸學院も時勢の赴く所遂に東京に移轉するに至れり。故に學術中心の總本山たりし當院は、茲に面目を一新し、全宗門の根本道場、全國信徒の總菩提所として信仰中心に進むこととなれり。管長親下を首として一宗一派を擧げて總本山智積院を興隆し信徒能く本山を理解し内外力を合せて本山の興隆發展に努め、昭和六年度より密嚴教會本部と弘法大師遠忌局とを本山に設け、從前と

其趣を改め參拜者に對する設備を整へ、其宿泊は素より回向納骨等に便宜を計る傍ら、大和長谷寺、紀州根來山大傳法院及高野山の密嚴院と協議して靈蹟巡拜の便に資し居れり。今や智積院は高祖大師、派祖大師の恩徳洽く興隆の一途を辿り往古の隆々に勞翳たらしむる靈山として其名天下に著聞するに至れり。(所在地 京都市東山區七條)

東京地下鐵道株式會社

本邦地下鐵の始祖として我國交通機關に一新紀元を劃せる東京地下鐵道株式會社は單なる帝都の一名所たるの觀を脱却して、重要交通機關たるの使命大いに加り、更に愈々本格的收發時代に入ることとなれり。帝都に於ける路面交通機關の行詰りと共に、地下鐵事業は大いに活況を呈し、東京高速度鐵道の澁谷新橋間の澁谷線は昭和十三年秋より開通して當社線と直通連絡を開始す。これによりて澁草を發したる地下鐵電車は日本橋、銀座、新橋を経て澁谷に至り、澁谷を發したる高速度鐵道は同様に澁草に至り、茲に於て東京地下鐵はその機能百パーセント發揮することとなれり。又高速度鐵道の新宿赤坂見附間の内、四谷見附迄は本年新秋に完成し、これ又當社

線と連絡をなす。更に當社と京濱電鐵との提携によりて創立せられたる京濱地下鐵は、新橋品川間の建設工事をなしつつあるが、數期後には竣工の豫定にして、京濱電鐵、湘南電鐵と直接連絡を見るに至る。これ等の工事竣工せば地下鐵は目覚しき活況を呈するなるべし。尙ほ東京地下鐵は先般東京乗合自動車株式會社並びに西武鐵道新橋線を合併したるに依り、帝都に於ける主要交通網をその傘下に收むるに至れり。當社の資本金は五千五百七十三萬圓(拂込資本三千七百五十萬圓)にして地下鐵營業料八軒を有し、自動車五百五十八臺を所有して乗合自動車、遊覽自動車業を經營し、更に他に城東電軌の經營をなせり。尙又附帶事業としてストア、食堂並にビルの經營を行へり。

專務取締役 早川 徳次 我國地下鐵事業の創始者として、氏の功績は我國交通史上の第一頁に特筆大書さるべきなり。苦心慘澹、千辛萬苦これが開設に一身を傾倒し、遂に今日の成功を臻せり。豪毅不屈、明斷果敢大いに天稟の手腕を揮ひて財界に重きをなせり。明治十四年十月山梨縣に生れ、夙に早稻田大學法科を卒業す。多年鐵道業に従事してその蘊蓄甚だ深し。(所在地 東京市神田區須田町一丁目)

埼玉 忍高等女學校

建國の大木と國體の精華に則り、堅實善美なる校風の確立、發揚を期せる忍高等女學校は、諸制度、諸施設完備し、理想的な女子教育機關として、その名譽縣の内外に高し。職員は何れも優秀の士集りて、適材適所に於て各自の力量を發揮し、親和協力以てその職に淬勵し、多大の實績を挙げつゝあり。當校は單に知識技能の傳授注入を以て足れりとせず、更に德育體育にも力を盡くして、婦人としての人格的完成を目指す全人教育を教育の大綱となせり。斯くして知育の線に沿ひて作業を實習せしめ、作業を通じて知識を深め更に作業に練達する等、兩者の交互關係によりて多大の實効を收め、學校教育の實際化に付き、女子教育界に範を垂る。尙ほ女子の天職を完了せしむべく、學校を一大家庭化して、家事の實習作業を中心に家庭生活の實際的指導に力を盡くせり。この目的を以て一切の學科を家事科と聯結せしめ、これが實踐指導に意を注げり。更に學校と家庭とに小學校との聯絡を密にし、進んでは地方との連繫を緊密ならしめて、學校教育の實際的効果の増進とこれが向上進展に努む。校長飯田先生職員を統率し

て献身的にその職に當り、當校の發展に寄與する所多し。その手腕に依りて、當校の名譽愈々揚り、入學志願者の數、年と共に増加を見るに至れり。

校長 飯田 靜

縣下教育界の中堅として名望高く、蘊蓄經驗兼備へ、斯界第一線の人物たる先生は、明治二十三年十一月茨城縣に生る。大正四年廣島高等師範學校を卒業し、廣島縣立忠海高等女學校教諭を拜命、更に群馬縣立桐生中學校に轉じ、奈良縣立宇陀中學校に移る。創立日淺き同校の爲めに率先校務に携り、大いに盡瘁し、昭和五年簡拔せられて同校長に補せらる。先生は教務の刷新施設の完備に没頭して大いに手腕を示し、名校長の名を恣いしにせり。昭和九年十月に至り、當校長に榮轉す。當校に赴任するや愈々校務に精勵して日夜設備の整備に心を碎き、一身を捧げて教育に傾倒し、當校の發展に寄與せし功績絶大なるものあり。氏資性温籍質實、謹恪恭謙、身を持すること甚だ堅く日常生活厳正を極め、他面寛容にして敦厚、兼庶に師父の如くに畏懼せらる。教育界に在ること既に二十有餘年、縣下教育界の重鎮として聲望並びなく、その言動斯界に絶大なる推重を拂はる。嚮に高等官三等待遇從五位勳六等に叙せらる。

敬頭 細井 貢 明治二十八年に生れ長じて大正八年廣島高等師範學校を卒業す。福島縣立喜多方中學校、千葉縣立佐倉中學校、宮城縣立角田高等女學校を経て、當校に榮轉せり。從六位高等官五等待遇に叙せらる。その殷懇なる舉措と懇切なる教導は父兄の信望を集め、生徒の敬慕を受くること深く、誠實眞摯の人格者にして責任觀念強く、専ら讀書を趣味とせり。

(所在地 埼玉縣北埼玉郡忍町)

近藤 三郎

東都法曹界には人材雲の如くに集り、百花撩亂顯然たる光彩を放てる人物數多あるが、斯界の中堅として俊英なる智能と、卓効の識見を兼ね備へ、近時名望愈々高まれるが、近藤氏その人とす。氏は堅實なる學風と各方面に人材を輩出せるを以て著名なる、私學の雄中央大學の出身たり。幼少より穎悟にして學を好むこと深き氏は、頗る優秀なる成績を以て同校を卒業す。次いで大正九年難關を以て知らるゝ判檢事登用試験を受けて、見事これを突破し、靜岡及東京地方裁判所に司法官試補とし、その名譽を揚ぐ。明晰の頭腦と熱心なる研鑽は早くも、その存在を顯著ならしめ

株式 大森 回漕店

將來大いに爲す處あらんとし、矚目せらる。然るに資性豪毅潤達熱情熱風の氏は狹隘なる官界に躊躇するを欲せず。自由の天地に鷹翼を張らんとし、敢然として職を辭して辯護士事務所を開業せり。時に大正十二年なりき。聰敏俊敏の智能は法の眞精神を生かし、人情の機微を加味して、法理に依りて法論に囚れず。犀理緻密の論理に明快然たる結論を與へ、舌端時に流暢に、時に莊重に滔々たる辯舌は、情理を盡くして聞く人思はず耳を傾かしむ。氏は權門に阿諛せず威武に屈せず、常に名前に超然たり。淡然泊如、高義正節の士にしてその人格の高潔を以て世人に瞻仰せられること深し。日夜餘暇あれば研鑽に努め、その學殖深遠にして、經驗又豊富を以て帝都野法曹界の花形として、その名譽赫々たるものあり。温質實にして人に對して隔壁を設けず懇切丁寧たり。豊かなる温情の持主にして、器局宏量、膽大なり。練達堪能、霸氣縱横にして、政界に或は公共的活動に馳驅して貢獻する所多く、その事績多方面に及べり。愛知縣人近藤次郎氏の三男として、明治二十四年一月十三日豊橋市に於て呱呱の聲を揚ぐ。蘊蓄識見共に具はり、前途まことに春秋に富み、將來東都法曹界を双肩にして立つ額材として、期待せられること多大なり。

(住所 東京市日本橋區箱崎町三丁目)

我が大森回漕店は港の都、神戸に輝く海運業界の異彩的存在にして、四十年に亘る信用經驗に於て隆々の業績を收めつゝあり。然して最近國家の非常時代を喧傳するに至り、益々其の機能を發揮し、殊に日支支變勃發により各航路とも可なりの船腹不足を告げつゝあるにか、はらず、優秀の業績を挙げ、斯界に獨壇的重きをなすものなり、其の創立は最も古く明治の中期より今日に至るまで、其の間幾多の推運變遷に遭遇せしも、着々基礎を固め、大正十年十月資本金十五萬圓(全額拂込済)を以て株式に組織を變更し、社長に大森千代三、取締役大森博五郎、同業支配人小谷晋吉、監査役大森榮介の諸氏の協力陣容を結成し、斯業の國家的將來性に萬全の體制を整備したるものにして、爾來今日に至る間、我が海運界の爲め、萬丈の氣を吐き、堂々阪神同業間に伍し鮑爛の業運を謳はれつゝあり。試みに同社昨年十一月末日に於ける營業成績を見るに、收入二十四萬一千餘圓、支出二十萬六千餘圓差引純益二萬七千六百餘圓の好成绩を示せり。

因に同社の營業網は大阪支店を中心に淀川

驛前、加古川、西宮其の他、七ヶ出張所を設け、現社員百二十餘名は宛ら渾然一體の活躍を以て、顧客本位の信條を持して一般荷主の福利増進に努力邁進しつゝあり。

取締役兼支配人 小谷 晋吉 氏は兵庫縣小谷喜代藏氏の二男にして、明治十七年四月を以て生る。同三十二年十六歳を以て大森回漕店に入店以來實に四十年一日の如く恪勤勵精したる當社生え抜きの柱石的人物にして、其の功績は酬ひられて、大正十年組織變更と共に取締役に就任、支配人を兼ね、今日に至る。其の間氏は凡ゆる艱難辛苦と闘ひ、生死を社運と共にし一意當社今日の爲め、碎身粉骨したる偉材にして、氏の功績甚大にして、到底筆端を以て盡し難きところなり。氏のモットーとする「最善最大の努力を以て、最善の會社たらんとするにあり」を、眞向に翳さずして一路邁進する氣魄は驚嘆に値す。資性温厚にして潤達、寛洪の量能く人を容れ徳望高く、而も商機を見ること敏にして、生氣潑刺たり。平生部下を愛撫すること深く、店內全員一心同體となりて戮力一致、業務に精勵する美風は到底他商店の追隨を許さざる所にして、同社榮榮又茲にありと謂ふべし。趣味は園藝、俳句をよくし、向岸と號す。最近の作を二三摘録すれば

愛徳傳 職徳の春

皇軍の力みなざる難者哉
英霊を迎えし師走徳たゞす
不足なき身をつゝしみて初詣で

(所在地 神戸市神戸區榮町通四丁目)

名 産 家

井 上 徳 三 郎

氏は愛知縣下に農場を經營して、篤農家として知られ、昭和の二宮尊徳として、その徳行は人の多大に敬仰を拂ふ所たり。氏は慶應三年六月井上佐七翁の長男として呱呱の聲を揚ぐ。老來愈々矍鑠たるものありて、東奔西走して疲勞を知らず、その元氣尙ほ壯者を凌ぐの概あり。明治四十四年以來井上兩替店を經營し、事業の發展に勵精する傍ら山林原野の開墾に力を注げり。氏つら／＼我國家の發展の爲めに、農業開發の忽にすべからざる所以に想到し建國以來農は我日本の國礎たりし歴史に鑑みて、農業發展の爲めに積極的に盡瘁することを決意す。この目的を以て愛知縣西加茂郡猿投村に土地を求めて農場を開き、農民と起居を共にし、粗衣粗食に甘んじて、草鞋を穿き鎌を持ち自ら開拓の先頭に立ちて農耕に従へり。資本の不足に辛勞を嘗め、或は困苦缺乏によく耐へて、幾多の難關を踏み

越えて所期の目的達成の爲めに敢奮として邁進す。重き物を運ぶ農民を見ては決して、これを傍觀することなく、自ら進んでこれに手を貸し、彼等の勞苦を我勞苦となして、共同一致の精神を以て實踐す。夙起晩寢、人の起るに先立ちて起き、人の寝たる後に寝ね、故々として農事に精勵せり。又些末のものとも雖も利用し得る限りはこれが利用に努め、極力消費を節して勤儉貯蓄の風習の勵致に意を盡くし、又農事改良の爲めに苦心をなし現狀に甘んずることなく、研究に研究をなせり。斯く實踐躬行して衆にその範を示し、農民の指導に全力を傾倒す。斯くて猿投村の農場は頗る繁榮に向ひて、現在戸數六十七戸人口三百餘名に上り、耕作反別百町歩に達せり。濃恭謹恪、その徳風は人の仰慕措かざる所にして、正に昭和の二宮尊徳たるべき人格と徳行の士たり。氏の農事に對する功勞に對して、大正十二年紺綬褒章を下賜せられ、大正十三年に山林有功章を賜はり、又昭和二年の尾三陸軍特別大演習には侍從御差遣の光榮に浴す。地元猿投村の農民氏を欣慕すること深く、頌徳碑を建立してその徳を讃へり。尚ほ氏は中京法律學校を經營して、育英事業を營み、衛生組合長、町總代等の公職に推され、日本海自被濟會役員等に就き、社會公共方面に寄與せること鮮少なからず。中京に於け

る徳を傳へたるものあり。

(所在地 名古屋市中區八百屋町二ノ三三)

東北電燈株式會社

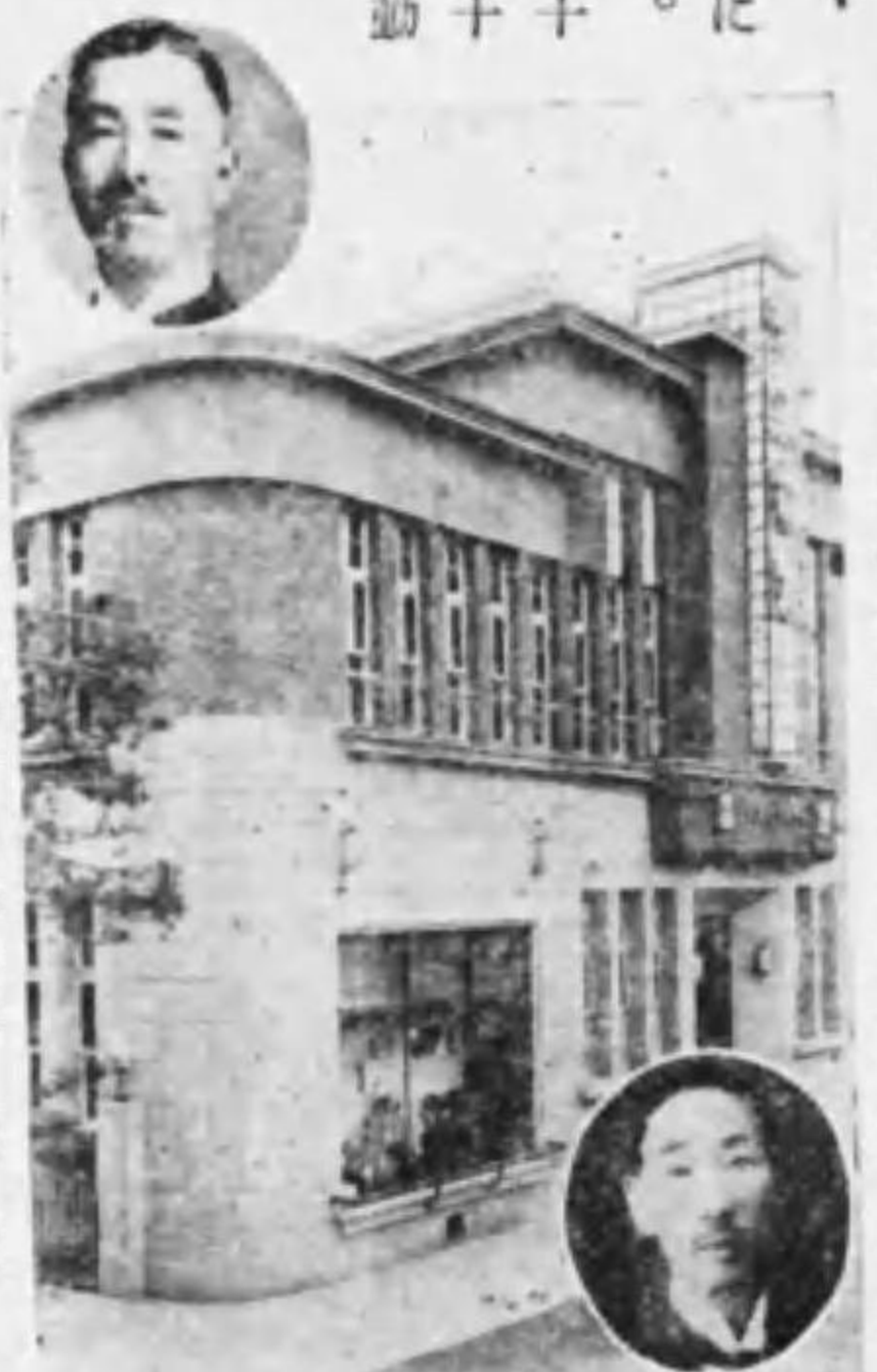
東北地方に嚴たる存在を誇り、今や社運隆々向上して、牢固堅實なる地盤を築きたる新界の俊魁たり。抑々當社の前身たる鳴瀬川水力電氣株式會社は、大正三年四月、宮城縣中新田町に資本金二十萬圓を以て創立せられ、大正六年一月三拾萬圓を増資して金五十萬圓とし、同年五月發電所並に送電線工事落成し同年六月送電開始するに至れり。次いで大正七年三月には石巻電燈株式會社を買収し、同八年三月、東北電氣株式會社をも合併し、時運の進展と共に需要益々激増し、設備擴張の必要に迫られ、同年九月資本金二百萬圓に増加す。十一年七月花泉電氣株式會社を合併、續いて翌十二年二月加美水電株式會社をも合併し、社礎愈々強化し、更に將來の飛躍に備へんが爲、鳴瀬川水力電氣株式會社を解散して、新たに資本金を増加して金三百二十萬圓となし、茲に東北電燈株式會社の創立を見るに至れり。
同十三年二月冠川電氣、名取川水力電氣、同十四年十一月栗駒水力、昭和二年三月黒澤

尻電氣、同十年十月東盤水力電氣會社を相續ぎて合併し、資本金六百三拾萬圓に達して絶大の躍進を遂ぐるに至りたり。

昭和三年、偶々宮城縣より同縣内に於ける電氣事業一切の買収交渉に接するや、萬難を排し、遂に同年十月之れに應諾し、同縣下に亘る電氣事業の分離を見るに至りたるを以て茲に資本金を減額し、金二百十二萬九千九百圓とせり、而して、同一年一月黒澤尻電力、同九年十二月鳴江電力の兩社を合併し、更に資本金四百七十三萬七千四百圓となしたり。尙當社現在の供給區域は、岩手縣南五郡六十九町村に亘り、電燈取付燈數七萬六千七百七十八燈、小口動力一千五百九十六馬力、大口動力常時三千六百八十キロワット、特殊二千四百十キロワット、融通一千キロワットに及ぶ隆昌振りを示し、加ふるに舉社一致社業の發展に努力せるの結果、社礎愈々盤石の重きを加ふるに至れり。

取締役社長 小林 久治

明治十一年一月長岡市小林傳作氏の令弟として生る。同廿一年分家し一家を創成す。同三十五年京都帝大電氣工學科を卒業し、東京電燈株式會社に勤務し、同社技師として渡米し、二ヶ年に亘りて斯業の見學に從ひて歸朝す。後ち同社を辭し、栗駒、石巻、鳴瀬川、東北各電力



會社の社長たりしが、合併に際し衆望を擔ひ、東北電燈株式會社の社長に就任し以て今日に至る。爲人極めて温厚にして資性頗る英敏、誠に典型的紳士として、衆庶の敬仰を受くること厚し。

專務取締役 米倉清五郎

天賦理非曲直感の熾烈なる硬骨漢たる反面温柔敦厚の士たり。

東北電燈株式會社社長並に小林社長と米倉專務

り。岩手縣下に於ける名望家として夙に信認を擔ふ。當地方の名譽職に推舉されて盤旋すること事屢々あり、殊に石巻町長として、その手腕を發揮して、多大の實績を博せしが、後ち轉じて事業界にその曠足を伸し、麓に石巻製氷冷蔵、東北電氣取締役石巻日日新聞社長等に推されたり。
(所在地 岩手縣水澤町)

事業家 荻村龜太郎

七轉び八起きの人生双六は、單に人生の變轉常なきを現すに非ず、複雑にして多難の人生航路に只一筋の光明を求め實踐躬行以て克く最後の勝利を與へる最大最高の努力決行の入血を絞る至難困苦の鐵壁を克服踏破する凡庸の語るに易く、行ふに難き畢生の努力を意味せるものなり。然かあらん、眞に之を擊破突入せし幾多の成功者の辛酸は筆舌の克く物しがたき努力の結晶は、吾人處世の大道に輝く榮光として、今更の如く其偉大なる血涙史に調へらるゝ至大なる迫力を認めざるを得んや。茲に人あり、蓋し荻村龜太郎氏の如き正に之が權化にして、何人も氏を語るに絶讃を惜まざらん。今や名實共に功なり名遂げたる榮光に輝く氏は、その血涙に色どられたる困苦の結晶に隆々盛業天下に飛躍しつゝある合名會社荻村龜太郎商店代表社員にして傍ら東京セルロイド商工組合顧問並に、東京小間物化粧品卸商同業組合評議員たり。其存在は錚々として斯界に重きとなし信望の行くところを知らざるものとして、斯くして七轉び八起きの人生双六に師長と仰がれ、其苦闘史の實に波瀾高丈たるには何人も感嘆するものな

り。氏は明治八年信濃國木曾の清流の邊に生れ、大望を抱いて二十四歳の時上京す。僅少の資本を以て日本橋區馬喰町三丁目橋竿等の小間物類の製造並に販賣を始めたると云ふも、其の營業の苦難たりや、未知の地に而も大商店を向ふに廻して氏の奮闘は文字通り寢食を忘るゝ態の努力なりき。然れ共氏はよく力闘したれば、商取引は漸次好調を來し、明治三十六年より從來の小間物類の外にセルロイド製品の加工を開始したるにその技術好評を博して、之をセルロイド専門商となし、益々業務を伸展し漸く業礎の確立を見たる時、偶々彼の關東大震災に遭遇し、折角の築き上げたる店舗の總てを灰燼に歸せしめたり。然れども氏の獨立自尊の鐵心は再び燃え上り、大勇猛心を揮ひ起して、再び第一歩より踏み出すを決意、淺草柳橋の住宅を營業所となし、復興の荊中に立ち上られるなり。辛酸苦闘漸く業績の活況を見るに至りたる時、再び天魔の襲ふところとなり、かの金解禁は氏を深谷に突き落とし、事業は再び救ひ難き窮狀に陥れり。この時氏は死さへも考へたれ共、斯の如き荊棘の中において、克く訓練に打ち勝ち、心底より叫び出でたる勇猛心に決然として立ち上がり、辛酸苦闘を續くること十余年、遂に氏の今日あるを得たるなり。氏の常に云ふ『金剛石も磨かずば光なく、風雲を經ざれば

春光を仰がず』と。資性高邁にして高潔、仁俠にして情誼に厚く、而も意志鞏固にして一旦志す所は萬難を排して之を貫徹せざれば已まず、氏をして今日あらしめ、帝都新業界に重きをなす又故なきに非ず、氏は又夙に時代風潮に醒め、當時汽車の途中下車の制限を不便となし、之が何れの小驛たりとも、可能ならんか、社會大業は勿論、中小商業者の至便甚大なるを痛感、時の濱口内閣當時之を當局に訴へ、遂に今日の如く自由下車を可能ならしめたる實に氏の致したるところにして、又昭和八年芝の協同會常務理事吉田茂氏を知るに及び小店法の必要を説き、其の共鳴を得たるあり。氏の運動よく興つて、今日の小店法制定を生むと云ふも過言にあらず、其の及ぼすところ自己繁榮のみに止まらず、廣く社會公共に思ひを致したるは、當代稀に見る偉材にして、終始一貫之れ努力に依りて生きたるは吾人の師表として賞讃に價する立志傳中の人と云ふべし。昭和八年全經營を擧げて合名組織に革めて、自ら代表社員に就任し、名聲高くセルロイド玩具、文房具、雜貨製造卸商として全従業員百余名を擁し、隆々たる盛業にあり、其の前途は正に洋々たるものあり。圓滿なる家庭には、はつ子夫人との間に三男三女あり、長女、二女は他に嫁せり。
(住所 東京市淺草區柳橋二ノ二二)

中央製鋼株式會社

富國の基は産業の發達に俟つと。就中鐵工業發展の程度は文化バロメーターなりと稱さる。由來鐵礦原産地に恵まれざる本邦に在りては、兎角斯業の不振を憂ひたるも、幾多先覺者の努力奮闘克く同業今日の殷盛を齎したるは論を俟たざる處、今や飛躍工業日本の名の下に製鐵製鋼業の發達進歩頗る著しく、業界數多の會社工場各々其の全能力を擧げて、生産に従事し、豪華絢爛たる業界相を展開しつゝあり。而して當大阪製鋼界に新興氣鋭の業勢濺りとして内容の確實、製品の優良なる代表的會社を屈指すれば、海軍省指定工場中央製鋼株式會社の燦然たる存在、正に逸す可らざるものたり。

抑も當社は資本金五十萬圓を以て、昭和九年八月二十六日に創立されたるも、其の沿革を尋ねれば、斯業黎明時代たる明治四十一年現事務取締役佐々木徳三郎氏個人經營にて、佐々木製鋼所を創業、鋼索鋼線製造販賣業を開始せるに發し、以來同氏の不撓不屈、専心斯業に努力を傾注せる結果著々業運隆興し、昭和六年には中央製鋼合資會社と組織を變更更に業務の一段たる擴張に伴ひ、株式會社に

改組すると共に舊工場を廢して現所に設備完全なる本社及工場を建設移轉するに至る。今や鋼索、鋼線、鐵線等の製造販賣を主たる營業課目となし、堅實無比の經營方針と多年の經驗、加ふるに近代科學の粹を執りたる技術界に好評噴々たるものあり。其の販路は陸海軍各工廠を始め、港務部、軍需部、建築部、各地鐵道局、民間各造船所、鑛山漁業土木建築諸會社は勿論、遠く南洋印度方面に輸出して日本製品の眞價を高揚しつゝあり。亦た彼の日新丸建造所要の鋼索を一手に引受け、見事之を完成なして、業界に慧星的存在を謳はれ、一躍牢固不拔の地歩を確立す。而かも業勢愈々旺盛なる處、將來の雄飛發展火を賭るより明かならん。因みに工場敷地二千坪、機械工場千九百坪、製造能力年産三千三百噸技師二名、技手三名、職工常時二百名を擁し社長木村敬二郎、専務取締役佐々木徳三郎、顧問海軍大佐藤澤輝藏、技師長相川勝太郎氏等の指導下に全従業員一致協力、能く工業報國を念頭に邁進しつゝあり。因に、佐々木専務は明治十二年六月香川縣人佐々木儀兵衛翁の二男に出生。冷顔快手而も堅忍卓抜の士たり。スワ子夫人は夙に淑徳を誦はれ、現に圓滿なる家庭には長男義徳氏夫妻と令孫あり。
(所在地 大阪府西淀川區野里町四三)

日本製鐵株式會社

輪西製鐵所

當所は明治四十年北海道炭礦汽船會社が、この地に六〇噸熔鐵爐一基の建設計劃をなし同四十二年七月に之が操業を開始せしに始まる。然るに操業早々種々の支障惹起し、僅か二ヶ月にして一時事業を中止するの餘儀なきに至れり。大正二年十二月道内産出鐵礦並に支那朝鮮産の鐵礦を原料として、事業を開始せるに前途に曙光認められ、大正六年二月北海道炭礦汽船と三井との共同出資にて資本金三百萬圓の北海道製鐵株式會社を組織して、その經營に當る。時恰も歐洲大戰の影響によりて鐵需要額に増加し、當社は多大なる好成績を擧ぐ。茲に於て資本金を一千五百萬圓に増加し、一日百二十噸の出鉄能力ある熔解爐三基を建設して事業の擴張を行へり。大正八年十二月株式會社室蘭製鐵所と合併して、資本金三千萬圓となる。大正十二年事業の合理化を計る爲めに炭炭爐並に副産物工場を新設翌年翌々年にはコッパース式炭炭爐完成、十五年に於てはタール蒸溜工場、ベンゾール蒸溜工場、硫酸工場等相次いで竣成し、昭和五年燒結工場の設立成る。昭和六年十月には輪西工場所屬鑛山及工場並に室蘭工場内平爐二



氏 吉 文 田 横

基及附屬設備を譲受け、新たに資本金一千九百萬圓を以て輪西製鐵株式會社創立さる。昭和七年以來事業界の好況に依り、生産設備の増設に着手し、第三第四の熔鐵爐の改築をなして年額二十四萬噸の製鉄能力を有するに至り、更に燒結工場、炭炭爐副産物工場其他の増設大いに擴張されることゝなれり。昭和九年二月資本金三億五千九百八十二萬一千圓の日本製鐵株式會社創立せられ、當社は鑛山及水力電氣關係以外の設備を擧げて、合同することとなり、日本製鐵株式會社輪西製鐵所と改稱す。尙ほ昭和十一年炭炭製造工場、第二燒結工場及び四二〇〇KW發電機完成。昭和十二年には日産三百五十噸熔鐵爐建設工事に着手す。現在工場用地十八萬二千坪にして、従業員總數一千餘名なり。規模大にして設備の優秀なるを以て、我製鐵界に於て、錚々たる存在たり。

隨西工場長 綾田 文吉 福島縣人横田徹氏の三男にして、明治十四年三月に生る。氏幼少にして穎悟、學業優秀にして明治四十一年東京帝大機械科を卒業す。三井礦山牧田環氏に資質を認められ、三井合名礦山部に招かる。三池炭坑電氣部、田川礦山電氣部主任に累進。氏熱誠を以つてその職に當り、部下の統理にも長じて實績頗る擧り、その將來を囑目さる。三井が北海道製鐵を起すに及んで、選拔せられて同社に入社す。氏は同社の設備の改善擴張に力を盡して功績あり。大正八年日本製鐵所と合併するに及び、製鐵係長技師となり、同十四年には輪西工場長に拔擢され日本製鐵創立せられるに及びても氏は工場長の要務に据えられて全權を託され、その手腕に期待されること大なり。

尙ほ氏を輔佐する人に庶務部長の湯川竹三郎氏あり。謙達堪能の士にして、社務に通ずること深く、又世故人情の機微にも理解ありて、圓轉滑達の性格と圓満なる常識と相俟つて人の欣慕を受くること厚し。

(所在地) 室蘭市輪西町

株式會社 竹菱電機商會

當商會は三菱電機株式會社の特約店にして

同社製作に拘る各種電氣機械器具の販賣をなし、事業頗る繁榮して業界に重きを爲せり。その創立は大正十五年四月にして、經營者に人を得て、その對策妥當適切、よく商機を捕へて逸することなく、年々多大の成績を掲げて飛躍的に躍進せり。昭和六年三月現在の名稱に改めて、内容に多大の刷新を加へ、大いに面目を一新す。その主要取扱品は三菱電機の製作に拘る電動機、電氣扇、電熱器、電氣ドリル、積算電力計、避電器、真空掃除器、配電盤、ポンプ、電磁閉閉器、電氣計器、電氣測定器具等なり。該社の製品は斯界屈指の優秀品にして、他社製品の追従を許さざるは周知の如く、近來の時局景氣の沸騰と共に、激増せる需要は擧げて該製品に集中し、從て當商會の取引愈々繁忙を呈せり。全國特約店中東京、大阪を除きて第三位の取引高を示し毎期多額の利益を擧ぐ。取扱品の優秀なると共に、當商會の信用頗る堅確にして、事業界よりは多大の好評を受け居れり。今後更に一段の躍進を爲すに至るべし。尙ほ當商會の重役陣を見るに、専務取締役木村富藏、取締役佐竹則翁、同野中昌雄、監査役甘粕勇雄の諸氏にして、何れも京都財界に銜々を以て稱せらる。

専務取締役 木村富藏 夙に東京電機學

校を卒業し、大正元年に日清電機株式會社に入る。當初工場に於て製作に従事し、孜孜として、その業に精勵すると共に寸暇を惜しみて研鑽に没頭し、多大の實績を擧げて首腦部より絶大な信頼を受く。後その材幹を見込まれて販賣係を命ぜられ、大いに活躍して、多大の成績を擧げ、社内にも重きをなせり。昭和五年同社を辭して、翌六年製鐵せられて當商會に入り、内容の刷新と業態の改善に手腕を揮ひて、大いに面目を掲ぐ。氏は頭腦明晰にして頭智萬才、沈着冷靜にして才氣煥發、群抜の手腕家たり。明治二十三年七月に生れ豊富なる經驗蘊蓄ありて、今後の活躍こそ刮目に値せん。

(所在地) 京都市下京區丸通線小路下

名 實 家 篠 崎 緣 吉

自己一切を没却せし、所謂將に將たるの偉材にして智德兼備、佐保二十餘萬市民の爲終始不惑全身全靈を捧ぐる、昭々乎たる鴻鶴たり。明治十六年八月名だたる舊家篠崎寛行翁の長子として、長崎縣北松浦郡中里村に呱呱の聲を發す。幼にして既に大器の片鱗を顯はし、竹外一枝の梅花の異觀ありて、郷閭裡に其の敏童を傳ふ。長ずるに及んで笈を塾

下に負ひ、同四十一年日本大學を拔群の成績を以て卒ふ。交友に其前途を語らず、黙々として桑梓に歸る、氏思ふに、我れ皇國享生の惠澤宏量にして無邊なり。幸なる哉、郡内は富強に恵まれたれば、之を開坑して以て國恩奉謝の微忱を盡さんと。直ちに鑛業に身を投ず。然るに事豫期に反して、苦悶辛酸幾春秋其間の苦行は血涙に依りてのみ綴らるゝ履史たり。然れ共鋼をも熔かすが如き堅忍卓抜の意念、不撓不屈の精神力は、克くこの難關を突破し、遂時業績を擧げ、神田炭礦の名治聞して異數の炭礦と爲る。斯くて好調を辿る折柄、大阪市所在靜礦業株式會社の渴望を享け諾して之に譲渡して百萬の財を築くに至り世人を垂涎萬丈たらしむ。然るに天稟報國の念篤く、而も寡慾恬淡の氏は、この巨富は私すべきものに非ずと爲し、倉庫として社會公共事業に捧ぐ。即ち佐世保女學校並に佐世保女子商業學校の創立是れなり。開營と同時に自ら校長に就任、傍ら教諭を兼ね、銳意育英の爲躬身す。兩費の費是は皇國精神を基幹とする結道の道場にして知徳、活動の温床なりと。爾來拮据孜孜現今に迫る。聖と謂はんか偉なる哉。曩に方面事業期成會の誕生を見るや、會長の任に就きて其の期成に努め、庶民金融機關たる庶民金庫信用組合理事長を兼ね。尙且つ佐世保市民の出馬意進を促されて

市會に立つ事既に四期に亘り、現に市會議長に推せられ、新興都市佐世保發展と、二十餘萬市民の幸福増進の爲、減私奉公に鏗骨し九鼎大呂の重きを爲せり。巷間傳ふ『稀世の國民的英雄は、我が篠崎緣吉氏なり』と。因に氏は現に日本赤十字社長崎縣支部議員、佐世保方面委員長たり。

(住所) 佐世保市保立町五八

日本精工株式會社

日本精工はベアリング製作界の巨峰をなす存在にして、その製品の優秀にして生産規模の大なる嶄然群岳を抜き、最新式を誇る新鋭設備と練磨研精せられたる最新技術を以て斯界に君臨せり。その製品はベアリング、スチールボール、ローラー、紡績用部分品、兵器部分品、諸機械及部分品、ベアリング、ベアリング、ベアリングは迴轉機械には不可欠の用品にして、一機械に十數個を必要とし、高速度電車、自動車、鐵道機關車、飛行機に頗る重要材料品たり。今後飛行機、自動車の製作工業の躍進多大に期待すべきものあり。将来の需要まことに刮目すべきものあり。乍併、本邦に於ける斯業の發展未だ充分とは云ひ難く、輸入防遏、自給自足

の確保をなす爲めに急速なる發展こそ焦眉の急務たり。最近に於けるベアリング需要高年額一千四百萬圓にして、そのうち國産品六百萬圓に過ぎず、而して當社の供給高四百萬圓を占む。當社は進取積極を旨となし、業界に一步を先んじ來れるが、今後の活躍こそ期して俟つべきものあり。その創業は大正五年十一月にして、その當初生産規模は僅々たるものなりしが、累次増資の後昭和九年上期八十萬圓となり、十年上期第二日本精工を併合して五百萬圓に膨脹し、十二年十一月帝國精工の合併に依りて、公稱資本金一千二百萬圓、(拂込五百萬圓)に増加して近時の發展まことに目覚しく、事業界驚異の的となれり。當社の工場は東京大崎、多摩川、神奈川縣藤澤兵庫縣神崎にあり。時局景氣の昂揚に依りて製品需要は多大に増加をなしつゝあるを以て神崎、大崎兩工場の擴張をなしたる上、更に多摩川に新工場を建設せり。斯くて利益金は多大の激増をなし、七年上期僅かに二萬圓の利益金を擧げしものが、八年下期十萬八千圓となり、十年上期二十五萬二千圓、十一年下期三十萬一千圓と著増し、十二年下期に至りては實に五十三萬四千圓に達せり。對拂込資本利益率三割二厘に對し、一刻配當を踏襲せるを以て、内部愈々充實を加へり。當社の製作高は期を逐ひて増進し、十二年下期に於

ては二百四十七萬九千圓に上り、前期を凌駕すること十七萬九千圓にして、次期繰越高五百萬圓を突破せり。需要先は主として軍部に

して、民間方面よりの需要も目を逐ひて増加しつつあり。當社は今後の需要増と輸入防遏の爲めに設備の擴張に大いに力を盡くせり。多摩川工場に於ては新たに六千坪の地を購入し、既に第一期工事は完成して目下諸機械の据付中にして、又藤澤町にスチールボール専門工場を新築し、十三年春より操業の開始を見たり。更に大崎工場に於ても設備の擴充をなし、ローラーベアリングの製造能力増加の爲めに設備の新設、改善を行へり。斯くしてこれが竣工して操業を開始するに於ては、社業更に一段と躍進を見るに至るべし。ベアリングの事業は精密なる技術を要し、多年の研究を積める外國品と對抗して當社が今日の地步を築くまでには、實に絶大なる苦心の拂はれし所にして、その斯界に盡くせし貢獻まことに没すべからざるものあり。されど、同品は未だ外國品の供給に依つ所多く、速かに自給自足を確立せざるべからざるも、當社首腦部の努力に依りて速からず輸入品は防遏せられ高らかに當社は凱歌を擧ぐるに至るべし。

當社の重役陣は社長高橋是賢、常務取締役多胡秀藏、取締役山口武彦、同近藤靜郎、同岸科政雄、同宮司謙次、取締役兼支配人安松俊雄、監査役杉浦宗三郎、同日置秀雄の諸氏なり。

社長 高橋是賢 天資高邁にして温恭謹厚、智能高敏にして徳操堅固、事業界に聲望赫々たる高橋氏は、先考高橋是清氏を髣髴せしむるものあり。明治十年三月呱呱の聲を揚げ、夙に學習院高等科を卒業して白義耳大學に留學せり。日本理化工業、滿洲化學工業社長たるの外、幾多の事業會社に關與して手腕を揮ひ、その高風冷く世人の仰慕する所たり。大正十四年製餅し、現時貴族院議員に列せり。

常務取締役 多胡秀藏 明治十八年島根縣に生る。頭腦敏密にして優敏利根、眞摯その職に勵精して多大の功績あり。當社の創立以來事業に參畫し、夙起晩寢して、奮勉砥礪一身を傾倒して活躍せり。その天賦の手腕に依りて社業年を逐ひて發展し、氏の名聲業界に重きをなすに至れり。人格清廉潔白にして温情に厚く、社員従業員に非常なる信望を博せり。

取締役兼支配人 安松俊雄 當社の樞機に參畫し、繁忙なる業務に携りて鮮かなる裁決を爲し、その敏腕を誦はれるが安松氏とす。

明治二十九年東京に生れ、大正七年東京高工を卒業す。學殖豊かにして蘊蓄深く、當社の技術の進歩向上の爲め日夜研精し、多大なる貢獻あり。少壯有爲の手腕家として前途を囑目せらる。

忠南金馬鑛業株式會社

戰時體制下に於ける金の持つ重要性愈々大を加へ、政府に於ても重要鑛物増産法及び日本産金振興株式會社法を制定して、産金獎勵に一段と力を注ぐこととなりしが、斯る非常時國策に對處して近時濠洲地の活躍を展開せるものに忠南金馬鑛業株式會社あり。當社は社業頗る將來性を有し、而も業礎の鞏固なる斯界の新鋭を以て稱せられ、今後の業勢の進展には多大の期待をかけられる所たり。所有鑛區は朝鮮に於ける砂金事業の先覺者前井太次郎氏の朝鮮全土を精査して、保有せし鑛區中最も有望なる二十餘鑛區の讓渡を受けしものなり。昭和九年六月資本金一百五十萬圓を以て創立せられ、昭和十二年下期には一刻の處女配當をなし、翌十三年三月大興産金を併合して、資本金二百五十萬圓(拂込済)に躍進し、其發展まことに顯著なるものあり。

役員湯川忠三郎、同有本國藏、同技師顧問工學博士日下部義太郎、常任監査役竹中倉之助、監査役細字榮の諸氏あり。

取締役社長 松方正雄

氏は明治維新の元勳として名聲一世に高き故公爵松方正義氏の四男として明治元年五月を以て生る。天資高邁にして器局宏量、俊敏の才略と雄渾の氣魄を以て關西財界に聲望噴然たり。夙に米國ペンシルバニア大學に學び、後實業視察の爲めに英國に遊ぶ。浪速銀行頭取、福徳生命社長、加島信託、豊川鐵道各取締役を歴任、現時當社長たるの外、大福海上火災保險取締役大阪瓦斯、日本スピンドル製造所、堺瓦斯監査役、日本放送協會關西支部理事長等の要職にあり。

専務取締役 川島銀平

獻身的に業務に奮勉し、松方社長の良佐として社業の躍進に絶大なる貢獻ある川島氏は司法官の出身にして、夙に野に下り法曹界の麒麟兒として健名高し。當社創業以來至大の苦闘をなし、ベアリング及ドレッツチャーを自ら運轉する等、その苦心筆舌に盡くし難きものあり。頭腦明晰にして俊敏の商才を具へ、企畫は悉く奏功し快腕は何事も達成し能はざるなき、俊魁の士なり。豪腹にして膽斗の如く、英邁の氣格を

當社の最大の強味をなすものは鑛區廣く、鑛量豊富にして品位の優秀なることなり。即ち所有鑛區金馬川鑛區、大興砂金鑛區共に何れも朝鮮砂金地帯の中心地たる忠清南道に在りて金馬川鑛區は總面積四百三十餘萬坪、稼行面積二百五十萬坪に上り、中部富有地帯の含量を東拓に於て調査したる所、ベアリング採金一瓦三圓と見積り一立方碼三十五錢、従つて現在の價格を以て計算すれば一立方碼に付四十五錢以上となるが、當社が平均に含有地帯を掘鑿なす關係上一立方碼二十五錢見當と推定せらる。又大興砂金鑛區は面積約三百萬坪にして、ベアリングの施行をなせる部分約六十萬坪、ドレッツチャーの稼行をなすに充分たり。更に又氣候温和にして交通の便良く、金馬川鑛區の如き金馬川流域にありて京南鐵道の沿線に所在し、而かも季節的能率低下を見ること三割程度に過ぎず、且つ地表より基盤に達するまでの深度概ね十四尺より二十四尺にして砂金採取上頗る有利なる條件具はれり。他面諸施設に於ても優秀なるものありて當社所有のドレッツチャーは斯界の權威三泉工業の建造せしものにして、リップの如きは當社獨特の特徴を有し、之に依りて経費は三分の一に節約せられ、且つ又充分なる償却の行はれたるに依り價格頗る低廉たり。即ち、第一採金船は十六萬圓にして、バケット容量五

立方呎、掘鑿能力一ヶ月七萬五千立方碼を有し、第二採金船は七十萬圓、バケット容量十一立方呎、掘鑿能力二十萬立方碼、又第三採金船は五十五萬圓、バケット容量六立方呎、掘鑿能力十三萬立方碼にして、その價格の低廉なるは、業界の驚異とせらる。當社は之迄第一船の稼行能力の本格的ならざりしこと、將來に備へて償却に努めたる爲めに業績向上せざりしが昭和十二年七月高能率の第二船の操業を開始したるを契機として目覚しき躍進をなせり。即ち十二年下期には十八萬二千圓の利益金を擧げ、利益率二割四分二厘といふ好成績なるに對し、一割の初配當を附したるに依り、多額の利益金は内部に保留せられ、内容愈々充實を見ることとなり。昭和十三年上期より第二船全期間に亘りて稼行し、六月には第三の竣工を見るに依り業績愈々向上をなし當然増配は實現せられるに至るべし。當社の經營方針は頗る堅實を極め、償却に力を注ぐと共に固定資産に繰入るべきものも經費として支辨せるが爲めに、例へば砂金を採取せし跡の土地の如き全然資産勘定に計上せられざるを以て、之を農耕地として利用すれば、收穫物は悉く収益となるなり。近々増資斷行せられて、更に一大飛躍を遂ぐべく、當社の今後まことに洋々たるものあり。尙ほ重役陣には社長松方正雄、専務川島銀平、取締

備へ、他面温情に富みて義氣に依り厚く、部下より慈父の如く推敬せらる。
(所在地 大阪市東區高麗橋二丁目)

事業家 尾崎鐵之助

神都自動車交通事業の嚆矢として、聲望顯赫たる尾崎氏は、時流を抜く慧眼と卓抜なる才腕を以て業務に剋勉し、事業愈々隆盛に向ひて、近時その信望一段と高きを加ふ。氏は自動車事業經營に乘出す以前に、三重縣廳土木課に奉職せしことあり。嘗てエツチ・ジ・ウエルの將來の發見と題する講演の筆記を讀むうちに、將來の交通機關は自動車なりとの一句を見て深く感動し、遂に意を決して官界を退き、自動車の事業を起すに至れり。當時我國に於ける自動車交通事業は未だ草創期にありて、まことに幼稚なるを免れず、其數も亦極めて僅少にして而も汽罐の如き今日の精巧なるものと比すべくもなき有様なり。氏は明治四十三年五月奈良縣吉野郡下北山村の山口安次郎氏と相謀り、米國ホワイ、會社製十二人乗り蒸気自動車を購入し、自動車の營業を開始す。該自動車は石油を燃料とする水管式蒸気汽罐にして、機關複雑なるが爲め操車上頗る困難あり。苦心經營をなせしが、



尾崎鐵之助氏

後山口氏と分立して事業を營み、明治四十四年には自らボデーを考案して、宇治山田市山田驛より門宮に至る乗合自動車營業を開始す。之實に我國に於ける乗合自動車事業の嚆矢たり。然るに自動車は機關に故障發出して不評を招きたるにより、自ら機關部の研究をなして、これが改善を行はんとを決意し、斯くて京都に出でて日夜自動車の研究に没頭せり。後フォード號自動車五輛を購入し、新たに參宮自動車株式會社を創立して、再び乗合自動車の經營をなせるが、成績頗る好調を辿り大正六月二月名古屋に出張所を設けて運輸自動車經營に當る。大正五年にはこれを分離獨立して經營す。同年十二月宇治山田に新に神都自動車會社設立し運輸營業を行ふこととせり。十一年同業者の合同に依りて、伊勢自動車株式會社設立せられ、推されて専務取締役に就任す。後神都自動車會社をこれに合併して神都乗合自動車株式會社と改稱す

日本徵兵保險株式會社

我國徵兵保險界の雄嶺として、その名聲顯赫たるものある日本徵兵保險株式會社は明治四十四年十月に創立せられ、斯界の古參會社として多大の信用を有し、内容に業績に頗る優秀なるを以て夙に令名あり。當社は元千代田生命と共に慶應系の實業家に依りて創始せられたるものなるが、大正七年前山系資本の進出を見て重役陣の更迭と社業の大刷新行はれ、爾來面目を一新して契約高増進し、資産の運用又頗る巧妙を加へ、業績近來頗る向上るに及んで、氏は計畫部長を兼任して社務の一切を統理して今日に及ぶ。それより更に伊勢志摩國境に跨り風光明媚、眺望絶佳を以て開ゆる朝熊岳に莫大なる私費を投じて自動車道を開き、或は水道を敷設せる等種々の施設をなし、大正十五年六月には朝熊岳乗合自動車會社を設立す。既往畏き邊りの行幸に際して自動車御用命の光榮に浴したること再三あり。上記會社に關係する外、大日本乗合自動車協會理事、神都貨自動車聯盟組合常任幹事等の要職に就き、信望頗る厚し。因に氏は明治四十二年の出生なり。
(住所 宇治山田市宮後二丁目)

を見るに至れり。大正十年末に於ける保有契約高七千二百萬圓なりしが、同十三年には一億圓を達成し、爾後歷年増進を辿り、昭和十二年度期末契約高二億五千三百三十八萬圓、總資産六千八百六萬圓、期末諸準備金六千二百三十二萬圓に上り、社礎牢固として徴助だもせず、斯界の彩華たるの誇を志しましにせり。當社の斯る發展は一にその販賣せる保險種類の優良なると契約者の利益の爲めに萬全の方策を講ぜると、更に内容の充實に留意せるを以て世人より多大の信用を得たるが爲めなり。即ち、今日の如き非常時局下に於ては徵兵保險の必要は愈々痛感せられる所にして當社の徵兵保險に於ては出産後より満十五歳迄の男子ならば、最高二萬圓迄の加入をなすを得。之を以て何等後顧の憂なくして兵役の義務を服するを得て、而かも除隊後には獨立の資金に供せらるゝなり。又當社の生存保險は保險金の受取年齢は十五歳より二十五歳までにして、契約年齢は出産後より満十七歳、而して保險金額最高一萬五千圓と定めり。子女の教育に或は結婚に之を利用してまことに至便至利といふべし。當社の保險契約には一切體格検査を要せず。而かも保険料の低廉なる上に年々多額の利益金を割きて契約者に配當せり。昭和十二年度の如きは五十七萬圓の利益配當を行ひたり。その他數多の特徴を有

せるに依り契約者より多大の好評を得、契約高は年々逐ひて増進せり。昭和十二年度に於ける新契約は四千七百七十九萬一千圓に上り他方保險金支拂に於ては、被保險者死亡三百十萬三千圓、保險期間満了四百一萬四千圓となり、又解約消滅に於ては一千四百九十九萬圓に達す。斯くして純増加は二千五百七十七萬四千圓となり、純増加率(對新契約高)五割三分九厘に相當す。之を前年度に比するに金額に於ては一百三十三萬三千圓、又率に於て五分五厘の著増を見たり。同年度期末現在契約高は二億五千三百三十八萬六千圓に躍進して業界に萬丈の氣を吐けり。次ぎに運用資産の内容を見るに有價證券四千二百六萬圓、貸付金一千四百三十五萬一千圓、不動産六百四十九萬五千圓、預金現金三百四十一萬二千圓にして合計六千六百三十三萬二千圓となれり。運用資産中有價證券投資の約七割を占むるを見るも、當社の資産運用の巧妙なるを知るを得べし。當社の資本金は二百五十萬圓にして責任準備金五千七百七十五萬八千圓、特別責任準備金二十一萬圓を有し、内容甚だ堅確たり。昭和十二年度決算に於ては一百三十二萬二千圓の利益金を擧げ、特別準備金に十七萬五千圓を計上し、契約者の利益配當に利益金の半に近き五十七萬圓を割けり。以て當社の契約者の利益の爲めに如何に意を注げるかを

知るに足るべし。現時重役に社長足立莊、専務三宮西平、取締役前山宏平、同齋藤孝太郎、同廣田國吉、監査役武智直道、同鈴木威、同益田信世、相談役室田義文の諸氏なり。
取締役社長 足立 莊 當社創立以來その經營に執掌し、天賦の才腕を揮ひて多大の功績あり。社實的存在として、その聲望赫々たるものあり。明治二十五年慶應義塾文科を卒業して直ちに操縦界に入り、頭角を現して時事新報政治部長、編輯長等の要職に擧げられ、斯界にその文名を轟はれたり。當社の創立せられるや、懇望せられて經營の衝に當ることとなり、専務に推され、次いで社長の要職に就く。資性豪放磊落にして意氣快豁、蘊蓄深く經驗又遠大、業界屈指の偉材たり。
専務取締役 三宮 西平 熊本縣に於て明治十八年四月呱呱の聲を揚ぐ。郷費を了ふるや父を負ふて上京、東京物理學校に入る。學校教師、海軍技術本部等に歷勤、大正五年當社に入り、大いに頭角を認められて簡拔せられ、取締役となり次いで現職に擧げらる。頭腦俊敏にして犀利緻密、眞摯熱直業務に淬勵し、その貢獻する所鮮少なからず。人格廉直にして仁情に富み、上下の信望甚だ厚し。
(所在地 東京市町區内山下町二丁目)

精進士

中松盛雄

帝都法曹界に於ける元老的存在にして、人格識見共に卓越し、謙厚にして清廉而も能く時勢を洞察し、人情の機微に通じ、幾多の難事件をも快刀亂麻を斷つる超塵躰を下し、其の崇高なる人格と共に聲望と地位の動かざるは我が中松盛雄氏ならん。

永年官界にありて其の特許局長としての閑歴手腕は斯道事務の最高權威と云ふべく、現時丸之内に辯護士、辨理士として中松特許法律事務所を主宰する傍ら、日本共立火災保險取締役として亦た帝國飛行協會監事として或は公共事業界に錚々たる存在と明敏卓絶を謳はれつゝあり。

而して、中松氏の今昔ある源泉を尋ねるに、和歌山縣土族中松克正翁の二男として慶應元年十月を以て、呱呱の第一聲を擧げたるに始り、武士道的訓育に生長したる氏は幼にして官界立身を契ひ、切磋勉勵を續け、遂に其の榮雲の功なりて明治二十四年東京帝國大學英法科を抜群の成績を以て卒業するや、直ちに農商務省特許局に入り、爾來累進して審査官參事官、事務官を経て特許局長となり。名局長として令名を馳せしも大正元年には官を

辭して中松特許法律事務所を開設して今日に至る。

官に在りては穩健忠實なる名官吏として、上下の信望を一身に聚め、又出で、社會諸般の法律事件に接するや、名利を離れ一意職責に邁進せらるゝ氏の如きは一人個人としての名譽たるのみならず、公人としての後進の規範たる偉大なる人物と云ふも過言にあらざるところなり。

資性濃厚篤實にして人情味に厚く、而も辯舌の雄大を以て正義人道に立脚せる正論は、人を動かす、邪を捨て義に生きるの信念を以て事業に活動せる正に氏の非凡卓抜の人傑たるは自ら首肯し得るところなり。

今やわが帝都法曹界の重鎮として重きをなすのみならず、人間中松の名と共に世人の信望高くするところにして、氏を訪ねて其の處斷を仰ぐもの數を知らざるところなり。

(住所 東京市大森區新井宿四ノ一三〇九)

北織製作所

當社は高級ジャカード機、高級ドビー機、高級ビアンマシオン紙穿孔機、其他織機用諸機械、機械織用品並に材料の製造販賣及直輸入を営みて、その製品の優秀卓抜と規模の

て、其の偉名は金饒城下に於ける業界を畏怖せしむるのみならず、餘力を馳けて東京に支店を設置するの盛況を誇り、今や宮崎賢一郎氏の一舉一止は業界人の等しく重視するところとなれり。

は使用ジャカード機の優秀に拘るなり。斯くして優秀を以て定評ある當社製品は、日と共に注文大いに著増せり。當社に於ては夙に紋織相談部を設け、無經驗者に對して、ジャカード機の選擇、その据付法、その他紋織に關する一切の相談に應じ、且又意匠、圖案、紋紙、綜統等の調製の引受けをもなして甚だ好評あり。需要の増加に依りて毎期非常なる好成绩を擧ぐ。大正六年十月合名會社として改組せられ、現時資本金十萬圓たり。

代表社員 北織喜三郎

明治十三年四月北織萬助氏の長男として生る。資性濃厚實質極めて周徹の注意力あり。意志剛堅眞摯重厚の氣風を備へ、而も人に接する時、謙仰にして溫和に笑を湛へ、春風駘蕩たるものあり。天稟の手腕は縦横に發揮せられ、事業愈々隆盛を見るに至れり。

(所在地 京都市上京區紫野南船岡町)

事業家

宮崎賢一郎

現に白林商行合資會社代表社員並に白林ブライワード株式會社取締役社長に就任し、堅實無双の手腕を揮ひ、南洋木材直輸入、ベニヤ板製造輸出販賣に眞摯熱誠を捧げつゝあり

當社を以て夙に新界に馳名高し。明治二十七年始めて事業を起して以來、歲月既に四十餘年。多年の経験と、幾多の研究を基礎として製品には不斷に改良を加へ、その長足の進歩ことに顯然たるものあり。既にジャカード機及びドビー機に關して、幾多の特許權、實用新案權を獲得す。これを専門機に應用し、頗る秀抜なる効率を擧げ、噴々たる好評を博せり。その製品は學理と實際とを巧みに應用せる獨特の機構、精密熟練せる工作技術、完全優秀なる性能等他に比類を見ず。ジャカード機は北織式に限る」との絶讃湧くが如し京都府知事、帝國發明協會等より表彰せられしこと數多あり。當社の製品を使用せる工場は、内地、朝鮮の各機業地より支那、印度等の海外諸國にまで及び、その需要甚だ旺盛なり。既に絹、人絹、綿、毛、麻、各種織物の平無地、縞、綾、緞等單純なる普通物は内地向、輸出向何れも行詰に達着す。今後は有望なる紋織物に向つて邁進すべきなり。紋織物は内地向、輸出向共に販路廣く、原絲代は普通物と變りなきに拘らず、その價格は普通物より遙かに高價たり。紋織如何に有利なりとするも、二三流ジャカード機を使用しては故障頻出して能率上らず、人件費を多く要して、優秀なる織物を製産し得ず有利なる紋織事業も失敗の外なしとす。されば紋織事業の盛衰

空社を以て夙に新界に馳名高し。明治二十七年始めて事業を起して以來、歲月既に四十餘年。多年の経験と、幾多の研究を基礎として製品には不斷に改良を加へ、その長足の進歩ことに顯然たるものあり。既にジャカード機及びドビー機に關して、幾多の特許權、實用新案權を獲得す。これを専門機に應用し、頗る秀抜なる効率を擧げ、噴々たる好評を博せり。その製品は學理と實際とを巧みに應用せる獨特の機構、精密熟練せる工作技術、完全優秀なる性能等他に比類を見ず。ジャカード機は北織式に限る」との絶讃湧くが如し京都府知事、帝國發明協會等より表彰せられしこと數多あり。當社の製品を使用せる工場は、内地、朝鮮の各機業地より支那、印度等の海外諸國にまで及び、その需要甚だ旺盛なり。既に絹、人絹、綿、毛、麻、各種織物の平無地、縞、綾、緞等單純なる普通物は内地向、輸出向何れも行詰に達着す。今後は有望なる紋織物に向つて邁進すべきなり。紋織物は内地向、輸出向共に販路廣く、原絲代は普通物と變りなきに拘らず、その價格は普通物より遙かに高價たり。紋織如何に有利なりとするも、二三流ジャカード機を使用しては故障頻出して能率上らず、人件費を多く要して、優秀なる織物を製産し得ず有利なる紋織事業も失敗の外なしとす。されば紋織事業の盛衰

代表社員に任ず。業況逐次軌道に乗る。大に白林ブライワード株式會社を設立し、取締役社長に就任す。前社を以て新興南洋木材の直輸入を營み、後社に於て同木材の普遍的需用を旨してベニヤ板の大量製産を爲して今日に迫り。現に整備成れる白林商行合資會社第一工場を中區に、第二工場を熱田區に設置し、白林ブライワード株式會社工場を別に建造し以て合理的生産に邁進しつゝあり。

(住所 名古屋市中區伊勢山町九六)

日本畫家

菊池契月

現代日本畫界の權威として優越の地歩を築き、其の入神の畫才を天下に轟はれ、帝國藝術院會員、帝室技藝員と日本畫壇に於ける最高名譽を獲得し、清方、五雲、青柳畫伯と號して「七藝會」のメンバーたる我が菊池

契月畫伯は又斯界の大神所芳文畫伯の第二世（實嗣子）として當代以上の偉大なる足跡を印しつゝある、我が日本畫界の最高峯を行く雄嶺にして、聲望噴々たるものあり。

師は木名を完商と名乗り、信州野野野太郎氏の二男として、明治十二年十一月を以て同縣下高井郡中野町に生れ、十七歳の春兩親



契月畫伯の反對の押し切りて上落、翠年の芳文の弟の筆子と

以來寢食を忘れて畫道に精進したれば、其の天稟の畫才は早くも現はれ、二十一歳にして、新古美術展に聖徳太子を出品し、三等銅牌を獲得したり。

師はその當時を語りて曰く、「私は遅生れで徴兵検査を二十二で受ける爲め、どうしても來年郷里に歸らねばならない、その矢先にはじめて作品が認められたのだから、あの時の嬉しさは生涯忘れられない」と、述懐せしが

果せるかな、其の翌年より實家との諒解なり畫伯は自由の天地に研鑽を續け日ならずして芳文畫伯の認むるところとなり、同畫伯の長女あき子嬢を娶り、その養子となるに及び、益々畫才は發揮され畫伯の文藝時代に於ける躍進ぶりは目覚しく、鑑査を受けし八回のうち、二等賞五回、三等賞二回の拔群の成績を示し、前期にて櫻谷、後期で松園の兩大家が辛うじて匹敵せしのみにて、若冠三十八歳にして制定最初の推選となり、次いで四十歳には早くも審査員となり、翌年の第一回帝展に引續き、帝國美術院會員に擧げられたるは實に伯の四十七歳の時なりき。

芳文畫伯は花鳥畫の大家なり、然るに契月畫伯は人物畫に於て、その高雅なる畫格を誇り、其の代表作品「名士弔喪」「愚者の量」「鐵鑿騎騎」「庭の池」「水汲む女」等と共に、其の絢爛にして異色ある筆趣は到底他の追隨を許さざるところなり。

資性濃厚にして、而も玲瓏玉の如き人格を有し、常に犠牲的精神を披瀝しつゝあるところ、典型的紳士として益々聲名を擡ひつゝあるも、又偶然に非らざるところにして、現時帝國美術院會員にして、市立京都繪畫專門學校教授に任じ、從四位勳六等たり、曩に歐米各國を巡遊す。

(住所 京都市上京區平野鳥居前町)

株式 七十七銀行

宮城縣香東北地方に於ける屈指の大銀行として、同地方金融界に巍然として君臨せるは、七十七銀行なりとす。公稱資本金九百萬圓内拂込資本四百四十萬六千圓に達し、内容堅實にして、業績又頗る優秀なり。商工業の發達の爲めに金融上あらゆる便宜を興へ、更に合同して一大銀行となりたる後と雖も、中小商工業者の爲めに、金融的援助を惜しまず、東北財界に貢献する所大なるものあり。現在支店四十二ヶ所、出張所三十八ヶ所を數ふ。その重役陣容の顔觸れを見るに取締役頭取大庭經之輔、副頭取氏家清吉、専務取締役中村梅三、常務取締役木村清五郎、取締役兼支配人山田萬七氏を第一線となし、その下に總務部長鈴木長壽、營業部長坂井二郎、計算課長中目英作、庶務課長菅野直七氏等の鑄々たる閣將あり。

取締役頭取 大庭經之助 氏は宮城縣栗原郡切つての素封家にして、多額納稅者たり。人格圓滿にして濃厚篤實、眞に人の長たるの風格あり。謹嚴至誠の天資には夙に衆庶の仰慕する所たり。

専務取締役 中村梅三 當行の今日見る

が如き隆々たる躍進は、前頭取故伊澤平左衛門氏の徳望と、氏の秀拔なる手腕によるは衆説を俟たず。氏は明治九年廣島縣に生る。夙に東京帝大に學ぶ。宮城縣事業界に盛望高く、仙臺商工會議所會頭に推さる。當行の營業方針に對する批判を廣く商工業者に求め、これをパンフレットとなして各方面に配布し、或は五ヶ年計畫を樹立して當行の發展を計る等その經營に幾多の新機軸を出して財界の眼を聳む。氏こそまさに當行の至寶と云はざるべからず。

(所在地 仙臺市大町四丁目)

大鐵百貨店専務 猪飼九兵衛

大阪市は本邦經濟界の一大中心地にして、商工業頗る發展を極め、一流銀行、會社、商店等軒を並べ、街衢の雜鬧織るが如く、多大の繁華をなせるが、去る昭和十二年七月開店せられたる大鐵百貨店は大鐵百貨店界に異色を有し、大阪各層に早くも非常なる好評を博し、開店草々にして顧客蜂散蟻集をなすの盛況たり。同百貨店の専務取締役として快腕を揮ひ、幾多の創意ある經營方針を採用し、業界に新機軸を拓開して嘆服せられつゝあるが

猪飼九兵衛氏なり。氏は頭腦俊穎にして用意周到頗る思慮深く、慎重に對策を凝らして俊勇斷行するの風あり。慧敏なる觀察力を有し、その認識は常に時流を抜き、行動又人に一歩先んじて、劇甚なる商戰場裡に於て赫赫たる成功を遂げ關西財界にその頭材を轟る。氏は實業界に於て素志鞏固を以て知られ、夙起晩寢して業務に傾倒し、八方馳驅して席の温まるに遠なき有様なり。大阪府人猪飼徳兵衛氏の長男として明治十五年四月に呱呱の聲を揚ぐ。夙に猪飼九兵衛氏の養子となり、前名九十郎を改名して襲名す。明治三十三年大阪商科大学の前身大阪高等商業學校を卒業し、後事業界に身を投ず。天賦の材幹は大いに砥礪せられ、才腕年と共に精彩を加へ、事業界に嶄然頭角を現せり。壽生命保險専務取締役の要職に推され、更に箕面土地取締役に列し、群抜の手腕を揮ひて多大の貢献あり。

後大鐵百貨店の専務に選出せられ、現に神國海上火災保險、播磨貯蓄銀行各取締役等を兼ね、關西財界に聲望顯然たるものあり。資性濃厚篤實にして實業堅確、日常生活頗る謹慎を極め、至誠至直以て業務に當り、心性典雅にして襟度寛容、眞に財界の典範たるの士たり。部下に對しては慈父の如き温情を以て接し、之が指導訓育に力を盡くし、師父の如くに敬重せらる。氏は尙ほ日本放送協會關西

日本通運株式會社

略して「日通」と呼ぶ。當社は昭和十二年四月五日法律第四十五號を以て、公布されたる小運送業と共に其姉妹法として法律第四十六號日本通運株式會社法に依りて、設立を見たる半官半民の特殊會社にして、資本金三千五百萬圓を擁せり。

由來我國に於ける小運送業（所謂運送業）は自由營業として、放任せられ來りしが、業者簇出して不當の競争を生じ、國民生活上にも大なる悪影響を齎らす所より、小運送業法に依りて、之を免許制度と爲し不當の競争を緩和し、業界の向上を圖ると共に作業の圓滑を期する事となり、同時に日通は之等小運送業者間の債權債務の決済、貨物引換證の整理保證等を統制し、更に進みて小運送業の助長支援に、或は國家有事に備ふべく平素より計

畫、訓練に努力する等、業界改善を目的とし公益的性質を以て生誕せる統轄會社たり。即ち國際通運、運送計算所、帝國運送計算保證明治運輸、久運、北海道運送保證計算、丸同明治計算保證の諸株式會社を現物出資の形式の下に打つて一丸と爲し、當社の設立を見、爰に國內に於ける小運送業は一切當社の下に統一せられたるものなり。而して當社の事業はA小運送業者の取引より生ずる債權債務の決済に關する事業、即ち小運送業者間取引上より生ずる債權債務の決済は業者の活動に一日も缺く可らざる施設なるが、業者は従來前掲の通り各地に存在せし數種の計算會社に據りて決済し來りし不便と冗費とを省きて、小運送費の低減を圖るべく、爰に計算機關の統一を見たるものなり。而して其取扱高は年六百萬圓に迫り、其金額は實に一億圓を超えて業界唯一の計算機關となれり。B、貨物引換證は當社が保證整理を行ひ、着扱店が取扱の處置を誤りて運送品を證券と引換に依らずして、他に引渡したる爲、發行店より證券所持人に其損害を賠償したる時は、當社は更に發行店の損害を填補するものにて、又普通引換證は普通整理のみ行ふものなり。それ故に貨物引換證の用紙は一切、之を當社が調製、供給せるものを使用せしめ、各加盟店の任意

作成を認めず、斯くして各加盟店の貨物引換證の發行より回收迄を監督し、整理し且つ助成指導に努めて以て荷主並に金融業の安全を保證しつゝあるが、其發行通数は年二百萬通に及び額面金額實に二十億圓に達せり。C、小運送業の助成に必要な事業。D、小運送業及之に附帯する事業。

鐵道省が小運送直營の一方法として、昭和二年十月より、特別小口扱として實施せられしを昭和十年十月之を宅扱と改稱され、鐵道輸送のみならず、其與貸、配達をも取扱ひ所謂「宅から宅へ汽車便」の標語の如く、戸口より戸口迄の運送を實現せり。當社は右宅扱貨物及日滿連絡小口扱貨物(日滿宅扱)の集積、配達作業を一手に請負ひ、全國一驛一店の指定店に下請せしめて、其監督を爲しつゝあり。尙ニテナーの集配、手小荷物の配達作業等鐵道關係の諸作業の請負も爲せり。而して此等の取扱高は年三千五百萬圓、三百萬圓に達し請負金額一千萬圓に垂れんとす。此他陸軍の兵器軍需品輸送、大藏省專賣品輸送、諸官公署の物資輸送、又は全國購買聯合會、全國販賣聯合會の委託品、民間諸會社百貨店の商品等の輸送配給を請負ひ、直接作業し、或は間接即ち指定店等に下請して取扱ひ居れり。殊に陸軍軍需輸送に對しては、有事の際に備ふべき平素の企畫と訓練に努め

つゝあり。以上の如く全國の加盟店たる小運送業者と提携して、全國に運送網を張り、一億萬圓に及ぶ鐵道輸送貨物及其他陸上運送の連絡上、萬全を期しつゝあり。支店、回酒店又は主なる加盟店、指定店には、驛構内或は驛附近に堅牢なる倉庫を備へて倉庫業を兼營しつゝあり。尙臺灣に於ける事業に就ては、内地臺灣間の貨物運送は臺北市に支店を、全島に亘りて九支店、十一の出張所、其他派出所、出張員を諸所に置き、大阪商船、近海郵船兩社の專屬店として専ら取引連絡上遺憾なきを期しつゝあれば、内地臺灣間連絡運送貨物は勿論、臺灣各地間に於ける貨物運輸も實に至便となるに至れり。當社の事業は大綱前叙の如く、この他事業の一部として、全國重要都市の指定店四十八店に投資し、其株數三十三萬株、總額一千六百萬圓、其他海運關係會社投資額は三社一萬五千株、三十七萬圓及臺灣高雄州トラツク運輸會社に對し一萬二千株、二十萬圓にして其配當は平均年六分に達し居れり。因に當社役員は何れも新業界の錚々たる人物を網羅せり。即ち、社長國澤新兵衛、副社長村上義一、理事吉田政三、同安座上眞、同山下雅實、同神山政良、同村田省藏、同大谷登、同富永福司、同原熊吉、同酒井清兵衛、監事五十嵐明、同佐藤雄能、同渡邊久三郎の諸氏なり。

副社長 村上義一

我國交通運輸業界に盡瘁することを天命と爲し、尊き半生を新界に捧げつゝ今や鐵道運輸の大宗たる當社副社長の要職に推せられたる巨材にして、その將來を嚆矢するも多大なり。明治十八年十一月、古來聖賢を生む滋賀縣に出生。父君を村上米三郎と云ふ。天分賢明にして堅忍卓犖なり。長ずるに及んで東京帝大獨法科に學を修め、同四十五年技師の成績を擧げて之を卒業す。高等文官試験に合格して直ちに仕官を志し鐵道院に入る。鐵道書記官旅客課長、大臣官房文書課長、鐵道大臣秘書官、神戸鐵道局長、大阪鐵道局長等に歴任す。其間實に二十年。昭和五年七月惜まれて官を辭し、滿鐵に轉じて理事兼鐵道部長に推さる。其間二年間に互り露國と雜件の衝に當り、生命を賭して交渉の結果、遂に之れを解決し、多大なる功績殘したるは未だ記憶の新たなるところなり。同九年七月任期満了と共に退社す。而して氏の行履を顧るに聊かも權謀を用ひたる痕跡なく、又些々たる僥倖の點なく、徹頭徹尾常道を致々として踏み來たる。義に當社設立さるゝや推舉されて副社長たり。國澤社長の良佐として適任を蒙る。必らずや新界に爲すところあらん。因に氏は傍ら帝國鐵道協會理事たり。

(所在地 東京市麹町區丸の内郵船ビル)

河原町會館經營主 近松辰治郎

京洛の繁華街、河原町の中樞に忽然と出現して、衆目を驚かしめたる撞球場「河原町會館」は、娯樂の殿堂として人氣を博し、非常なる盛況を呈しつゝあるが、之れが經營者たる近松辰治郎氏は硬骨漢として、又慧星的人物として一般より驚異の目を以て迎へられ居れり。

氏は京都の人にして、明治二十六年三月を以つて生る。京都一中卒業後、上京區五千本通りなる生家に於て母堂を扶けて職業紹介の業に従事したるが、資質豪放磊落にして武道の業に携るを好まず、種々考慮研究の結果職業を企圖するに至れり。而して其企畫の勤機に就て、氏の語る所に依れば、各種競技にして、武道に關聯せるもの尠からざる中に撞球の技は尙愉快活にして、時代の趨勢に徴し尤も理智的のものと認め、武道の精神を以て一般に之を行ふ様の習慣を作らんと欲して、現業實現の緒に就けるものなりと云ふ。氏の最も長ずるところは劍道と柔道にして、ともに在學當時より有段の腕前と諷はれ、各種運動競技に於ても人後に落ちざる優秀の記録保

持者たりしが、卒業後も各方面に活躍して體育界に貢獻するところ尠からず、昭和初葉頃拳闘勃興の兆漸く顯著ならんとするや、最も有効なる運動と認め進んで之が獎勵に當り、自費を投じて京都市に拳闘俱樂部を設置し、多くの青年を聚めて、之れを習得せしめ、自らもグローブを手にし率先して猛練習を續け大に斯道の普及發達に資するところあり。遂に京都拳闘協會會長並に京都平安十六夜會競技委員長に推され、後進子弟の指導に當り、現今は京都に於てのみならず、關西拳闘界の重鎮として推重せられ名聲噴々たり。而して氏は現時の非常時に鑑み國防の最大緊急事たるを痛感し、我國の國防に關する一般民衆の理解を徹底せしめ、殊に航空思想の發達を計らんが爲に、年來私に企畫するところあり、偶々日支事變の勃發するや、自己經營の河原町會館の収入の大部分を割きて國防費として献金するの意圖を抱き、日夜大に努めつゝあるは洵に畏敬の極と謂ふべし。

(住所 京都市中京區河原町通六角南入)

事業家 吉田政一

製陶事業に身を投じて多年、その豊富なる經驗と識博なる蘊蓄を以て中部地方に開ゆる

が吉田氏なり。幼少より感性頗る繊細にして手藝に深き憧憬を抱き、夙に東京美術學校彫刻科に入りて明治四十年同校を卒業す。同四十二年五月に至り、日本陶器會社より招聘せられて入社せり。氏は眞摯その職務に當り、幾多の新型式を創案し、新技術を考究する等同社の爲めに貢献すること大なり。その誠實なる態度と倦むことを知らざる研精は首脳部より大いに囑目せられ、又その卓抜なる藝術的天分は甚だ重用せられたり。殊に技師長飛鳥井氏は氏を愛すること深く、極力これを推挙す。後飛鳥井氏日本陶器を或事情に依りて辭職したる爲め、氏も亦袂を連ねて行動を共にし、次いで飛鳥井氏帝國製陶所を創立したる依り、氏は欣然としてこれに馳参んじ、飛鳥井氏を扶けて同所の發展の爲めに粉骨碎身す。帝國製陶所は創業當初の難局も難なく切り抜け次第に事業は發展に向へり。茲に於て名古屋製陶所と名稱を改め、更にこれが飛躍に全力を傾く。吉田氏は寢食を忘れて製品の品質向上に、技術の改善に心血を注ぎ、相次いで新案を案出す。當社の製品は頗る優秀なるに依り、販路日に日に擴大せられ、需要亦大いに躍進するに至れり。工場設備は年を逐ひて擴張せられ、名古屋製陶所は東海屈指の優良會社として、斯界に多大の信用あり。現在吉田氏は名古屋製陶所技師兼千種弦月工場

長として活躍し、現在同社の柱石たるの概要位置を占む。製陶業に關する深遠なる知識と蘊蓄は既に業界有数の權威者として名望高し。資質温恭にして篤實。寡慾恬淡、名利に超脱せる人格者として人の深く敬仰する所なり。明治十四年七月島取縣東郡吉田町に於て吉田元藏氏の長男として生る。美術工藝を趣味となしその方面の造詣まことに深し。

(住所 名古屋市東區百人町三)

株式會社 金子組

我が株式會社金子組は、西日本土建界に慧星的存在を顯はるゝ斯界の重鎮にして軍港佐世保を根據地に九州に亘り事業網を擴大し、陸海軍を始め、諸官廳、民間各方面に多大の貢献をなし、其の實力と信用に群を抜き、近時倍々事業の膨脹を來し、隆々たるの盛運は旭日冲天の勢を示し、其の内容實質の充實せる或は組織諸機關の整備せる、眞に九州斯業界の霸王たるの稱に反かざるべし、抑も此盛運を致せしは、現社長金子仙吉氏の明治三十五年創業以來波瀾の連綿を以て一路制覇に邁進せし結果と云ふべきも更に氏の先見遠識、非凡の敏腕を揮ひ神策縱横百折撓まず凡ゆる血慘史を綴りて遂に其業礎を確立したる結晶

なりとす。斯くして當社は個人經營に於て斯業界の懸卷たるを失はざりしも、時運に適應せん爲め、昭和十年二月、資本金五十萬圓を以て之れを株式會社に組織を變更し、大いに内外の面目を整備し、歩武堂々の新陣容を以て當社の最も得意とするところは近代的大建築にあり、和洋建築はもとより、鐵骨、鐵筋コンクリート、美術建築及び工場建築等爲すとして可ならざるはなく、當社の独自の技術は内外の等しく認むるところなり。既往及最近の主なる工事は、佐世保海軍團大兵舎、佐世保商業銀行、佐世保博多兩王屋デパート、九州帝大細菌學大教室、鎮西學院、長崎師範學校、東邦電力長崎支店、熊本八木商店、安田銀行熊本支店等にして其の他諸工事を加へ益々盛況を顯はれる外、目下小倉市に建築中の菊屋百貨店の如き九州隨一の一大豪華大建築にして地上七階、地下二階、全面積五千坪に及ぶ雄大なものにして當社は全機能を發揮し、模範建築として完成すべく社長以下社員は全能力を傾盡しつつあり。目下工事は着々進捗中にして之れが竣工の時は九州の一大異彩たるは勿論、金子組の聲望を高度化するに足ると同時に各方面の期待甚大なり。斯くして當社は九州建築界の王座に君臨すると共に其隆々たる威望比肩するを見ざるの概あり。

社長 金子仙吉氏は廣島縣の人金子雀右衛門翁の四男明治九年十二月を以て生れ、同三十六年現地に土木建築請負業を創め昭和十年組織變更と共に社長に就任今日に至る。幼少にして聰敏天稟の鋭鋒早くも顯れたり。而も家門累代の榮光と傳統の良系を承き眞に玲瓏玉の如き人品を備へ、殊に實質剛健を尙ぶ處、坦々たる古武士に喟驚し、學理に偏せず實地に聽從し、更に絶倫の精力を以て常格の研鑽を怠らず、常に先蹤的独自の創意を扶植して頼みに聲價を高め、今や氏は人格識見卓抜の偉才として内外の信望を一身に集め、九州土木建築界の先覺者として錚々たる存在を以て重きをなしつつあり。

因に支店を福岡市大濱町に、出張所を廣島市千田町に設置す。
(所在地 佐世保市島地町)

東洋ファイバー株式會社

資源に乏しき我國に國産資源に依りて産出なし得るハード・ファイバーの製造を見るに至りたるは、我産業界の前途に多大の光明を投じたるものと云はざるべからず。同品は純木綿纖維をば堅き角の如くに化學的に硬化せ

しめたるものにして、之には他に比倫を見ざる幾多の特質を具備せり。即ち生皮に比すれば熱のある處にて使用するも脆からず、油・グリース等に依りて變化することなく年月を伴ひて良好し、熱電氣の絶縁性あり。革よりも力ありて耐久性に富み、強壓力に對して變化せず、伸びず、擦り耗らず更に油を吸収することなく、木材よりは丈夫にして堅く、曲ぐるも折るゝことなく、木目の如きものなきに依りて強さ均一なり。エポナイトに比較して目方軽く、叩けども折れず又割れず。更に陶磁器に比すれば割れることなく、一度使用すれば取替の要なく、而かも削り、穴をあけ磨くことを得。又眞鍮、鐵、鋼、銅等に比すれば目方軽く、錆びず、音を發せず且價格低廉なり。斯くの如く他に見ざる幾多の特質を以て無限の用途を有せり。ハード・ファイバーが始めて我國に産出されしは大正の中葉にして、帝國紙株式會社並に日沙商會ファイバー部の製造に拘る。爾來幾多の辛酸を嘗めて技術の向上に淬勵したる結果、優良品の製造に成功、斯業の基礎は確立せらるゝに至れり。昭和九年三月兩社ファイバー部の事業一切を繼承し、更に規模を擴大して東洋ファイバー株式會社創立せらる。良きファイバーを製造するの重要條件は最良純粹の原料と熟練せる技術者とエーディングなり。當社は原料の

精選に力を盡くし、更に多年研鑽に努めし經驗深き技術者を數多有せるを以てその製品頗る優秀にして、夙に事業界に絶大なる好評を博せり。ファイバーの新規用途に關しては常に研究を怠らざるが、特に需要家の相談に應じ助言をなす爲めに技術部を設置して便宜を圖れり。當社の製品は板狀、管狀、棒狀等の機械的作業可能にして、更にこれを曲げ、切断し、型にて壓搾するを得るなり。上掲の如き數多の特質を有するを以て、これに加工して各方面に使用せられつつあり。ファイバーの電氣的性質は普通の絶縁體の如くに含有湿度に依りて變化あり、天候又は置場に依りて多少の影響を受く。絶縁性はベークライトに劣るも高壓電氣に使用せざる限り破壊する事なし。電機部分品、ヒューズ管、スキッチ把手、プラグ箱、無電用品、懐中電燈筒、ラヂオ用品等を始め數多の用途あり。機械に於ては齒車、ベアリング、ワッシャー、フリクションリング、スピードギヤー、紡績機部分品等幾多の方面に使用せらる。近時鐵道の電化旺盛となりたるに依り軌條とその絶縁装置とが密接なる關係を生じ、鐵道方面にもファイバーの使用の流行を見るに至れり。即ち、摩擦制動輪、シグナル部分品、軌條絶縁装置、踏切自動遮斷装置、自動信號機部分品等に供せらる。各種容器、雜用具に至りてはその用

途まことに廣く、カイドケース、ボビン箱、衣服容器、フアイバー行李、ミダレ籠、バスケット、トランク、ストロケース、荷札、机上文庫、文房具、メガホン、玩具類材料等限りなし。

當社の製品は多年の苦心研究に基づくものなるに依り、その品質の豊富の特性を有する點に於て、亦價格の低廉なる點に於て、更に又用途の無限なる點に於て他の同製品の追従なし得る所に非らず。眞に世界に誇るに足るの逸品なり。將來これが新規用途の開拓せられるは今日より豫想の及ばざる所にして、これが品質の改善、新技術の創始と相俟つて、その用途は無限なるものあり。當社は本社を東京に置き、支店を大阪に設け、工場を東京及神戸に設置して、専ら大量生産、廉價販賣をモットーとして活躍し來りたる結果、今や輸入品は完全に防遏せられ、我國電氣工業界紡績業、レヨン・ステープルファイバー、鐵道行、通信省、專賣局並びに軍需工業方面に於ては不可欠の材料として確乎不拔の地盤を有するに至り、海外へ進出して絶大な業績を博しつゝありてまことに將來の發展には眞に刮目して俟つに足る。現時資本金百萬圓(拂込済)にして毎期一割程度の高率配當を行ひ、成績頗る良好なり。當社重役は以下の如し。取締役社長西川玉之助、取締役會長山本

庄太郎、取締役依岡名輔、同近藤正太郎、同田川房一、同中野春吉、同竹崎茂助、同兼營業部長岡田與吉、同東恭平、監査役山口彌太郎、同大岡雄其の諸氏なり。

取締役兼營業部長 岡田與吉 當社の營業の全權を双肩に負ひて東京西走、八方に馳騁して席の温まるの逸なく、資性明朗調達、卓犖豪放、氣宇俊逸にして才氣煥發、洋々たる前途を有せる少壯才腕の事業家たり。明治二十五年十月京都府に生る。曩に岡田商店取締役兼桑港支店長として海外に活躍す。人格廉直にして襟度寛容世人の長仰を受くること深し。傍ら帝國憲法取締役たり。

(所在地 東京市日本橋區室町四丁目)

名 望 家

武 光

本州南部の關門下關に近く、風光明媚にして人情温和、近時各種産業勃興して多大の繁榮を遂げ西日本にその名顯著なる防府市に於て、市長の要職に就きて市民の敬仰を一身に集むるが武光氏なり。資性温雅謹厚にして心性峻潔、卓犖豪放にして磊落恬淡、温情は富みて襟度廣く、好んで人の爲めに難に赴くの義氣あり。人格清廉潔白にして名利に超脱し

權勢に屈びず威歩に屈せず、斷乎自己の所信を貫徹し、道念堅固にして操行嚴正、高義清節の士として業庶の欽仰を受くる所たり。氏は明治十一年一月を以て生る。明治二十七年海軍兵學校に入り同三十年卒業す。直ちに軍艦須磨に乘組み、同年北清事變の勃發するや少尉として從軍し、天津に陸戰隊として派遣せられ、多大の殊勳をたて、名譽の負傷を爲せり。明治三十七八年の日露戰役に於ては砲衛長として軍艦扶桑に乘組み、旅順陸戰隊に参加して赫赫たる戰功あり。更に日本海々戰には對島海峽西水道警備に就きて勳功を樹つ。戰後その周匠緻密の頭腦を認められて砲衛學校教官に任ぜられ、續いて海軍大學に入りて優秀なる成績を以て、大いにその將來を矚目せらる。卒業後簡拔せられて同大學教官に任ぜらる。斯くて後ち軍艦比叡の副長を経て、朝日、金剛、播津各艦長を歴任し、海軍省軍事調査課長に榮進す。剛毅果斷たると共に温厚にして沈勇、而も慧敏明哲の智能を有して部内屈指の俊傑として多大の信望あり。大正十一年には海軍少將に陞進し、軍令部出を命ぜらる。大正十三年に至りて豫備役を仰付けらる。爾後閑地に就きて悠々自適の生活に入る。然るに氏の高邁なる識見と廉直の人格は郷人の推敬を受くること厚く、昭和九年には防府市農會會長に擁立せらる。尙ほ氏は市

政の爲めに盡瘁すること深く、十一年全市民の要望を受け、市會全會一致の推戴に依りて市會議長に就任す。次いで同年十二月には防府市長に推戴せられたり。氏は視野廣く、蘊蓄該博にして經綸甚だ絶大なものあり。福島人造絹糸、鐵道紡績各工場誘致の爲めに寢食を廢して活躍し、遂にこれに成功して同市の産業發展に貢献すること多大なり。その他教育、土木、衛生、社會事業等に幾多の事績を擧げて市の繁榮に絶大な寄與をなせると共に、又市民の爲めによく盤旋盡力の勞を惜しまず、市民より名市長としてその手腕を讃へられ、更に又慈父の如くに市民に敬慕せられつゝあり。因に氏は幾多の軍功に依りて従四位勳三等功五級を授けらる。

(住所 山口縣防府市宮市)

株式 是 則 運 送 店

關西財界を背後に擁する神戸港は我國開港場の王座を占むるものにして、全世界に對して各種物資の輸出輸入をなし、大小の船舶の出入頻繁を極めて多大の盛況を呈せり。是則運送店は神戸運送界の雄嶺にして、全世界に業障を張り、店礎鞏固にして事業頗る殷盛を極め、本邦業界の代表的運送店たり。當店は

現社長是則清次氏明治三十一年三月に創業し當初は個人經營たりしが、同氏の經營方針よく時代の要求に合致し、歴年多大の發展を見るに至れり。大正四年株式會社に組織の變更をなし、更に數次の増資に依りて現時資本金一百萬圓(拂込済六十二萬五千圓)たり。その營業科目は海陸一般貨物運送、鐵道並に汽船貨物運送取扱業、倉庫業、梱包業、製氷及冷蔵業等なり。運送取扱の區域内地一圓、臺灣朝鮮、滿洲、南北支那、海峽殖民地、南洋諸島、比律賓、濠洲、印度、亞弗利加、歐洲、南北亞米利加等廣く世界各國に及ぶ。主たる取扱貨物は棉花、綿糸、綿布、生絲、綿布、人絹糸、人絹布、バルブ、木材、鐵材、諸雜貨、機械類等なり。倉庫業は神戸本店、大阪支店、福井支店の三店に於て各その所在地に於て設置せられたる當社倉庫を以て經營し、別に神戸に倉庫部を置き貨物保管及梱包業を營む。又自動車部を直營し、現在貨物車十數輛、リヤカー四輛車を所有し、神戸、大阪、福井、姫路の四市内及び近府縣各地の貨物運送の營業を爲せり。更に又兵庫驛前には絶縁装置完備せる八百立方坪の冷蔵格納倉庫ありて、生鹽干魚、乾物、生果、蔬菜その他一般食料品の委託保管及び配給を營み、製氷事業に於ては日産二十五噸の製氷工場を有し、完備せる貯氷庫ありて、主として神戸市内をその販賣供給の區域とせり。當

店は日本郵船、大阪商船、北日本汽船三社の專屬荷扱人にして、神戸税關、大阪税關より何れも免許貨物取扱人としてこの認可を受け廣く一般輸出入貨物の通關取扱業務に従事し斯業界に多大の信用を博せり。本店を神戸に置き、大阪に二支店、福井に一支店を設置し他に神戸、大阪、姫路、明石、新居濱等各地に出張所十五を設く。社員の数二百三十餘名に上り、この他自動車乗務員、工場従業員、直屬仲仕等又多數を擁して、其の規模頗る大にして斯界の尤とせられる所以とす。毎期非常なる好成绩を擧げつゝあるが、昭和十二年七月初旬支那事變の勃發以來南北支那向け貨物は一時殆んど杜絶し、滿洲方面行亦輸送の圓滑を缺き、更に之に加ふるに輸出入の統制及爲替管理等に抑制せられて、昭和十二年下半期は一般に貨物の荷動き減少を來したり。乍併、他軍需工業の殷盛に伴ふ物資の移動は著しく活況を呈し、この間當店は本支店協力して蒐貨に努力したる結果、税金増徴その他諸経費の増加を見たれども、尙ほ前年同期に比して良好なる成績を擧ぐるを得たり。即ち十一月末を締切とする昭和十二年下期決算に依れば、總收入三十萬四千圓、總支出二十一萬九千圓となり、差引當期利益八萬五千圓に達せり。株主に對して普通配當一割五分、特別配當一割計二割五分の配當を行へり。尙

は事業の進展に依る業界の影響に對しては充分備ふる處ありて、經營の合理化に全力を盡くし、事業の刷新に努力せるを以つて、當社の今後には就いては期待すべきものあり。殊に北支・中南支方面の明朗化に依りて、前途愈々好調を辿るに至るべし。尙ほ當所重役には取締役社長是則清次、取締役是則強一、同五百崎喜代吉、同柴田初市、同小林謙一、同岩田武八、監査役是則照義、同辻常吉の諸氏あり。

取締役社長 是則清次 資性濃厚謙直にして素志頗る堅確、熱心に業務に邁進して大いに才腕を揮ひ、當店今日の發展を齎したるものなり。氏は大分縣人は則八三二翁の長男として文久三年十二月堺市に生る。夙に斯業界に身を投じ粉骨碎身して多大の努力をなし、後當店を創始するや夙起晩寢して奮闘し、天性の快腕を發揮して大いに業界に名を成すに至れり。曩に阪神運送株式會社監査役に推さる。

(所在地 神戸市神戸區江戶町)

日本製鐵監査役
濱田 彪

三菱王國に於ける長老として上下の信望を

一身に集め、過去に於ける幾多の輝かしき功業と清潔潔白の人格とを以て我財界に敬仰を受くること久しき士に濱田氏あり。氏は明治三年十一月長崎縣土族一ノ瀬信造氏二男として生誕す。後濱田家の塾望を受けて同家の養子となる。幼少より慧敏にして甚だ聰明。長じて郷管に入るや學業頗る優秀にして神童の譽れ高し。後策を負ふて上京して東京高等工業學校機械科に入學し、明治二十四年登雲の功を積み同校を卒業せり。隨いで三菱長崎造船所に入り早出晩退、精勵奮勵して職務に一身を傾倒し、技術の研鑽に没頭して大いにその前途を矚目せらる。餘暇には學理の研究に新知識の攝取に意を用ひ、新進有能のエンジニアとして同所に於て絶大なる敬意を拂はる。當時我國の造船業はその發展漸く緒に就きし時代にして、其設備にその技術に未だ幼稚たるを免れず。氏は夙起晩寢してこれが改善と向上發達に盡瘁して大いに手腕を發揮せり。披擲せられて機械工場支配人、同電氣主任、技師となり、更に長崎造船所副所長取締役會長と榮進して、造船所の發展に多大なる功績あり。即ち、我國造船業の草創期に斯界に身を投じて幼稚なりし設備に技術に苦心研究して多大の改善と創案を加へ、遂に今日見るが如き我國有数の大造船所として發展せしめ、資本金一億餘萬の巨資を擁する現三

菱重工業株式會社の礎石を築きたるは、實に氏の貢獻に負ふ所絶大なるものあり。その研精と努力とに依りて我國造船業の世界屈指の技術的優位を占むるに與りて力あり。更に亦各國海軍を畏怖せしめし優秀艦艇を建造しては我國防上に没すべからざる功績を獲せり。後三菱航空機株式會社の創設せられるや推されて取締役となり我航空機製作事業の進歩發展に寄與せし所渾少ならず。三菱重工業の創立せられるや顧問に推さる。尙ほ現に日本製鐵監査役に選任せられて同社の爲めに盡瘁する所多大なり。今日まで歐米に赴くこと二回。廣く海外の事情に精通し、識見高邁にして蘊蓄潤溥。造船事業のみならず各事業界より多大の崇敬を受く。資性濃厚謙直にして襟度甚だ寛容たり。人物頗る圓滿にして玲瓏なること玉の如く、人情の機微に通じて仁情の念に厚く、後進者には惜しまず助力を與へ、大いに誘掖に努め、氏を徳として悦服する者甚だ夥しとせず。

(住所 東京市麹町區九段二丁目)

株式會社 博進社

紙は文明人の生活には不可欠の必需品にして、之なくしては文明社會の成立に一大支障を來すべく、之あるに依りて文明社會は一大飛躍を促進せられ、個人の消費生活に或は社會各方面に於て紙なき場合の事態は吾人の想像を絶する所なるべし。株式會社博進社は多年我國洋紙界に於て活躍し、斯界に牢固たる基礎を築きて社業頗る殷盛を極め、毎期多大の好成績を挙げつゝあり。當社の主たる事業は内外洋紙並製紙原料仲介業及問屋にして、その規模の大にして信用の堅確たるは斯界獨歩の地歩を占むる所たり。その創業は明治四十四年四月のことにして、創業以來その經營方針の時代の要求に合致せると當事者又眞摯その業務に盡瘁したるに依り、社業順調なる發展を辿り、年と共に業績躍進をなせり。現時資本金二百五十萬圓にして拂込資本二百二十五萬圓に達す。昭和十二年下期決算に依れば三十萬七千圓の利益金を擧げ、成績多大の向上を見たり。支那事業の勃發以來所謂戰時體制は強化せられ、事業並びに輸入の統制、或は爲替管理等に依りて事業界は漸く多事を加へ、原料の騰貴に伴ひて紙價は多大の昂騰

をなせしも、他面必需品たる紙の需要は愈々増進をなし、當社の業績は却つて好調に向へり。當社に於ては大阪・名古屋・福岡・神戸の各地に支店を設け、事業網を全国的に張り、商況多大の殷盛を呈せり。斯界に比肩するものなき鞏固なる業陣を布けるを以て、その前途まことに洋々たるものあり。

社長 山本 留次 山本氏は頭腦緻密にして俊英奇才、事業界を八方馳驅して東都財界に名望顯耀たるものあり。氏は夙に大橋佐平翁と共に博文館を創設し、萍動勉勵して經營に當り、幾多の苦心を経て遂に目覚しき發展を遂ぐるに至り、出版界に覇を成せり。次いで明治三十年には博進社を創立し、東奔西走して販路の開拓に力を注ぎ、業運隆々として勃興をなし、後これを株式會社に改組し、更に一大飛躍を遂ぐるに至れり。當社々長たるの外、文運堂社長、日本加工製紙、日本フェルト、北越製紙、日本クロス工業、日本石油、博文館、明治製菓、滿洲バルブ工業その他數多の重役として列し、財界に重きをなせり。東京商工會議所常議員、東京紙商同業組合長等に推され、事業界の爲めに貢獻せる所僅少ならず。新潟縣人山本利作氏の二男として明治五年九月に生る。

(所在地 東京市神田區駿河臺三ノ六)

事業家 鈴木 近造

千葉縣水産業者の間に聲望高く、その言説の金石の重きを以て迎へられるは鈴木近造氏となす。氏は鱈の鮓漬と鮭の罐詰の製法を考案し、日米水産會社を創立して東京市日本橋區吳服橋際に於て同商品の販賣を開始し、頗る營業は殷盛を極めしが、大正十二年の關東大震災と共に廢業せり。爾後専ら千葉縣に於て水産業に従事し大いにその手腕を顯はる。識見高邁氣概溢、自ら人の長たるの材器を具ふ。熱情熱誠よく人の爲めに己を犠牲として盡くし、徳望高く衆庶の敬慕する所たり。安房郡水産會副會長に推され、或は館山漁業組合長に擁立せらる。同地方の水産業の發展に盡くす所尠ならず、大水産王の尊稱を以て呼ばれる。氏は又水産界に活躍する傍館山海岸ホテルを經營す。即ち昭和十年館山北條の遊覽客誘致を圖り同地方の發展に資せんとして海岸ホテルを買収し、設備の充實改善に意を盡くしてその設備頗る完備し、サービスの丁寧なる至らざるなく、これを帝都の一流ホテルに比較するも聊かの遜色なく、房總に於ける優秀ホテルとしてその名を知られ、當地の絶佳なる風光を訪れる人は同ホテルの設置に

よりて年と共にその数を増すに至れり。現に水交社俱樂部が同ホテル内に設けられるを見るも如何にその信用の世上に高きかを了解するに足らん。明治十一年十二月に生る。家庭にはヤス子夫人、長男正一郎氏ありて至極圓滿を極む。

(住所) 千葉縣安房郡嶺山北條町館山)

株式 東京鍛工所

當社の主要製品は従来主力を傾注し來れる各種スパナ、レンチ類並に機關銃、拳銃部分品の外、最近航空機部分品、自動車部分品に對する進出も目覚しきものあり、折柄國策としての自動車製作方針の樹立と相俟ちて其需要は急激に増加の傾向を辿る際、支那事變の勃發より火急の下命品の殺到を極め、今や受註三百萬圓を擁し、軍需品工場一方の雄として斷然頭角を顯出せる氣鋭たり。

當社は従來資本金二十八萬圓の合名組織たりしが、昭和五年三月に追んで株式会社に改め、當初五十萬圓の資本金たりしが、以來數次の増資を累ねて業容を逐次改善し來れるが支那事變發生後特に一般軍需工業の發達に對處隨伴するの要に迫られ、生産力の擴充を圖る爲、昭和十二年九月、株式會社第二東京鍛

工所を合併、所謂變態増資を行ひ、百五十萬圓の資本金を一舉三倍餘の増資、即ち五百萬圓(内拂込百六十二萬五千圓)を抱擁以て今日に迫り。

昭和十二年下期の業績を窺ふに。當期は前期に引續き材料、燃料を筆頭に消耗品に至るまで悉く騰貴し、殊に材料の手に當り相當の苦心を費したる折柄、従業員中より多數の出征を要する製作品の下命に接する等頗る多端なる経過を示現せるも、此間に處し舉社一致其方針を一貫として誤らず、受註高、賣上高共に増加顯著にして二十萬五千圓の販賣益を擧げ、之に製品卸高を合して三十四萬圓、前期に三割七分の増加となり、支出を差引き當期利益金二十萬五千圓の對資利益率は三割四分五厘に當り、前期の四割四分八厘よりも一割餘低下せしも、之は變態増資決行に依る資本負擔の増加に據るものにて一割二分(特配三分)の株主配當は依然として餘裕綽々たるものあり。尙當期の賣上總収入は百八萬圓にして之を期末固定資産六十七萬三千圓に照合せば販賣總収入に對する固定資産の回轉率は三倍二に相當し内容如何に堅實なるか充分窺知せらるべし。而も當期末貸借對照表を觀點とする資本構成は實に堂々として鐵壁の如く何等云ふべき言を有せず。當社の前途は洋

京都府立醫科大學

々たるものあり。
取締役社長 難波又三郎、事務取締役 池田清藏、取締役 染谷關太郎、同池貝杉二、監査役 山口勝藏の諸氏なり

事務取締役 池田清藏 我國鍛工業界の一權威として其の名治開する氏は、明治二十五年十二月愛媛縣人池田甚藏翁の五男として出生す。頭腦精緻にして才氣煥發、而も事業に頗る熱心なり。現に難波社長の良佐として當社の振興に參與し、超凡の快手を以て當社今日の隆興に資する處多大にして好評噴々たりその將來を齊しく囑望せられつゝあり。

(所在地) 東京市品川區大崎町一丁目)

靈峰大比叡をば眉間に望み、水清き加茂の川瀨にその姿を映じ、莊重典雅の堂々たる近代的高層建築物の颯爽として聳り立てるが京都府立醫科大學併に附屬病院なり。刀圭界に幾多の逸材を送り、更に人生最大の苦患を救ひ、起死回生の歡喜を與ふる儼こそはまさに傷つける魂には一大燈明臺たらんばならず。明治五年當初愛宕郡第十組栗田口村青蓮院内に假療病院を設け、患者治療の傍ら醫學

生を教授せしがその淵藪なり。これ實に本邦醫學校併に病院の鼻祖たり。超えて十三年現在にの地に療病院を新築移轉し、十五年十一月文部省達醫學通則に據りて甲種醫學校に認定せられ、卒業生は無試験にて開業免許状を受くるの資格を得。三十六年専門學校令に依り京都府立醫學專門學校と改稱し、大正十年大學令に依る設立認可を得て始めて京都府立醫科大學と稱せり。その創立に當りて當時の府知事長谷信篤・植村正直氏等熱心に府民の協力を求む。斯くて諸寺院、僧侶醫師・藥舖及各方面の有志數千人金穀物品を献んじてこれが建設費に充當せんことを乞ふ。この熱烈なる支持によりて容易に設立の運びに至りたり。然るに後財源に恵まれず、種々多難曲折ありたるも職員協力一致して難局に當りたるにより、遂に今日の隆運を見ることゝなれり。近年當大學並に附屬病院の外観内容諸般の設備整備充實してまことに目覚しきものあり。外觀の壯麗なると共に内容完備し、實に東洋に誇るに足るの醫學醫療の殿堂たり。即ち各施設に於て殆んど間然する所なく、殊に隔離病舎の諸施設は東洋一と稱せらる。臨床方面のみならず基礎學方面の研究に於ても多大の業績を擧げ、學界に貢獻せる所鮮少なからざるなり。研究室・實驗室等の諸施設甚だ充實し圖書館の如きは内外の貴重なる文献網羅せら

れ、藏書數五萬冊に達せり。創立以來、多數の名國手輩出し、又當校出身者は全國に散在して醫界に携り、學界に或は國家社會の爲めに寄與せる所まことに絶大なるものあり。當病院に於ても諸施設設備遺憾なく、多數の權威を網羅し、名醫と稱せらるゝ士すら策の施すを知らざりし難病者を快癒せしめて歐米醫界を驚嘆せしめし事例乏しからず。患者を遇することまことに親切丁寧を以て好評を博し外來患者一日六百名内外に上り、遠近を問はずして踵を接して來りて甚だ盛況を極めり。尙ほ當病院には大阪朝日新聞社より寄附せられたる「大朝ベツト」五個の設置ありて、その經費は京都府より支出せられ、患者は一切無料たり。以上の如く當大學はその研究に、施設に、果た亦診療に官立諸大學に比して毫も遜色なく醫學界の雄嶺として仰がる。

學長 角田 隆

氏は眞摯熱直の篤學者にして斯學の蘊奥を極めたる碩學として醫界の尊崇を受くること甚だ厚し。高潔なる品性を有し、名利に恬然たるものありて、寛容温厚玲瓏たることまさに玉の如き人格者にして職員學生の信望を一身に集む。從四位勳三等醫學博士たり。明治八年八月京都府士族角田敬三郎翁の長男として生れ、同二十九年當大學の前身たる京都醫專を卒業す。

病院長 中村 登

從四位勳三等陸軍二等軍醫、醫學博士にして、耳鼻咽喉科の教授を兼務す。世界的耳鼻咽喉科の泰斗にして我學界の至寶とし景仰せらる。頭腦緻密にして餘暇あれば學理の研鑽に没頭し、學識頗る淵博にして、臨床の技術に於ては又神の如き秘技を有し、患者に對しは懇切を極め、名望頗る噴然たるものあり。

事務部長 中西喜一郎

附屬病院の經營に當り、秀拔なる才腕を揮ひて内外に信望を博せる傍ら當大學幹事たり。曩に大阪府會計課長を歴職す、資性勤直温恭たると共に明朗潤達を以て上下より多大の推服を受く。熱誠熱直業務に精勵して寄與する所多く、當病院の發展氏の手腕に負ふ所尠しとせず。

(所在地) 京都市上京區河原町廣小路)

事業家 廣瀬 次郎

「農民の貧乏」は今日發生せる現象に非らざるも、特に昭和五年以來の深刻なる農業恐慌に依り、今や農村は文字通り餓死線上を彷徨しつゝあると謂ふも過言に非ず、而も飯米飢饉は農村自體の問題として必然的に政治不

安を喚起するの趨勢を醸し、近年頗々として惹起されたる不詳事件も、根本的に於てその原因を、農村の窮状に求め得るものと謂ふべし。近時農産物の價格騰貴によりて、農村の明朗化したりといはれ、更生したりといはれたるも何等その事實なく、否な深刻味は日と共に深まりつゝあり、之が對策こそ刻下の重大問題として、然も躍進途上にある我が國に示されたる大試金石的問題として世は之が對農的偉大なる人物の出現を待望するの秋、我が廣瀨次郎氏のあるは、正に適任適材として邦家の爲め欣快とするところなり。氏は廣瀨産業社長として其の事業たる農業商工業不動産其の他代理業土地管理の敏腕を顯はれつゝある人物にして、我が國農村事業家として其の特異の経歴と手腕は第一人者たるべく農界の信望絶大なるものあり、氏は明治六年五月を以て東京府土族河原徳立翁の二男として深川に生れ、後愛媛縣多額納税者先代廣瀨正翁の養子となりたるものにして、明治二十八年、東京帝國大學農科卒業後農商務省に入り果進して技師となり、異數の力量才腕は認められて歐洲各國に出張を命ぜられ具に斯業を視察研究し歸朝後は同省の中堅官吏として信望は夙に一般農界にまで知られたり。其の斯界行政に盡瘁したる功績は甚大なるものありしも氏は心中深く期するところあり、惜しま

れて退官するや、曩に廣瀨合資無限社員たる後、廣瀨産業株式會社を興して前記の事業に當り其の社長となり、農村更生の第一線に立ちたるものにして此外現時實商事、重工業、壽業、三和商店重役たり。其の爲人濃厚篤實にして清廉潔白、流石に中堅官吏として信望厚かりし性情を有す、然りと雖も心氣剛毅にして果敢其の熱血は國士的人物として國家的事業に奔走しつゝあるを以て窺知し得べし。一度事業遂行に當るや熱血鐵腕を揮ひ、勇往邁進之を貫徹せずんば罷ざる氣魄を有すと雖も飽くまで利慾に恬淡にして國家社會を念として、奉公の實を擧げんとする士にて、世上見る單なる營利主義的事業家の到底躬行し得ざるものあり。正に當代稀觀の傑出したる義人事業家と謂ふべきなり。
(住所 東京市芝區西久保巴町三)

住友金屬工業株式會社

東の三井・三菱兩財閥に對置せられる西の住友王國は關西財界の覇者として其勢威まさり飛鳥を落すの概ありて、我國事業界今日の進展を齎らすに絶大なる貢獻をなし、我國近世の文運勃興に寄與せる功勞まことに没すべからざるものあり。住友金屬工業株式會社

は近時の躍進まことに目覺しく、本邦重工業界の重鎮として斯界の指導的地位を占め、常に新領域を開拓して斯業の發展のトップを切り、その名聲顯然たるものあり。當社は住友王國に於ける中樞的事業會社にして、明治三十四年六月に創立せられし住友製鋼所、並びに大正十五年七月に創立せられたる住友伸銅鋼管株式會社の兩社が昭和十年九月合併して資本金四千萬元を以て創立せらる。直ちに五千萬圓に増資せられ、昭和十二年五月には資本金一億圓(拂込資本六千四百五十萬一千圓)に増額せられて今日に至り。當社の製品は伸銅・鋼材・熱間仕上鋼管・航空機材・其他車需品・鑄鋼品・鍛鋼品・壓延鋼品・特殊鋼品・鑄鐵品・車臺その他機械類等にして、その品質の優秀なるは他の追従を許さざるものあり。就中輕合金の製品に於ては世界各國の製品に比較するも毫も遜色なく、その生産設備に於ても、我國最優最大にして其の名聲を恣にせり。又鋼管に於ても生産能力及び技術その他同業に抜んで、船艦建造用材料として洵に重要な役割を果たし、特許復水器管アルブラックは世界的發明品と稱され斯界の耳目を衝動せしめたり。同品の出現に依りて業界は驚伏し、海軍各工廠、造船所、火力發電所、各工場より注文殺到し、絶續まさに、湧くが如きものあり。一般鋼管に於ても斯界の最高品の烙印を

押され、熱間仕上鋼管並びに冷間引拔鋼目無鋼管は業界の最高優品と仰ふがれ、過去十數年の研鑽努力に依りて完成せられたるものにして、今日最新式の新鋭設備を以て大規模に製作せられ、低廉なる價格を以て供給せられ絶大なる好評を博せり。現に鐵道省海軍省の指定品たり。多年我市場を調歩せし外國品。當社の苦心研究せる製品の相次いで市場に出現するに及び、漸次國內より姿を没し、國際貸借上當社の貢獻せる所まことに多大なるものあり。昭和十二年九月末を締切となす下期決算に依れば、總收入五千一百六十四萬圓、總支出四千七百三十五萬六千圓となり、差引當期利益金四百二十八萬四千圓に達せり。普通配當七分特別配當二分の九分配當を行へり。當社は先年の増資に依りて、一般産業界の活況並びに工業方面よりの需要増大に備ふる爲め生産設備の大擴張を爲せるが、右新設備の全面的活動をなすに於ては、當社の収益は一段と著増をなすに至るべし。創業以來國防上に一般事業界に貢獻せる所まことに顯然たるものあるが、時局の重大化と共に當社今後の役割益々重大性を加ふるに至り、その寄與する所まことに愈々多大なるものあるべし。當社重役には取締役會長小倉正恒、専務取締役古田俊之助、同荒木宏、常務取締役春日弘、同木下亮吉、同田中作二、取締役

國府精一、同山本信夫、同杉浦彌三、同久島精一、監査役八代則彦、同松本順吉、同今村幸男、同淡輪敏雄の諸氏あり。

取締役會長 小倉正恒 我國財界の香宿として、その熱望一世を風靡する小倉氏は、識見高邁にして器局闊大、その高風亮節の欽仰する所たり。人格清白高朗にして疎々淡々、磊々落落悠揚迫らざる温容はまさに長者の風あり。明治八年三月石川縣土族小倉正路翁の長男として生る。夙に東京帝大法科を卒業し後住友に入り、大いに頭角を現し、多大の功績を擧げ昭和五年八月住友本社總理事に推され、住友王國の柱石として仰がる。幾多の重役として列し、天賦の手腕を揮ひ、赫々たる偉業を樹立せり。尙ほ貴族院議員に勅選せられ、我國財界の先達として氏の任務や愈々重きものあり。
(所在地 大阪市此花區島屋町五六)

函館船渠株式會社

造船界に於ける覇者として當社はその名聲高く、近時事業大いに賑盛を呈し業績愈々向上に向へり。其創立古く明治二十九年十一月に資本金百二十萬圓を以て創立せられしもの

なり。同三十五年に至り船渠設備の竣工を告げ、主として船舶の修理に關する業務を開始す。爾後成績順調を辿り、三十九年優先株式六十萬圓を増資して總資本金を百八十萬圓となして躍進を期せし所適々日露戰役後の不況に遭遇せしに依り、當局者は意を決して七十二萬圓に減資して諸設備の整理・内容の充實業務の刷新に力を致せり、斯くて社業大いに回復し且我國産業の興隆に伴ひ工場設備に



大 塚 氏 船 渠 株式 會 社 改 善 加 諸 種 機 械 類

の製作を開始す。これより業績年と共に顯著に躍進す。大正三年歐洲大戰勃發して我國事業界は未曾有の好景氣に恵まれ、内外海運界は稀有の活況を呈せり。當社の營業も亦異常の繁忙を加へ、相次いで設備の擴張をなせるも殺到する注文は到底應じきれざる状態なりき。即ち、大正七年七十二萬圓を増加して總資本金を百四十四萬圓となし、同年更に五十六萬圓を加へて二百萬圓に増資す。續いて九年

には二百萬圓の倍額増資をなして總資本金を四百萬圓に改め、事業は飛躍的に發展せり。大戰の終熄と共に恐慌襲來して財界は慘澹たる有様となりしが、當局者は巧に事態に善處して、何等の打撃をも受けずことなきを得たり。而して爾後時勢の進運に順應して工場改善と各種工作機械の新設に専念し、更に新規事業に進出す。即ち、船舶の新造、修理工事は勿論一般諸機械、諸職業、炭礦製糖、製紙、築港、土木橋梁、鐵骨建築等の陸上諸工作事業にまで染着するに至れり。之が爲めに新技術新設備を採用して作業能力の擴充を計り設計の研精洗練と工事の堅確優秀に力を致して當社の聲價を大いに高む。斯くして今日に於ては、陸海軍を始め、北海道樺太地方は固より本州及遠く隣邦に渉る海陸各方面の顧客を獲得するに至れり。當社の主たる得意先は陸海軍を始め諸官省、各種大會社等頗る廣汎に及び、多大なる信用を博せり。最近の造船界の好調を受けて、當社に於ても造船盛を悉く埋め盡すといふ盛況振りを呈し、又陸上工作部門にても近來の鐵山景氣より鐵山機械を始めその他各種製作に頗る繁忙を示せり。斯くして、設備の擴張を斷行して一千坪に餘る鑄物工場、二層の電氣爐の新設を行ひ、これによりて當社の収益力は一段と力を加ふるこゝとなれり。試みに當社最近の成績を見るに

八年下期五分一厘の利益率が最近に至りて一割六七分に達し、一刻に迫らんとす。これによりて配當も從來の五分配當を十一年下期以來六分配當を實行し來れり。増資も近々斷行せられる状態にありて、當社今後の躍進こそまことに刮目すべきものあるべし。

取締役社長 大塚 巖 夙に東京帝大工科を卒業し、直ちに函館船渠に入りて同社の爲めに貢献す。技師主事となり、専務に選出せられ社長に推さる。卓犖豪放、着實堅確、頗る經營的手腕に富む。資性謹厚にして徳望高し。その人格識見は函館事業界の敬仰する所にして、現に逸見製作所取締役、函館商工會議所顧問に推され、同市の商工業發展に寄與すること大なり。

常務取締役 和田三郎 氏は北海道士族和田惟一氏の三男として明治十七年十月を以て生る。明治四十一年東京帝大工科造船科を卒業し、後函館船渠に入り、轉動副船長、その職務に没頭。氏頗る謹直至誠の人にして、新技術の研精と學理の探求に努力し、當社の設備の改善充實に力を致す、次第に頭角を現して支配人となり、常務取締役に登用せらる。爲人明斷果敢、素志堅剛、才腕又超凡。函館市會議員に選出されて市政に盡瘁せり。

常務取締役 和田三郎 氏は北海道士族和田惟一氏の三男として明治十七年十月を以て生る。明治四十一年東京帝大工科造船科を卒業し、後函館船渠に入り、轉動副船長、その職務に没頭。氏頗る謹直至誠の人にして、新技術の研精と學理の探求に努力し、當社の設備の改善充實に力を致す、次第に頭角を現して支配人となり、常務取締役に登用せらる。爲人明斷果敢、素志堅剛、才腕又超凡。函館市會議員に選出されて市政に盡瘁せり。

顧問 川田 豊吉 明治三年三月川田小一郎氏の三男として呱呱の聲を發す。嚴考川田小一郎翁は日本銀行總裁として才腕を揮ひ我國經濟界に赫々たる功績を殘せり。氏は嚴考の良系を承きてその領材業界の推重する所にして、夙に東京帝國大學工科機械科を卒業し、當社の隆運に資せしのみならず、斯界の爲めに盡瘁して没すべからざる貢献あり。平素學理の探求に技術の練磨に寸暇を惜しみて研修し、深遠なる學殖と淵博なる蘊蓄は業界に多大の欽仰を受くる所ありたり。資性温篤謹直にして心性潔白を以て信望高く、曩に當社社長を辭したるも、今尚ほ顧問として指導的地位に在り。

(本社所在地 函館市辨天町八八)
(東京出張所 麴町區丸ノ内二丁目)

千葉 彌助

鞍馬自動車專務取締役
我が千葉彌助氏は、鞍馬自動車株式會社及び鞍馬電氣鐵道株式會社の重役に列し、而かも兩社實際的經營の樞樞執掌に當りて縱橫無盡く天賦の膽略を傾けて雄飛活躍を擅にせる斯界屈指の一流人物たり。而して其の過去半生の閱歷を顧みれば業界は謂ふを煩ひず。往時官職に在りし時代の功績赫々として不滅

の光芒を發し、斯界素より人材多しと雖も、斷然異彩を放つ存在として令名噴々たるを首肯し得らるべし。

即ち氏は宮城縣佐沼町を郷土として呱呱の聲を擧げ、夙に東京中央大學法科に登雪の功を累ね、優秀なる成績にて卒業するや、官界立身志して仙臺稅務署に奉職せり。爾來其敏腕を揮ひて職務に精勵すること幾星霜、其人手腕の非凡性は克く僑叢を抽んじ卓然たる處、疾くも上司の信託を贏ち得て地位昇進し仙臺稅務監督局長を経て秋田稅務署長に任命せられたり。當時同縣は清酒密造の激甚地として知られ、官公吏と雖も之を行ひて恬として恥ぢず、或は賄賂收賄の醜狀言語に絶して紛々たりし處、氏は斷乎之等醜狀を根絶し以て脱稅を防止、更に明朗敦厚の風潮を蕩養馴致せしめんと決意を固め、就任僅か二週間に後、同縣警察並に裁判所と緊密なる連絡を執り奮然奮起、某村落密造者を大學襲撃せり。折柄豪雨沛然たる暗濤裡に、該村民氣、鋤、昆棒等の兇器を揮ひて一大抵抗をなせし。氏等は挺身職務に敢行、激闘數刻の後全員負傷せるも克く目的を達成し、或は其後屢々脱稅者を摘發する等、常に身命を以て公務に奉ずる處、異數の成績を擧げて事績顯然たるのみならず、其の偉功赫々として洽く、全國稅務署界の模範的人物と推稱激賞を博せり。其

後更に拔擢されて京都市上京稅務署長に榮轉次で下京稅務署長を歴任し、遂に大正十四年京都市助役の要職に推されるや、其の高邁卓拔なる識見手腕を縱橫に發揮し、銳意市政運用に對する一大抱負經綸の貫徹に邁進、以て市民の利福増進を圖り、市政の發展興隆に獻替せること多大なりき。斯くて功成り名遂げ勇躍官界を辭するや、餘生を専ら交通事業に捧げ、昭和三年鞍馬自動車株式會社創立以來專務取締役の重責を擔ひて采配を執り、拮据經營克く同社今日の盛況を招來せしめ、或は鞍馬電氣鐵道株式會社取締役として功勞尠なからず、加ふるに當市自動車事業百般の事理に通曉せざるはなく、博識卓見、常に斯界の木鐸を以て稱せられ、名實共に業界の一大權威たり。資性謹直眞摯にして豪放不羈烈々たる剛志は、斷乎初志を貫徹せざんば已まざる氣概に滿ち、而かも人格圓滿、氣韻高き處、業界人は勿論、衆庶の瞻仰の的たるを失せず。

鞍馬自動車專務取締役
我が千葉彌助氏は、鞍馬自動車株式會社及び鞍馬電氣鐵道株式會社の重役に列し、而かも兩社實際的經營の樞樞執掌に當りて縱橫無盡く天賦の膽略を傾けて雄飛活躍を擅にせる斯界屈指の一流人物たり。而して其の過去半生の閱歷を顧みれば業界は謂ふを煩ひず。往時官職に在りし時代の功績赫々として不滅

竹中 雪藏

宇部礦業株式會社取締役

今次日支事變の勃發に依り、準戰時體制より戰時體制へ移行したる非常時局に反映して

國內産業の躍進は益々拍車をかくるものあり就中鐵業は國家産業の基幹をなすものにして其の消長は直に國家興隆に關聯するもの甚大にして之が勃興と開發伸張こそ國家的事業として洵に重大なるものと云ふべく、幸にして非常時局下國家總動員の舉國一致の努力に依り斯業の隆盛と躍進を招來しつゝあるは邦家の爲め慶賀措く能はざるところなり。而して更に之が開發に人的活躍の重大なるは論を俟たざるところにして斯界に活躍する人物の種々相を檢討するに機略縱橫を以て鳴るものあり、或は膽略を以て秀するものあり、又は衆を絶する精力を以て顯はるものあり、又す。然りと雖も是等を一丸として渾然玉の如く玲瓏たる人格の所有者に至つては容易に求め得ざるところならん。我が竹中雪藏氏の如き、この容易に求むべからざる稀觀の人格者として推稱するに躊躇を感じざる逸材の人、蓋し斯業界錚々たる人物として令名燦然たるも當然の歸趨といふべきなり。氏は山口縣竹中松藏氏の長男にして明治十四年八月を以て生れ、夙に鐵業界に身を投じ、常に精勵奮勵、晝夜の別なく研鑽に努め、斯業の向上發展に寄與すること頗る多く、現時躍進宇部事業界の一方の雄として、驥名を擧げつゝ宇部礦業株式會社取締役の樞要の地位を占むる傍ら、元山商會、宇部商事等の重役として、快適

の發展を遂はれつゝあり。宇部向後の發展も氏の才腕に俟つもの甚大なりと謂ふべきなり。

資性濃厚篤實なる裡にも一脈稜々たる氣骨を藏し、威あり温あり、然かも常に誠實奉公を信條として終始一貫、着々業務に精勵措むことなく、時勢の變遷推移に處して堅き節操を持ち、敢えて利のために走らず、名の爲めに動かす、居常公共社會の福祉増進を圖るを以て使命としたる、其の圓滿無礙の人格と相俟つて世上の信望絶大なるものあり。尙氏は目下周防灘開發の爲め一大決斷の計畫を進めつゝあり、期待するところ大なるものありと言ふべし。家庭には貞淑の譽高き、アサ子夫人ありて琴瑟相和し氏を扶け、令孫省二君、道子嬢の訓育に専念せられ和氣瀟々たり、長女松子女は、福岡縣元永啓助氏二男輔義氏と結婚し分家す。

(住所 宇部市宇部一七五〇)

林莊治商店

滿洲事變に次ぐの支那事變と時局愈々重大性を加へ、財政の膨脹に伴ふ低金利と時局關係の諸産業の活況よりして、近時證券界は著しき殷盛を見るに至れるが、斯る盛況を受け

て店頭常に千客萬來し、應接の遑なきまでに繁忙を來たして、兜町人の眼を聳たしむるものに林莊治商店あり。當店は大正十一年八月東株一般取引員の免許を得て開業し、爾來經營實主義を堅持して進み、取引極めて確實にして、投資家の間に多大の好評を博することとなり。波瀾曲折株界に幾多變時ありしも、着々として發展をなし、年と共に業績向上して、兜町に於ける有力商店として數へられるに至れり。現時東京株式取引所々屬一般短期・實物・國債各取引員として、斯界に重きをなし多大の信用あり。證券投資熱の各階級に普及瀾漫するに及び、該方面に全然知識なき素人の一攫千金を夢みて株に手を出し、多大の痛手を蒙るもの夥しとせず。當店に於ては斯る素人筋に對しては種々の資料を提供して充分に研究せしめ、或は當店の調査研究に拘る材料を供し、或は懇切に指導す等、無經驗無知識の人の安んじて株式公債の買賣を委託なし得るの商店なり。業礎の固きと、經營方針の堅確なると、更に顧客に對して懇切丁寧なるとを以て、顧客愈々激増して、當店は日を逐ひて繁榮の一途を辿れり。

店主 林 莊治 資性濃厚謙恭を以て兜町に多大の信望ある氏は、明治十七年二月栃木縣に於て生る。郷費を了へるや直ちに實業

會社 自 念 組

に従事し、明治二十九年足利市に於て織物仲買をなせり。天稟の商才を以て常に獨創の商略をめぐらし人の意表に出で、年と共に大をなせり。次いで南洋ジャバル貿易の業に手を染め、大いに巨利を博す。大正三年五月に至り、足利に於て有價證券現物業を開店せり。氏の緻密なる研鑽と明斷果敢の行動は斯業に於ても大いに成功をなして、大正十一年八月には東京一般取引員の免許を得て、證券界に堂々進出するに至れり。神壽の鬼策を以て常に群を抜きて躍進を遂げ、斯界有數の大商店として發展せり。東株組合委員、商議員たること數次、斯業の發展の爲めに寄與せる所備少ならず、現に十數社の重役を兼ねぬ。

(所在地 東京市日本橋區兜町二丁目)

本邦隨一の關門を本據として海陸石灰取扱勞力請負に當れる當社は各種工業及産業方面の動力給源たる重要な職命上、其能力の如何は直ちに斯界に甚大なる影響を及ぼすと同時に、斯界の消長が亦直ちに當社に反映波及するは自明の理にして、彼此所謂唇齒車の干繋に在るを以て當該從業者は共存共榮の高明なる道義心を必要とするのみならず其機能

發動の上に細心の注意を怠る可からざるや暇々を要せざるところなるが、幸にして當社は教養豊かにして頭腦明敏なる自念春次郎氏を首魁に戴き、其率領のもとに間然するところなき統制を保ち、上下和協一致、業務の遂行圓滑なるを得て、能く北九州六市に於ける新業の先驅者(明治二十四年の創業)たるの威信

を保持せり。同組の機構は此を勞力請負部、回漕部、造船部、鐵工部の四に分ち、出張所を門司・若松・大阪・小倉の四ヶ所に置き、各分掌擔當せしめ、海上勞力請負に於ては日本郵船・近海郵船・古河石炭礦業・貝島炭礦・栃木商事を首め大小數十の諸會社諸商店の専屬として各關係所屬の船舶に對する燃料炭及荷物炭の積込作業に従事し、丁寧迅速を以て一般の賞識を博し、日清・日露の兩役及北清・滿洲・上海の三事變に際しては御用船燃料積込の功に依り論功行賞の列に加はれり。近年其根據たる門司港が貿易港として躍進し來り短時間の本船碇泊に於て急潮を征服して燃料炭積込の熟練を必要とするに及び、同請負部は俄然其能力を發揮して國際幹線航日本郵船歐洲メ

ール燃料炭三千噸を十二時間に積込み得るの新記録を作り、他の同業者の到底企て及ばざるところとして信望倍加せり。陸上勞力請負に在りては近時陸上作業の機械操作に移るの機向に警み逸早く鐵工所及栗本鐵工所と特約

して隨時之に應じ得るの施設を完備し、好評噴々。回漕・造船・鐵工の各部も商工業の發展に伴ひて盛運に向ひ、時局關係に由り近時一層の活況を呈せり。

代表社員 自念春次郎 當社の創立者自念金藏氏の二男にして、下關商業卒業後明治大學に學びたるも嚴君の病氣の故を以て中途退學し、其歿後家督を繼ぎ當社の主宰者とし學措其節に陝ひ、聲望隆々。資性豪毅果斷にして而も温情の拘すべきものあり。年齒尙壯なるも部下及多數從事員の絶對的信賴を繋ぎ、時に臨んで彼等をして生命を賭するも敢て辭せざる底の熱意を發動せしむるの事實に徴するも、其尋常一様の人物に非ざるを想見せずんばあるざるなり。

(所在地 門司市田ノ浦新聞)

泉鑄造所主 三 輪 政 一

四日市に於て、近來頗に殷賑を加へつゝある泉鑄造所は實に氏の經營に屬す。氏餘漸く三十五歳の青年事業家たり。抑々泉鑄造所は大正十五年四月に亡兄政光氏中心となり、氏並に令弟德藏氏の三兄弟力を費せて創立せしに始まる。創業當初山積せし幾多の障礙も三

兄弟の密接なる提携と奮闘により、次第に克服せられ、日を逐ひて業績向上を爲すに至れり。洋動剋勉品質の改善に意を盡し、技術に幾多の改良創案を加へしに依り當所の製品は多大に好評を以て迎へらる。多面販路の擴張に就いては互に東奔西走して寧日なくその營業方針は飽くまで誠實を旨となし、且つ顧客本位なる所大いに世間の信用を集めたり。斯くして業績向上をなすと共に工場設備は相次いで擴張せられて規模年と共に大を加へ、既成諸工場を抜いて泉鑄造所の名聲大いに喧傳せらる。當所の基礎は愈々鞏固を加へ、操業益々繁忙を加へ、更に次の發展段階へ飛躍せんとするの矢先、昭和十一年五月長兄政光氏卒然として長逝す。當所の支柱たる政光氏を失ひ二令弟は途方に暮れ、事業の前途は一時暗澹たるものありしが、二令弟は奮然として勇を鼓し、愈々協力を密にするを約し、長兄の遺志を繼承して事業の發展に邁進するを誓へり。現所主政一氏は事業に頗る熱心にして寸刻をも惜しみて經營に没頭す。德藏並に俊一の二令弟は令兄を扶けて事業の發展に努力し、兄弟間の親密なること近隣の美望の的とせらる。斯くして以て年と共に製品需要は増大し、操業益々活況を呈し、設備の擴張せられると共に業績益々向上して、同業者間の驚異の眼を以て見らる。亡兄政光氏は年若くし

て幾多の勞苦を重ねたり、一度當所の設立成るや逸早く好成績を挙げ、その事業的手腕には何人も讃辭を惜しまざる所なり。不幸中道にして没せしが、その人物と手腕に對し世間よりいたく痛歎せられたり。現時泉鑄造所は驚異的躍進を遂ぐるに至りしに依り、亡兄も草葉の蔭より、滿悦せられることならん。因に泉鑄造所の主たる事業は諸機械、發動機、高級鑄物製作、その他諸機械、製油機、萬古機、チルドロール、チルド車輛、セミスチール等の高級鑄物の製作を行へり。當所の今後の繁榮は世上の多大に矚目する所なり。

(住所 四日市市朝日町)

菱嘉板店

福井祐造商店

京都木材販賣業界に於て菱嘉板店として著名なる當店は、優良材を販賣して斯界に錚々を以て稱せられ、業礎鞏固にして商況甚だ殷盛を呈し、業界の雄として重きをなせり。即ち、米杉柁天井板、米柁四分板、樺柁天井板、板化粧材、樺柱小割材を専門に販賣し、更に樺柱、小割材部、ベニヤ板加工品部、秋田杉天井板部、委託部の各部門を設けて、それ／＼顧客の用に應じて、懇切丁寧に營業を營めり。當店の取扱へる商品は何れも優秀



福井祐造氏

にして、専ら信用を尊重して、その取引又頗る堅確なるを以て、噴々たる好評を博し、何人も好んで當店との取引を欲する有様にして顧客目を逐ひて著増し、甚だ盛況を極めり。上下一致戮力して事業に精勵し、當店の發展の爲めに孜々營々として活動し、他店に見る能はざる麗しき家族主義の下に、事業經營のなされつつあることこそ、當店繁榮の主要な

原因をなすものならん。業績年と共に向上なしつゝあるを以て、今後の發展こそ刮目して俟つに足るべし。

經營者 福井祐造 京都木材界の重鎮にして、卓犖豪放たると共に識見頗る高邁なるを以て業界に多大の聲望あり。磊落恬淡にして名利に超脱し、至誠熱直業界の發展の爲に八方馳驅して、その貢獻する所甚だ多大なる

ものあり。氏は自己の利害を捨て、顧みずして、時に應じて業界の欠陥を指摘し、大所高所の見地に立脚して眞情を披瀝し國家社會の利益の爲めに懇々として同業者を戒め、斯業の革正に眞摯熱情を傾注し、高潔なるその精神には、何人も感動せざるはなし。氏は木材市場の欠陥是正の爲めに先づ植林政策の徹底化より論を起し、内地木材の外材に比して價格の低位にあるの主因は消費市場の機構の缺陷に由因するとなし、即ち市賣出品値段に指値段を附せず附賣相場の支配せるが、内地材騰貴率の遅々たる所以なれば宜しく荷主は附賣機關を利用して市賣相場の維持に努むべしと説けり。斯くして價格の維持せられるに至らば、伐採後の植林大に行はれ、延いては洪水を防止し、農村の灌漑に裨益すること、なるを以て、木材市場の欠陥是正こそは植林政策の徹底に寄與すること大なりと結びて同業を戒めたり。又内地松杉檜材はその仕入比較的容易なる爲め、他の材に比較して騰足遅く、他面建築業者は諸材の昂騰に悩まされて自然組織化せる問屋より供給を受くるに至り之が爲めに小賣業者は自滅の外なし。されば問屋と小賣業者は共存共榮の精神を以て、相互の理解に努むべしと説破して業者に多大の感銘を與へたり。その言々々々眞に國家を思ひ業界を思ふの眞情に溢れ、一片の私利を宿

さず、私慾を含まざるを以て何人もこれに嘆服せざるはなし。氏の胸中常に衆庶の福利を念じ、業界の發展を希望して、正に士魂を宿せる當代稀有の大事業者といふべし。人格廉直にして襟度寛容、頗る温情に富みて之を拘めども盡きざるものあり。氣宇俊逸にして徳操甚だ堅固、世上より師父の如くに畏懼せらる。

(所在地 京都市中京區西ノ京小倉町)

實業家

田村太郎

氏は大阪府中河内郡布施町牧野太吉氏の二男として生る。牧野家は代々布施町に居住し素封家として知られ、同町の爲めに盡すこと甚大にして又同町民より敬仰を受くること甚だ厚し。氏幼少より頭腦頗る俊秀にして勉學讀書を大いに好み、成績優良にして秀才の譽高し。夙に京都帝大法學部に學び、昭和五年優秀なる成績を以て卒業し、更に助手として同大學に於て研鑽す。眞摯學理の探求に精進して孜々として倦む所なく、その熱誠なる眞理への熱情に對して、前途を期待せられる所多大なりしが、適々氏の人物を耳にせし關西財界の雄尼崎伊三郎氏の懇切なる熱望によりて、花子嬢と結婚す。娘は伊三郎氏の三女に

して宜眞女學校出身の才媛として名あり。まさに才子佳人を得たりといふべし。而して氏は尼崎家の本家たる田村家に姻戚なきに依り、田村家を繼承することとなりて姓を田村と改む。昭和七年京大助手を辭して、尼崎汽船部に入社して事業界に身を投ず。氏は人となり温雅にして磊落恬淡、態度學措悠揚追らず品格自ら備はる。坦々たる順境を辿りながら、人情の機微をもよく理解して部下には常に好意を以て接し、或は謙虛にして辭禮の低き所など、内外多數の人より甚だ敬慕せらる。傲らず高ぶらず、勤勉にして眞摯に其の職務に没頭す。現に合名會社尼崎汽船部船務課長として恪勤せる年齒三十五歳の青年實業家たり。代々尼崎家には男子なきを例とすれども、氏は花子夫人との間に二男を設けて一門より多大に慶福せらる。尙ほ岳父尼崎伊三郎氏は人も知る尼崎造船所、尼崎汽船所各代表社員、大阪曹達、尼崎海上火災保險各社長を始めとして豊國火災保險、三和銀行各取締役以下幾多の會社に關係し、關西財界の重鎮として名聲赫々たり。大阪府多額納稅者にして夙に貴族院議員として政界に於ても活躍せり。尼崎家は代々尼崎市に居住し、古くより富貴を以て知らる。當主伊三郎氏は兵庫縣松井豊吉氏の長男にして前名を徳太郎と云ひ尼崎家の養子となりて先代を襲名す。卓拔な

る手腕の持主にして家道を興してその名を揚ぐ。尼崎家の聲望を背景とする田村太郎氏の今後こそ、まことに洋々たるものありと云ふべし。因に田村氏の實家は氏の實兄たる牧野寅三氏家督を相続せり。寅三氏は京都帝大醫學部を卒業して、同大學松尾内科に於て多年研究に従事し、醫學博士の學位を授けられたる温厚にして眞摯の學者にして、世間より信望高き好紳士たり。

(住所 大阪市北區中之島七丁目)

法人 日本工業俱樂部

我國産業界は大正初葉に於ける世界大戰に依り、劃期的飛躍的發展を遂げしが、一方戰亂の結果勃興し來れる、革新的思想の怒濤の襲來をも亦必然的に甘受したりき。即ち一般産業界に於ても其經營に、その勞務管理に幾多の共通的問題を惹起し、業界の前途愈々多事なるを思はしむるに至れり。斯くて之等の共通的問題に就て、其利害關係を考究し、その對策を樹立實行すべき有力機關の設立を翹望するの聲旺なるものあり。乃ち故和田豊治氏、故園琢磨氏、大橋新太郎氏、中島久萬吉氏、植村澄三郎氏、故木村久壽彌太氏、故大倉喜八郎氏、諸井恒平氏、其他京濱實業家

有志百三十四名は、大正五年一月二十日帝國ホテルに會して協議し、其結果四十名の創立委員を擧げて、社團設立の準備に當ることゝなれり。斯くて日子を費すこと一年有餘、大正六年三月十日初めて創立總會を開催して定款の議決、役員を選定等を終へ、超えて四月十日の登記を了して茲に社團法人日本工業俱樂部を成立せしものなり。而して創立以來茲に二十餘年、或は産業界の爲に、或は國際親善の爲に、或は社會事業の爲に當俱樂部は實に華々しき活躍を續け、以て今日に迫る。即ちこの功績を演譯すれば

産業保護問題 先づ創立早々産業上の重要資源たる鐵鋼問題を調査研究し、我國將來の發展に備ふべく之が自給策を立案建議す。次で我産業界の發展に關係深き關稅問題に就き、調査研究を續け、關稅率改正、關稅政策、伸縮關稅、支那關稅、關稅手續に關する國際會議等の諸問題に關し建議、其中意見を爲す。又大震災後の産業復興對策並に見越輸入防止策に關しては災害の餘燼生々しき裡に調査研究を爲して建議せり。其他監督官廳よりの諸問に對して答申し、或は意見を爲す等何れも産業界發展の爲めに割切有効なる活動をなし來れり。

勞働問題 大戦後尤も重大なる勞働問題に就ては、先づ産業界に與ふる影響の甚大を慮り

豫め慎重なる調査研究をなし其態度を確定す對外的には國際勞働會議に派遣せらるゝ代表者に對して明確なる材料を供して、其活動を應援し、國內的には勞働組合法、健康保險法、工場法、工場危害豫防衛生規則、勞働者災害扶助法等の社會的立法に對して慎重なる調査研究をなして、苟くも産業發展を阻害し勞資双方をして疲弊せしむるが如き法案に對しては斷然たる反對運動を爲す一方特に勞働者の福祉増進を計る如き法案に對しては充分なる援助をなして法案成立の爲に援助を與ふるに咨なかりき。

國際的友好援助 國運の發展に伴ひ海外友好國との國家的交際の機會は年を逐ひて、頻繁となりつゝあるが、當俱樂部に於ても之等海外の重臣、使節を迎へて歓迎の宴を設け、懇談を遂げ、意見の交換を試み、又時に經濟使節を派遣する等、國民外交の實を擧げ、國民的修好の爲に盡力し來れり。

社會公共事業 中華民國水災同情會義金募集の援助、北滿水災義金の募集、北海道水害凶作義捐金募集、警察後援會に對する援助、東京通信後援會に對する援助、滿洲上海派遣軍慰問金の募集等其活動枚擧に遑あらず。尙社交團體としての事業は、會員全體の會合、産業講演會、家族慰安の會合、會員有志の會合趣味の會等を設けつゝあり。専ら、時代は刻

々に推移す、歴史の齒車はその回轉を刻時も休止せず。經濟團體としての日本俱樂部は前述せる活動に依り、その課せられたる歴史的使命を果して現在に靜かに休養状態にあり。しかし、今や全世界は擧げてその内包する矛盾の相剋に喘ぎつゝ、新しき世界への移行の苦悶を續けつゝあり。我が國も亦その悩みを惱みつゝあり。一大轉換期の暴風雨は我が國全般に亘りて、吹き荒みつゝあり。この中に在りて靜止を續け充分なる休養を得たる日本工業俱樂部がおもむろに來るべき時代に於ける使命を把握して再度その活躍のスタートを切るの日も近き日にあらんか。切に千數百名の會員諸氏の健闘を祈る。因に當俱樂部現人的要素左の如し。理事長大橋新太郎氏、専務理事井坂孝氏、磯村豊太郎氏、串田萬藏氏、郷誠之助氏（理事氏名略之）

主事 中村元督 氏は明治十五年四月東京府士族中村宗次郎氏の長子として出生。長じて早稻田大學に學び、同三十九年優秀の成績を以て政治經濟科を卒業す。直ちに渡米ペンシルベニア大學に學を修む。大正七年歸朝後味の素本舖鈴木商店用度課長、帝國ホテル調査課長、大阪堂島ビル支配人等に歴職、昭和元年日本工業俱樂部に入り、専務兼庶務課長を経て主事に昇進して今日に迫る。
(所在地 東京市麹町區丸ノ内一丁目)

松山製作用所

松山原造

信越線大屋驛にて下車する人は何人も、驛の南方に當り一地域を劃して大工場の存するを見るべし。これぞ松山製の製作を以て、その盛名全國農村に隠れもなき松山製作用所なり。當所は特許單據雙松山製を主製品として外に新築水陸兼用碎工機、新築大豆粉砕機並に牛馬耕具一式を製作す。松山製は甲式乙式及畑用とあり、更に乾田、温田、畑及最深耕等各用途に應じて種別あり。その需要頗る旺盛にして、年産額八千挺に達す。需要の激増する所より、最近東京に分工場を設立す。その需要先は長野縣下を始め北陸、東北、北海道、中部地方より、中國、四國、九州、朝鮮の各地にまで及ぶ。他の製品と異りこれが價値を農家に知悉せしむるには多年の日子を要し、而も多大の努力と根氣を必要とす。農務省に於ても發明者の功績に酬ゆべく大正五年十二月特許期間を五ヶ年延長するの許可を與ふ。斯様に當社の製品の優秀なるは廣く認められたる所にして、既に各種の博覽會に於て賞牌を受くること數知れざるものあり。松山製の發明者として松山製作用所を經營す

る松山原造氏は、明治八年十一月長野縣小縣郡大門村に生る。氏の祖父は漢籍に長じ、學殖深遠を以て知らる。塾を開きて近在の子弟を薫陶し、その徳望近隣を蔽ふ。嚴父は農を以て家を起し、勤勉篤實、謹恪恭謙の人格者たり。氏は幼少にして穎才業に秀づ。學を好みて郷費を出づると共に獨學を以て勉學をなし、勤勉眞摯の模範青年として人の稱讃する所となる。適齡となるに及び徴兵検査を受けしに目出度合格せるにも拘らず、抽籤に依りて現役を免許せらる。愛國心に富む氏はこれを遺憾とし君國に報すべき何等かの途を見出さんと欲す。適々更級郡農會に奉職中長野縣の如き結氷を見る地に於ては畦立耕よりも平面耕の有利なることを看取し、平面耕に使用すべき犁の發明に着手し、苦心研究の結果松山製を製作す。直ちに辭職してこれが製作に着手せしむ。後上田市伊藤商會と提携し、更に再び獨力を以て經營に當る。氏は松山製の普及を圖るべく全國各地を訪れ、實地にこれを使用して、その特徴を示す等東西奔走してこれが宣傳に努力せり。而もこれが改良の爲めに種々と苦心する等、氏の奮闘實に容易ならざるものあり。斯くて松山製の優秀なるは次第に全國農村に知らるゝに至れり。これが需要は年と共に増加す。大正十一年小縣郡鹽川村の現在の地に理想的工場を建設す。爾

後相次いで擴張せられて現在の殷盛振りを發揮するに至れり。松山製は農林省推奨各府縣指定として全國農村より絶大なる信頼を受くに至れり。氏の事業は單に營利のみを目的とするに非らず、これを以て農村繁榮の一助にも資せんとするにあり。志操堅確、名利に恬淡、當世稀有の人格の持主たり。
(住所 長野縣小縣郡鹽川村)

川崎造船所專務取締役

吉岡保貞

軍備縮少の提唱さるゝや既に久し。されども英、米、佛の列強は、此の美言に隠れて頻々として建艦軍擴の舉に出で、今や世界は無條約時代を現出、暗雲頻りに低迷し、茲に國際建艦競争の火蓋は切られ、非常時日本の發憤と興起を促すもの切なり。就中四面環海、所謂海國日本に於ては、最も海事、海運、海防の充實に俟つもの最も甚大なり。この秋に當り我が造船界の雄川崎造船所に「提督專務」として令名高き吉岡保貞氏のあるは、非常時日本造船界のため欽快とするところなり。正四位勳二等海軍中將にして、我が海軍切つての造船、造機の權威にして、曩に佐世保海軍工廠長として盡瘁したる後、當社に入り専務取締役に就任、艦船工場所長、製鋸工場所長

製鋼場所長、東山學校長として巨腕を揮ひ、今や川崎二萬の職員欽仰の的たる氏は、鳥取縣士族吉岡豊三郎氏の長男として明治十三年二月に生る。同三十六年、海軍機關學校、同四十四年、海軍大學機關學生教程各卒業、昭和六年異進して海軍中將に親補さる、其間、海軍機關學校教官、海軍省機關局々員、海軍大學校教官、第一水雷戰隊機關長、第三戰隊機關長、海軍省機關局第二課長兼艦政本部技術會議々員、練習艦隊機關長、橫須賀鎮守府艦船部長、佐世保海軍工廠長、海軍燃料廠長等に歷補、昭和八年十一月豫備役被仰付る。直ちに斯業界の元勳たる川崎造船所事務取締役就任、今日に至る。前記各工場所の所長となり、氏入社するや諸般の設備の改善、従業員の素質の向上に意を注ぎ忠君愛國鼓吹を従業員に職責遂行のモットーたらしむる外、技術の向上に萬全を期し、工場の明朗化を計り、言行一致、其の範を自ら示すところ流石に軍人精神の権化と謂ふべきなり。而も氏は常に従業員に待遇改善に専心し、各課員の意見を克く採用、之が實施に奔命せるは、全従業員の感謝尊崇するところなり。又同所技術員の養成機關たる東山學校の校長として、生徒と共に午前七時に出勤、皇居遙拜の後、皇室、敬神、崇祖、尊嚴、忠君愛國の思想演説の爲熱辯を揮ふ外、寄宿舎を椅子寮と名付

け、天照大神と各生徒の祖靈とを祀祭する等氏が精神教育に如何に留意さるゝかを窺知すべし。氏は常に技術報國を以て川崎二萬従業員のスローガンたらしめんとし、機會ある毎に、忠君愛國の信念を、産業を通じて國家に奉公せよと訓示しつゝあり。一面氏の發起に依り、各従業員の淨財を以て川崎神社を各工場に建立、之に、伊勢神宮、熱田神宮を合祀し奉りて、然も全従業員は特に毎朝三十分早出なし、氏と共に神社に參拜、國家の安泰を祈願して作業に就く善風を作興せる等氏の偉大なる力なりといふべし。資性剛毅潤達にして質實の氣風を備へ、而も落落たる胸懷は天真爛漫、飄逸洒脱にして、時には奔馬騁野を馳する奔放味を現はし、卒直にして又區々たる感情に超越、常に天地の自然に悠々調歩する處、之を海上生活の第二天性とのみ解し難く、正に偉人たるの證左なり。部下を愛するの情宛ら吾が子の如く、若し負傷者出でんか、自ら病院に馳せつけ懇篤なる見舞を爲し家族と共に看病する人情の豊かさは、二萬従業員に等しく感激するところなり。氏は常に職員、職工の健康に留意萬全を期しつゝあり今や事業人としての氏の才腕は其明晰、博學と共に縦横に揮はれ、世界造船界に堂々川崎の勇名を馳せしめたりと謂ふべし。斯くて腕の人、膽の人、愛の人として氏は益々光彩を

放ち「軍人専務」、「提督専務」として躍進川崎造船所の重鎮たり。
(住所 神戸市兵庫區會下山町一ノ六二)

國產放熱器株式會社

國內各都市に高層建築場相續で竣成を見つゝあるが、その屋内にて、執務する者の能率を増進し、或は保健衛生の見地よりして、冬の煖房、夏期の冷房装置はビル建築上不可缺の條件をなす。殊に劇場、會堂、百貨店の如き多數群衆の集集する建築場に於ては、この設備を爲さざれば、顧客の數減退し、或は老幼弱者のこれを缺くが爲めに不慮の災厄を蒙ることあり。大ビルの出現と共に我國に於ては煖房冷房装置の機械器具の優秀なるもの製作せられるに至り、殊に國產放熱器株式會社の如き、斯界の華彩として近時大いに名譽を博するに至れり。當社は煖房冷房用品の賣買並に仲介を目的として昭和六年四月に創立せられ、創業以來社業頗る好調を以て發展なし。現時資本金三十萬圓毎期非常なる好成績を挙げつゝあり。本社を東京に置き、大阪、福岡、奉天、新京に各出張所を設く。煖房、冷房の各種用品を取扱ひ、その製品は高砂鐵工株式會社、株式會社前田鐵工所、昭和鐵工

株式會社、株式會社東亞鐵工所等の優秀品を販賣して、甚だ好評を博せり。從來煖房、冷房の用品は外國品の獨占する所なりしが、當社に於ては外國品を凌ぐ優秀品を廉價に供給して我市場より外國品を一掃し、國際貸借の改善に寄與せんものと、創業以來多大に活躍し來りし所、次第に當社品の眞價は世上に認識せられ、近時大いに需要激増を告ぐるに至れり。即ち、昭和十二年下期に於ける販賣高は一百二十六萬二千餘圓に上り、前期に比し三十萬七千餘圓の増加となり、更に前年同期に比較して、二十二萬九千餘圓を増加せり。又昭和十二年一ヶ年間の販賣高は、二百二十一萬八千餘圓に達し、之を前年一ヶ年間の販賣高に對比すれば、實に四十二萬三千餘圓の増加を示せり。十二年下期販賣高は創業以來の記録をなせるものなり。勿論之には價格騰貴に基因して金額増大せるも、販賣數量に於ても多大の増加をなせり。十二年下期に於ける決算を見るに二萬三千圓の利益金を擧げ、株主に一割二歩の配當を附したり。支那事變の勃發に依りて各種原料資材の需要大いに顯著し、鐵材に於ても大いに缺乏を見るに至りしも、當社の事業には些したる悪影響を受くることなく、寧ろ益々好調を以て推移しつゝあり。殊に事變の終結に依りて、事業界は更に旺盛なる活況を呈するに至らば、當社の業

績大いに向上を爲すものと期待せらる。爲替管理の強化、輸入統制の強化等に依り國産品の使用に今後一段と盛となるは必至にして、當社の前途まことに洋々たり。尙ほ當社重役陣以下の如し。代表取締役關山延、取締役佐藤軍太、同前田彌市、同前田清五郎、同飯田久治郎、同安藤薫六、同上西成、同柳田政之助、同藤原史郎、同須賀藤五郎、監査役重金源治郎、同菅谷元治、同萩原貞の諸氏。因に出張所を大阪市、福岡市、奉天、新京の各所に設置して販賣網の萬全を期し居れり。

爲さんとすれば必ず遂げざるなく、行ひて之を果さざるなし、蓋し手腕の人と謂はずんばあるべからず、而して又鞏固なる意志を有するものに非ずんば企て得ざるところ。斯の如き人物は求むると雖も容易に得べからず。偶々關岡長太郎氏あり。氏の如き正に其人ならん。明治二十年二月、愛媛縣北宇和郡愛治村に呱呱の第一聲を擧げたる氏は、幼にして既に大志あり、長ずるに及んで非凡俊敏の胎動を抱きて上阪、着手したる事業は建築業なりしも、氏の先見の事業洞察眼は製鐵業の將來性あるに感ずるところあり、九州の天地を指して八幡市に來り製鐵所員となりたる後、獨立して現業を經營したるものにして卓抜の手腕と商才は着々として業礎を固め、現時非常時局に拍車づけられ、益々隆盛を極むるに至りたり。而して氏は多年無産階級解放運動に興味を有し、労働組合同志會に入り幹事となり、次で大正十三年十月同志と共に無産政黨組織準備會を提唱し、翌十四年、九州民憲黨の結黨せらるゝや、推されて中央執行委員となり、其熱血剛直に敏腕を揮ひ、同年八月八幡市會議員の改選に際して同黨より出陣し

關山 延 頭腦萬敏にして才氣煥發を以て業界にその名聲錚々たる氏は明治二十八年八月、茨城縣人木村虎次郎氏の三男として生る。後關山家に入りて同家を嗣ぐ。夙に神戸高商を卒業し、高砂生命保險會社に入り、後高砂鐵工所に轉じ、大いに才腕を揮ひて取締役支配人に擧げらる。國產放熱器株式會社の創設せられるや、代表取締役に選出せられ、専ら同社の經營に没頭して貢獻する所多し。昭和七年二月第十六回國產労働會議に出席して、大いに活躍す。資性濃厚にして識見該博、少壯敏腕の實業家として前途を矚目せらる。

(所在地 東京市麹町區丸ノ内二丁目)

て其事當選の榮譽を得、市會事會員の重きに任じ、其の爽やかなる辯言と正論は萬々として議場を壓し、同市會に於ける花形的存在を以て著名し多大の貢獻を残したるは人の知るところにして、爾來汝々として社會黨正運動に盡瘁しつゝありしが、去る昭和二年同志と意見の對立するに至りしかば、同黨を脱黨し盲目的無産運動より轉身して、氏獨自の一境地を開き新しきスタートを切り、今日に至る



氏 郎 太 長 岡 龜

も、其の理論と眞摯の熱情は常に労働階級の等しく欽慕敬服するところなり。人と爲り温和謙虚にして徳操高く、公事の爲めには復た私事を顧みず、辯舌快明にして識見亦時流を抜き、而かも居常空論を排して肚裏に旺盛なる實力を蔵せり。今や其の聲望と信頼は期せずして縣下を風靡しつゝあり。而して社會公共事業の爲め多額の私財を投じて社會思想善導に渾身努力しつゝあるは、世人の認知す

るところなり、現に福岡縣に於ける多額納税者なり。

(住所 福岡縣 八幡市 鐵町)

會社 株式 丸 物

觀光都市としての京都は其關門に地上九階地下一階の堂々たる九千餘坪を數ふる、デパート丸物の新裝完備により、更に一如の精彩を加へ、近代京都の第一印象を鮮明にせり。躍進又躍進を続けつゝある丸物は新館落成以來、入浴者の必ず訪する京名所として華々しき活況を呈し、その絢爛豪華たる建築は構想を近代文化の精神に採り、最新施設の完璧と高踏的表現の美に輝けり。店内には常に清新なる季節百貨を充實し京名産を普く蒐め、科學の經驗に依る精選と他の追随を許さざる廉價を以て提供し、眞に近代百貨の殿堂として京都百貨店界の最高峰たるの觀あるもの、是れ即ち時流を洞察し、大局に着眼し所信斷行の人として實業界に重きを成せる社長中林仁一郎氏の人格の反映にして、これに一層の生氣と風韻とを添ふるものは新進氣鋭の常務各政二郎氏、支配人立入勇藏氏のブレイン・トラストの異常なる熱意と努力の經營方針の精華なりとす。當店にては冬の暖房装置は勿論

地階六階の公衆食堂の料理用としてオープン式瓦斯爐を用ひたるのみならず各階公衆、店員の休憩室、重役室の湯沸、乃至理髮室のタオル蒸、アイロンに至るまで悉く瓦斯設備とせり。顧客本位の美容、理髮、寫眞、喫茶室の近代的感覺味横溢せる明朗なる設備は、正に十二分の魅力を有せるに、新館百六十尺の上空には光度百萬燭光、光達距離二十餘里を誇る京都唯一の航空燈台の在るあり、中二階喫茶サロン及五階大食堂に近代壁畫界の双璧藤田嗣治、東郷青兒兩畫伯の苦心の技に成れる創作壁畫を掲げたなど、錦上更に花を添ふるの觀を呈せり。猶ほ、七・八階は子供の理想的遊園とし、靈明なる山容水態を一瞬の裡に好むるを得。而して當店は京都本店の外西陣に分店、岐阜、豊橋に支店を東京、大津、伏見、大垣に出張所を有せるが、更に新界の超記録的大飛躍を遂げ、汎く颯翼を展ばさんとの意氣込目覺ましきものあり。

社長 中林仁一郎 氏は京都屈指の舊家中林家第十五代の主にして、明治二十四年四月十三日先代捨次郎氏の長男として生る。幼にして聰穎且精神の氣に富めり。明治四十三年京都市立商業學校を卒へて後、育英學校に經濟を學び、總て家業を繼ぎたるが、天性明敏なる氏は夙に百貨店事業に興味を抱き、

大正八年京都驛前に資本金五十萬圓の合名會社京都物産館を創設して其代表社員となり、百貨店の合理的經營に力めたる結果業績大に擧り、遂に昭和六年十月創業記念日を卜して名稱を丸物と改め、次いで同九年十月株式會社に組織を變更して大飛躍に備ふるところあり。其間昭和四年商品配給機關たる使命の遂行上、先づ西陣分店を設けて京洛西北部一帯の消費層の便益に供し、翌年六月には岐阜市柳ヶ瀬町、更に同七年には豊橋市廣小路に支店を設置して、丸物の旗幟を東海に翻し、茲に販賣網の完成を見るに至れり。斯くて潑刺たる發展の記録を印しつゝ昭和十一年を迎へ同年秋に追ひ資本金は三百萬圓に増資、新館完成に次いで増改築工事完成の壯觀を見、地下一階、地上九階、従業員二千、賣場面積九千坪の名實共に我國一流の百貨店の地位を確保するに至れるなり。猶ほ氏は右の外、家具製作と食料品製造に特異の境地を開拓しつゝある併業株式會社(資本金五十萬圓)の相談役として之が指導に當りつゝあり。氏は志操高邁にして識見卓抜、而も經營的手腕に加ふるに指導的才幹を有し、又上下の世情に通じ情味の抑すべきものあり。部下に臨むに立つて精勵、店員皆其徳に感ひ、上下一致の美風を醸成せり。氏の社會奉仕觀念の烈々た

るは何人も首肯するところにして、商工調停委員を首め、各種の公共事業團の理事に推され、又神社寺院の事業に參劇し、社會事業の有功者篤志家として名聲噴々、昭和三年御大典に際し紺綬褒章を授けられ、其他諸種の表彰状を以て氏の周圍は光彩を放てり。昨春京都商工會議所議員選舉に當り、最高點の榮を得たるの事實に徴するも、其聲望の一端を想察するに難からざるなり。猶ほ氏の博學多才にして殊に建築方面に通曉せることは専門家の驚嘆するところにして、這次の増改築工事に於ける店内裝飾の如き、實にそのイニシアチヴに據るものなり。趣味は讀書、寫眞、ゴルフ等多端に亙り、殊に南畫をよくし、瓢箪の繪と樂燒は既に定評あり。社會的には多業多彩にして内面的には不滿意を歎ける人も世に鮮からざるが、氏は盛業又幸運の人に於て、家庭には發君捨次郎氏の老いて尙健在なる三男一女を挙げ、長幼和親、歡聲笑語常に堂に充てり。

(所在地 京 都 驛 前)

會社 鈴木 石炭 商店

當店は中京炭業界に於て、その創業古く、

業礎鞏固に、商況殷盛、資力信用披群の石炭卸商として、その名聲甚だ高し。當商店は現店主の嚴考鈴木樹次郎氏明治二十五年に一色町に於て、石炭商を創業せるを以て淵源となす。當時我國は歐米の文物の輸入漸く盛とならんとするの矢先にして、東海地方に於て工業の如き近代的大事業未だ勃興せず、況んや石炭の需要は無論之が利用の方法をすら解せざるの有様なりき。故に於て氏は先づ在來の薪炭に比較して石炭の如何に優れるかの利益特徴を説明し、これが宣傳と使用の勸説に力を盡くせり。由來進取の氣象に乏しき同地方の人々も、氏の熱心なる努力に依りて始めて石炭を使用し、漸くそれが効用の偉大なるを知悉するに至れり。需要の次第に増加するや氏は商品は直接筑豊肥前の山元より取引をなし、更に需要の開發にも大いに意を用ひしにより事業一段と活況に向へり。茲に於て名古屋市に進出して支店を設け、一大躍進を明せり。數年を出でずして名古屋支店は事業大いに繁忙となり、却つて本店を凌駕する業績を擧ぐるに至れり。されば本店を名古屋に移して之が繁榮に全力を傾注せり。鈴木氏は稀れに見る事業的才腕の持主にして、素志堅剛、努力奮闘の士たり。店員の先頭に立ちて八方馳驅し、販路の開拓に或は各種事業に手を伸す等その活躍まことに著しきものあり。氏の

經營方針は飽くまでも信用に重きを置き、取引事實にして、眞摯誠實を以て事業の經營に當りたり。これに依りて年と共に發展をなし遂には今日の如き盛況を見るに至れり。昭和八年七月には合資会社に改組して鈴木氏代表社員となる。その後令息後任を襲へり。尙ほ東京出張所を神田區三崎町に設けて帝都にまで事業網を張りて頗る活況を呈す。石炭の外コークス製造販賣、ピッチ煉炭製造販賣、名古屋瓦斯株式会社の副製瓦斯コークス、コーラルター一手販賣並に煉炭原料炭として朝鮮大實面無煙炭、大嶺無煙炭、支那産無煙炭を取扱ひ、又家庭用として鴻基無煙炭、支那産無煙炭等の取扱を爲し、その事業實に多岐多様に亘る。販路頗る廣く、愛知、三重、岐阜、長野、新潟、福井、滋賀、東京、埼玉、茨城、群馬、東北一帯その他の地方に及び、最近の年扱高は二百萬圓に達せんとし、頗る好成績を挙げ居れり。嚴考鈴木次郎氏は剛毅敢爲手腕家にして、明治三十九年の頃より早くも朝鮮開發を志して廣大なる農場をば經營し、次いで同四十三年朝鮮實業株式會社を設立して取締役に就任す。後ち三河セメント株式會社に重役として列し、中京事業界の菁宿として重きを爲したり。

代表社員 鈴木次郎 氏は嚴考鈴木次郎

郎氏の長男として、明治三十二年九月を以て生る。前名を憲一と呼び、後襲名す。夙に名古屋商業學校を卒業す。智能慧敏、天賦の商才あり。明晰果敢頗る手腕家なり。温恭篤實の人格の持主として頗る人望ありて、嚴考の名を恥づかしめざるの材器なり。將來中京財界を統率して立つの巨頭として大成すべし。雅山と號し、哲學の研究を趣味とす。

(住所 名古屋市中區堀川町三九)

東京市長

小橋 一太

滿洲事變、支那事變等相次ぐ重大時局を突破して、悠遠三千年の光輝燦々たる歴史を有する我日本の最近の目撃しき躍進こそ、全世界を擧げて驚倒せしめ、世界史に新紀元を齎すものとして、絶大なる注視の拂はれる所となれり。我國運の隆々たる勃興を見るに伴ひ鳳聲の在します帝都東京の顯著なる發展にもまことに驚嘆すべきものありて、我國力の伸暢を如實に象徴せるものとして、之れ又世界各國より多大の注目を受けつゝあり。現時人口六百八萬五千人、總面積五百七十八平方キロに及び、世界有数の大都會たり。六百萬の市民の聲望を一身に受け、市長の要職に就けるを小橋一太氏とす。天資高邁にして器局宏量

夙に政友本黨幹事長に擁せられしが、昭和二年六月憲政會と政友本黨の合體して、立憲民政黨の創始せられるに及び、推されて總務の椅子に就く。昭和四年七月濱口雄幸氏大命を拜して、組閣するに及び、文部大臣として臺閣に列し、同年十月辭職す。後久しく閑雲野鶴を友とし、讀書によりて新知識を攝取し、或は時局の推移に思索を凝し、時に又書畫の鑑賞に雅懐を託す等、悠々自適の生活を樂しみつゝありし所、昭和十二年六月東京市民六百萬の輿望を受けて出盧し、市長に就任す。東京市は輿輦のまします帝都にして我國政治經濟、文化の中心地なるを以て、外國より貴顯紳士の來訪絶えず、これが迎接に當る市長こそ單に六百萬市民の代表なるに止らず、我國民を代表するの人格者にして、又閱歷を有する材器たるを要す。而も東京市政の經緯たるや、頗る煩雜多岐にして、群拔なる手腕に遠大なる抱負を有せる經世家たると共に、徳風高く萬人の師表に仰ふがべき君子人たるざるべからず。氏は多年官界にありて、その英才を諷はれ、又政界に奔走してはその器局衆の悦服する所となり、名利に超脱して人格頗る清廉潔白、寛厚にして仁情に富み、世人の崇高を受くること甚だ厚し。十六代東京市長に就任以來、幾多の政黨政派の割據して政争激烈を極むるを以て名ある東京市會も、氏

の人格識見には深く歸服し、一致戮力して氏の施政に支持を惜しまざる所となれり。非常時局下の東京市政は愈々重大性を加へ、國民精神總動員の各般の諸施設、防空に關する諸設備を始め、各種施設の戰時體制化等の諸事業あり。更に紀元二千六百年に關する祝典の準備或は萬國オリンピック開催に關する諸般の事業等ありて氏の手腕に俟つ所多く、この時局下東京市民は名市長を得て、至幸至福といふべきなり。小橋氏は温恭謹厚、襟度寛容にして徳操堅固、春風胎蕩たる温容は、聖者に接するの思あらしめて、何人も不知不識に頭を垂る。六百萬市民より師父の如くに讃仰せらるゝは故なしとせざるなり。因に小橋氏は全國神職會、大日本衛生會各會長、財團法人濟生會、財團法人慶福會、日本青年會館各評議員、明治神宮外苑管理評議員、職業紹介會委員會、瓦斯事業委員會、東京府防空委員會中央防空委員會各委員、紀元二千六百年記念日本萬國博覽會監理委員會委員、紀元二千六百年祝典評議員委員會委員等の職にあつて、各方面に活躍せり。

(住所 東京市品川區上大崎二丁目)

事業家

中島 勝 一

一藝一能に達するは古來難しとするところ

遠大なる識見に淵博なる蘊蓄を備へ、朝野の人士より深甚なる敬仰を受け、當代稀觀の偉傑たり。氏は明治三年十一月、熊本藩士小橋元雄翁の長男として呱呱の聲を揚ぐ。幼少より穎悟にしてその舉措潤達、大いにその前途を矚目せらる。明治八年家督を繼ぐ。同三十一年東京帝大法科を卒業し、直ちに内務省に入り、縣治局に勤務し、文官高等試験に合格す。爾來異進して山口、長崎各縣參事官、内務書記官、内務參事官を歴任して内務事務官に進み、大いに鋭鋒を示して部内に於ける少壯有爲の逸材として推重せらる。儕輩を抜いて内務省衛生局長に登用せられ、地方局長に榮進し、土木局長を経て鐵道院理事に任ぜられ續いて内務次官に就任せり。大正九年に至り憲黨より擁立せられて、衆議院議員に立候補して、當選す。茲に氏の政治的手腕大いに發揮せられ、その材幹は政界の多大に矚目する所となれり。抱懐する高遠なる經綸を傾け卓効の才腕を揮ひて政界場裡を八方に馳騁し名聲大いに揚りて其聲望噴然たるものあり。大正十三年清浦内閣の成立するや、懇請を受けて内閣書記官長の大任を拜し、特に親任官の待遇を賜ふ。明晰果敢幾多の諸問題を鮮かに處理し、快刀亂麻を斷つが如くに諸事を裁決して、よく政局を突破し、政界一方の將器たるを示して衆庶の嘆服を受くるに至れり。

謂はんや粒々辛苦而も空拳徒手を以て、克く世の荒波を乗り切り一業に達し、更に進んで世道刷新、社會繁榮に奉仕するは、その大小巨細を問はず言ふべくして容易ならざるところなり。我が中島勝一氏の如きは世の所謂成功者たるより寧ろこの難きを遂げたる當代稀觀の眞個の立志傳中の偉才と言ふべきなり。西日本隨一の青果の集散地たる下關市に於ける王座を占める青果商として内外の信用を博し隆々の盛業を贏ち得たる外、下關市會議場の急先鋒的熱血議員として、錚々たる存在を諷はれつゝあり、蓋し後進の範として推稱するに足るものあり。其の業を興したるは實に氏の二十六才の青年時代にして空拳よく苦難の二十幾星霜を克服したるものにして、如何なる危局に直面するも、敢然立つて之れに挑戦、精勵刻苦倦むところを知らず、其の不屈不撓の精神旺盛にして一步も退かず、終始一貫したるは正に血涙に彩られたる人類立志傳史に絢爛の一面を劃するものと言ふべきならん。斯くして築き上げられたる店礎は愈々確固不搖の磐石を開き、現時同店の有する販路は内地はもとより朝鮮、滿洲、臺灣に伸長し、年額賣上は實に三十五萬圓を突破し、得意先の信望を全幅的に受け、業態は年と共に躍進の好過程を辿りつゝあり。又高風玲瓏たる人格と非凡卓拔の經綸手腕は衆望を擔ひ、

下關市會議員に當選すること三期、連続當選の榮譽を獲得、其の間昭和八年より同十二年に至る氏の市政に盡したる功績尠からず。名副議長として聲望噴々たるものあり。其の私心を離れたる行動は、堂々政治的地位を築き上げたものと云ふも過言に非ざるところなり。而して昭和十二年會議員候補として、馬を中原に進め、若冠善く奮戦せしも、同志



中島 一勝 氏

候補者亂立のため一陣は敗戦のやむなきに至りたるも、氏の果敢なる闘志と熱意は来るべき總選挙に必勝を期して戦ふの決意満々たるは同市民の等しく待望するところならん。篤實にして熱直、人俠義氣に富み、而も人格今や圓熟骨脱にして決して人に城府を構へず、名利に恬淡なる士として、郷人皆其高風に感ぜざるなく、氏の前途は將に洋々たるものあり。

(住所) 下關市唐戸町一

株式 日本信託銀行

金融界に異色ある存在として、その名聲高く、業礎鞏固にして内容堅實、毎期多大の好成績を擧げて財界に牢固たる信用を占むるものに、日本信託銀行あり。大正九年三月資本金五千萬圓を以て創立せられ、同十三年十月内容の充實を圖る爲めに、當事者の大英斷に依り三千二百五十萬圓の大減資をなし、資本金一千七百五十萬圓(全額拂込済)となりて今日に至り。創業以來迂餘曲折ありしが、當事者堅實主義を堅持し來り、内容の充實と業務の向上に銳意精勵し來りしに依り、近來多大の發展を見るに至り、業運隆々として勃興を辿ることなれり。農に舊大正信託の事業を繼承し昭和八年四月現在の名稱に改む。當行の營業種目は一般銀行業並に擔保付社債信託とす。昭和十二年下期末現在に於ける各種準備金は合計三百五十二萬九千圓に上る。又同期末に於ける預金は當座預金一百一十一萬六千圓、特別當座預金二百四十萬八千圓、通知預金一百十五萬五千圓、定期預金二百一萬四千圓、別段預金三十四萬六千圓、預金手形二千圓、總計七百四十四萬四千圓となれり。他方期末現在各種貸付金合計四千四百九十五萬二千

圓にして、又所有有價證券二百十萬三千圓、所有不動産五十三萬七千圓、現金二百二十九萬六千圓に達し、内容頗る堅實なるものあり。昭和十二年下期決算に依れば、總收入一百八十七萬八千圓、總支出一百二十八萬五千圓となり、差引當期利益金五十九萬三千圓を擧ぐ。各種償却に六萬七千圓、各種積立金八萬二千圓を計上し、株主に五分の配當を附せり。金融界まことに多事なる折柄、當行の業績次第に立直りつゝありて、その將來大いに期待すべきものあり。現在常務取締役車谷馬太郎、取締役上島谷三郎、同中村爲三郎、取締役兼支配人中田秀雄、監査役中村秀五郎、同横江萬治郎の諸氏重役に列して手腕を揮ひ當行の發展に力を盡くせり。

常務取締役 車谷馬太郎 頭腦敏密にして用意周到、明治三十八年東京高商を卒業し、次で保險專攻科に於て研修をなし、後日本銀行に入る。精勵格動して業務に没頭し、その頭材を認められて重用せられ、多大の功績あり。大正九年當行の創立せられるや聲望溢し難く營業部長として入り、その發展に寄與せる所絶大なり。常務取締役に就任し、天分の才腕を發揮して金融界に大いに名聲を擧ぐ。資性温厚にして謙讓寛容にして仁情に厚く、部下に對しては懇切に指導し、適材を適所に

發揮して、氏の人徳には皆慈父の如くに悅服せり。東京府人車谷馬太郎氏の長男として明治十六年九月を以て生る。

取締役兼支配人 中田 秀雄 資性伶俐にして素志堅確、眞實業務に勵精して内外に多大の信望あり。明治二十五年一月福井縣に於て呱呱の聲を擧ぐ。大正五年東京帝大政治科を卒業す。大正九年當行の創立と共に入りて東京支店に勤務し、精勵格動して大いに頭角を現し、簡拔せられて預金、計算課長に進み、後現職に選任せらる。人格玲瓏圓滿にして温醇誠實にして、その信望の大なる稀に見る所たり。

(所在地) 大阪市東區今橋二丁目

會社重役

若月 國立

財界の巨人先々代安田善次郎翁の言に「何人とも堅忍不撓の固着力と、勇往邁進の實行力に缺如する者は、一旦逆境悲運に遇過せば、失敗者の屍を社會に曝す外なく、之れに反し強乎不動の決心と、千挫不撓の堅志とを以て事に當る人物は、如何なる失敗打撃を蒙むるとも、斷じて責任を逃避する事なく、寧ろ踏きたる石を取つて、一直線に之れを踏み

石として邁進、終に遂げずんば止まず、故に凡そ人の事に大成するは如何なる困難障礙起るとも毫も意とする所なく、其の目的に猶突邁進するの外何物やあらん」と。之れ實に人生成功の要訣にして、目的貫徹の強志と、踏みこたえる之堅心の偉大なるを強調したるものなり。斯の如き人物は容易に得ざれども茲に人あり、若月國立氏の如きは即ち然りとす。氏は山形縣の人、明治二十五年九月を以て呱呱の一聲を擧げ、爾來氏の半生は克苦、堅耐努力、不撓の言辭に綴られたるものにして、其の職を奉じたるは日本光機株式會社なり。然して遂に庶務係、會計主任、監査役と上進して現時當社の事務取締役として明敏遠見の頭腦手腕は斯界に燦然として異彩を放ち、當社今日の隆盛を致したる氏に俟つべきもの甚大なると言ふべく、以て正に當代稀に見る立志傳中の逸材なりとす。

「事業は必ず時代思想に副はなければならぬ」と之れ、氏の持論にして今や當社は滔々懸河の勢を以て社運の隆々旭日の如く、而も當社製になる硝子、器具、レンズ、照明機、通信機、電信機、燈臺用品等何れも近代科學の粹を以て製造され、或は軍部に或は民間に躍進の一途を辿りつゝあるは畢竟氏の堅強努力の反映として見るべくも過言に非ず、人力の事業に顯現される偉大なる證左を物語るも

のなりと言ふべし。資性豪放にして大膽なるも、周到にして卓動、財政經濟に通曉し、經綸極めて豊潤なり。而も一面至誠謙遜、衆に範たる器量有し、社會公共に盡瘁し、また衆庶の指導啓蒙に意を注ぎ、所謂才德兼備を以て、上下の欽慕大なるものあり。

(住所) 横濱市神奈川區桐畑一

日興産業株式會社

我が日興産業株式會社は、時局に反映したると云ふよりも、寧ろ眞に自ら處するの確乎不拔の遠大なる理想目的の基に、去る昭和十二年六月資本金七十萬圓全額拂込済を以て設立されたるものにして、舉國一致は官民の不可分の提携に依らざれば、眞に非常時克服を遂げ得ざるの信念に燃ゆる企業界の俊豪安田彦一氏の愛國心に訴へ設立されたる軍需品事業を目的としたるものなり。創業日尙淺きを以て、未だ其の成果は期待の外にあれども、堅實にして不拔の努力は着々として、業礎の確立を見、今や斯界に堂々躍進の所産を發表。副目、て餘りある業態を示しつゝあるは、邦家の爲め欣快に耐へざるところなり。

支配人 安田彦一 才と徳と夫れ一致せ

ざるものか、されど茲に人あり。其の才智よく業に超え、事に處するや機先を利して果斷直行真に世の範となすに足るも、一度其の性行を窺ふに醜狀紛々、正規するに耐えざるものあり。又愛に人あり、恭謙仁俠能く人に厚く、德行常に業に範とするに足る。されど一度事を成すに當りては、逡巡姑息鈍刀を以て物を裂くが如く、到底事業の第一線に立つを得ざるあり、前者に非ざれば後者、眞に才徳兼備の士に至りては、曉天に寥々の星を數ふるが如し。我が安田彦一氏の如きは當世に容易に得難き才徳兼備の士なり。剛毅潤達にして果斷明晰なる頭腦は微妙なる鋭鋒となりて猪突貫徹、而も重厚にして篤實、克く人情の機微を知る。蓋し當代稀に見る才徳兼備の俊才にして非常時局に立ち上られる氏の今後に期待するもの甚大なるものあらん。氏は京都府安田彦次郎氏の長男として、明治二十四年十月を以て、京都府東山に生る。夙に京大法科修業後大阪市北区船大工町辯護士谷田俊太郎氏等と發起して、昭和二年長岡グランド株式會社を創立し、常務取締役を推され、専ら會社經營の任に當り、其手腕を縱横に揮ひ大に活躍せるも、機を見るに敏なる氏は、昭和十年六月同社を縣產組合に譲渡し、巨利を獲得するや、同志谷田俊一郎氏を社長に、谷田國次郎、村田清治郎氏等を取締役として日興産

實業家 廣谷繁藏

業を設立、氏は之が支配人に就任し、從來取扱ひ來れる軍需品の製作を一大擴張せしむる計畫の下に着々成果を收め現在に至れり。其の熱血愛國心は非凡の才腕と共に發揮するべきは疑ひを容れざるるところにして、必ずや近き將來に近畿の天地に氏の颯爽たる慧星的存在を見出すことならん。氏は信仰に厚く金光教信者として三島郡地方に於ける同教信者總代として盡力するところ多し。
(所在地 大阪市北区堂島濱通堂島ビル)



廣谷繁藏氏

利の争鬪戰、錢の音騒然たる商業都市大阪に於いて、自らは其の中に在るも超然として利慾に恬淡、而も高潔なる人格と、卓越せる識見を有し、世上一般の信望を一身に聚めつゝある氏は關西實業界に稀に見る紳士なり。氏の生家は代々北海道函館に住し、先代八郎氏は同市有数の實業家にして、主として倉庫業並に海陸物産問屋を經營し、其の頭腦の明敏にして人格識見ともに拔んで最も信望篤く、斯界の重鎮として令名ありし人なり。氏は其の長男として明治二十五年十月を以て生れ、同四十三年函館中學を卒業するや、家業に従事、精勵格勤能く父業を助け、其の隆盛

資性敦厚にして頗る謙讓、常に正義を愛すと共に不義を憎み、所信を行ふに於ては、一毫も退讓せず、廉潔にして謹直、而も其の溫柔の外貌は實に清教徒の如く涼風餘韻の漂ひ漲り、接する者をして自ら畏敬の念禁じ能はざるものあり。而して仁俠の精神に篤く、物すべき温情の持主として知らる、氏の向後は期待して俟つべきものあり。
(住所 大阪市東成區片江町八三)

日本ピラー工業所

現下重大時局に當り能く時代を認識し「工業報國」の建前に於て確固たる營業方針を樹立し、躍進に躍進を以てする日本ピラー工業所は昭和五年業界の惑星的存在たる現所主岩波嘉重氏の創業に係り、爾來日本ガスケット工場の名の下に順調なる發展を遂げ來れるが昭和十二年夏當所製作各種の新金屬パッキンダにつき日本政府の特許を得たるを以て諸機械の増設と共に、茲に工場名を日本ピラー工業所と改稱し、一層業務の刷新新陣容を以て優秀金屬パッキングの製作に進出するに至れり。當社の製品は内燃機關用各種ガスケット、船舶高熱機關用金屬衛帶、高速度ポンプ用金屬衛帶、コルクパッキング、チョイントパッキング、オイルシートパッキング、皮革、フアイバー各種パッキングの専門工業多種製産なり。而して當所製品は我國軍需工業品として陸海軍諸工廠に納入する、外一般内燃機關製作所、トヨタ、ダットサン自動車に主として配給され斯界革命品として其優秀を以て歴例的歡迎を博しつゝあり。尙當所の特許ピラー金屬パッキングは獨特の減摩合金、減摩劑より成り摩耗極めて少く、非常に耐久力に

富み、數年間の使用に耐へ取扱挿入頗る簡單實に理想的金屬又は半金屬パッキングにして正にパッキング界の王座たり。本品を採用する船舶は日本郵船、大阪商船、山下汽船、國際汽船、三井物産を筆頭に百有餘の大小會社の船舶八百餘隻に愛用せられつゝあり。この事實こそピラーパッキングが如何に優秀なるかを雄辯に物語る證左と稱すべく、尙當所は下關市岬の町六十七番地(電話下關二四一〇番)に下關出張所を設置し、西日本の販賣網を擴張強化すると共に、一般需要家の便を圖り居れり。創立以來所歴未だ十年に滿たずと雖も、鞏固稀れなる業礎は既に磐石の上に築かれ、今や業界の革命兒として躍進工業日本の旗幟を立て、邁進し、着々實績を擧げつゝあるは洵に欣快といふべし。
因に當所の堅陣は、人格圓滿なる努力の人岩波嘉重氏采配の下に林正雄、笹本武四郎、長井元信、黒田豊次郎、藤森直衛の幹部諸氏協賛一致精進せり。
(所在地 大阪市東淀川區野中南通二ノ五六)

日本畫家 玉舎春輝

日本畫壇の重鎮玉舎春輝氏は、名匠左波五

郎を出せる飛騨高山の産。父は鑛山家として其名を轟はれたる人なるが、一朝の蹉跌は一家永年の困頓を招來し、爲に氏は幼少より青雲の志を抱きつゝ、郷閭窳爾たるの已むを得ざるに至り、快々たること多年、其間具さに世路の辛酸を嘗めたるが、天賦の畫才は遂に氏をして草書と共に朽つるを肯せしめず、明治三十四年の春、意を決して京都に出で、當時日本畫壇の香宿として推重されたる原在景氏に師事し、技稍々熟するに迫りて、山元春舉畫伯の門に入り、研鑽すること十餘年、其間に於ける生活上の艱苦は實に言語に絶し、所謂糟糠にだも飽く能はざる状態にて、勉學の餘暇、織物圖案等を畫きて零細の金を得、辛うじて凌きたるが、氏の苦痛とするところは茲に在らずして、資材の餘裕無きため畫人の登龍門たる文展出品の希望を遂ぐる能はざる點に在りき。爲に押へ難き技藝に悩まされつゝ、第一回、第二回共に斷念の已むなきに至り、第三回に漸く素懐を遂げて、一舉にして堂々入選の喜びを見たるが、四回、五回亦同一の事由に依り、完璧を期する能はずして入選洩れとなり、初期の間に於ては一進一止の觀を呈せり。然も一難を経る毎に氏の努力は白熱の度を加へ來りて技愈々熟し、第七回以降連續入選、造詣精妙なる其畫才は大に世に絶讃され來りたるは世人周知のところなり。山陽

の言へることあり「吾を以て天才となす者は未だ以て吾を知らざるもの、吾を以て能く割苦せりと爲す者は眞に吾を知るものなり」と氏今世を避けて山陽の舊居山紫水明莊に在り。技に誇らずして功に誇らずして這箇故人の言に辜負するなくんば幸なり。

(住所 京都市上京區東三木丸太町上)

株式 辻 長 商店

和洋酒師商として、年來目醒しき活躍を示し、今や關西飲食料界屈指の成功者として、名聲噴々たる辻長次郎氏は、京都府山本長左衛門氏の長男にして、明治七年十二月出生。出でて辻家の養子となり、同三十六年家督を相続し、株式會社辻長商店代表として今日に迫り。同店は明治二十二年先代長兵衛氏の創始に係り、永年に亘る個人經營の間に次第に信用を増大し、遂に淺井商店と相並んで斯界の双璧と稱せらるゝに至る。長次郎氏は家業を繼ぐに先立ちて東京方面に於て斯業の經驗を積み、其豊富なる智見を基礎とし、新銳の氣を揮ひて之に當りたる結果、大に業績を擴大してキリンビールの特約店となり、次いで朝日ビール(淺井經由)大阪祭原、松下、

帝國讀泉、三矢等の二手販賣をなし、市内最盛の重要地帯たる祇園、先斗町、京極方面を主たる得意として斯界に雄飛するに至れるが時勢の進運に鑑み、従来の規模及營業方針を以てしては到底大成を期する能はずとして、改組の英断を下し、昭和十年一月資本金三十萬圓(全額拂込済)の株式組織に革め、爾來躍進的發展を示し、聲價大に揚り、今や斯界の最高峰として同業瞻仰の的となれり。

社長 長次郎

辻氏は京阪人士の類型を脱せる人物にして、其特徴よりすれば、寧ろ關東人士に大部分の相似點を有せり。特徴とは何ぞ。氣象の俊爽調達なる、是れ其第一なり。志操の堅硬高大なる、是れ其第二なり。言動の洒々落落たる、是れ其第三なり。義氣俠骨に富める、是れ其第四なり。進取敢爲の精神の横溢せる、是れ其第五なり。這箇各様の特徴は京阪地方に於ては往々にして傳來の風習に低觸し或は一般の氣風と拮据するの傾を有し殊に實業家たる立場に於て其の最も甚しきを見るを常とせるが、氏に在りては然らず。環境と能く調和し、衆人と能く融合し、其日常の行藏圓融無礙にして恰も水の物に隨ひて形を成すの趣あるところ、既往幾多の難關に遭遇し幾度か人生の風霜を透過して所謂和光同塵の悟を開ける者に非ずんば能はざる境地に

株式 野 村 銀行

して、此に據つて氏の過去に於ける體験の普通人のそれと迥を異にせるを想察すると共に、其尋常一様の人物に非ざる事を看取せざるを得ざるなり。

(所在地 京都市中京區木屋町通三條下ル四丁目鍋屋町)

本邦商工業の首都大阪に本據を置き、各種産業部門に亘りて宏壯なる事業網を全國的に張り廻らし、事業界に牢固たる地盤を築きて名聲隆々たるものに野村王國あり。野村銀行は實に野村財閥の參謀本部野村村合名の直系銀行にして、同系産業網の動脈たるの役割をなし、かねて全國金融界に群岳を抜き立て立しその信用磐石の如くに堅固たり。當行は大正七年五月に創立せられしものにして、野村王國の背景あるに依りて絶大なる信用を博し、各地商工業者は競ひて當行との取引を望み、當行又事業界の爲めに幾多金融的便宜を供して産業の發展に貢獻せる所鮮少なからず。業績年と共に飛躍的に發展し、その規模頗る宏大にして業礎又甚だ堅固たり。現在資本金一千萬圓の全額拂込済なり。我國最近の金融界は時局關係の影響に依る物價の昂騰と生産機構

の擴大等に基づき資金の需要大いに激増し、地方財政の膨脹に依る赤字公債の増發に伴ひ、低金利政策は徹底せられ、滔々たる低金利の趨勢も貸出の増大によりて全國銀行の業績は一般的に向上を辿れり。殊に當行は全國銀行中稀なる好成绩を挙げ、毎期四割以上の利益率を示し、七分配當を行へり。斯くして毎期多額の利益金は内部に保留せられ、各種積立金合計一千三百二十四萬四千圓に達し、資産内容頗る堅實を極む。昭和十二年六月末締切の十二年度上期決算に依れば、各種預金合計三億六千七百二十六萬九千圓に達し、十一年下期末に比して、七千五百九十二萬圓を増加し、他方各種貸付金合計二億一千六百八十七萬圓に上り、前期に比較して三千二百九十三萬七千を増加す。又現金預金に前期より二千六百七十五萬八千圓を増し、六千二百七十八萬八千圓、手持有價證券又百五十七萬圓増加の四千九百二十一萬八千圓となれり。十二年上期末損益計算書に依れば貸付金利息五百六十八萬九千圓、割引料二百八十八萬八千圓、有價證券利息收入九十萬四千圓を主たる収入となし、總收入一千一百五十一萬二千圓となり、支出合計九百四十四萬にして、差引當期利益金は二百七十一萬一千圓となり、前期に比較して三萬九千圓を増加せり。對拂込資本利益率五割四分二厘に相當す。利益金の大部分は内部に

保留して、滯貸金償却七十萬圓、有價證券償却五十四萬二千圓、土地建物その他の償却に十三萬四千圓を充當せり。以上の如く外資産内容甚だ堅實たり。經營方針頗る堅實なる上に首腦部に人材網羅せられ居るを以て、事業界の幾多の問題もよく克服せり。

而して當行に於ては預金總額に對する資本割合が、他の大銀行に比し著しく少額の爲に(十二年下期末預金總額三億九千九百萬圓)倍額増資即ち資本金二千萬圓(内拂込一千五百萬圓)と爲すに決定、今回之が認可を得たり。されば今後の當行の活躍こそ眞に瞠目に値すべきなり。

尙ほ重役陣は以下の如し。取締役頭取野村元五郎、専務取締役松島準吉、常務取締役熊本石造、取締役片岡晋吾、同今井豊吉、同武田敏信、同堤一之、同永松實喜、監査役野村義太郎、監査役西村勝太郎、相談役野村徳七の諸氏なり。

取締役頭取 野村元五郎 氏は野村王國の總師にして、令兄徳七氏を補佐して卓効の手腕を揮ひ、關西事業界に飛ぶ鳥を落す程の聲望あり。夙に大阪高商を卒業し、大正八年英國に留學す。氏は頭腦明晰にして頗る篤學の士なり。留學中學習の傍家業の參考となるべき一般事業界、金融界、證券界等を具さに研

究せり。滯ること三年にして歸朝するや、直ちに當行の頭取に推される。氏その任に就くと共に大いに蘊蓄を吐露して、幾多の新制度を設け新施設を採用して、我國銀行界に新機軸を開きて業界人をして瞠目せしむ。責任濶く謹厚にして、その舉措まことに謙虛たり。人格清廉にして教養高く、洗練せられたる英國流の好紳士たり。仁情に富み、襟度寛容にして關西財界より多大なる尊崇を受く。俊敏偉才その手腕甚だ冴え、金融界に關しては學理實際共に知識頗る該博なり。明治二十年十月野村淨功氏の四男として生る。

専務取締役 松島 準吉

明治十五年四月三重縣に生る。郷費を終へるや、東京高等商業學校に入り、明治三十七年同校を卒業す。直ちに住友銀行に勤務し、榮進して漢口支店支店長に任ぜられ、更に上海支店長に轉じ後倫敦支店長となる。大正十三年懇請せられて當行に入り、専務取締役に選任せらる。體敏俊秀の手腕家にして、又眞摯誠實の努力家たり。濃厚篤實にして剛毅果斷、事を行ふや慎重たると共に一度決すや神速、清白高剛の人格、高邁なる識見と共にその群抜なる手腕を以て關西財界に信望噴然たり。

常務取締役 熊本 石造

氏は福岡縣熊本

孫作氏の長男として、明治十八年二月に呱呱の聲を揚ぐ。明治四十三年早稲田大學商科を卒業し、直ちに日本商業銀行に入り、大正七年に至り野村銀行に轉ず。總務部長、調査役検査役等を経て昭和三年には簡拔せられて取締役に就任す。超えて昭和八年二月現職に選任せらる。氣宇俊逸にして頭腦甚だ明敏、匪周緻密にして用意周到。その措置水も洩すことなし。その敏腕は大坂財界に於て多大に嘆賞せらるゝ所たり。

取締役兼東京支店長 堤 一之 野村銀行

關東探題の重職に在りて、中央財界を八方馳騁して賦稟の才腕を揮ひ、東都金融界屈指の俊秀として多大の推敬を受くる人に堤氏あり氏は明治四十三年長崎高等商業學校を卒業して直ちに長崎電燈株式會社に入る。榮進して庶務課長の要職に簡拔せらる。後迎へられて野村銀行に入り、嶄然頭角を現して、京都、大宮、祇園等各支店長を歴任して現職に擧げらる。識見高邁にして蘊蓄淵博、金融界稀れに見るの材器たり。明治二十一年十二月福岡縣柳川町に生る。

東京支店庶務主任 前田 千三 資性温雅厚にして玲瓏圓滿、上下に多大の信望あるが前川氏にして、専ら庶務を執掌し、その才腕

は敦厚の風格と相俟つて非常なる欽仰を受くる所あり。人格清廉潔白にして名利に恬淡、仁情に厚くして能く人の爲め斡旋盡力の勞を惜しまず、内外の人より多大に敬慕せらる。(本店所在地 大阪市東區備後町)
(東京支店所在地 東京市日本橋區通)

株式 京三製作所

各種鐵道信號機、電信機械器具の製作、修理並びに販賣をなし、その技術の秀技にして製品の優良なるを以て新界に噴々なる好評を博し、近時業績目覚しき飛躍を遂げつゝあるものに當社あり。その創立は大正六年九月のことにして、爾來社業の顯調なる發展を遂げ累期業績向上して、近來の事業界の好調によりて、昨今に至りては多大の好成績を擧げ、資本金も再三の増資に依りて現在一百五十萬圓となり、社運隆々と勃興して事業界の注目する所となれり。當社に於ては技術の研鑽練磨に就いては多年苦心淬勵し來りたるを以て其巧緻精密の技法は他の追隨するを許さず。而も晝夜品質改良の爲めに銳意努力を怠らざるを以て、益々製品は優良を加ふるの狀態たり。即ち、當所の主たる製品を擧げんに、鐵道信號並に聯動裝置、自動列車停止裝置、

操車場制御裝置並に踏切警報裝置、動力制御踏切門扉、交通信號裝置の製作販賣並に附帯工事の請負、自動制御盤、變壓器、KSS酸化銅整流器、自動車用電氣部分品、小型自動車各種新製品の生産にも手を染め、何れも頗る好成績を収めつゝあり。十二年十二月下期に決算に於て九萬七千圓の利益金を擧ぐ。製品需要は日を逐ひて増大し、更に又種々の新規計畫あるを以て當社今後の發展には大いに期待すべきものあり。

專務取締役 小早川常雄

當社の專務取締役として經營に没頭し、敏腕を揮ひて多大の好成績を擧げ、最近の活況を齎せしは氏の努力に負ふ所たり。廣島縣人小早川滿丸氏の二男として明治十二年七月を以て生る。同三十九年東京帝大工科を卒業し、直ちに芝浦製作所に入る。大いに銳鋒を示して儕輩を抜いて累進し、商務部副部長に拔擢せられ、天稟の才腕を發揮して多大に名聲を擧ぐ。後京三製作所の經營に當ることとなり。拮据勤勉して一身をこれに傾倒し、社業を飛躍的に發展せしめ益々多大に信望を博するに至れり。當社の外各種事業會社に關係せり。資性豪放磊落、氣宇潤達之士たり。

(所在地 横濱市鶴見區平安町二丁目)
(東京事務所 麴町區丸の内二丁目)

株式 小原鐵工所

近來頗る活況を呈し、新興工場地帯の面目躍如たる西淀川區佃町に、堂々四隣を壓する安壯雄大、而かも諸設備完全なる一大工場を設置し、専ら釀造及染織用諸機械、或は鐵骨製鐵並に諸物製作販賣を營みて業運の伸張發展、正に當地業界に冠たるものは、株式會社小原鐵工所の光彩陸離たる存在あり。寔に當社製品の優秀確實なるは、新界の最高峰を往きて需要方面の絶讃好評を博すこと多大、加ふるに新興發達たる業勢と堅實無比なる經營方針に依り、益々社運の興隆目覺しき處、其の將來の一層雄飛發展を顯現し、名實共に新界の覇者たるべきを期待され居れり。

抑も當社は昭和九年三月、資本金百五十萬圓、内拂込金七十五萬圓を以て設立營業の端を發し、創立以來年處取て多からずと雖も、既に當社前身たりし個人經營工場の聲價喧傳され、其の不斷研鑽なす技術の優秀性は夙に定評噴々たりしところ、即ち信用年と共に高まり註文殺到して、業務の一大擴張を要求するに至り、茲に同年規模を擴充、組織を變更し、近代的企業形態の下に株式會社を設立せるもの、爾來多年の經驗と信望を基礎に、

益々優秀國産品の製作に邁進し、更に白熱的工業時代の波に乗じて拮据經營し、業績頗る擧りて、業界美望の的たり。即ち昭和十二年上期以來、常に一割以上の好配當を持續し、株主間に一大福音を齎せるのみならず、業容益々堅實味を加へ、新界有数の模範會社と社名顯然たり。因みに現在重役陣に列するは社長小原敏一氏を始め、取締役に徳倉充吉、中根一二、橋田社治、九里博武、監査役清水喜三郎、飯田知平諸氏にして、何れも新界に練達堪能、錚々たる人材を網羅せり。

社長 小原敏一

大阪府小原秀太郎氏の二男、明治二十六年三月を以て呱呱の聲を發し、夙に聰明英才、頗る機略に富み、而かも進取の氣象烈々として工業界に雄飛せんとするの念願の下に學序を経て、大阪高等工業學校に入り勉學研究、克く最新工學の骨髄を把握し、優秀拔群の成績を以て同四十二年卒業後敢然現業を獨立創業し、以來不撓不屈、萬障を突破して着々基礎を築き、遂に今日の盛大隆榮を贏ち得たる稀に見る俊材なり。而して其間昭和九年時運に鑑みて全經營を株式組織に革むると共に、社長に就任し、間なき統制下に多數従業員を指導督勵し、圓滿堅實なる社風を涵養せり。是れ一に氏が温情流露たる態度を以て全社員に接し、而かも達識卓腕

埼玉熊谷中學校

埼玉縣下中等學校中、その設備の完備し、内容充實して成績良好を極め、校風實剛健を以て著名なるが熊谷中學校とす。抑々當校は明治二十八年六月に創立せられしものにして、當時埼玉縣第二尋常中學校と稱す。三十二年二月埼玉縣第二中學校と改め、同三十四年八月埼玉縣立熊谷中學校と改稱せらる。創立當初生徒數極めて僅少なりしが、三十一年に至り、定員を三百に増加し、四十一年には六百名、大正八年七百名と相次いで増加せられ、昭和七年に及び一千名に改めらる。斯くして卒業生數も非常なる數に上り、現在三千八百名を超え、四千名に達せんとす。卒業生にして各種專門學校大學に學ぶもの多く、各方面に活躍して大いに母校の名を顯揚せり。職員數四十有餘名に上り優秀の人材を網羅せられ、協力以て熱心に教育に當りて生徒の啓

發に力を盡くせり。質實剛健を以て校訓となす。智育に力を盡くすと共に、體育の獎勵にも意を注ぎ、各種運動競技の施設を施して、生徒の體育向上を計れり。當校生徒は一般に質實にして勉強を好み、上級學校の合格率頗る良好にして縣下に於ても頗る好評あり。萬般の施設完備し、生徒亦甚だ眞面目なる所より、年々入學志願者激増しつゝあり。優良中學校として眞に推奨に値する中學校なり。

前校長 岡田嘉一 前校長岡田氏は熊谷中學校第十一代の校長にして、昭和三年三月に就任して、既に十年間當校を統理せられ、歴代校長中その勤敏年數の長きに於て隨一たりしが、曩に川越高等女校々長に榮轉さる。氏は明治二十二年九月埼玉縣大里郡吉見村箕輪に於て岡田重徳氏の男として生る。夙に廣島高等師範學校を卒業し、明治四十五年岡山中學校教諭となり、大正六年には熊本縣鹿本中學校に轉ず。更に大正六年に至りて埼玉縣立熊谷中學校に赴任し、後校長に任ぜらる。經驗豊富にして識見高く手腕又卓拔なるを以て、縣下教育界に於て畏敬せらる。

校長 金子道啓 曩に本縣立本庄中學校長として令名を馳せられたる偉材にして岡田校長の裔を襲ひて當校長に榮轉せらる。先

生は栃木縣の士、天性頭腦明敏にして克明、明治四十二年廣島高等師範學校博物科を優秀の成績を以て卒業せられ、後ち育英事業に挺身し今日の地位を獲得せらる。現縣下異數の教育家たり。

(所在地 宮玉縣熊谷市大字熊谷)

栗原工場主

栗原仙太郎

夙に機械工作に天才的才幹を稱讃され、既往四十有餘年の久しきに亘りて、能く一路資源の開宏に努め、今や其の苦行は成果して偉業を築きたる栗原製作所を築き上げて之れを統し、新業界に驍名を轟はるゝ巨豪たり。

明治十七年十二月、埼玉縣人故栗原清太郎翁の嫡男として同縣に呱呱の聲を擧ぐ。年齢僅か十四歳にして、凌雲の大望を懷きて上京し、後、陸軍省砲兵工廠の職工に就く。爾來慘風悲雨幾春秋、如何なる苦役勞働も厭はず然も餘暇を苦學に没頭す。超凡の技は天才的閃光に拍車をかけ、加ふるに眼快手利の禀性は儕輩を凌駕し、その動向自づから上司の慧眼に適ひ、模範職工として漸次重用さるゝと共に、擧げられて名古屋高等工業學校實修科に官費を以て入學を許さる。氏の面目躍如として廠内全員の羨視亦切なるものありき。

斯くて入學後の雲霧は文字通り眞摯を極め、抜群の成績を以て之れを卒業して歸郷す。前後を通じて同廠に恪勤すること十有三年に迫り。大正四年に歸りて願望たる獨立の機に會ひ、東京市京橋區月島通二丁目工場を設け、諸機械及附屬品、高級バルブ及コック各種ポンプ、船舶用具等の製作を創む。多年の技術の優秀と深遠の威望は直ち洽聞すると共に、需註殺到し、業況好調を辿ること二ヶ年。同六年全經營一切を日本製鋼株式會社に譲渡すると共に、同社の技師長兼工場長に推轉せられ、同社の爲貢獻の努力を爲すこと永年たりしが、昭和三年再起獨立して工場を東京市芝區白金三光町に設置し、更に一段の飛躍を試む。時局發生以來新業界の活況に乗じて益々異常なる業績を擧げ來りし爲、同工場場の設備に於ては到底所期の目的を達し得ざるに依り、爲に時運に即應して擴張政策を取行すべく昭和十一年現所に工場敷地を求め、以て整然たる工場を竣工せしめて之れに移轉し、更に堅實なる經營を以て今日に至れるものなるが、現所在地は省線蒲田、川崎驛間の沿線に在りて交通頗る至便なり。今や栗原製作所は海陸軍兩省への納入品、各造船所よりの需註に殷賑を極め、優秀なる製品を著聞せられ隆々駭々乎たる業況裡に在り。尙氏の經驗は雄大にして、従業員を御するに寛大、然

も誇人を愛すること切になるものありて、其風骨を贊仰せられつゝあり。

(所在地 東京市蒲田區仲六橋二ノ六)

鈴木捨之助

京都華僑同志會々長

關西に於ける實業出身の名士中、最も氣韻に富める精神家として異彩を放てるものに鈴木捨之助氏あり。氏は明治元年十一月を以て岐阜縣養老郡日吉村に生る。幼にして實業に志し、京都に出でて染物の研究に従事すること多年、具さに世路の辛酸を嘗めたるが、勇猛不退轉の努力は遂に酬ひられ明治二十八年獨立して染色業を開始するに至り、年と共に業積大いに擧り、家運隆々、其間氏は徒らに自家の致富にのみ汲々たらずして、同業者の向上發展に心を傾けて執掌幹旋し、本邦染色界のために貢献するところ尠からず。大正七年感ずるところあり、營業の全部を舊來の店員に譲りて勇退したるが、世上凡百の成功者の聲みに倣はずして、老來猶奉公獻替の志已み難く、昭和五年三月都鄙の有志と相諮り、元陵守長大崎頼榮氏を中心とする全國皇陵巡拜の美舉を企劃實行し、これを動機として京都華僑同志會を組織し、業望の歸するところ遂に其會長に擧げられ、多額の失費を厭は

ずして東奔西走席温まるの逸なき状態にて、躬を以て報木反始の道を聞かじし、今猶老驥に鞭うちて日夜精勵、思想の醇化、風教の是正に力めつゝあり。該會同志會は京都市下京區四條通西洞院に本部を置き、神代以降歴代、天皇陵及皇后陵を巡拜するものとし、毎月第二日曜日を團參日と定め「皇陵巡拜の第一」を發行して汎く同志に頒布し、以て皇道思想の涵養に努めつゝあるが、同會の盛況は主盟たる氏の



鈴木捨之助氏

古の賢曰へることあり、富みて驕らざれば易く、窮して亂せざるは難し、と。然るに此を當代の成功者富貴階級の實狀に徴するに、人々概ね報効博愛の念慮に乏しくして享樂に墮し、自恣放逸に流れ、然らざるものは即第林泉の結構に専念し、門戸を固くし牆壁を高くして、何等社會公共のために盡すなく郷黨後進のために關るなく、碌々無爲にして徒らに光陰を偷むの傾向、滔々として風を成し、識

者をして「富みて驕らざる」の難きを嘆嘆せしむ。かゝるが中に、氏の如き篤志の人物の存するは、正に鸚鵡の孤鶴とも評すべく徳化四隣に及び名望年と共に高し。曠古の非常時に際し、國民精神作興の爲奮闘あらんことを、(住所 京都市下京區四條通西洞院角)

千代田證券投資株式會社

當社は過ぐる大正七年十月千代田證券信託株式會社と稱して創立したる新業界の一異彩にして、爾來二十年間常に堅實主義を信條とし、拮据經營能く力め、其間逐次業績を昂揚し、今や業界の一角に確乎たる存在を誇りつゝあり。殊に當社の強味とするところは業界の最高峰たる山一證券株式會社と不可分の經緯を有する事なり。當社は現に資本金八百萬圓を擁し、證券買賣、金融仲介に關する一般業務、土地建物賃貸を營業科目とし居れるが、之を具體的に述べれば、公債、社債、株式の賣買にして、現品即時引渡販賣、勸業復興貯蓄、割引勸業債券の賣買、公債、社債、株式の引受募集と其擔保金融及其仲介、貸借、元利金及株式拂込金並に配當金受拂の受託、事業資金に關する金融及其仲介、其他代理事務一般等にして、尙投資相談所を設けて投資

者に便宜を興ふる外「千代田證券投資日報」を發行して、業界の羅針盤たらしめ居れり。而して當社最近の業績を見るに、昭和十二年上期の純益金は十一萬三千六百二圓餘にして之を前期に比すれば、三萬五千九百八十五圓の増益となり、年七分の株主配當を行ひ（前期は五分強）後期に八萬八千餘圓を繰越し、餘裕綽々たるものあり。當期初頭は即ち廣田内閣に依り、決定せられたる大増税を含む劇期的尙大豫算の重壓を感じ居りたる處一月末林内閣の成立に伴ひ、豫算編成方針の變更に依り、壓迫感稍緩和せられ、商品市況の好調は企業採算を著しく有利ならしめたる爲、好景氣は重工業を中心として、全面的に浸潤し株式市場も近年稀れに見る活況を呈し、東株長期清算取引の如き、一時一本立合といふ臨時處置を取るに至れり。然るに期央には株式拂込に異例の増加を示したる上に生産力擴充に依る資金の需要旺盛となり、金利反騰の兆候を示したる處へ政府の物價抑制方針の態度と、加之政局の不安に急騰過程を辿りたる一般物價は四月上旬を峠として、漸次低落し株式市場も亦反動期に入り林内閣に代り近衛内閣の成立を見るに至り、政局不安も漸次緩和せられ、環境の安定と共に商品市場株式市場共同復状態に轉じ期を越したり。如述の如く當期は環境の好順に恵まれ好調の経過を辿り

たるが、其反面學社一致努力せし賜物に他ならず。尙當社ビルディングは地下室とも七階建總坪數二千四百六坪にして大小種々の貸室を有す。因に當社役員は常務取締役越知了一郎、取締役安藤竹次郎、同波多野元武、同小熊信一郎、同阿部秀太郎、同常任監査役補久接、監査役秋山金八、同作田高太郎、支配人村山徹の諸氏なり。

常務取締役 越知了一郎 當年六十二歳、濃厚篤實の士にして夙に明治法律學校を修業商業研究の爲に渡米し、歸朝後日本銀行、北海道銀行に歷勤し、後ち大日本空業、東洋製鋼所、山陽商業銀行、千代田信託各重役等に就任し、金融、經濟事情の通曉者として令名あり。當社今日の業礎を築きたる功勞者なり。

（所在地 東京市京橋區京橋一丁目）

大家商事株式會社

大阪は我國商工業の中心地にして、古くより大阪商人の名は人口に膾炙し、萬般發達たる活躍躍りは、全國商人の畏敬の的とせられその商戰の激烈にして、事業界の活氣横溢せるはまことに瞠目すべきものあり。大家商事

株式會社は運送、鑛業の經營、不動産及び有價證券の賣買並びに金融業を營みて、大阪財界に目覺しき活躍をなせり。近時の時局の重大化に伴ひ、一般財界の活況はあらゆる事業の部に浸透し、大阪商工業界は一段と盛況を現出するに至り、これが爲めに當社の事業も頼みに股版に向ひ、毎期の決算好調の一途を辿れり。その創立は大正十年五月のことにして、創業以來業績順調を以て推移し、事業歴年膨脹をなして、現時資本金二百萬圓に達せり。業礎鞏固にして内容頗る堅實なり。大阪財界に多大の信用を博せり。事業界の好調と共に當社は今後一段と飛躍を遂ぐるに至るべし。因に當社の重役に社長大家七兵衛、常務取締役濱田鐵次、取締役登藤重助、監査役増澤定吉、同山崎圓二の諸氏あり。

社長 大家七兵衛 俊英萬才の少壯實業家として、大阪財界に名譽顯赫たる大家氏は石川縣人大家七平氏の長男として、明治三十二年一月を以て呱呱の聲を發す。大家家は石川縣下に開えたる素封家にして、嚴考大家七平氏は石川縣多額納稅者たり。温恭にして敦厚、世人に多大の崇敬を受く。大家七兵衛氏は家門の榮光と傳統の良系を承き、品性典雅にして明朗闊達、磊落恬淡にして意氣調大たり。而も頭腦敏密たると共に、素志頗る堅く

眞摯熱直業務に驅勉し、甚だ質實剛健の士なり。夙に高千穂高等商業學校を卒業して、後事業界に身を投じ、鋭鋒を示して遂に今日の地歩を築くに至れり。森重工業、日本ヴォルツ細糸、三和商店各社の監査役に推舉され、大阪財界に信望甚だ高し。氏は前途大いに春秋に富むを以て、將來大いに財界に驍足を伸すものと囑目せらる。

（所在地 大阪市西區寺町通二ノ三六）

株式會社 國藤鐵工所

創業以來既に二拾數年を閱し、業礎の確立夙に成り、其優秀なる技術を謳はるゝこと永年、今や新業界一方の宰領たり。抑々當社は過ぐる大正三年現取締役社長伊勢堅八郎翁が其蘊蓄と多分の經驗を傾倒して、個人經營を以て現所に國藤鐵工所を創めしに端を發す。その營業科目は諸鐵工木工機械製作を目的とし、漸次順境を辿りて發展し、昭和三年時運に即應して、全經營一切を擧げて資本金八萬五千圓の合名組織に改組す。而して時局以來需註の激増は自ら資本の膨脹、事業の擴張の必然性に迫られ、同十二年五月に迫んで、之れを資本金二十五萬圓（全額拂込済）の株式組織に改組改稱、引續き好調に推移し、以て

今日の旺盛股輪を極むるに至り、將來の發展期して待つべきものあり。

當社の人的要素を述べれば、取締役社長伊勢堅八郎、取締役兼營業部長伊勢久雄、同波多野敬三、同北里寅男、同川崎中子郎、監査役松平直嶺の諸氏なり。

取締役社長 伊勢堅八郎 本邦機械製作界の音宿にして高潔なる人格と共に敬仰を鍾むること既に久しく新業界の至寶的人材たり。慶應三年八月、長野縣伊勢久義翁の長男として信濃に呱呱の聲を擧ぐ。元來伊勢家は同地方に於ける舊家にして家歴連綿たる家柄。幼方にして既にその敏穎を知られ、長じて策を帝都に負ひ明治二十二年東京高工機械科を拔群の成績を擧げて卒業す。爾來一身を機械技術に挺し上海棉花公司機械掛主任、日本石油株式會社技師、其他著明會社に格働し、温直にして熱腸の資性は終始部下の欽慕するところ遂に日本石油會社顧問に推戴さる。大正三年に至りて國藤鐵工所を起して、之れを主宰し隆々たる今日の盛運を招來せしむ。現に老境に在るも且暮精勵、雙鑠として精進しつゝあり。偉なる哉。

取締役兼營業部長 伊勢久雄 資性敏鋭にして舉一反三の奇才を有す。明治三十六年十

月、當時嚴君堅八郎翁の任地たる新潟に於て呱呱の聲を擧ぐ。長じて慶應大學經濟學部に入り、昭和三年之れを卒業。直ちに臺灣所在海野機械店に勤務する爲に渡臺し、約一箇年の修業を得て歸京し、爾來父君の良佐として營業部長に就任し、精勵格働し、従業員の信頼と尊崇を一身に莫め以て今日に迫る。

（所在地 東京市品川區東大崎五ノ三〇）

前下關市會議員 松永幸作

其一生を播磨の郷土「下關市」と俱に呼吸し、全智全能を「下關市」の發展向上に挺身し、人格至高至純、市民の信頼を一身に享くる英賢たり。氏は明治十五年正月、現住所たる下關市關後地に呱呱の聲を擧ぐ。長じて日露戰役に出征し、各地に轉戰、能く帝國軍人精神を發揚して、赫然たる勳功を樹て、凱旋し、その功に依り同三十九年四月、勳七等青色桐葉章及金百八拾圓を授賜、並に従軍勳章を授與さる。由來當松永家は地元の家系にして連綿今日に至る家柄なるが、氏は凱旋後幾許もなく、下關市上新地總代に當選し、爾來東奔西走の温まるの遠なきこと實に三十餘年を経て今日に至る。資性濃厚篤實にして、義心に富み、終始一貫私事を滅却して公事に



氏作幸永松

調査委員、山口縣名譽職參事會、下關市各町總代會長、金鐘債務調停委員、下關市社會教育委員、下關市臨時教育調查委員、廣島縣保護觀察所保護司囑託、下關市學務委員、下關市臨時大典記念公園造營委員、下關市臨時港灣改良委員、下關市區改正調查委員、下關市常設消防委員、下關市臨時財政調查委員、下關市臨時治水調查委員、下關市臨時調查委員、下關市港灣設備臨時委員、下關市魚市場新設

瀧川セルロイド株式會社

近時我が工業界の破天荒なる躍進は、正に産業發展史上特筆大書すべき處にして、セルロイド工業に在りても、勿論長足の進歩を遂げ、幾多國産優秀品の遠く海外市場に進出し日本製品の眞價を高揚しつゝあるは論を俟たざる處なり。我が瀧川セルロイド株式會社は此間に處し、創立以來常に傳統的營業方針の

事業臨時委員等々教學に遑あらざる市政乃至公共委員に推選され、下關市長より下關市町總代勤続表彰として銀杯一個、下關市會議員勤続表彰として金杯一個を各授與せられ、下關市篤行者表彰規定に依り表彰を授與せられ昭和十二年全國市會議長會長より下關市會議員二十ヶ年勤続表彰さるゝ等、その他美事善行屢次發願せらる。尙前市會議長に當選せるも知る人ぞ知る。而して下關に市政布かれて以來未年、未だ嘗て粉飾、醜聞を耳にせざるは、風格清淨なる氏、如き元老が、常に指導宜敷を得たるに基くこと、今更言を俟たざるべし。因に氏は昭和五年十一月以來、山陽電氣軌道監査役に就任し、事業界にも顯著なる存在を爲せり。

(住所) 下關市關後地村二四九八

社長 西田常藏 氏は明治二十二年四

月八日の出生。夙に俊敏英邁、非凡の手幹を知られ、而かも胸底勃然たる霸氣を藏して、工業界に飛躍せんと決意するや、奮然新界に身を投じて努力奮闘を果せること幾星霜、遂に業務遂行の眞諦に接し、技術手腕熟達の域に達すると共に、敢然獨立業を創め、爾來、工業報國を信條に、不撓精勵、營々たる努力を傾注せる處、業運興隆の一途を辿りて發展又發展、遂に今日の大を築ける成功傳中の一傑材たり。天性温厚にして敦實、其の圓滿高風たる人格は、人の尊敬措く能はざるところにして、而かも周到緻密なる注意心に富み輕々と事を斷ずることなしと雖も、一度決すれば斷乎勇往、以て初志を貫徹せずんば己まざる氣概に滿ち、識見手腕亦た常々凡介の企及し難き處、新界屈指の人物として推稱すべきなり。因みに家庭には賢夫人の譽れ高ききぬ子夫人ありて内助の功多く、其間長男建藏君(大正十四生)二男省治君(昭和四生)三男悅藏君(昭和六生)長女文子嬢(昭和八生)の三男一女を擁して一家頗る圓滿なり。

(所在地) 大阪市東成區片江町二八

株式會社 竹中工務店

幾多の艱難屹立して一大盛觀を呈せる我國

土木建築界に、美術建築を以て斯界の彩華と稱せられ、その藝術的創意に近代の合理主義を加味せる幾多の大建築物は、嘖々たる好評を博し、夙に業界に重きをなせるは竹中工務店となす。從來竹中家は名古屋地方に於て建築業となし、主として神佛佛閣の建築を營みて名聲高かりしが、明治三十二年竹中藤右衛門氏時代の動向を觀て密やかに感ずるところありて、神戸に出で、新たに西洋建築に手を染めて業界に進出するに至れり。爾來事業は順調を以て發展し、明治四十二年五月には合名會社に組織を變更し、専ら土木請負を業となして、一大飛躍を遂ぐ。竹中氏は斯業に進出して以來、夙起晩寢して洋風建築の研究に力を盡くし、竹中家に代々繼承し來りし日本建築の技術、構想を洋風建築の中に生かし、獨特の建築美を創造して業界をして驚嘆せしめたり。事業は年と共に發展をなし、多額の盛況を極めて遂時資本金を増額を重ねて毎期非常なる好成績を挙げつゝあり。當店は明治四十三年始めて大阪に出張所を設けしが大阪方面に牢固たる基礎を確立したるに依り大正十二年大阪に本店を移し、次いで關東の堅壘を抜き、更に全國に業陣を張りて、東京、名古屋、神戸の各地に支店を設け、京都、横濱、福岡にそれ／＼出張所を設置せり。技術の向上を計り、獨自の美術建築を創成せん

として曩に學界の最高權威辰野博士を招聘して陣容の強化に努めし所など、當社が常に斯界をリードせる所以を明瞭に示せるものといふべし。關東、關西何れも官廳並びに有力會社方面を得意とし、常時多數の従業員を使用して、事業頗る多忙を極めり。大震災以來帝都の建築物は面目を一新するに至りしが、帝都主要建築物中、當社の手に成れるもの如何に多きかを以て當社その技術の卓越せるを知るに足るべし。即ち、郵船ビル、海上ビル新館、帝國生命館、仁壽生命館、大阪ビル、大同生命館、飛行會館、華族會館、精工會、東京寶塚劇場、明治生命本館等の名建築ありて、首都に絢爛たる美觀を添へり。尙ほ大阪に於ては堂島ビル、松坂屋、高島屋、三越大阪支店等あり。京都に三菱銀行京都支店、高島屋、神戸に三井銀行神戸支店、名古屋に松坂屋等、その他の優秀なる建築物を數多建築して、業界を嘆服せしめたり。

尙當社は時運に即すべく昭和十二年九月株式會社竹中工務店を新設、十三年一月合名會社竹中工務店を之に合併、資本金六百萬圓拂込済に増資し、以て合理的經營に更に一段の偉力を添ふるに至れり。

社長 竹中藤右衛門 氏は竹中家の十五代に當り、先代藤右衛門氏の長男として

明治十一年七月を以て生る。幼少より穎悟にして機鋒を示し、早くもその前途を囑目せらる。嚴考の教導に従ひ、斯業の蘊奥を極め、明治四十一年家督を相続して家業の一切を繼承し、幼名の鍊一を改めて襲名せり。夙に神戸に出で、西洋建築の研鑽をなし、これに自己の修得せる日本建築の技術を加味して、独自の創意を拓開し、業界に多大の絶讃を博せり。漸次神戸、大阪、東京と驥足を伸して全国に事業網をめぐらし、非常なる殷盛を呈するに至れり。氏は學理に偏せず、實地に最新技術を導入して新機軸を開き、更に賦禀の手腕を揮ひて業界を縦横に馳驅して、大いに聲望を博せり。資性卓犖豪放にして資質剛健、而も玲瓏玉の如き人品を有し、清白高朗にして襟度寛容、事業界に信望甚だ高し。

専務取締役 山脇友三郎 明治十八年に呱呱の聲を揚げ、夙に天王寺中學に學び、後當社に入る。東京支店に轉ずると共に工手學校に入りて、業務の傍ら致々として研修に勵めり。その熱誠なる努力を以て僱傭を抜いて拔擢せられ、後支配人の要職に推されて、更に改組と共に現職に推さる。専ら當社の機軸に參畫することゝなれり。内外に濃情を以て臨み、その人徳は周く悅服する所たり。
(所在地 大阪市北區中之島町三丁目)

育體育をも併せて力を盡くし、生徒の人格完成を圖るに努めたり。校長は朝禮に於て一日一善主義を説き自治的訓練の向上に力を盡くし、國家觀念或は敬神崇祖の念を育成する爲めに各種の施設、又は種々の行事を行ひ、更に各教室には生徒心得綱領五箇條の扁額を掲げ、これが趣旨の徹底を圖り、以て善美なる校風の樹立を期せり。非常時局下に於ては婦人と雖も、時局に關する深き認識を必要とするは贅言を要せず。されば當校に於ては、近時女性の任務の一段と重大を加ふるに至りたるに鑑み、適時時事問題講演會を開催して、時事知識を養はしめ、又在滿支將兵へ慰問金品の贈呈、飛行少年團への援助等をなして努めて實際の状況に通ぜしむることゝせり。家庭的修練を行ふ爲め舊寄宿舎を利用して、毎年度回第四學年有志に寮生活を實施せり。特に體育に力を注ぎ、體操科擔任教師を督勵して、その方面を常時研究せしめ、或は各種競技會を開催して生徒の體育向上に盡瘁せり。校舎の改築改善に、各種施設の改良に、或は各科備品の購入に意を用ひ、外觀の美備はると共に内容設備に於ても、頗る充實をなすことゝなれり。學友會の事業には圖書、學藝、園藝、體育等各種ありて、體育は更に各種の運動競技を網羅して、生徒をしてそれらの部に所屬せしむることゝせり。尙ほその他訓

會社重役 坂内義雄

日滿經濟提携の緊密化と共に、今や我が事業界の滿洲進出は急速度の進展を見、その業績は着々好成績を示すに至りたるが、農業立國の滿洲帝國の國是に即應して、昭和九年創立以來雄々しく進出而も赫々たる躍進を続けつゝある我が日滿亞麻紡織株式會社の初代會長として大陸政策の第一線たる檜舞臺に躍り出でたる九州電業界一方の雄坂内義雄氏の今後に於ける活躍は我が中央財界方面の注視の的となれり。氏は明治二十四年七月三日、熊本縣土族工學士坂内虎次氏の長男として生る。東大出身の逸材たり。廿七歳にして熊本縣人吉町長となりたるを以てするも、その人物の非凡たるを知るべし。現在五島電燈社長、球磨川電氣副社長、九州電力、熊本電氣各取締役、黒部川電力社長、日滿證券取締役の要職に在り、氏は本年四十八歳の働き盛り、而も其の氣魄の鋭さと、豪膽物に動ぜざる態度とは克く事の遂行に當りて猶突敢行するところ如何なる難問題をも解決處断したる、其の見事な敏腕は既に折紙付として人の知るところなり。然も質性圓満潤達にして、情宜に厚く氏のシャープなる腕の切れ味と共に、接する

者をして敬愛の念を抱かしむ。氏は又貧富貴賤の差別を好まず、階級意識に依つて人に接するの傲人に非ず、其の親切なる行動は、公人としての氏を一段と尊信することを得せしむ、趣味は釣魚と圍碁にして、殊に碁は初段の免許、本因坊秀哉氏を師に精進しつゝあり又釣も既に素人の域を脱したる腕前と聞く、家庭には賢夫人の聲高き恒子夫人を初め、長男虎雄、二男和夫、二女英子の二男一女あり長女聰子女は清浦伯の令孫保敏に嫁し、幸福なる生活を送りつゝあり。
(住所 京都市左京區永歡堂一四)

埼玉 久喜高等女學校

埼玉縣立久喜高等女學校は、職員生之間極めて和氣瀟々たるものありて、相提携して研鑽相勵み、又卒業生、保護者或は地方有志との聯絡よく完備し、校運益々隆昌に向へり。宮川校長は教育に熱心にして、當校に赴任以來幾多の新施設を實施し、職員に服務上に就いては周到なる配慮をなし、自肅自戒に努めしむると共に、研究に修養に専念せしめ、他方職員待遇改善に意を注ぐと共に、職員をして、各々その責任を盡さしむ。又生徒の學科指導に就いては知育に偏することなく、徳

育に施設に細心なる注意をなし、設備の充實に力を注ぎ、年と共に發展を見るに至れり。又その訓育の周匝懇切なる所より、その實績頗る擧り、當校生徒は頗る當地方に於て好評あり。

校長 宮川 武

温情豊かに襟度寛容諄諄として氏の教を垂る時、その慈父の如き眞情には何人も感嘆して傾聴せざるはなし。氏が當校に赴任し來れるは、昭和十一年五月なりしが、就任以來當校の傳統を生かすと共に更に新教育方針を樹立し、各種の改革をなして多大の効果を収め、校運の振起に大なる貢献をなせり。人格清廉潔白、學殖豊かにして識見抱負高し。世人の瞻仰を受くること深く、縣下教育界にその材幹を誦はれ、今後大いに頭角を現すに至るべし。
(所在地 埼玉縣南埼玉郡久喜町)

松本萬次郎

人と爲り豪放磊落、氣宇濶大にして、頭腦明晰、才略縱橫、一度所信を以て立てば、其の貫徹を期せざれば已まざる實行力を有し、其快腕は寧ろ實業人たるより、政界人たるやの想見を抱かしむるは我が松本萬次郎氏な

らん。然りと雖も實業人としても堂々氣骨の隆々たる手腕力量を以て、國家的信念遂行に工業界に歩武を進めつゝある其の業績を見るに、又可ならざるはなきに一驚せざるを得ざるなり。氏は引拔鋼管業松本商店主として住友金屬工業會社製引拔鋼管の販賣業に従事し五十余名の店員を督勵して關西に於ける斯業界の一雄たるの實績を示しつゝあるのみならず、嚴正中立を以て大阪市會議場に據たる氏の存在は久しく著聞するところにして、その市政を議するや、周到卓勁緻密の事例を提示し、常に正義を以て第一義となし、その雄辯をかつて侃諤の論を吐き、理路極めて井然、聽者を首肯せしめざるはなく、其の正義と熱情は市會の名物となれり。以上は氏の公人としての一面なるが、私人としての一面は人情殊に厚く、店員を愛撫すること骨肉の如く、幾多の主従人情美談を江湖に送りたり。又社會公共事業に盡瘁すること一方ならず、義人松本として衆庶の信望を深くし、今や氏の名聲赫々たるものあり。顧ふに氏の如きは、得易からざる人中の巨器たるに幾からん歟。圓滿を以て鳴る家庭には、貞淑の譽高き貞子夫人との間に、茂郎、清子、喜久子、惠美子の一男三女あり、宗教は日蓮宗、當年四十一才なり。
(住所 大阪市西成區岸松通一ノ二二)

大日本化學製藥研究所

社會奉仕的に製藥事業を經營すること實に拾數年の久しきに亘り、今や全國津々浦々より救命的禮讚と尊崇を蒙つゝある我が大日本化學製藥研究所は、其の風格一世に鳴る粟村榮一氏の宰領する氏學生の事業たり。

當研究所は從來の無害無効主義の賣藥を一掃すべく、夙に研究部を設置し、同部長に醫學博士坂斗勝昌氏を起用し、其他醫藥專門家及技師の眞摯不斷の努力を續け、最新藥理の學說に準據し、幾多の犠牲的臨床實驗の結果得たる無害有効主義の合理的製劑を廣く社會に普及せんが爲に、之を賣藥として實費本位にて提供するを以て目的とする偉大なる社會奉仕的の事業にして、斷じて營利第一主義の事業にあらざるなり。創設以來既に拾數年の星霜を閲し、終始一貫目的達成のため學所一致凡ゆる苦難迫害を突破し、以て今日の偉業を完成するに至れり。而して當所製藥は其價格の低廉と其實質内容の優秀なる點に於て斷じて右に出づるものなしと云ふ確固たる信念を有せることは、其發賣の製劑悉くの外資一個一個に堂々と處方を表示し、廣く専門家の批判を求め、優秀を誇る内容を公開して憚ら

ざる事實に照合し容易に首肯せらるべく、斯かる公明正大なる調劑の内容を明示する賣藥は未だ他に其類を求め得ざるなり。更に當所は奉仕の重要課目として、日常より罹病防止を喚起する爲一般的に必要な衛生上の智識を各家庭に普及すべく努力しつゝあり。故に當所は眞に著効藥の調劑研究を爲す研究機關にして其研究の結果を實際に活用すべく社會奉仕的に製藥事業を營むに外ならず、故に當所は社會組織の營利團體にあらざるは言を俟たざるなり。當所は全國市町村に原則として一人宛の駐在員を設置し、全員が直接當所事業に参加し各自地方的に經營の一部を擔當せしめて共存共榮の實を擧げ、相互扶助の所謂協力一致社會奉仕の念願を達成せしむべく努力す。故に駐在員は當所の生命たる社會奉仕的精神を以て、擔當地域の各家庭へ衛生思想の普及に努め、日常より各家庭に卓効ある當所製劑を頒布し、併て之が相談相手となりて治療上當所の全機關を活用して、快癒の成果を収めしめ、その目的貫徹に邁進せしめつゝあり。而して駐在員の人選に就ては頗る慎重を極め、縣、市、町、村各會議員、退職教員、農會長、在郷軍人會分會長、青年團長、信用組合理事、商工會議所議員、衛生組合長等、或は地方的に信望篤き公共心に富める人物を就任せしめ居れり。尙當所の機構を見るに本

所に研究、製劑、營業、企畫、宣傳、人事の六部門を措き、地方に本所の指示に依り連絡機關として事業の統制と完備を期する爲、營業部及出張所を設置し、郡單位配給所を隸屬せしめて之が代理を行はしめ、以て駐在員の活動を容易ならしめつゝあり。斯くて當所は整然たる統制の下に全國的に奉仕精神を以て積極的經營を行ひ、今や其盛名洽聞し、威望隆々として斯業界を照耀する太陽的存在として絶讃せらるゝに至れり。

所長 粟村榮一

皇國享生の恩澤に感銘し、尊き一生を社會奉仕的の事業に挺身し、今や全國衆庶より生佛の如く崇敬せらるゝ才物たり。明治二十七年十二月、廣島縣粟村高藏氏の嫡男として同縣沼隈郡松永町に出生。長じて同縣明道中學校を卒業す。資質謹直にして恬淡、而かも義氣を藏す。材木商並建築請負業として嚴君の良佐として天永く桑梓に駐在を許さず。曠然立ちて上阪し、一命を社會奉仕に献身すべく昭和二年當所を創設す。爾後十數年、血の滲むが如き苦行を遂げ、以て今日全國大衆に畏服せらるに至る。氏は其の傍ら社會運動、公共事業にも専念し、幾多貢獻するところあるは周知の如し。氏も亦昭和義民傳に編まるべき一種の人傑ならん歟。

(所在地 大阪市天王寺區島ヶ辻町三二)

京都土地興業社長

横田 永之助

映畫界の先覺者として、殊に本邦映畫製作の始祖として夙に映畫愛好者の景仰の的となり、慈父の如く敬慕されつゝある横田永之助氏は、現在我國のハリウッドと呼ばれる、京都市鴨東栗田口に生れ、往昔京都が王城の地として華やかなりし頃、皇城守護の名家栗田ノ宮家の重臣として權勢並びなかりし横田攝津守は實に其父に當る。幼にして勉學の志厚く策を負うて東都に出て、天台居士杉浦重剛翁の主宰したりし稱好塾に學ぶこと數年、後現今札幌農科大學の前身札幌農學校に入り、卒業するや、時代の趨勢に鑑みて大いに新潮流に植すの必要を感じ、直に渡米してバシフキツクビジネスガレッジに學び、優秀の成績を以て之を卒へ、明治廿五年一たび歸朝するや、朝野有識者の矚目するところとなり、各方面より招聘されたるが思ふ所ありて、悉くこれを辭し、翌廿六年米國市俄古に開墾されたるコロンプス世界大博覽會に京都府出品委員を囑託されて再び渡米し、本邦美術工藝品の世界の認識のため、大に盤旋するところあり。當時米國に於ては映畫勃興の氣運旺盛にして、既に各都市に公開され、之が製作上の技術も

大に見るべきありたるが、我國にては製作は勿論、公開すらも行はれ居らざりしを以て、氏は母國への珍しき土産として、映畫攝影機一臺を購入して歸朝せり。是れ即ち氏が映畫事業に染着するの機縁となりしものにして、當時に在りては敢て其攝影機を使用して自ら映畫製作に従事せんとする者無かりしが、歸朝後神戸市の内外物産株式會社に勤務しつゝある間に、米國を首め諸外國に於て映畫公開が盛に行はれ、民衆的娛樂機關として、精神修養の具として重視歓迎されつゝあるの趣向に鑑み、之が普及發達の必要を痛感したる結果、明治二十八年佛國ルミエルの發明せるシネマ・グラフを輸入公開することとし、多額の失費を厭はずして其希望を遂げたり。是れ實に我國に於ける映畫公開の濫觴にして映畫輸入の第一着手たりしなり。其後氏は益々斯業の前途の有望なるを感じ、専ら其研究に當ることとし、超えて明治三十一年佛國巴黎に於て、世界大博覽會の開墾するに際し、自から望んで渡佛し、彼地の映畫を研究し、一層其認識を深めて歸朝するや、直ちに獨立して横田商會を創設し、映畫の直輸入を開始したるが、其業績に徴して望蜀の念を起し、我國に於て映畫製作を行ふの計畫を樹て、氏と偕に斯界の雙璧と稱へらるゝ故牧野省三氏と相語り、時恰も牧野氏が洛西に劇場を經營

し、尾上松之助一黨に依つて賣演をなしたるありたるを機として、費に米國より購入し來りし攝影機を活用して撮影を開始したり。當時は撮影所建設の資力無く纔かに撮影事務所を二條離宮裏に建設して、野外撮影本位に撮影を行ふに止まり、所謂鴛鴦一枝の經營に過ぎざる状態に在りしが、四十五年に及び、横田商會及び理解ある二三の會社を併合し、壹千萬圓の巨資を投じて日本活動寫眞會社を設立、第一期計畫は不幸失敗に歸したるも、組織を改めて、資本金を半減し藤田謙一氏を迎へて社長に推し、自から常務となり盟友牧野を鞭撻して鋭意復興に努めたる結果、業績大に擧り、其隆盛に伴ひ本邦に於ける映畫製作も愈々本格的の域に進むに至れり。現在の日活會社が映畫製作の世界的權威として知られ優秀なる映畫を發表して、益々其認識を深めつゝあるは、實に横田氏の献身的努力の實にして世人周知の事實なり。其後同社の首腦者たること多年、磐石の基礎成るに及びて表面舞臺を退き、顧問として此を輔佐することとなりたるが、隠退後の今日も猶一日活の横田横田の日活」として世人に誦はれ、日活の大恩人、本邦映畫界の功勞者として永遠に國民の腦裡に銘記せらるゝの榮譽を擔ふに至れるは、氏の私かに本懐とするところなるべし。如上の功績に依り賞勳局より表彰すること

數次級授褒章を受くること三回に及び、往年京都市參事會に參與し、兼ねて商工會議所副會頭として名望隆々たり。利加子夫人は、三重縣上野町の素封家の生れにして、温良貞淑の聞え高く、豪邁闊達なる夫君をして太過無からしめたるは、實に其内助の功に由るものとして喧傳せられつゝあり。

(住所 京都市下京區魁屋町佛光寺上ル)

機業家

久喜武藏

久喜氏は、秩父銘仙を以て著名なる埼玉縣秩父町に於て久喜文商店を營み、才腕秀技にして事業頗る殷盛を極め、各方面に活躍してその勢望赫々たり。同商店は生糸玉糸、絹紡糸、人絹糸、ステープルファイバー及各種織糸の販賣問屋を營み、更に喜榮御名、喜榮ホーラ織、模様夜具地、同座布圍地、無地座布圍地丹前地各種の製造販賣をなして當地方屈指の大商店たり。氏は夙に熊谷工業學校を卒業し、後實業に携りしが性來霸氣に富む氏は獨立して業界に覇を張らんことを決意せり。二十四歳にして職起し、業を起す。嚴父久喜重四郎氏は氏の決意の鞏固なるを見て、自由に手腕力量を發揮せしめんと欲し、若干の獨立資金を提供して事業界に進出せしめたり。

氏は嚴父提供の資金を唯一の資本となし、萍動剗勉して事業經營に没頭せり。その努力によりて年と共に發展をなし、遂には今日の如き大を成し、多數の用人を使い、その規模大にして事業頗る盛況を呈せり。その資産は既に嚴父に劣らず。令弟儀助氏と相説んで立志傳中の人と仰がれ、秩父機業界に重きをなせり。資性重厚にして剛毅果斷、素志堅剛にして個體不羈、卓拔なる手腕の持主たり。秩父銀行、秩父會館、株式會社共販各取締役、久喜文同族株式會社副社長、秩父織物原系組合副組合長、秩父織物工業組合理事、秩父商工評議員を始め幾多の事業に關與し、或は秩父町會議員その他の公職に推される。

(住所 埼玉縣秩父郡秩父町)

鬼怒川温泉ホテル

鬼怒川温泉は溪谷美に富み、四季自然の風光麗しく、その温泉量豊富にして清澄なり。歴史古く由緒あるものなれど、交通の不便と宣傳の不充分なる爲めに多年世に現れざりしが、東武鐵道日光線の開通に依りて、一躍天下に名を成すに至り。當温泉に於て第一流の旅館として斷然頭角を抜ん出すが、鬼怒川温泉ホテルたり。鬼怒川温泉驛より約二丁

奇岩の亂立する絶壁上に屹立する和洋折衷の宏壯なる三層樓の大建築にして宛然往昔の城廓を髣髴せしむるものあり。外觀の宏壯なると共に、内部の施設萬端完備して遺憾なく、清麗優雅なる日本間百餘室、近代的設備具はれる浴池たる洋室又數多あり。一時に千人の客を收容なし得ると云ふを聞くも、その大なるは眞に驚くべきものあり。絢爛たる舞臺付大廣間二、小宴會場二、又大食堂は眺望絶佳にして一時に三百餘の客に食事を供し得。温泉大プール設けられ、温泉は滾々として溢れ出で、養老、夢の湯、鏡の湯等の丸風呂、中風呂あり、春日、千鳥、吉野、楓、萩、桃等の家族風呂ありて、それら數奇を凝せり。グーリル、喫茶室更にダンスホール等設けられてその華麗なること都市の盛場と異らざる施設あり。娛樂設備としては社交室、ラヂオ、麻雀、玉突場、ピンポン、寫眞暗室、美容室、樂鏡室、子供遊戯場等を設置して、浴客に倦怠の念を催ふさしむることなきよう意を盡くせり。設備の充實せんと共に、サービス懇到親切にして痒き所に手の届くが如くによく客に奉仕す。同ホテルの經營者金谷正生氏は三十餘年來、日光金谷ホテルを經營せる體験を基として、客のサービスに細心の注意を拂ひて客の満足を得るに努めり。又内外ホテルの施設を注視し、新施設は直ちに採用する等、



氏生正谷金

肩するものなき優秀なる旅館たり。
(所在地 栃木縣鹽谷郡藤原村)

工具製造業

久保田久夫

帝都屈指の一大工場地帯、城南蒲田に諸設備完全なる工場を構え、業勢四隣を壓倒して斷然斯界に重きを置はる我が久保田久夫氏の今日あるは、正に雄心勃々として新業制覇の

大望に燃え、終始一貫、努力勵精を旨として手腕を縦横無盡に發揮せる賜と云ふべく、其の過去半生に亘る奮闘史は、聞く者をして自ら感奮興起の感あらしめ、懦夫をも奮起せしむる好個の刺戟劑とも稱すべきなり。氏は明治二十九年七月十六日の出生、静岡縣久保田磯松氏の三男にして、幼時既に天稟の英資隨所に鋭鋒を現はし將來を囑望されしこと甚大。即ち學を卒へるや、父業を繼承して汝々堂々只管家業の發展興隆を圖りて努力健闘し、着々其の實を挙げつゝありしも、慧眼遠識、克く先見の明に富み、而かも進取の氣象勃然たる氏は、工具製作業の將來益々有望なるに着眼、茲に斷乎斯業に大成せんと期するや、男子學生の活躍舞臺を斯界に求め、奮然大正三年を以て獨立營業の端を發せり。爾來不撓不屈、能く世路風霜の艱難を克服して専心業運の開拓に心身を傾倒し、更に不斷の研鑽を技術向上に累ね、而かも燃ゆるが如き工業報國の信念を抱きつ拮据經營せる處、其の卓犖不羈なる手腕と、時代の趨勢とは相俟ちて、業績の進展隆興に偉大なる力を興へ、恰も旭日昇天の概を以て業勢躍進、遂に昭和九年、從來の設備狹隘を告げ、到底旺盛極りなき需要を充足せしめざるに至るや、茲に現地を相し理想工場を新設し、以來更に製品改良販路の開拓等を圖りて誠實主義に一貫、而か

も克く得意先の利便利益に處するを倦怠せずして、専心機械工業發展に貢獻する處、其の各種製品は、嶄然他を凌駕して構造堅牢、性能優秀なるを謳はれ、需要界に好評噴々たるものあり。資性濃厚篤實にして亦た剛直の一面を有し、温威兼ね備はりたる渾然玉の如き人格の所有者。加ふるに頭腦緻密にして先見洞察の明に富み、識見手腕卓越して容易に常鱗凡介の企及し得ざる處、名實共に斯界屈指の人材として聲望隆々たり。因みに禪宗に歸依すること深く、居常精神修磨に勵み、亦た業余閑暇を得れば、ドライブに興じて、浩然の英氣を養ふと云ふ。

家庭には母堂こふ女健在にして、今開きへ夫人は内助の譽れ高き賢夫人として聞え、長女多喜子嬢他二女を有して一家頗る圓滿老幼和親なり。

(所在地 東京市蒲田區桃谷町二丁目)

株式會社 新大阪ホテル

大阪の樞要街中之島に、前に堂島川を擁し後に土佐堀川を控へ、豪壯華麗なる八層樓の洋風鐵筋混凝土の大建築物は巍然天を摩する概あり。上阪者をして其輪奐の美を瞻着せしむるもの、之れぞ我が新大阪ホテルなり。新

大阪ホテルは過ぐる昭和七年二月の創立なるが由來大阪が大ホテル建設問題の要に迫られたりしことは、當初過去二十年の輿論にして、府會或は市會に於ても夙に懸案として、歴代の知事、市長、市有力者間に協議を爲したることも屢次なりしが、何分巨額の經費を要する事と、適當なる地點を物色し得ざりし關係上、具體化するに至らざりしが、當時力石、中川兩知事並に故關市長等が關東關西の大財閥を説き、極力大阪市内に大ホテル建設を惹起せる結果、資本金三百萬圓、内拂込百五十萬圓、其他大阪市の後援の意を以て四百五十萬圓の市債を起し、三十ヶ年間の年賦償却にて低利資金を融通し、昭和七年二月現所在地を下して竣工し、遂に翌八年一月開業せるものなり。而して外觀の宏壯雄大を誇ると共に、内容の充實せる點に於ても、恐らく東洋第一流と激賞され、往古大阪の金字塔は豊臣秀吉の遺業として、大阪城に名残りととゞむるのみにして、浪速津の昔より千秋不壞の史蹟を訪するを待望する大阪市は、この大ホテルの出現により更に面目躍如たるものあり。而してその内部は最新式文化的設備の豪華を蒐め、暖房換氣装置は言はずもがな、電氣應用の各種装置、或はセントラル、オヴザウアンス、デノイディング、システム、ムーマチック送轉管等々は、實に我が國最初

の諸機械装置にして、其他七、八階には大小四室の大宴会場を設備し、約一千名を收容し得。尙貴賓室、特別室、日本間、洋室二百數十室に達し、總延坪六千五百餘坪、各室毎に浴室の設備を誇り、玄關正面に大バーラあり應接室は満員の際客室に直ちに變更を得る利便を備へ、一面壯麗典雅なる結婚式場の設備ある等、觀る人を眩惑せしめざるはなし。其他館内にジャパンツリスト・ビュローの出張所は鐵道案内其他旅行に關する一切の相談に應じ、ホテル内に英人のステノグラフィ駐在して、英文書作製の需に應ずる等、接待殆んど至らざるなし。尙この偉業達成の爲に多大の贊助を爲せるは住友、大倉、三井、三菱、野村の各財閥にして故湯川寛吉翁の如き最も援助せられたり。

昭和十三年一月末決算に依りて近況を觀察するに、同期の利益金は三十二萬三千餘圓を挙げ、諸償却に二十六萬圓を控除し、諸積立金三千二百圓、株主配當金六萬圓(年四分)後期に四萬六千七百餘圓を繰越し、順調の成績を挙げたり。

現重役は取締役會長小倉正恒 常務取締役加賀覺次郎 取締役稻垣勝太郎 同大倉喜七郎 同住友乙吉 同野村徳七 同堀啓太郎 同高橋龍太郎 同成瀬達之諸氏なり。

京濱電氣鐵道株式會社

東京、横濱間の代表交通機關として京濱電氣は都民に最も親しまれたる電氣會社にして學社一致の精神こそ、乗客に多大の満足と與

へつゝある處ならん。近時路面電車は行詰りとの聲を聞くの時、當社は着々として新計畫を押し進め、前途の拓開に力を盡くしつゝあるを以て、將來の躍進には大いに期すべきものあり。我が京濱電氣は、單に、東京、横濱の兩大都市を連絡するのみならず、沿線の各所舊跡亦頗る多く遊覽客の利用又多大にして同社の前途隆々たるものと云ふ可し。今試みに沿線一帯を概観せんか、東京品川を出發拾數分にして大森海岸あり、夏季ともなれば都人士の海水浴場として絶讚の地、近くに將來交通中心地化する東京飛行場あり、又有名なる穴守稻荷ありて、沿線住民は勿論、都人崇敬の靈社にして、參拜者常時多數に上る盛況なり。武蔵、相模の境界線六郷川の川邊には、六郷ゴルフ場、大工場林立の川崎市を分岐點として、川崎大師に至る、關東著名の寺院、善男善女の參詣識るが如し。川崎停留所を経て數分、同社所有の住宅地有り、風光亦可にして好適の住宅地、近時續出の住宅新築は、將來益々發展せん、越へて鶴見總持寺は同派の總本山として、洽く世人の信仰の的、又自然に人工を加へたる大公園地、花月園ありて丘上に登らんか、一望千里、横濱、東京南半を俯瞰し得て、而も風光明媚なる遊覽地其他生麥、子安等々是等大小の名所舊跡相繼ぐ沿線は乗降客の繁盛を招來する所以なり

殊に京濱間に横たはる膨大な空地は、新設會社の工業地帯として新建築の繁忙は目覚ましきものあり。住宅新築亦引きも切らざる有様は、自然に同社交通機關を利用するに至り同社の最も意を強くする所ならん。同社も激増する此の乗客緩和に乗合自動車部をも設けて、愈々交通機關の全機能發揮に邁進せるは誠に頼母しき限なり。此の隆々たる同社の内容亦堅實にして、昭和十二年下半期業績を檢討するに、電車乗客數二千五百六十六萬二千八百八十八人、其收入金一百五十二萬五千四百八十四圓一錢にして、之れに手小荷物收入金三千二百二十四圓九十錢、其他雜收入金二百五十二萬九千九百五十七圓九十一錢にして、之れを前年同期に比し、二十萬八千九百七十三圓二十九錢の増收を示現せり。又自動車部にありては、乗客數四百八十九萬六千四百七十九人、其收入金は三十六萬九千六百九十四圓十三錢にして、之れに雜收入金八百五十四圓八十一錢、團體貸切自動車收入金七千六百三十三圓を加ふれば金三十七萬八千七百三十三圓四錢なり、之れを前年同期に比し、金十萬六千八百六十一圓五十八錢の増收なり、此の期は恰かも日支事變に際し、遊覽客、海水浴客等の減少を來たし、加ふるに、諸物價騰貴の影響を受けたるにも不拘、増收を見たるは沿線

が軍需工業地帯化したる爲めと蒲田、羽田、六郷、横濱附近の住宅發展の兩々相伴ひたる結果にして、更に同社前途の發展も豫約されたと云ふ可く益々有望化さん、前記の如き増收を見たる配當措置きたるは、正に同社の堅實振を示めすものなり。猶此處に特筆すべきは、同社が路面交通機關の將來を見越して地下鐵事業に着手したる事にして、京濱地下鐵道會社を、東京地下鐵と協力して、一千萬圓、内百萬圓拂込、新橋、品川間を建設して同社線に直接連絡を計畫し、昭和十四年末に竣工の豫定なるを以て、之れが完成の曉は、同社の業績期して見る可きものと云ふべし。更に附言するに仔會社湘南電鐵の業績近時著しく増大し、兩社相伴ひ隆々たるは、寔に偉とすべきなり。

同社の重役左の如し。取締役會長望月軍四郎 取締役社長生野團六 專務取締役藤田成亮 取締役小川市太郎 取締役田中百敏 監査役山崎信一 監査役井坂孝 電車部長中川登代吉

(本社所在地 川崎 市 堀 川 町)
(事務所 東京市芝區高輪南町)

松屋染工合名會社

京都市を中心とする染染事業は近年大に發

達し、殊に機械操縦の時代となりてより、愈々活況を帯び来り概観的には近時隆盛の状を呈せるが如くなるも、各方面に亘り仔細に斯業界の實状を観察するに意想外に盛衰消長の跡著しく、京都市内の當業者に在りても家庭工業的少資本經營者は勿論、相當の資本を以て經營せる者も幾分の變遷異動を免れずして不況不振を嘆つる者も尠からず。然るに中川平三氏の經營に係る松屋染工合名會社が獨り其中に卓然として所謂風吹けども山は動かさずの觀を呈し、創業以來變轉常なき經營界及服飾界の擾々を克服斷斷して、逐年向上發展の一途を辿り来り今や磐石の基礎の上に立つに至り宛然王者の偉容を示せるは眞に異數の例として斯界専門家の驚嘆するところなり。其業績の拔群なる、既に驚くべし。況んや主宰者中川氏が漸く三十四歳に達せる少壯者なるに於てをや。氏は下京區油小路七條上ル洋反物商中川彦太郎氏の實弟にして、京都一商に畢びのち大阪田村陶商店に入りたるが、其天賦の商才は實地萬般の觸着する毎に光を放ち、商工業の各部面に亘りて造詣の深きを致せり拮据精勵數年の後退店して實兄の許にて家業を扶くることとなり、其類重なる體験と英才は氏をして家兄の良佐たらしめ、必須の人物として内外の信望を高めたるが、氏は其間絶えず服飾界の趨向に留意し、機を見て自己の

壇場を築かんとするの意あり。私かに工風研究を凝しつゝある間に、モスリン及人絹流行の風潮澎湃として都部に瀰漫し底止するところを知らざるの情勢を示すに迫り、胸中の成算を見、茲に意を決し、小川弟三郎氏の助力を得て、昭和六年西七條八反田町に現業を開始、爾來専心努力の結果長足の進展を遂げ、工場の新築を告ぐるに至りたるを以て、昭和十年現在の場所に移築移轉せるものなり。現今従業員百數十名を使用、得意先は大坂山口、杉村、丸紅、京都吉忠、瀧室等何れも屈指の大商店にして、染色工業地の京都に於ける一大有力工場として日に月に信用を高めつゝあり。尙ほ氏は隣接地に合名會社松菱織布加工所を創立して之が經營を兼ね居るのみならず、本業たる捺染事業を株式に改組更に一大飛躍を試みんとするの意圖を抱ける模様にて、少壯有爲の事業家として各方面より待望されつゝあり。

需消費の繼續、輸入制限に依る自給自足等を基調として、軍需生産力の擴充鞏化は愈々本格的色彩の濃度を著加しつゝあり。茲に斯業界の長老たる氣球製作所の偉容乃至近況を大膽するに當り、秋恰も事變化に屬し重要兵器たる氣球、飛行機等の動向を悉詳語るを許されず、記するところ概ね抽象的に傾き、隔靴搔痒の憾みを伴ふを免れざるを遺憾と爲す。抑々當社は過ぐる大正八年三月、飛行船、氣球、飛行機部分品の製作並に護謄製品加工を目的として設立せる斯界の先達たり。創業以來當業界の草分け事業たる關係上、血の滲むが如き研究を敢行すること幾春秋、苦難級出して凡ゆる犠牲を拂ひしも、能く減私報國の氣概に燃えて堅忍せし結果、逐時事業目的たる分野を開拓し、時局以來一段と面目を新にし、業績愈々昂揚され聲譽噴々たるに至れり。今や當社の行履を顧れば、百鍊の鐵壁を一貫して彼方に清麗なる萬葉の櫻花を望むが如き爽快なる觀あり。茲に永年の苦闘は見事酬ひられて芳果を結ぶに至り、其の將來は正に汪洋たるものあらん。

險惡なる國際情勢は、今や異卵の危きにも似たる感切實にして、舉げて世界は軍擴に努力を拂ひつゝあり。我國に於ても巨大なる軍

株式 氣球製作所

因に舉社一致苦闘を突破せる布陣を見れば専務取締役豊間靖、取締役山田總一郎、同山田重、監査役後藤鐵五郎の諸賢なり。

(所在地 京都市右京區西京極池田町一〇)

空事業界の鴻鵠たり。終始一貫一人一業主義を奉じて斷じて之を擡げず。天賦純潔、堅忍卓抜にして赤誠の逸材たり。明治二十三年三月、秋田縣士族現戸主謙助翁の二男として秋田市に出生す。長ずるに及んで實を帝都に負ひ、時代の趨勢に鑑みて攻玉社工業學校に學び之を卒業す。同四十三年以來、航空機製作に挺身すること實に三十年、百折不撓文字通りの苦行難路は克く至誠天に通じ、現時の社業を達成す。其間從來の個人經營を大正八年資本金五十萬圓の株式組織に改組す。孜孜たるその努力を顧る時、筆者は自づと敬虔の情涌然と胸裡に漲溢するを禁じ得ず。

豆に簡單に砂糖を附加するに止まるものなりしが、二代目伊兵衛氏これが改良を志し、種々苦心研究の末幾多の失敗を経て、美味にして風味豊かなる五色豆の製造に成功す。他面氏は堅忍不拔刻苦奮勉して販路の開拓に邁進し、夙起晚寢身を粉にして活躍せり。斯くして家業大いに勃興して、店頭に顧客溢れるに至れるが、氏は商號を豆徳と名付け、その名大いに人口に膾炙せり。尙ほ公共事業或は教育界に貢献する所深く、時の京都府知事より木盃並に感謝状を授與せらるゝのこともありその徳望顯然たるものあり。五色豆の好評は長くも雲上に達し、明治十年宮内省御買上の榮に浴し、爾來京都御所の出入を差許さる。恐れ多くも行李皆の御買上を賜りて家門の名譽を博せしこと一再に止らず。三代目徳次郎氏祖考の遺業を繼承して、更に風味の改良品質の向上の爲めに鋭意専心し、新らに調味料を加味し、製造過程に種々改良を施してその製品從來に比して著しく美味となり、益々その聲價揚れり。氏は孜孜營々と家業に盡瘁し、愈々販盛を加へしが、不幸にも四十六歳にして長逝す。茲に於てナヲ未亡人は寡々しくも、縷手を以て家業を經營し、拮据砥勵して活動す。同家には家業を繼承せしむべき後嗣なきにより、遠縁に當る東京市下谷區金杉町、河原秀太郎氏の四男、四郎氏を養子に

迎へ、トミ女を夫人に迎へて家業の一切を托せり。四郎氏は明治二十九年五月に生る。資質濃厚にして質實、家業の發展に盡瘁して、他事を顧みず。原料を精選して製法に幾多の改良を加へ、製品愈々向上して需要頗る激増せり。氏の奮闘に依りて事業益々發展し、同業者間に重きをなせり。人格清廉にして心性皎潔、世人の瞻仰を受くること深し。

福原新太郎

(住所 京都市上京區今出川通西入)

野村四郎

古き沿革と風味佳良を以て、好評を博せる五色豆の製造本舗として著名なるが、商號豆徳野村商店にして、京都に遊ぶ者は何人も同店製造の五色豆を土産として求むるを常とせり。當店は初代野村伊兵衛氏の創始に拘り、その當初氏は種々の販賣をなす傍、煎豆の販賣を奮めり。當時の製品は現時とは異り、煎

名古屋事業界に活動して才腕を揮ふと共に公共事業に八方盡瘁して貢献する所多く、その信望高きが福原氏なり。氏は現在水産物販賣の事業に執掌せるが、抑々當家は先代福原春吉氏が明治十六年に該事業を創始せし以來これを業として繼承し來れり。福原新太郎氏の代に至りて事業は一段と躍進し、家道大いに興るに至り、氏は先考の逝去後家業を繼承し、熱心にこれに勵精す。大正三年名古屋水産市場株式會社を創立し、直ちに取締役に就任せしむ。昭和七年に及ぶや衆望を擔ひて、同社の取締役に推挙される。質性温恭謙遜に於て實質堅確。その温容に接する時は何人も魅了されざるはなし。襟度寛宏、氣宇調達、人

名古屋事業界に活動して才腕を揮ふと共に公共事業に八方盡瘁して貢献する所多く、その信望高きが福原氏なり。氏は現在水産物販賣の事業に執掌せるが、抑々當家は先代福原春吉氏が明治十六年に該事業を創始せし以來これを業として繼承し來れり。福原新太郎氏の代に至りて事業は一段と躍進し、家道大いに興るに至り、氏は先考の逝去後家業を繼承し、熱心にこれに勵精す。大正三年名古屋水産市場株式會社を創立し、直ちに取締役に就任せしむ。昭和七年に及ぶや衆望を擔ひて、同社の取締役に推挙される。質性温恭謙遜に於て實質堅確。その温容に接する時は何人も魅了されざるはなし。襟度寛宏、氣宇調達、人

を容るゝの抱擁性大なり。事業に對しては眞摯誠實を以て臨み努力奮闘を事知らず。氏のこの努力精進に依りて事業大いに發展し業績頗る好調を掲ぐるに至れり。而も氏の俊敏なる智能と卓抜なる手腕は如何なる障害にも屈せずこれを克服し、商機は敏速にこれをキャッチして、氏の進む所常に輝かしき成功を獲得せり。斯くして現在海産物卸商を經營し、名古屋水産市場株式會社取締役社長の椅子にあり。また兼に北海水産株式會社取締役たりしも、昭和十一年十一月辭職せり。業界に於ける第一人者としてその存在まことに重きをなせり。その多忙なる事業活動の寸暇を割きて、社會事業の爲めにその勞を惜しまず盡力斡旋をなせり。即ち聯區社會教育理事或は名古屋市社會教育會委員等に推舉せられその功績まことに大なり。人格清廉にして、公衆の爲めには如何なる犧牲をも惜しまず。その高風は衆庶の仰慕すること厚し。明治十七年八月四日福原春吉氏の長男として生る。趣味頗る高尚にして志野流の茶道並に松月流の生花をよくし斯道に於ける藪奥を極めり。

(住所 名古屋市西區東枇杷島町)

服部商店熱田工場長

松本 庄治

株式會社服部商店熱田工場長として、才腕



松本 庄治
本手腕を發揮せり。精勵勉勵職務に精研し、頭才を發揮して大いに成績を擧ぐ。後ち大日本紡績一宮工場に轉じて

を以て、紡績界に於ける多年の経験と蘊蓄を以て名古屋事業界に名聲高きを松本其人とす。夙に大阪高等工業機械科に入り、明治四十二年同校を卒業せり。頭腦俊英にして謹格眞摯の人にして寸刻を惜しみて研究に没頭し頗る優秀の成績を得て秀才の名を恣い、にせり。學業を終へると共に直ちに攝津紡績に入社す。精勵勉勵職務に精研し、頭才を發揮して大いに成績を擧ぐ。後ち大日本紡績一宮工場に轉じて

聘せられて南勢紡績に移り、以後同社の爲めに活躍す。大正十二年株式會社服部商店より擧げられ、入社と共に直ちに福井工場長の重職に據へらる。氏は多數従業員を督勵して能率の増進に全力を盡くすと共に、設備の改善に或は新設備の採用に鋭意苦心し、福井工場の成績を飛躍的に向上せしめたり。續いて昭和十一年五月熱田工場長に拔擢せられ爾來同工場の經營に執掌せり。熱田工場に轉ずるや、從來の經營方針を一新し、舊來の制度に根本的刷新を加へ業態大いに面目を新にす。

更に又技術の改革に心血を注ぎ、能率の増加と、品質の向上に研鑽工夫を凝らせり。氏の手腕は直ちに現れ、優秀なる製品を産出して噴々たる好評を博し、需要大いに激増して業頗る繁忙となり、同社の業績向上に貢献せる所測り知れざるものあり。株式會社服部商店は大正元年に創立せられたるものにして、現在資本金六百四十萬圓の全額拂込済にして十二年上期の損益計算に依れば、利益金六十三萬圓を擧げ、六分配當を行ひて尙ほ餘裕綽々たるものあり。氏は社内上下の信望まことに厚く、將來當社樞要の地位に推されるは何人も認むる所たり。紡績界に身を投じて既に三十年。該博の知識に豊富なる蘊蓄は業界に比倫を見ず。權威者として名聲赫々たるものありて、服部商店の社實的存在として同社に於て重きをなせり。謙恭質實の士にして熱誠をこめてその業務に當る。明晰果敢の智略は快刀亂麻を斷つての才ありて、其經營的才腕は同社の爲めに幾多の貢獻を盡せり。名利に超脱して清廉潔白襟度寛容にして温情に富み従業員の福利増進の爲めに盡瘁する所多し。明治二十二年六月奈良縣生駒郡山町に松本庄藏氏の二男として生る。登山・南畫の趣味を抱き其足跡の至らざる名山なく、又た南畫は既に素人の域を脱せり。

(住所 名古屋市昭和區沙見町)

京成電氣軌道株式會社

帝都電氣界中試みにその内容の堅實にして、業績又優秀なるものを擧ぐれば、何人も先づ第一に指を屈するものは京成電氣軌道株式會社なるべし。當社は明治四十二年七月の創立にして、その營業種目は電氣事業の外電燈電力の供給、乗合自動車、遊園地、土地住宅の經營等なり。現時公稱資本金四千五百萬圓の内拂込資本二千三百二十八萬七千五百圓に達せり。電氣營業線は上野―成田、津田沼―千葉、押上―青砥、高砂―金町の各線ありて、八十二軒九八に上れり。沿線には各種工場、社寺蹟、名所遊園地等頗る多く又住宅地發展し、都心と直ちに聯絡せるを以て通勤客、遊園客四季輻輳し、頗る好成績を擧げつゝあり。十一月末締切の昭和十二年下期成績に依れば、乗客數一千四百二十五萬三千人に上り、賃金收入百七十四萬三千圓を擧ぐ。之を前年同期に比較すれば乗客數七分強、收入三分六厘を増加せり。收入の増加率に比し、乗客數の増加顯著なるは沿線の發展に伴ひ、短距離客に定期利用客の増加せるに依るものにして、殊に定期客の如きは前年同期に比して八分四厘の激増をなし、沿線の發展著し

好調の證左をなすものなり。次に當社の自動車路線は百九十六軒四にして、これ又頗る好成绩を示せり。十二年下期に於ける自動車營業成績は乗客數六百六十七萬八千、右賃金收入四十八萬五千圓に上り、之を前年同期に比較するに乗客數四割五分七厘、收入四割四分三厘と多大の激増を見たり。斯る好成绩を得たるは舊來の營業線の収入の著増ありたる外當期中間業せる小岩線、國分線の成績良好たりしに依る。又最近奥戸、市川間の新路線主務省より認可ありたるに依り、茲に東京千葉方面との聯絡成り、當社の自動車は淺草雷門を起點として一路千葉縣九十九里海岸に至り、其間沿線樞要地に至るにも多大の便宜を得ることとなれり。更に電燈電力事業部門を見るに、十二年下期末電燈取付總數二十萬四千八百七十七燈、電力据付馬力數一萬一千七百九馬力に上り、收入金九十九萬圓を擧ぐ。前年同期に比較しに電燈一萬七千五百四十燈、電力一千二百五十五馬力、收入金六萬圓とそれ〴〵増加を見たり。昭和十二年下期に於ては一百二十一萬五千圓の利益金を擧げ、七分配當を踏襲せるを以て、多額の利益を内部に保留せられ、資産内容愈々堅實を加へり。因に當社の沿線には成田不動尊、宗吾靈堂、眞間山弘法寺、柴又帝釋天を始め幾多の名所蹟あり。亦た春夏秋冬その季節に應じて行樂の地に富

む。更に近時各種事業會社相次いで設置擴張せられ、住宅地として又多大の發展を見つゝあり。又土地經營に於ては、谷津、小岩、青砥御花茶屋、市川等何れも別荘に住宅に最適の土地なるを以て、分譲の賣行甚だ良好を示し、十三年三月末現在千住工場地帯とお花茶屋、谷津海岸住宅地帯を加へ一萬五千坪を賣倒き青戸驛附近と市川八幡附近の中一萬五千坪も既に賣りつくす豫定と仄聞す。現に昭和和工作機製作所に二千キロの電力を供給し、更に大藏省酒精工場、帝大綜合運動場並に寄宿舎千葉市立工業學校の移轉等々あり、何れも電車、電燈電力供給に相當寄與すべく斯くて當社の將來は益々刮目せらるゝに至るべし。十三年上期は、成田山開基一千年祭の好影響を受けて、講中團體の申込二十數萬人に及びたれば同期の電車收入は新記録を樹立せしも配當は自重、七分据置とせり。

取締役社長 後藤 國彦 卓學豪放にして器局宏量、電氣界屈指の材幹として事業界に名聲隆々たる人に後藤氏あり。氏は大分縣人後藤定彦氏の二男として明治二十四年七月呱呱の聲を擧ぐ。夙に法政大學を卒業し、讀賣新聞社に入りて天賦の頭才を發揮して、操縦界に名を成すに至れり。簡拔せられて經濟部長に擧げらる。間もなく事業界に身を投じ、

東洋製鐵庶務課長を振出しに京成電軌、筑波
高速電軌その他の諸會社取締役を兼任し、
日華生命保險常任監査役、池上電機事務に選
任せられ、後現職に推される。頭腦敏捷にして
周旋犀利、明断決行その手腕實に卓効たり。
眼光炯々として射るが如く、精力絶倫にして
磨斗の如く、悠揚進らざる事措と諒として四
邊を壓する風貌は、まさに我財界一方の偉傑
たり。襟度宏くして仁情に厚く、衆庶より慈
父の如くに仰がる。

(所在地 東京市本所區向島押上町)

銘酒「金の井」醸造元

今村益太郎

福岡縣は東京、大阪兩地方に比肩するの工
業地にして、物産豊富に産し、殊に石炭の産出
は全國に冠たり。然るに福岡縣南部即ち筑後
地方に於て芳醇なる銘酒を産し、酒釀業頗る
盛なる事實に就ては知る者比較的に尠し。今
村氏は福岡縣三浦郡に於て酒釀業を營み、頗
る盛大を極めてその名聲顯赫たるものあり。
今村家は氏の祖父故今村萬平翁に依りて酒造
業創始せられ、拮据砥勵して大いにその業發
展し、遂に巨萬の富を積り、翁は温恭謹厚、
勤儉力行の士として令聞あり、一代にして産
を成し、徳望甚だ高かりき。今村益太郎氏は

明治二十二年十二月十日今村太郎氏の二男と
して生る。大正五年十二月分家して、現在の
地に於て獨立して酒造業を始む。氏濃厚にし
て實業事業に對して頗る熱心なり。夙起晩寢
多數使用人を督勵して釀造法の新研究をなし
品質風味の改善に力を注ぎ、又販路の開拓の
爲めに各地を廻り、孜孜として事業の發展
に全力を傾注せり。氏親切丁寧にして信用を
重んじ、商取引には堅確を旨となせるに依り
非常なる好評を得て大いに需要の増進をなせ
り。人物圓滑滑脱にして、人情の機微にも通
じ、世故に長け、頗る情誼に厚き人なり。使
用人に對しては骨肉の如くに愛し、使用人又
氏を慈父の如くに慕へり。氏は又人の爲めに
犠牲を惜しまず盡力し、當地方に於ける人望
甚だ高し。人格廉直にして謹厚、深く人に瞻
仰せらる。當家釀造の銘酒「金の井」は美味
芳醇にして、品質甚だ佳良、當地方屈指の優
良酒として九州一圓に聲價噴然たり。尙ほ當
家は酒造の外に醬油の釀造をなせり。「萬平」
と稱して專賣特許を獲得し、その品質又頗る
優良にして風味甚だ佳良、同種品に於て比倫
し得るものなく、非常なる好評を得て、需要
日を送ひて著増なし、あり。同醬油は佐世
保海軍工廠購買指定品とされ、大いに愛用
せらる。當家釀造の醬油を「萬平」と命名せ
るは即ち、祖父萬平翁の名を冠せるものな

醫師

木村長久

明治維新の大業成るや、我國朝野を擧げて
歐米文物諸制度の輸入に汲々となし、之が爲
めに稍々もすれば我國固有の精神文化及びそ
の他の學藝を捨て、顧みられざりし事例乏し
からざるものあり。即ち、支那より傳來して
我國独自の發展を遂げし皇漢醫學の如き、そ
の最たるものならんか。近時醫學に於て皇漢
醫學の再認識論大いに擡頭し、これが研究次
第に旺盛ならんとする風潮あるは、蓋し大
いに慶祝すべきなり。木村氏は皇漢醫學を専門
とせる木村醫院を經營して東都醫學界に多大の
注目を受け、その名聲を聞き傳へて診察を乞

ふ著蹟を接し、非常なる盛況を呈せり。當家先
代木村賢齋氏は漢法醫學に通曉し、大正五年
漢章に開業せしを淵源とす。當時は泰西醫學
萬能の時代にして、學界既に之一顧だも與
へず、世上に於ても之を蔑視して診察を求む
る者實に寥寥たる有様なりき。木村賢齋氏は
博昭と號し、漢學並びに皇漢醫學を斯界の巨
匠淺田宗伯師に就きて學び、皇漢醫學を顧み
る者なきにも拘らず、孜孜として研鑽に努む
ること四十年、その蘊奥を極めて斯界最高權
威として仰ふがれし巨擘たり。氏の研究の成
果は近年に至り學界の認むる所となり、我學
界の進歩に裨益すること絶大なり。尙ほ同氏
は建築にも多大の趣味を有し、現在木村家の
居住せる家屋は氏の設計になるものにして、
輪奐の美甚だ結構を極め、純日本建築の粹を
發露せるものといふべきなり。當主木村長久
氏は東京府加藤又吉氏の男として明治四十三年
一月を以て呱呱の聲を揚ぐ。後懇望せられ
て木村家の養子となり、昭和六年四月先代賢
齋氏の長逝せられるに及び、直ちに家督を相
續す。昭和六年東京慈惠會醫科大學を卒業し、
爾來醫業に携り來れるが、傍ら皇漢醫學の研
究に淬勵して學殖甚だ淵博たり。氏は泰西醫
學の長と皇漢醫學の粹を併用し、之を診察に
應用して多大の効果を收め、噴々たる好評を
博せり。近時の皇漢醫學の再勃興と共に世人

も漸く其眞價を認識するに至り、氏の門を叩
くもの著増して門前市をなすが如き繁榮をな
せり。氏は資性濃厚にして謙虛、頗る仁情に
厚く、患者を遇するに甚だ懇到なるを以てそ
の信望近時頗る高きものあり。頭腦頗る俊敏
にして學を好み、夙起晩寢して研修に努めつ
ゝあるが故に將來刀圭界に名を成すべし。
(住所 東京市本郷區駒込上富士前町)

實業家

武内常三郎

京都市に於て各種金物の直輸入並に卸商を
營みてその規模宏大、商況發展を極めて名望
高きを武内氏とす。武内家はまことに由緒あ
る家柄にして、その宗祖尾崎藩士、武内治左
衛門儀豐京都に來り、弓矢を捨て、町人とな
り、その名も津ノ國屋治左衛門と改めて、現
在の商賣に手を染む。時は弘化二年にして今
より約百年前の事なり。潤達發放にして甚だ
才略あり。武士の出に似ず商才に富みて事業
頗る繁榮し、大いに名聲を揚ぐ。後嗣に又人
材輩出して益々家業を發展せしめ、多大に産
を積り。四代日治治郎氏の代に至り、幕末
の擾亂に依りて人心惘々として經濟界爲めに
一大混亂に陥りて家運甚だ不振に陥る。而も
文治郎氏は高義清節、熱情熱誠の士にして、紛

糾紛紛争せる天下の難局を拱手傍觀するを得ず
驍然立ちて江戸に赴き義勇隊に身を投ず。然
るに氏は武運拙なく戦死し、武内家は一時前
途暗澹として重大危機に達せり。時に當主
の先考甚だ英邁にして俊敏、拮据砥勵して家
道の再興に汲々し、その難局を克服突破して
武内家今日の隆盛の基礎を築けり。當主常三
郎氏は先考の遺志を奉じて専心事業に傾倒し
夙起晩寢奮勵砥勵す。氏の活躍に依りて家業
愈々榮え、業礎鞏固に信用倍加し、千客萬來
門前活氣溢れとして漲ぎ。取引の擴大と事
業の發展によりて舊來の組織を以てしては經
營の萬全を期するを得ず、昭和十一年三月一
日株式會社に改組せり。現在賣上高年額六十
萬圓に達し、多大の利益を収む。打刃物、大
工道具、洋食器、手工用具、和洋金物、舶來
雜貨の直輸入並に卸商を營みて京都に於け
る新界屈指の大商店たり。當主常三郎氏は温
厚篤實にして肌觸りまことに穩かなる好紳士
なり。明治二十年十二月を以て生る。夙に京
都市立商業實習學校に學び、その第一回卒業
生たり。眞摯熱誠、家業に勵精し、その手腕
の卓効を以て名あり。寛潤にして抱擁性に富
み、温情を以て部下を統率し、部下又氏に悅
服すること深し。心性潔白の人格者にして甚
だ信望を集む。卸部を藍屋町通松原南入西側
に置き、小賣部を松原島丸東入りに設け、支

配人平井徳一氏は、當主の參謀として采配を揮ひ、頗る敏腕を示し、内外の信用甚だ厚し。
(所在地 京都市懸屋町通松原南入西側)

鬼怒川水力電氣株式會社

近時その風景の佳絶なるを以て、大いに名譽を高むるに至れる鬼怒川の清流を利用して水力電氣事業界に隆々の飛躍をなし、社運逐年興隆して斯界にその名顯然たるが當社なりとす。抑々當社は明治四十三年十月資本金一千三百五十萬圓を以て創立せられ、大正二年一月に至りて始めて營業を開始す。爾來業績順調を以て推移し、事業大いに股盛に向ひ、大正三年には一舉倍額増資を執行せり。同十年三月には鬼怒川興業株式會社を併合して一千八百萬圓の増資をなし、資本金四千五百萬圓内拂込二千七百六十七萬五千圓に上り、引續き今日に及べり。その設備能力を見るに火力發電所一ヶ所二萬三千キロワット、水力發電所四ヶ所四萬九千八百三十二キロワット、總出力七萬二千八百三十二キロワットを有し、専ら東京市電氣局並びに東京電燈株式會社に供給し、その収益は常に安定して、毎期の成績好調を持続せり。昭和十二年下半期に於ては東京市電氣局に五千一百八十三萬一千

キロワット、東京電燈株式會社に四千六百九十六萬八千キロワット、其他小口供給八百七十四萬五千キロワットに上り、總供給量一億七百五十四萬五千キロワットに達す。同期々末決算に依れば利益金一百五十五萬圓を擧げこれに對し四十二萬圓を固定資産の償却に充當し、各種積立金に十一萬四千圓を計上する

と共に株主配當七分を踏襲せり。上記利益金は對拂込資本利益率一割一分二厘なるを以て前期の二割一分四厘に比しては若干の低下を見たりとは雖も、前年下期の九分九厘、同上期の九分三厘に比較しては向上の跡歴然たるものあり。當社は財界の香宿利光鶴松氏の主宰せるものなるが、當社關係會社に小田原急行、關東水力電氣、帝都電鐵等の諸會社あり小田原急行は未だ些したる業績の好轉を見ざるも沿線次第に住宅地の發展を見つゝ、あを以て將來大いに向上を期待せられ、關東水力は非常なる好成績を擧げて現在配當をなし、又帝都電鐵は創業日向ほ淺しと雖も近時沿線の發展顯著なるものありて毎期多大の収益を示し、株主配當五分を附せり。これ等投資會社の前途何れも期待せられるが故に、當社今後の業績に寄與する處尠からざるものあるべし。當社の重役には取締役社長利光鶴松、取締役副社長利光學一、常務取締役上杉松太郎、同利光永松、取締役石川貢、同吉村惠吉、同

蘇江周輔、同小菅小之助 監査役須田宣 同池邊裕生の諸氏あり。

取締役社長 利光鶴松

資性快手豪放、氣格俊邁 事業界に其特長を推重せらるゝこと久しき氏は、往年政界場裡を馳驅して其名聲一世を壓せり。即ち、明治政界の偉傑星亨氏と自由黨を結成し、國事に奔走して憲政の發展に盡瘁し、その貢獻する所まことに多大なるものあり。東京市會議員、衆議院議員に推され、博言宏辭その抱懐する經驗を吐露して、朝野擧げて氏に推服する所ありき。後ち實業界に轉じ東京市街鐵道、千代田瓦斯、東京瓦斯等の經營に參畫し、當社を創立して社長に就任し、更に幾多の事業會社を創設して一財閥を形成しその聲望赫々たるものあり。個體不軌にして清白高朗、現代に於ける一方の偉材たり。因に氏は文久三年十一月大分縣に生る。

取締役副社長 利光學一

氏は資性溫恭謹格、圓滿玲瓏を以て社内の信望頗る厚く、又頭腦明敏にして犀利緻密、業界に多大の敬仰を受く。明治十七年十月大分縣に生れ、明治四十二年東京帝大法科を卒業し、後辯護士を開業す。而して後ち鬼怒川水力電氣に入り、理事を経て常務、更に副社長に擢進せり。

常務取締役 利光永松 常務取締役として當社の經營に没頭し、才腕を示せる氏は、明治十六年十二月大分縣に生る。同四十一年明治大學を卒業し、事業界に身を投ず。大正七年當社に入り、累次昇進して曩に常務に推さる。氏は堅忍至直思慮極めて周密、想識また深遠、襟度寛容にして謙讓の徳に富み上下に多大の信望あり。
(所在地 東京市澁谷區千駄ヶ谷五丁目)

合資 金子鑄鋼所

專賣特許金子式製鋼爐に依りて、一般鋼鑄物の製造販賣に努力する事既に二十餘年霜。雖欲清淨にして力闘一貫、輸入防遏の大乗信念に徹して之れを敢行し、以て優良國産振興の芳果を收め、今や偉業大成して「金子鑄鋼所」の盛名、昭々乎として八紘に増耀す。其間鐵道省、ロイド協會の認定を享けたるに罷まらず、其功績を銘記するに親授の表彰あり。蓋し斯業界の錚錚にして、至寶的存在と讃嘆さるゝ所以なり。抑々金子鑄鋼所は、先代金子増耀翁の偉業にして、其創業は大正六年四月に係り、專賣特許金子式製鋼爐に依り一般鋼鑄物の製造販賣を開始せり、爾來一瞬の息衝く寸秒も無き研究の肉迫戰を以て終始

躬身し、逐次事業の擴大強化を遂げ、業績益々好調の一途を辿り、昭和十一年三月に追んで、時運に鑑み從來の個人經營を合資組織に革め、所主金子増耀翁代表社員に就任せられたるが、同十三年三月同翁の逝去に遭ひ、三男金子辰雄氏之れを襲ひて今日に至れり。而して其間當社の樹耀たる功績は枚舉に遑あらざるも茲にその著聞せるもの二三を叙すれば、大正十一年に至り、外國輸入品以外には製品として内地に見ること能はざりし高滿備鋼轉轆器又(鐵道及電車線用)の製造に成功すると共に、一般高滿備鋼鑄物の土木鑄山其他特殊機械磨耗部分品として好適すること事業界に洽聞さるゝに至り、之を併せて裝置し、爾來一般鑄鋼、高滿備鋼製轉轆器、轆又類、高滿備鋼一般鑄物及特殊合金鋼鑄物の各種を各需要方面に供給せられて製品の優秀に好評を博せり。就中高滿備鋼鑄物の轉轆器轆又類の如きは、從來幾多の不便を充たし、も外國製品に依りてのみ國內の需要を充たしつゝありたるに、當社に於て該製品の製造開始後僅々二三年の大正十四年以後に追んで當社の偉力を以て完全に其輸入を防遏し完く國産振興の成果を收め得たるは正に特筆大書すべき所にして、斯業發展裨益の功績は後世に銘刻さるべきなり。宜なる哉、この功績に對しては、昭和三年十月、日本産業協會總裁

伏見宮殿下より表彰狀の御親授を受けたるのみならず、雖で鐵道省より鐵道用品の優良國産製作工場としての認定を受けたり。而して昭和四年三月に至りて電氣製鋼爐に改め、一般品位の改良進歩並に増産を企圖し、一層斯業の振興に貢獻努力、同八年一月、更に電氣爐一基を増設し、規模を擴張すると共に、設備の充實を圖り、同年六月ロイド協會の認定工場に推され、更に同年七月、海軍省購買名簿に登録せられ、益々當社製品の優秀を確認さるゝに至れり。現時當社は本社を東京市麹町區丸の内三ノ二、三菱二十一號館に有し、東京營業所を同所に、大阪營業所を大阪市大正區千島町三八七に、京城營業所を京城府黃金町一ノ一六八に設備して販路を布陣し、尙且つ販賣代理店を樞要地に置く。
尙事業規模の本據たる工場は、本工場を大阪大正區千島町三八七に、第二工場を同市大正區千島町五一に、第三工場を同市西區本田通二ノ六六に設置し、何れも整備の完璧を期し、年産能力五百萬に達して、全工場を通じて敷地二千六百數十坪、建坪一千五百數十坪、職員五十名、職工四百數十名を使備し、益々活況裡に在るが、今回更に株式會社昭和機械製作所(鑄山機械製造)を其傘下に收め、關東に工場を有し進展を畫策するに至れり。要之當社の前途は正に洋々たるものあら

ん。因に當社の人的資源は、何れも金子翁の薫陶を享けし士にして即ち、代表社員社長金子辰雄、工場長澤邊富雄、庶務主任西川助太郎、營業課主任石原熊吉、東京營業所長於勢半次、京城營業所長下浦利作の諸賢なり。

代表社員社長 金子辰雄 若冠にして事業界に身を投じ、今や駁々たる活況裡に在る金子鑄鋼所の代表社員社長に就任し、其の將來の大成を約束附けらるゝの新進氣鋭なり。明治三十七年當社代表社員故金子増耀翁の三男に出生。長じて關西大學法科を卒業するや直ちに故増耀翁の經營する當社に入所し、其良佐として邁往努力す。頃日父君七十八才の高齡を完ふして逝去さる。氏直ちにその齎を受けて家督相續を爲すと共に、當社代表社員社長に就任し、全經營を掌握す。天分濃厚篤實、而かも公正無私の圓滿なる人格者たり。其不群の熱誠と嚴考に彷彿たる清廉高潔なる風骨とは、内外の信頼を繋ぐに足りて好評噴々、舉社崇敬的たり。而して増耀翁の偉業は別項叙しければ爰に省略するも、當社が今日の業礎を築き上げしは、勿論翁の器材に因るは言を俟たざるも、終始之れを輔佐せし氏並に各部主任其他幹部社員の功も特筆すべきなり。(金子増耀翁の項参照)

(大阪營業所 大阪市大正區千島町三八七)

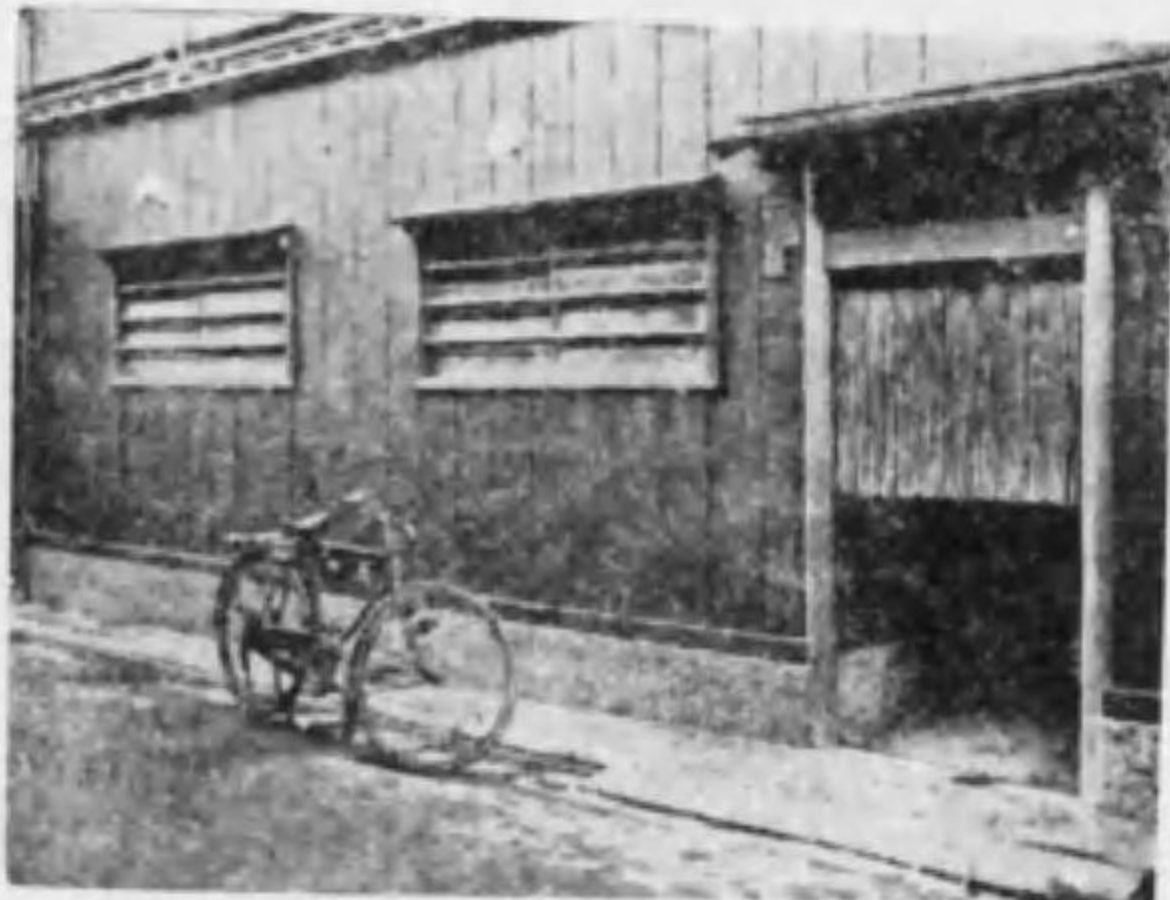
直方市役所

筑豊隨一の炭業都市として近來長足の發展を顯現せる直方市は、昭和六年一月一日市制實施以來、未だ年處を閑する淺くして、其の近代都市たる體形、素より中央大都市に比す可くも非らざるも、市爲政者の至誠奉公の賜は、着々實績を挙げ、既に都市的施設に見る可きもの多し。即ち交通衛生的施設に水道の敷設、傳染病院の統一改築、市立下境診療所及び同新入診療所開設、塵芥焼却場の設置、市街地道路の改良舗裝等、更に教育的方面には高等小學校及び高等國民學校の統一新築、市立圖書館の設置、青年訓練所の統一全市學校の開設等あり。亦た救護事業として養老院、無料産院を經營し、或は社會的乃至産業的施設に職業紹介所、市立運動場、産業幹旋所、市立魚市場並に青果市場を設置する等、只管市民の利福増進を圖り、更に現下非常時局に際する國策線に沿ひ、自治の確立發展は勿論、石炭鑛業を始め諸産業の振興發達に意を注ぎ、市民一體の協力下に、益々市勢の發展及び國力充實に邁進し居れり。

當市は往時邑名を東蓮寺と稱せしも、延寶三年、直方と改稱して當市の起源となす。

日本料理 濱

食道樂都、京都に簡易料理店として、又腕と味の料理として京に遊ぶ者、一度は味ふべき有名なる料理に祇園富永町の「濱作」あり。



濱作

店主森川榮氏自ら陣頭に立ち、多年經驗の庖丁の妙技を揮ひ、澄刺として躍る生魚をその儼顧客の眼前に料理する妙技の極致は見る者をして感嘆措く能はざらしむるものあり、「一寸腰かけて、あつさり、甘いものを」。之が大衆の食慾心理ならんか。先づ以て濱作

をおいて他になしと謂ふも溢美に非らざるべし。今や京都廣しと雖、腰かけ料理濱作の名を知らざる者なく、或は八坂神社、四山、祇園の遊杖に、友と酒をくむに、或は夜の散歩に食慾を満す旅人に、而も祇園情緒と共に味へる濱作の存在こそ、京の名物として千客萬來の股賑を呈しつゝある所以なり。

店主 森川 榮 氏は明治二十九年四月、京都に生れしも、其の半生は大阪に在りて、幼少の頃より料理屋に育ち、料理屋に成長したり。斯くて氏の腕は日一日と料理道の奥技を究め、昭和三年十月、京に出て濱作を經營するに及びし頃は斯界に腕の森川として廣く知られたりと謂ふ。その明敏なる頭腦は克く時代の波瀾を知り、大衆食道樂の趨向に立脚する營業方針は正的中して今日京を訪れる紳士、紳商の來訪も夥しき數に上ると謂はれる。之實に氏の經營の優秀と料理道立身の努力に依るものにして、明朗快活なる氏の資性と相俟つて江湖の愛顧を受くるに至りたるなり。今や名實共に京都の濱作として有名を馳せる氏は、曩に公同衛生組合長として活躍せり。眞に味の濱作として而も低廉奉仕の高法を以て、益々繁榮を來したるは以て氏の非凡の商才のなきしむるところと謂ふべし。(所在地 京都市祇園富永町)

兩來町勢一強一弛の經路を辿りて、明治維新に至るや、茲に俄然石炭鑛業擡頭し、明治十年市内切實に石炭坑の開鑿を見たり。是實に地方探掘の嚆矢と稱せられ、其後遠賀川に依る水運交通の衝地として同地方一帯の貨物集積中され河用船舶常に輻輳し漸次筑豊唯一の都邑たる眞價高まれり。斯くて明治二十四年筑豊鑛業鐵道株式會社直方驛設置され、鐵道開通さるゝや、爰に運輸交通の狀態一變し、更に日清、日露及び歐洲大戰等の齊來せる石炭界の好景氣に伴ひ、其の商工業頗に活氣を呈し、而かも近接村落の人情風俗を同ふし、且つ住民の利害共通せる處、大正十五年十一月を以て、該村落下境村、新入村、頓野村、福地村等を編入し、一躍戸數九千、人口四萬五千を算する一大地方自治團體を形成するに至り、以來鋭意諸種の施設經營を怠らず、遂に昭和六年市制實施せられて發達たる新興都市の意氣に燃えて今日に至れり。

市長 勝野 重吉

現在市長の要職に推され、全市民の崇敬信賴措かざるは、實に多年縣下育英界に貢獻し、更に前町長として功績甚大なりし從七位勳六等勝野重吉氏に他ならず。氏は明治九年四月十六日を以て産聲を擧げ、同三十二年福岡縣師範學校を卒へるや直ちに小學校訓導を奉職して、縣下各地小學

精光園主

桑 駒 吉

萬年青栽培業精光園經營者として、氏の名聲東海地方に冠たるものあり。氏は若くして霸氣縱橫熱情多血の士として、鷗翼をば滿洲の天地に擴げんが爲め、十九歳の時に渡滿し傳手を求めて南滿洲鐵道株式會社に入る。勇躍その業に浮動せしが、餘儀なき事情に依り郷里愛知縣へ歸る。歸郷して螢伏、福米製造の業を起し、除るに機に至るを待てり。慧眼なる氏は萬年青の栽培業の有利なるを察知し

昭和二年同事業に意を決して進出す。氏頗る萬年青に興味を有し、これが栽培に對して苦心研鑽を怠らず。幾多の失敗と多額の失費を経て貴重なる經驗を重ね、豊富なる蘊蓄を積むに至れり。斯くて萬年青の栽培に於ては當地方に並ぶものなき權威者となり、その方面の専門家或は同好の士は辭を低くして教を乞ひ來たるの有様なり。氏は事業の經營に専念力を盡くし、又その營業方針飽くまで正直を旨となし、信用確實を以て主義とせり。斯くして、精光園の事業は頗る盛況に向ひ、同好者はその名聲を聞き傳へ、遠路を厭はず集集し來る。これによつて巨萬の富を積み、その規模にその内容に東海地方隨一の大ききこととなれり。氏の萬年青栽培の技術と知識は同業者中第一人者として認められ、その盛望は斯界を壓するものあり。氏の庭園はその道に名ある庭師を招き、氏の苦心になる設計の下に數千金を投じて築造せられたるものにして、その敷寄を凝らし、結構を盡せるを以て知られ、觀る人は何人も嘆稱の聲を放たざるはなし。氏資質濃厚にして篤實、慈悲憐憫の情に厚く、好んで社會事業に力を傾し、或は金錢物資を喜捨す。その居住する區内の貧困者に對して、昭和十年十二月精米八升宛を配付し、次いで十一年十二月には餅米三升宛を贈れり。慕慈恬淡、名利に超脱し、その清

廉至誠の人格は世人の深く敬仰する所たり。明治三十一年十一月兼仙吉氏の三男として愛知縣幡豆郡横須賀村に生る。氏漸く不惑の働き盛り今後大いに驥足を伸すに至るべし。(住所 名古屋區千種區千種本町六ノ三四)

麒麟麥酒株式會社

麒麟麥酒の名は左黨にとりては耳にするだに垂涎を催ふさしむるに充分にして、その芳醇美味なるは麥酒界に於て、その右に出るものなく、多年聲價を博し來れるを以てその販路は牢固として動かさず、而も年と共に需要は増大しつゝあり。麒麟麥酒株式會社は明治四十年二月資本金二百五十萬圓を以て創立せられ、累次増資の後現時資本金一千八十萬圓全額拂込済に達せり。その製品はキリンビールキリンスタウト、キリンレモン、キリンシトロン、キリンサイダー、キリンタンサン、酵母剤アミターゼ等の各種ありて、何れも品質優れ、多大の好評を博して需要頗る旺盛を極めつゝあり。抑も當社は元明治屋の専屬工場たりしものが、明治四十年獨立創設せられしものにして、創業以來外人技師を招聘して品質の改善に幾多犠牲的研究を重ね、他面原料小麥及ホップに對しては慎重吟味精選をな

し、製造技術に多大の辛苦を拂ひて、良質麥酒の製造に成功して湧くが如き絶讃を博し、今日では外國品を凌駕するの著しき進境を見るに至れり。又昭和三年三月より清涼飲料水の製造を開始せるが、同品に於ても斯界の角逐場裡に巍然たる鋭鋒を現し、多大の好評を受けつゝあり。工場は横濱、神崎、仙臺の各地にありて、横濱工場は年産能力麥酒十八萬石、清涼飲料水二十萬箱、製糖三千六百萬本を有し、神崎工場麥酒二十四萬石、仙臺工場麥酒八萬石の各年産能力あり。尚ほ横濱工場には滋養強壯剤アミターゼを製造せり。その工場は製麥工場、原動機室、仕込機械室、精練特別室、酵母試驗室、冷却室、酸酵室、貯藏室、製品工場その他何れも近代科學の粹を盡くし、その設備の完備せること歐米諸國の大工場に比較するも聊かも遜色なく否却つてそれに優るものすらあり。又其翼下に昭和麒麟麥酒、麥酒共同販賣、滿洲麥酒等の投資會社あり。昭和麒麟麥酒は工場を朝鮮永登浦に設け、麥酒年産能力四萬石を有し、毎期二割以上の利益率を示し、多大の好成績を挙げつゝあり。元來當社は創業以來經營方針は専ら堅實を旨となし、毎期多額の利益を内部に保留して、内容の充實を圖れるに依り、固定資産甚だ低廉にして、これが爲め収益率頗る多し。昭和十二年下期決算に依れば、國內需要

の著増と輸出の躍進に依りて多大の好成績を挙げ、利益金二百二十五萬圓を擧ぐ。恒例の一割配當を踏襲せり。今後の業績に就いては一段と向上を見るべく、當社に於ては昭和十二年に建設に着手せし廣島工場並びに山口富田の製糖工場は近々工事完了を見る筈なるが、廣島工場は麥酒釀造能力は、當初六萬石の豫定なるが十三年より二倍に増加する筈にして、尙ほ同工場には清涼飲料の製造を行ふことに決定し居り、その他の工場擴充と相俟ちて製造能力は十三年より大躍進をなすに至るべし。更に昭和麒麟麥酒に於ても、二十萬兩能力に擴張し、滿鮮中北支の市場制覇を期しつゝあるを以て、今後の發展には刮目すべきものあり。又東京に於ける直賣所は現在の銀座、新宿、澁谷の外、今後他の繁華街に新たに建設の方針なり。事業界の好調に依りて需要は今後一段と増進すべく、殊に歐米方面への輸出は益々増加し、對支輸出に於ても戦局の一段落と共に次第に増加するに至るべく、麥酒以外の清涼飲料水、製糖、製菓等の多角經營の増收並びに配當收入、副産物收入の増加も亦確實なるを以て、業績は益々安定を加ふるは明らかなり。因に當社重役陣以下

の如し。取締役社長伊丹二郎、専務取締役磯野長藏、取締役平沼亮三、同僚野放郎、同大野原太郎、同折田清、同諏訪藤之助、同淺見

買一、同江連廣吉、監査役濱口擔、同山岸慶之助、同磯野義雄の諸氏なり。

社長 伊丹二郎

資性濃厚篤實にして心性頗る潔白を以て、財界の推敬を受けること厚き伊丹氏は文久三年十一月を以て生る。夙に米國に留學して、ペンシルベニア大學及びバージニア大學に學ぶ。歸朝後日本郵船に入りて大いに才腕を揮ひ、簡拔せられて神戸支店長となり次第で専務取締役に出せられる。後ち當社に入りて社長に就任し、眞摯經營に没頭して當社の發展に貢獻せる所多し。識見高邁にして品性典雅、寛容にして敦厚、部下より慈父の如くに仰慕せらる。

専務取締役 磯野長藏

氏は神奈川縣人三島久平氏の二男として明治七年三月を以て生れ後ち磯野家を繼ぐ。明治三十年東京高商を卒業し、直ちに明治屋洋酒店に入る。眞摯熱誠業務に没頭して敏腕を揮ひ、儼然を抜いて累進し、當社専務たるの外株式會社明治屋社長、麥酒共同販賣専務等の要職に就き、斯界に重きを爲せり。人格清廉潔白にして温情に富み、内外の信望甚だ厚し。

(所在地 横濱市鶴見區生麥町明神)
(本社事務取扱所 東京市京橋區京橋明治屋ビル内)

鹽見腦病精神病保養所

由來斯病患者の發病は多種多様の原因より發生すると同時に、其病狀も原因の異なると共に、夫れが治療に至つては全く困難にして從而長日月を要する事は當然の理と謂ふべし一方一般精神病者の治療上或は其看護上に就いても遺憾乍ら缺陷を認むべきところ尠からず。これ總ては經費の多額、設備及び待遇の不行届等に欠陥を見出すものにして、其點主宰者は須く意を用ふべきなり。抑々精神病者は他の一般病者と異り、之れが治療には藥石よりも先づ第一に精神的慰安を第一條件とせざるべからず。故に古來より膾炙せる「一に看護二に藥」の諺ある如く、看護の適不適こそは精神慰安の最大要件なり。爰に於て當所は深く留意すると共に治療費用の軽減完全なる設備と病者の看護上に最大注意を施し、親切丁寧を第一信條とし、總て患者は家族的に自由なる保養をなさしめ、一面治療上に至つては權威ある専門大家の診療並に指導を受け、専心看護に努力し、看護には二十餘年の尊き經驗と識見を有する鹽見憲治氏が終始一貫格勤細密周到なる看護に當り、且つ相當經驗深き看護人を多數指揮指導し、最善の看護陣を

張り今や全国有数の保養所たらしめんと全員懸命の献身的努力を拂ひつゝあり。而して當保養所現在收容せる精神病患者は七十餘名を收容し、尙續々申込殺到の有様にて現在の收容力に於ては到底不可能の爲、更に五十餘坪の新所舎を建築し百名以上の收容力を爲さんとの計畫中なり。尙當所の敷地は將來を慮り一千有餘坪を買収し、擴張に充分なる餘裕を有し居れり。殊に本所の所在地は洛北金閣寺を北へ約六町にして東は清流紙屋川に臨み、西は大喜多山を俯仰する閑寂境の丘陵地、春夏秋冬風光頗る明媚、空氣亦新鮮にして保養地として絶好の地域を占む。

株式 小松佐商店

小松佐商店は毛織物商を營みて商況大いに盛況を呈し、その規模宏壯にして業礎確く、斯界の雄嶺として大阪財界に名聲甚だ高し。當店は由來堅實主義を旨となし、商品は精選吟味して之を極めて廉價に供給し、専ら信用を重んじて聊かにも信用に關するところからは如何なる犠牲をも拂ひて之を擁護し、その取引まことに堅確たり。多年の信用と又店主の經營方針の克く時代の進運に合致したりたるに依り、事業多大の發展を見るに至り、昭和七年には組織を改めて株式會社となし、毛織物業界に一大雄飛をなせり。現時資本金二十萬圓にして、毎期多大の好成績を挙げ、關西毛織物業界の精銳としてその名聲響々たるものあり。當店の販路は關西地方は云ふまでもなく、更に全国的に及び、その取引愈々繁忙を極めて日を逐ひて事業躍進し、業礎益々確きを加へり。將來の發展益し明して俟つに足るものありと謂ふべし。

社長 小松孫七郎 毛織物業界屈指の俊魁としてその信望噴然たるが小松氏とす。その頭腦まことに高敏にして犀利緻密、神壽の



小松孫七郎氏

氏は資性濃厚にして篤實、而も才氣煥發にして霸氣横横、業界稀有の頭材たり。眉間に籠る發熱たる英氣は接する人に凜烈として迫來るの感を與ふ。大阪市商工會議所議員小松佐二郎氏の長男として明治三十三年七月に生る。大阪維新組合代議員、大阪威徳講義長、防護團團長の要職に就く。氏の前途まことに洋々たるものあり。

(所在地 大阪市東區伏見町五丁目)

金屬食器共販株式會社

典雅にして清潔、優美にして氣品に富み、食卓に美を加ふること陶・磁器或は漆器に優り、殊に堅牢にして耐久性あること陶・磁器或は漆器の比肩すべくもなく、近時一般家庭旅館、料亭等に多大に實用せられつゝあるが金屬食器なり。品質優秀にしてその體裁まことに優麗、一般食器界に追隨なし得るものなき逸品を供給し、業界の彩華を以て目せられつゝあるものに金屬食器共販株式會社あり。當社は東洋金屬工業株式會社並に關西物産株式會社兩社の製品を一手に販賣する目的を以て昭和十年十月に創立せられたるものにして、現時資本金十萬圓(全額拂込済)たり。東洋金屬工業株式會社は、明治四十二年の創立にしてその製品の優秀なるを以て夙に名聲を博し、宮内省の御用達を拜するの光榮に浴し、或は上流家庭より注文を受くる等、創業以來順調なる發展をなし、大正九年組織を變更して東洋金屬食器株式會社と稱して業礎愈々鞏固となり、社業又顯著なる躍進を遂げ來りて、昭和十三年四月時局に順應して軍需工業に進出すべく資本金を倍額七十萬圓に増資すると共に稱號を東洋金屬工業と改め斯界に進出し、

名望家 坂本政五郎

四國實業界の元老として、果た亦政界の耆宿として聲譽比ぶ者なく偉名を馳すること數十年。資質飽くまで磊落にして豪放、滿々たる霸氣と俊頭果敢なる才能の牙は、實に當代四國を照破して餘りある典型的人傑たり。一度業に就かんか、正に邊塞萬里の長風に豪肅するの霸氣堂々以て德島縣民のため粉骨碎身する快男子たり。氏は明治六年二月德島縣人坂本傳藏翁の長男として、呱呱の聲を擧げ今日に及べるが、其間德島縣下の電氣、交通運輸、金融、起業等の開發に献身的努力を盡して縣民の信望頗るに重厚たり。即ち大正四年十月縣民に推されて、德島縣會議員に當選し以來二十年間の久しきに亘りて其任に在り、其間同議長に推擧さるゝ事三ヶ年、能く縣治の爲全智全能を驅使して慈父の如く親まる。次いで昭和六年德島市名譽市長に推戴され、其任にある事三年餘、市政に自治に顯著なる足跡を遺したり。斯くの如きは氏の高邁なる人格を反映せしめしものにして氏の恬淡、胸中其の私心無く、心性明月の如く清澄し、眞如の光明を放つに基存せりと謂ふべし。大正

十三年一月美馬水力電気株式会社の創立に奔走して、其社長に就任、引續き今日に及ぶ。次いで大正十五年八月祖谷川運輸株式会社創立するや、其社長に推されて現在に至る。昭和四年一月縣下農工業者唯一の金融機關たる阿波農工銀行監査役に就き同行が同十二年三月日本勸業銀行に合併さるゝ迄、其任に在りき。昭和五年五月徳島紡績株式会社取締役として現職に在り。同十一年六月大正紡績本管株式会社取締役として就任今日に迄。一而氏は夙に木村業を創業して漸次順調の業績を挙げ來れるが、この成功も氏が常に人生の機微を見て人世を悟り、自然の現象に察して宇宙の真理を直ちに了解する態の穎智の發顯に屬せるものと稱するも敢て過當には非ざる可し。氏、本年六十有五歳、頭健にして壯者を凌ぐ概あり。益々犧牲的精神と、義侠心を以て隣人を慈しみ、徳望愈々深遠たり。

因に氏は上述諸會社重役の傍ら徳島市商工會議所議員たり。

(住所 徳島市富田浦町東富田)

合資 町野商店

原料高の製品安にて、兩三年悩み通せる鐵金屬界も財界の好轉と軍需工業活發の爲め頓

に活況を呈せるが、就中當商店は斯界に於ても最も優秀なる製品を有する外軍部、工場、鑛山等固定せる得意を有して、近年順調の業績を辿りつゝあり。昭和六年一月、奥田理一氏外六名の出資により資本金二十五萬圓を以て、鐵鋼、金屬管、電機類、工業用諸材料販賣並に有價證券及不動産買賣を營業目的として設立されたるものにして、現代表社員奥田理一氏能く之れに善處し、創業日尙淺きにかゝはらず、専ら國家的見地に立脚して、世界先進國の智識をも取り入れ、益々販路の擴張と營業増進に努めつゝあり、而して今や非常時局に依る斯界の興隆と、國民經濟生活の認識影映の爲め、證券業界の活發を反映、社運は隆々旭日の如き躍進を續けつゝあり。

代表社員 奥田理一氏は大阪府奥田理

平氏の長男にして明治二十年三月を以て生れ夙に事業界に投じ活躍、現町野商店代表社員地位にある傍らカナエ石綿工業株式會社社長及日本瓦斯管販賣株式會社監査役たり、資性剛毅にして果斷、而も濃厚謙讓にして篤實、頭腦は何處までも明晰にして蘊蓄深遠、克く時代趨勢の進展に倣にして、古今東西の廣汎に亘りて學び研む、殊に經濟に造詣深く、未來の斯業界を牛耳る者彼ありと掌指を動かさしめる亦領承し得るならん。氏の責任感の強き

ことは人のよく知るところにして、名利は飽まで淡泊、只一筋に熱血之れ事業と國家社會に傾盡する直情の士なり。時代相に機を見るの敏なる氏は拓けゆく滿蒙の天地に早くも着眼之れに處するに、氏の股肱の新人向井清氏を主任に、奉天加茂町に出張所を設け、業礎の伸長を圖り積極的躍進をなしつゝありて、其の將來期して待つべきものあり。家庭には兵庫縣山本幾治郎氏長女の美子夫人との間に京大英文科卒業の長男俊男氏を首め、秀一氏、つる子嬢、程三君、典男君、貢君の六男一女ありて至極圓滿なり。

(所在地 大阪市西區西道頓堀通四ノ一〇)

事業家

岩尾 卯一

岩尾磁器工業株式會社社長たる、岩尾卯一氏の我が國陶磁器界に於ける名聲まことに噴然たるものありて、氏の獨創的斯業經營の才腕と萬敏なる洞察力は着々鋭鋒を顯はし、堂々斯界に君臨せり。氏今日の地歩を築くまで辛酸を舐めし事幾何。能く是れを克服し、今日の盛業を見るに及べり。嘗て豊公朝鮮征伐の砲凱旋に際し、半島人を伴ひ來り、當地に於て斯業を開かじめしが有田燒の淵源たり。創始以來三百餘年の歴史を有する岩尾家は世



氏一卯尾岩

々、陶磁器業を繼承し今日に至りしが、現社長岩尾卯一氏は家兄の急没に際し斯業を承繼す。時に大正八年なりき。當時は専ら内地向食器、硝子類を製造し、地元、中樞商人と取引せるが、中樞商人の介在は、斬新なる製品を産出するに障礙ありと爲し、大正十年親戚と協力して此處に同社の前身たる、岩尾合名會社を組織し時代の趨向に備へり、次いで有田陶業所を買収改築し、化學用磁器、硝子の製作をも開始せり。

氏斯業に着手するや、獨逸製耐酸リングを驅逐すべく、苦心研鑽に餘念なかりしが、遂に獨逸品を凌駕するの優秀製品を完成し業界を驚愕せしめたり。氏の製作に依る該品は我が國に於ける最初の磁製品として社會に裨益せる處蓋し著大なるものあり。

時勢は變轉極りなく、社會の進運に隨伴し科學の發達著しく、就中化學工業の發展はまことに目覚しく、日進月歩の躍進をなせる情

勢に、氏深く慮みる處あり、昭和十一年資本金十五萬圓の株式會社に之れを改組し、翌十二年、帝國窯業を買収第三工場の擴張をなせり。氏は大量生産に依る價格の低廉を圖り、これが爲めに需要大いに増大し、此處に確固たる社礎を築き、勇躍業界に進出するに至れり。

斯くて僅々拾數年にして斯界に壓倒的名聲を博せるは、氏の經營手腕の非凡なるに依るは勿論なるも、就中社長以下全社員融和協調一致常に國家的見地に立脚し、化學工業の發展強化に精進なし來りし此の熱烈なる意氣に依るに外ならざるなり。

今や陶磁器國として、世界三十ヶ國の最高位製産額を占むる、純然たる國産品を以て完全に自給自足せる國家は實に我が國のみなり。乍併斯界に存在する、封建的觀念を解消せざれば到底、我が陶磁工業は世界市場に指導的地位に立つは難きが、岩尾工業の社是は此の封建思想を打破する巨擘として將又業界の先驅者として第一線に其の勇姿を現せるは誠に斯界の爲めに慶祝に堪へざるなり。氏の長男卯一氏は東京商大出身の秀才にして業界革新の思想を有し熱烈なる實行者たり、父卯一氏の良佐となり、専心事業に精勵せり。氏の前途こそ躍目すべきものあり。

(住所 佐賀縣有田町)

醬油醸造業

黒川 惣太郎

名古屋市に於て醬油醸造業を営み、事業活況を極めてその名聲顯著なる黒川氏は、幼少より朝氣に富み、氣骨隆々の熱血兒にして、夙に軍人として身を皇國に捧げ、報國盡忠の赤誠を盡くさんと欲し、現役志願をなして體格検査を受けたる結果、不合格となりたり。氏はこれを遺憾となして、更に他の道を選びて國家の爲めに盡くさんことを決意し、日露戰役の直後の明治三十九年、氏の二十二歳の時單身大連に渡航せり。即ち、日露戰役の結果我國は關東州の租借權を獲得するに至りたるが、將來我國の大陸へ發展するが爲めには關東州の開発の甚だ急務なるを見て、同地に於て活躍せんとして、僅かなる資金を以て醬油の醸造事業を開始せり。氏は拮据困勉、奮闘努力して全力を傾注す。幾多の苦難は間斷なく氏の前途を遮りたるも、これに屈せず勇往邁進し、一步一步業績は向上を辿る。掃風沐風歲月を閲すると共に事業は非常なる躍進を遂げ、大連に於ける有力者として令名噴然たるものありき。其後大正三年或る事情に依りて歸國することとなり、現所に於て醬油醸造業を営む。氏は熱心に經營に携り、商品

の品質向上に力を盡くし、又顧客には親切丁寧を旨とせるに依り、瞬く間に事業榮え、年々多大の収益を擧ぐることもなれり。資性温厚、質實堅確、人格又清白にして中京に於ける有力紳商として人の瞻仰を集むる所なり。公共事業に對しても支援を爲せり。因に明治十七年十二月愛知縣蟹江町に於て黒川辰四郎氏の二男として生る。

家庭にはハル子夫人との間に三子あり。長男利吉、三男惣三郎の兩氏は、中京商業を卒業して何れも家事に従事し、四男克己君は英商業在學中なり。家庭頗る圓滿を以て知らる。

(住所) 名古屋千種區千種町一ノ二

理研真空工業株式會社

躍進日本の科學の參謀本部たる理化學研究所の研究、發明の事業化、工業化を使命とする理研コンツェルン最近の發展は世人を驚倒せしめつゝある所なるが、當社は理研傘下の有力會社として、その前途多大の期待を以て囑目され居れり。その創立は昭和十一年七月のことにして、滿二ヶ年經過後の十二年下期には早くも八分の初配當を附するまでの好成績を擧ぐ。その營業種目は真空管無線機及

部分品一般、燈火用電球及特殊電球製造販賣等なり。純國産品としての良品を廉價に提供せるを主義とせる當社は、鋭意技術の研鑽練磨に力を注ぎ、或は設備の充實に盡瘁して優秀なる製品を世に送り、絶大な賞讃を博せり。輸出電球は斷然業界をリードし、内地向電球亦全國津々浦々に堅實なる地盤を獲得す。即ち當社發賣のリーランプは壽命長く消費電力に比して明るく、價格又頗る低廉なる等、幾多の特長を有せる純國産品なり。真空管方面に於ても既に支那事變には無線通信の第一線に活躍して、赫々たる皇軍の武勳に貢献する所多大なるものあり。當社製品の優秀なるは殆く各方面の認むる所にして、需要は日を送ひて激増し、十二年下期には注目すべき好成績を収め、愈々當社は本格的収益時代に入ることもなれり。十二年下期決算に依れば總收入八十萬七千圓、總支出七十萬一千圓にして、差引當期利益金十萬五千圓を計上せり。平均拂込資本金八十二萬八千八百圓に對し二割五分七厘の利益率に當る。右に對して八分配當を行へるを以て、餘裕頗る綽々たる決算なり。十二年十月一日一株に付十二圓五十錢の第二回株金拂込を徴收せり。この資金を以て設備の擴充を圖ると共に、増産を斷行す。品質並に能率は著しく向上し、製品種目亦擴張せられて、順調なる發展の一途を辿

りつゝあり。當社の製品は理研の多年の苦心研究なる發明品にして、歐米諸國の製品を凌駕せるを以て需要は今後更に一段と増大を見るべく、而もその工場又最新設備と合理的經營に依るを以て他の追隨を許さず。當社の將來こそ定に期して俟つべきものあり。當社の重役は取締役會長井田榮造、事務取締役山田學而、常務取締役西林幹助、同青木理、取締役安藤兵部、同城戸忠彦、監査役山仁三郎氏の諸氏なり。

事務取締役 山田學而 資性温厚篤實、

精勵格勤して事業に没頭し、創業日淺くして大いに社業を躍進せしめ、業界に於て多大に推重せらる。曩に東洋電球取締役、東京硝子工業監査役を歴任して才腕を揮ひ、その材幹を認めらる。經驗豊富にして蘊蓄淵博、氣格俊逸にして襟度寛容、事業界一方の翹將たり。明治二十五年五月を以て生る。

(所在地) 東京市日本橋區吳服橋二丁目

會社 吉村商店

富國の基は産業の發達に俟ち、就中鐵工業發達の程度は、一國文化のパロメーターなりと稱せらる。由來天惠稀薄なる本邦新業界に

在りては、其の原料材料たる可き鋼鐵の產出

少なく、新業の進歩發展に支障を來たせること紛ならず。茲に於てか業界の先覺者敢然として立ち、銳意之が増産増殖に努力奔走する一方、亦た外來品に需要を仰ぎて、遂に絢爛豪華、正に世界に冠たる躍進工業日本の礎石を築きたるは周知の事なり。

我が合資會社吉村商店は、即ち此の鐵鋼材料販賣を業となし、創業以來常に堅實主義を標榜して着々業礎を築き、更に發展を果ねて大を成したる結果、今や當市屈指の有力業者として信用該博なるは勿論、業績顯著にして斷然他の追隨を許さざるものあり。

抑も當商店は大正十三年十一月を以て設立營業の端を發し、爾來、經營首腦部の非凡卓越せる經營政策の然らしむる處、業界幾多の變遷推移に過進し、時に不況の荒波襲來せる事ありしも、常に動搖微塵もあらずして、只管發展興隆の一途を辿り、殊に近來鐵鋼價値の叫び、澎湃として全國を風靡し、其の需要の急激旺盛となるや、俄然本來の眞價を遺憾なく發揮し、業運の發展隆昌眞に目覚しく、遂に今日の繁榮盛大を招來せり。而して其の取引の迅速確實にして、而かも在庫品豊富なる等幾多他店に誇るべき長所を具備し、需要界の好評噴々たる處、販賣高値に急増の趨勢にあり。蓋し近き將來の一大飛躍を期待され

居るも、當然の歸結と云ふべきならん。

因みに現在資本金三十萬圓を擁し、其の出資人員は大河清一、吉村タネ、小西信藏の三氏にして、大河清一氏代表社員たり。亦た決算期は毎年五月にして毎期高率の利益を持続し居れり。

代表社員 大河清一 心事高潔にして徒

らに私利私欲にのみ狂奔せず、克く社會連體の機構に基きて公共奉仕の實を擧げ、而かも人格圓滿、識見卓抜、加ふるに卓犖犀利たる手腕を有し、功績顯然たりと雖も、此も之を誇らざる氏の如きは、正に斯界錚々の偉材たるのみならず、亦以て世の鑑と稱すべきなり。氏は夙に斯業に囑目するや、敢然業界の第一線に立ちて努力精進に一貫し、遂に今日の成功を贏ち得たる奮闘兒にして、其の稀に見る手腕の冴えは、既に業界絶頂の的たるを失はず。即ち令名燦として光輝を放ち、而かも年齒愈々熟して其の活動力旺盛なる實に驚嘆に値するものあり。

因みに氏は、當市住吉區住吉町に邸宅を構え、家庭には令閨作江夫人との間、長男一雄君(六)、長女佐規子嬢(九)、二女規志子嬢の一男二女を擁して清福圓滿、正に近隣評判の的なりと聞く。

(所在地) 大阪市西區西長堀南通二丁目

花道名匠

寛玉堂

昭和十二年六月二十九日、畏くも 皇太后陛下關西地方行啓の御勅、元陸宮たりし金藏城御泊所内御座所及び御賜見所に於て、生花の御飾を拜命、高弟寛安藏、伊藤幾二郎、伊藤俊、栢野金正、鈴木きよ子の諸氏を介添者として御滞在九日間、目出度奉仕の重責を果したる我が國華道の大家、池坊家元准老池坊名古屋橋會顧問たる寛玉堂師の存在は餘りにも有名なり。氏は明治二年七月、愛知縣中島郡起町の名門に生る。十五才にして華道池坊家元の門に入り同門の名匠として盛名を知られたる五藤一竹翁に師事、切磋の功を積み生花の秘術妙諦を極めたり。更に立華の蘊奥を採り、卓抜なる技能と崇高なる道念を養ひ後尾張國會頭職に推されたりしが、明治四十五年、遂に華道の宣布を以て終生の業と爲すべく、名古屋に進出、門戸を開くに至る。爾來氏の聲望妙技を慕つて教を請ふ者、相踵き開門以來廿余年、幾多の俊才逸足を中京華道界に送り、今や斯界の香宿として同好の欽仰を集めたり。氏は大年六年、坊門最高の名譽階級たる大日本華道に擧げられ、次で同十年家元より愛知縣華道課長を命ぜられ、縣下に

於ける同門の華務を督したりしが、後同謀廢止と共に名古屋橋會の組織されるや、其の會長に推舉され、任期を重ねて昭和六年に至れり。而して其後、後進に齎を譲りて會長を辭任、同八年五月一日、家元准華老を任命せらる。現に橋會の顧問たり。氏は夙に名古屋市立第一高女の生花教諭を爲し今日及び、又名古屋毎日新聞社後援、中京華道聯盟常任理事に列し、大日本華道聯盟理事の要職に在り。茶道は表千家の流れを汲みて造詣深く、華道と共に門下を有す。

尙ほ氏は昭和二年陸軍特別大演習御陪觀の爲、愛知縣御下向の高松宮殿下御假泊在らせられし陽越莊の御居室にも生花御飾の光榮を拜受したり。正に我が國華道界の巨人とし信望風に高し。

(住所) 名古屋市東區西新町一丁目



息令と氏家玉寬

大阪商船株式會社

我が海運界双璧の一にして聲望世界を壓する大阪商船會社は、常に國家的見地に立ちて國運の扶翼に精進しつゝあり。周知の如く當社は業界の先覺にして、其創立は遠く明治十七年五月、爾來幾多迂曲折を突破して今日に迫り現に資本金一億圓を擁するに至れり。而して滿洲事變勃發を契機とする非常時局の發開に依る軍需インフレの浸潤、國力海外膨脹並に貿易の世界的躍進等の好條件は逐次海運界にも反映し、夢想だもせざりし内外情勢の一變は茲に歐洲大戰以來の好調に遭遇す。當社に於ても昭和八年下期以降五分配當を復活し、十一年下期迄は五百萬圓以上六百萬圓の利益金を擧げ、續いて十二年上期には八百六十萬圓、六分配當、同年下期には實に一千百萬圓の利益金を得、六分配當を餘裕裡に行ひたり。一千萬圓以上の利益は歐洲大戰以來の記録なり。同期は支那事變の勃發に依り相當量を抑用船に徴收されし爲、成績如何と思料されしも、世界的運賃高、各航路の合理化等に依り、望外の好成績を擧げ得たり。而して同期に於ては船價却百分の六以外に、百五十萬圓の特別償却を行ひたり。日清汽船の

株式百萬圓、在支投資損害及び取引勘定損を五十萬圓と見慣して事變損害を一掃したり。しかも尙積立金其他三百六十萬圓に達し、社内保留合計百五十萬圓以上なれば、その餘裕の程、想像に難からず。而して斯界今後の成績豫想を試みるに世界的軍備擴充に依然變化はなかるべく、之が世界海運の基礎を爲すこと勿論なり。更に我國に於ては爲替安の強味あり、遠洋補助の復活に依り世界進出の實力を有ち、對支貿易の増加も見込まれ、一面又海運自治聯盟の活躍も充分期待し得れば、不安視は必要とせざるべし。故に當社の成績も依然好調を持続すべく、當社は近海航路、特に北支貿易に確乎たる地位を占有し、南支の地盤も當社に依り好影響を顯すことは言を俟たず。更に國際汽船を囊中に收め、船船の自由主統制の第一歩に成功す。尙當社の所有船は百二十隻噸數五十三萬四千噸と、郵船に比すれば幾分劣りするも、之を前叙國際汽船の十六萬噸を支配せる爲實力に於ては伯仲せり。其他自己支配下の各船を加ふれば百萬噸を突破する現狀にて、當社の實力は正に驚異的なり。其傘下に日清汽船、大阪ビルヂング、南洋海運、北日本汽船、攝陽商船、朝鮮郵船、攝津商船、海外興業、土佐商船、原田汽船を擁するは周知の如し。

當社は現に國策船五隻外四隻合計六萬六千

噸の優秀船建造中の如く、當社は常に國防國策上國際貸借關係の改善等の國家的觀點を第一義と爲し、株主配當の如きを第二義のものと爲し居れば、配當は悠に高率を行ふこと容易なるも自重せるものなり。要之、當社の前途は洋々として順調、益々その光輝を全世界に放つべし。

鞏固無双を誇る陣容は取締役社長村田省藏取締役副社長岡田永太郎 專務取締役宮田武太郎 專務取締役内田茂 取締役阿部彦太郎 同小倉正恒 同堀新 同安宅彌吉 同澤美育 同監査役中橋武一 同廣海二三郎 相談役堀啓次郎の諸氏なり。

取締役社長 村田省藏

我が海運界不況の最底時代、即ち昭和三年頃、氏が當社副社長として就任す。爾來氏が畫策し來れる大連航路、縦貫航路の大擴張計畫は、曩に社長就任と共に、俄然花形航路となり、日滿特殊關係の新興に即應すると共に、國際貸借の改善にも資し得たり。一面氏の積極政策は昭和十二年に於て十三隻、五萬噸の新造船隊を碧洋に浮べ傍ら國際汽船の實權をも掌握す。社長就任以來僅々三年餘烈々たる國策樹立精神に燃え、行くとして可ならざるなき颯爽たる面目、今や熾然として四海を壓す。支那事

變勃發と共に、荷動きの繁劇、運賃の昂騰等漸く非常的色彩を帯ぶる機運を洞見し、之れが自製の國策團體として素早く海運自治聯盟結成の采配を揮ひしも氏なり。そのため官僚的統制の壓迫を抑制せられず済みしと言ふを得べし。『本年こそ海外發展、國力充實のため、國內相割を止めさせ、至高至大の國策の線に添ふて統合すべきだ』と、抱負を語る氏は、霸氣滿々、莞爾として『海運國策』の難航にオールを執りつゝあり。

東京支店長 中川幹太

人も知る巨器中川小十郎翁の令息にして、大正四年京大法科を出で、直ちに當社に入り、爾來二十餘年孜孜として恪勤す。其間上海、米國各支店諸、本社諸、東京支店次長、高雄支店長等に歴職し、今やその手腕を買はれて最高支店たる東京探題の要位に在り。社内切つての經濟通にして有力なる重役候補たり。

(所在地) 大阪市北區宗是町大阪ビル内
(東京支店) 麹町區内幸町大阪ビル内

日本通運株式會社社長 國澤新兵衛

今や我が鐵道技術は全世界に覇を唱へ、堂々世界一流技術國たる實績を示達せしめたる

は、帝國八紘一宇の興隆のシンボルとして、洵に慶祝に絶えざるところにして、吾人はこの偉業を誇示すると共に、斯業界に偉大なる寄與貢獻を爲せし巨人の存在を亦肝銘稱讃するものなり。我が國澤新兵衛翁は、帝國鐵道發達史の燦爛たる一頁を飾る長老として至實的存在たるは、江湖の齊しく首肯するところにして、その權々たる功績の数々は、後世永く録さる可きものなり。

翁は資性豪放不羈にして恬淡、而かも思慮周密にして眼孔廣く、且つ交友に厚く義氣を藏す其人格と才腕は鐵道界並に翰林を通じて昭々乎たるのみならず兼座の信望極めて篤し。蓋し大經綸家として一世に龜蓋たる材器たり而して翁は元治元年十一月、舊土佐藩士國澤四郎右衛門翁の三男に生る。梅檀は雙葉より香しとかや、幼少より群鷄一鶴の觀ありて既に大成を豫約せられ、近隣にその名洽聞す。長じて策を帝都に負ひ、明治二十二年東京帝國大學工學部土木科を優秀の成績を以て卒へ直ちに九州鐵道株式會社に技師として入社す。種々同二十五年度鐵道廳に轉じ、鐵道技師選任技師に歴任せるが、その智技非凡にして言行一致、省内讚譽の聲轟然として興る。同三十九年、一躍南滿洲鐵道株式會社理事に擧用せらる。同社の工務に挺身し、神速果敢の技は能く事業上に功あり、須臾にして同社副

總裁理事長に就任し、超凡の才幹は全習全能を捧げて之れが経綸の術に當り、以て滿載今日の礎石たらしむ。其間工學博士の學位を授與せられ、威望隆々たり。大正八年に追んで在任十有四年。惜まれて之れを辭任す。昭和三年以來朝鮮京南鐵道取締役會長に推選せられ、業績運々たる同社の中興素材として彫身し、耆老尚ほ矍鑠として不惑一貫、健闘せられつゝあるは畏敬するところなるに、昭和十二年、公益的性質と國策に添ふべく誕生したる日本通運株式會社設立と同時に、社長に就任し、今や戰時體制下にありて、舉國一億緊張の度を加ふるの秋、老軀尚ほ壯者を凌ぐ軒昂たる氣概を以て、運命に忠實奮闘せられつゝあり。その行履や將に秋霜烈日、後進をして最高の指針を與ふ。肅然として襟を正しうせしむ。偉と謂はんか、壯と謂はんか、我が國澤新兵衛翁。

(住所) 東京市澁谷區千駄ヶ谷町一ノ五六
(二)

千葉県 東葛飾中學校

當校は大正十三年二月の創立にして、その沿革必ずしも古きに非らざるも施設の整備して、教育方針甚だ堅實、生徒の學績又頗る俊

秀を以て千葉縣下に名聲高し。開校當初は定員數五百名なりしも、その名聲の高まるに伴ひ、入學志願者年と共に著増せるに依り、昭和三年度より定員數を七百五十名に増加す。又設備方面に於ても、開校當時本館を新築せしが、昭和二年生徒控所及武道場を、翌三年理科教室、圖書習字及普通教室二棟八教室を増築し、七年には博物館、標本室、地歴教室を、九年に至りて工作教室を新築し、十一年には講堂並に圖書館を建設して、内部の施設完備し、輪郭の美又甚だ備はれり。校訓として信義、醇厚、忠實、勤儉、剛健、邁進を掲げて薫陶を行ひ、又教育方針としては徒らに多くを知らしむるに努めず、學科の基礎的なるものを確實に把握せしめ、調育に力を注ぎて調達なる氣風の養成を圖り、他面體育に就いても多大に意を盡くせり。建物、運動場

その他の敷地は一萬六千七百九十坪に上り、外に當地方の特殊事情に依りて園藝の實習を課せるにより一千二百坪の實習地あり。學業の外體育、學藝、園藝等の獎勵の目的を以て校友會事業として、各種施設を設け、毎年これが爲めに多額の經費を投ぜり。當校の施設の完備せると、その薫陶の宜しきを以て學業甚だ舉り、現在卒業生千名を超へ、各方面に活躍して頗る好評を得、當校の名聲を高めつゝあり。當校は卒業生、在學生父兄並に學校

當局の關係親密を極め、當校の發展を圖るべく後援會を結成して各種事業を營み、校運愈々物興を見るに至れり。

校長 高橋善四郎

昭和十二年三月千葉縣立本更津中學校長より當校々長に榮轉す。資性濃厚篤實にして、その圓滿なることまさ玉の如し。襟度宏く頗る抱擁力あり。寛容にして敦厚、心性又甚だ峻潔。世人の景仰を受くること深し。熱誠教育に當り、晝夜を分たず、その職に淬勵して種々創意に富む施設を設定し、多大の實績を擧げて教育界の注目點となれり。學識深く識見又頗る高邁にして、千葉縣教育界に赫々たる聲望あり。明治十七年三月仙臺市に生る。

(所在地) 千葉縣東葛飾郡柏町

建築業 白波瀨 藤三郎

京都に於ける幾多の建築業者中、劇場及び活動寫眞館の建築を専門とし、竹外一枝の梅花の觀あるものを白波瀨藤三郎氏となす。氏は京都の人にして慶應三年十月を以て呱呱の聲を擧ぐ。幼少の頃より建築に興味を有し、殊に美術的建築の研究に熱心にして刻苦研鑽の末、神社佛閣の建築を専門として起つに至

り、獨特の技術を以て信用を博し、洛中洛外現存有數の社寺建造物にして氏の手に成れるもの頗る多しと聞く。世の變遷に伴ひ、此方面の建築技術の次第に閑却せらるゝに迫り、氏は己むなく劇場及び活動寫眞館の建築請負をなすこととなりたるが、從來の關係上美術的建築に對する熱心は毫も減却せず、屢次技倆を發して種々の研究を試みたるが、遂に劇場及び活動寫眞館の建築を専門として一新旗幟を顯し、松竹の熱誠に依り四條通の南座を建造せるを首めとし、新京極の京極映画劇場、日活帝國館、千本座、昭和館、共榮座、松竹館、京都座等を逐次建造して好評噴々。就中結構外觀ともに近代建築技術の精粹を表現せるものとして、専門家の間に異爲のセンセーションを捲起したる南座の如きは、其代表的のものとして世に擧がれ、洛陽繁華街の中心に女王の如く其壯麗を示現して、氏の優秀なる技術を天下に誇示するに至れり。業績斯の如くなるを以て、苟くも此種建造物に關する限り、之が設計を企圖する者は先づ第一に白波瀨工務店に馳せて氏の意見を叩くを例とし、單り設計のみならず、増築修理等も氏を俟つに非ざれば、一般に意を安んぜざる程爾く其信用は増大せり。氏が斯くも異常なる信用を贏ち得るに至れるは、實に其技術の不群卓拔なるに依るのみに非ずして、一面其職

業的良心の人を動かすものにあらずを以てなり即ち氏は凡百の同業者の如く、射利に重きを置かずして徹頭徹尾技術設計の完成に専心し若し依頼者の企圖にして、自己の意に滿々たらざるものある場合、如何なる有利の請負なりと雖も、斷乎として之を拒絶するが如きは



白波瀨氏の工務店に成る建築物

氏に於て敢て珍しからざる事實にして、技術を以て生命とせる誠心は、其信用を絶對のものたらしむるに至れり。現に當店は氏を首腦とし、會計主任白波瀨直次郎、同所屬白波瀨武雄、工事主任奥山鴻太郎、修繕部庶務上田恭正、設計部田畑太三、片岡吉三郎の諸氏

を以て陣容を固め居れるが、首腦者の人格は部下に反映して緊張せる氣分は常に一堂に盈ち益々世評を高めつゝあり。

(住所) 京都市中京區仲町竹屋町下ル

合名 鶴屋 八幡

現時洋菓子、和菓子の二種にして、美味に於て異論あれども、本來日本人の口舌を喜ばすは古來傳はる我が和菓子の持つ特異の味覺とす。當店は我が和菓子界の大御所と言ふべくして、浪華の鶴屋八幡と稱すれば直に和菓子を想起する程その名は餘りにも有名なり。大阪菓子業界に斷然頭角を現はし、名物中の名物として其特異の美味を以て廣く江湖に知られたり。而も大阪新業界の長老として聲望風に高く、業務益々進展して盛況噴々たるものあり。當店は明治二年の創業に係り、今日に至る六十有餘年間、各代當主の俊敏の資を以て店礎を築き、和菓子専門に主力を傾注し市井に發賣好評を博したる歴史に輝く老舗なり。今や資本金五萬圓を以て、合名會社となし、逐年營業を擴大し販路は全國に及べり。出資代表社員今中豊三氏、今中喜治氏、今中富之助の三氏中、今中豊三氏其の主班となり一意店業の進展に勵精し、我が和菓子業界の

爲め萬丈の氣を吐きつゝあり。

代表社員 今中豊三 氏は明治三十五年十月を以て生れ、夙に今宮中學を卒業後、直ちに祖業を嗣ぎて今日に至るものにして、氏年餘尚ほ少壯にして、當年三十有歳の働き盛り、質性着實にして業務に熱心、その眞面目なる氣風は他の毀譽褒貶を眼中に措かず、斷々乎として自家の所信に邁進せるの勇あり。従つて堅實主義は、其店是とせられ、其の信用は益々加はれり。氏は又一面社會公共に盡力を惜しまず、氏の愛國的誠意峻潔の人格は衆庶の認むるところなり。現に愛日軍人會副會長、愛日教育會理事、大阪市教化委員の榮職にあり、斯界に盡瘁するところ尠からず。趣味としては謡曲、花道、茶道を善くし何れも玄人の域に達せり。愛子夫人との間に國雄、暉、敏子、澄依の二男一女あり。
(所在地 大阪市東區高麗橋四丁目)

名 鑑 家 圓 佛 七 藏

九州炭田の首都として、繁榮をなせる福岡縣大牟田市にありて、坑木商を營みて殷盛を極め、その規模の宏大にして販賣高の巨額に上るを以て、人稱して坑木王と爲すが圓佛氏

たり。資性卓犖豪放なると共に、細心緻密にして、その對策周到を極めて水も洩さず、秀拔なる手腕を揮ひて努力奮闘して事に當り、而も素志頗る堅剛なり。氏今日の繁榮は多年の努力に依りて達成せられたるものにして、獨立獨行拮据勉勵してその大を致し、立志傳の第一頁を飾る人として推賞するに値するの人物たり。明治七年八月圓佛菊松氏の三男として呱呱の聲を揚ぐ。氏十二歳の時母君の長逝せられるに遭ひ、親戚に當る古賀健藏氏の店に商賣見習の爲に入る。當時大牟田は未だ一寒村に過ぎずして、同店は各種商品を取扱へり。當初魚の行商をなし、或は刑務所其他に米、材木を納入する爲めに荷車を引きて往復する等、早朝より深夜まで身を粉にして活躍せり。明治二十二年三井の手に於て三池炭坑を経営するに至るや、同店は坑木並に材木を納入す。幾何もなく鐵道敷設せられ、炭礦業大いに勃興するや、古賀商店の坑木販賣は益々隆盛に向へり。氏は同商店の中心人物として重きをなし、大いに才腕を揮ひて多大の信用を得たり。超えて明治三十三年氏二十六歳の時獨立して業を起す。直ちに三池炭坑より十二月の期間を以て、坑木五萬本の注文受けしが、四ヶ月を以て完納す。續で五萬本の追加注文ありしが、これ又直ちに完納して多大の面目を博せり。氏は獨力を以て一切を

處理し、克苦勉勵大いに活躍す。三井よりは非常なる信用を博し、三池炭坑の發展に伴ひて坑木の注文増加して明治三十九年には一躍三十萬本に達す。四十一年には百一萬本となり、四十四年に至りて一手納入を引受くるに至る。後には八幡製鐵所、海軍炭坑、住友忠隈炭坑を始め各所の炭坑に納入せり。大正六年の好況時代には九州、中國を合して直營出張所五十七ヶ所に及び年内の賣上高三百五十萬圓に達せり。大正八年に至り圓佛商店古賀商店を合して、資本金百萬圓の株式會社圓佛古賀商店を創立、昭和八年に入りて事業の徹底的合理化を加へ、資本金五十萬圓の株式會社圓佛商店として改組せり。氏は四ヶ條の信條を掲げて店員を戒め、氏又實踐躬行して店員の先頭に立ちて事業に精勵し、事業日を逐つて躍進せり。氏の關係事業數多ありて現在三池無盡株式會社、大牟田瓦斯會社各取締役、福岡縣坑木商同業組合組合長等により。又市會議員として大牟田市々制實施以來市政に盡瘁し市副議長に推される。更に縣會議員を二期勤む。徳望甚だ高し。
(住所 福岡縣大牟田市大正町一〇四)

三井礦山取締役會長 尾 形 次 郎

三井財閥の直系會社にして、我國鐵業界の

巨擘として錚々の名聲を轟はれる三井礦山株式會社は、その資本金一億圓に上り、石炭の外金、銀、銅の産出製鍊をなし、優秀礦山を全國各地に有してその規模の宏大なること他の比倫を許さざる所なり。氏は取締役會長として同社を主宰し、賦稟の手腕を揮ひて多大の實績を擧げ、その深遠なる學殖と豊富なる蘊蓄業界に並ぶ者なく、清白高朗の人格は又衆庶の畏敬すること厚くして、三井王國內に絶大なる聲望を有するのみならず、一般事業界に於てもその名聲實に噴然たるものあり。資性溫醇謙厚たると共に質實堅確、熱誠熱直業務に傾倒して、その責任觀念の強き、至誠の念の厚き、徳操の堅固なる、何人も嘆服せざるはなし。心性峻潔にして名利に恬然たるものありて、清々淡々疎々落落々、徒らに功名を焦らず、虚名を求めず、眞摯自己の職責に淬勵して他を顧みず。道念堅くして操行端正その溫雅なる品性と洗練せられたる舉措はまさに紳士の典範たるべき士なり。氏は頗る慈心に富みて、困窮せる者には好んで救恤をなし、後進を指導して滑龍を何時までも、池中のものたらしめず、世人より師父の如くに瞻仰せらる所なり。謙虛にして敦厚、決して己の功績を誇らず、宏量にして寛容、妄に部下の瑕疵を咎めず、よく部下の言を採用し、適材を適所に登用し、情に流れず、理に偏せず

寛嚴まことに宜しきを得てその人事行政實に公平無私たり。衆を統率するの度量を有して眞に將に將たるの材器と云ふべし。頭腦頗る俊敏にして、周匝緻密、その思慮まことに練熟し、千慮萬慮周到なる對策を確立したる後明斷果敢始めて實行に移し、決して輕率に事を行ふことを爲さず。篤敏俊銳の才略あれど温厚なる風貌に包みて輕々に發することをせず、常に事業道の大道を歩き、事業經營は國策の線に副ひ、國益増進を念頭に措きて之に當れり。斯くて秀拔の才腕は事毎に多大の成功を示して三井礦山の業績を累期向上せしめつゝあるなり。氏は寸暇を惜みて學理の深求技術の研鑽に勵精し、その學識の淵博なるを以て名聲甚だ高し。多年に亘る蘊蓄と共に我國鐵業界の最高權威として多大の景仰を受け識見高く經驗遠大にして現代事業界を代表するの偉材たり。氏は明治三十一年東京帝大工科電機科を卒業して、直ちに三井礦山に入れり。眞摯熱誠以て職務に没頭し、大いにその頭才を示せり。擧げられて神岡水電、九州電力各社の取締役に就任す。神岡水電取締役當時氏の研究は學界に認められ、工學博士の學位を授けらる。次いで三井礦山取締役に推され、更に取締役會長の要職に就き、事業界にその名聲を博するに至れり。現時九州共同火力發電取締役會長、三井合名參與理事、滿洲

合成燃料理事長、日本製鐵取締役等を兼ね。氏は福岡縣土族尾形喜六翁の二男として明治七年九月に出生、同十七年家督を嗣げり。
(住所 東京市麻布區筈町)

田岡染料製造株式會社

我が田岡染料株式會社は染料及化學工業藥品製造販賣に任じ、斯業界に燦然たる光彩を放てる斯界の重鎮にして其の業績の堅實と優秀製品を以て隆々たる盛業にあり。當社は始め現社長田岡佐平氏が大正八年染料製造業を興したるより創り、着々業礎を固めたる時偶々國際情勢の逼迫するに依り、忽然として非常時局は我が國を席捲し、爲めに之に隨伴して軍需景氣を招來せしかば、その時代趨勢の波に乗り、需要製産の著しき進展を見るに至り、注文殺到するに及びたれば、同社は此の趨勢に鑑み、工場規模を擴張したる外業界の進展に順應するの必要を認め、昭和九年十月、之を資本金十三萬圓(全額拂込済)の株式組織に變更、一段の飛躍を決定したり、而して日ならずして資本金を一躍二十三萬圓と増資し社長田岡佐平氏の下に田岡重夫氏、片桐一郎氏、川人清氏を取締役、寺崎文二氏を監査役に社務を統理し、今や優秀なる機械と

完備せる施設の下に、多数の熟練職工を擁し
社業隆々旭日昇天の盛観を呈し、将来の發展
囑目せらるゝところなり。

社長 田岡 佐平

我が國染料業界に輝
々の威望を馳すること多年、今や斯界に特異
を誇れる俊魁たり。氏は徳島縣田岡豊蔵氏の
二男にして、明治二十一年九月を以て生れ、
夙に染料界雄飛を志し、同四十三年徳島縣立
工業學校染織科を優秀なる成績を以て卒業し
たる後、大正八年獨立開業、同十一年染料製
造を創め、爾來斯業發展と業務繁榮の爲め夙
夜寢食を忘れて努力、遂に其の勞苦は酬ひら
れて業績大いに擧り、昭和九年時勢に順應之
を株式會社となし、自ら社長となり堂々の陣
容を以て斯界に臨み、今日の隆盛を見るに至
りたり。然して氏の業務に忠實なる日夜其の
發展策に腐心し、如何にせば優良なる製品を
廉價を以て供給し得べきかに全精力を傾盡し
て研究を積みつゝあり。その人となり濃厚に
して眞摯、孜孜として事業に勵精し、従業員
を愛撫する事深く、傍ら社會公共事業に努力、
内外の信望頗る大なり。趣味として謡曲を好
むが、其の技は既に玄人の域に達すと聞く、
家庭には貞淑の譽高き淨子夫人との間に、長
女壽子嬢ありて圓滿にして和氣瀟々たり。
(所在地 大阪市東淀川區十八條町六〇一)

辯護士

押川 定秋

日本の首都東京は世界屈指の大都市にして
政治經濟文化等の各方面に於ける躍進日本の
中樞部を成すと共に、その規模に於てその施
設に於て將た又その實勢力に於て、東洋の指
導的地位を占め、殊に茲には現代日本を代表
するの偉材雲の如くに集り、各方面にそれぞ
れ手腕を發揮し、國運の興隆の爲めに活躍せ
り。押川定秋氏は多年東京府會に於て馳驅し
卓効の才腕を揮ひて府政の爲めに献身的に盡
瘁し、その貢獻せる所まことに赫々たるもの
ありて、聲望甚だ顯然たり。氏は民情諳諳を
以て知らるゝ南國宮崎縣の産にして、明治二
十三年五月押川定澄氏の三男として、呱呱の
聲を揚ぐ。幼少より頗る俊敏にして萬才を具
へ大いにその將來を囑目せらる。郷費を了ふ
や、笈を負ふて上京し、法曹會に於て活躍せ
んことを期して明治大學法科に學ぶ。優秀な
る成績を以て國家試験に合格し、大正六年同
大學を卒業するや直ちに辯護士を開業せり。
氏は才眼には孜孜として學理の探求に専念し
法理の蘊奥を極めてその學殖は斯界に名ある
所なるが、その辯論又整然たる理路を辿り、
法理に拘泥せずと雖又法理の原理より逸脱す

女として生れ、福岡高女を卒業し、淑徳高き
賢婦人として知らる。

(住所 東京市小石川區同心町)

事業家

加藤 兵三

名古屋市に於て陶磁器貿易を業となして盛
大を極め、各種事業に手を伸して縦横の活躍
をなし、事業的手腕の卓効、識見抱負の高邁
を以て中京財界に著名なるを加藤氏とす。幼
少より聰敏にして、一を聞いて十を悟るの頭
才あり。誠實直摯のうちに凛烈たる氣魄を藏
し、夙にその將來は人の囑目する所となる。
氏は早くより大望を抱き、事業界に進出して
大いに爲すあらんと密そかに企圖する所あり
名古屋市伊藤勇次郎商店に入り、始めて斯業
に身を投ず。將來鵬翼を業界に張らんとせる
氏は、同輩、その他の使用人と異りて、大い
に職務に精勵す。人に先んじて早朝に起き、
人の寝ねたる後に寝ね砥勵格動して盡瘁す。
又事業の各方面に關して微細に亘りて研究し
己が智囊の蓄積に力を致せり。天賦の商才は
次第に機鋒を現し、氏の活動は目覚しきもの
ありて、同店首腦者よりその前途をば期待せ
らる。儕輩を抜いて拔擢せられ、樞要位置に
推されて重責を託せらる。されど氏は割初た



加藤 兵三 氏

る胸中の野望を如何とも爲し難く、機會至ら
ば事業界に驍足を伸ばさんと心密そかに期す
る所あり。大正元年に至り、氏は遂に運命の
神の前響を把み、決然として立ちて陶磁器の
貿易業を開始す。奮闘努力その事業に全力を
傾け、營々と精勵して倦むことを知らず。不
撓不屈鐵石の如き堅志はあらゆる障害を意と
せずこれを克服し、烈々たる白熱の闘志は如
何なる難關をも屈せず勇躍進す。氏の才略
は一段と冴へきたり、縦横無盡目覚しき活躍
を展開せり。その熱心なる活動に依り、事業
は年と共に勃興し、氏の手腕は中京事業界に
驚嘆の的とせらる。大正七年に至り合資會社
としてこれを改組し、氏は代表社員に就任す
爾後年と共に事業は發展し、多大の成績を収
め、中京事業界に於ける氏の存在はまことに
赫々たるものあり。事業に専念する傍ら陶磁
器事業界の爲めに斡旋盡力してその貢獻する
所至大なり。即ち、創立以來より名古屋陶磁

ることなく、法と世上の道理渾然一體をなし
滔々として流るが如き辯舌には媚媚たる餘情
を曳き、聽く人思はず恍惚として傾聴せしむ
るの魅力あり。氏は東都法曹界に多大の名聲
を博し、氏に辯護の依頼を乞ふ者踵を接して
門を叩き、多大の繁榮を見るに至れり。され
ど熱情熱誠の氏は法曹界の天地に踞踏するを
以て是れりと爲さず、多年抱懐する高邁なる
識見を具現し、國家社會の興隆に寄與せんと
するには政界に於て活躍するの外方途なしと
し、輿望を擔ひて東京府會議員として府政に
參畫することゝなれり。氏は粉骨碎身して政
界場裡を八方馳驅し、着々として年來の經綸
を達成せり。その廣大なる視野と該博なる蘊
蓄は府會に於て多大の崇敬を受くるに至り、
府會議長の要職に推され、縦横に才腕を揮へ
り。更に後東京市會議員に選出せられ、市政
壇上に於て誇々の宏辯を吐露し、市政の爲め
にも寄與せる所僅少なからざるものあり。資性
溫恭謹厚たると共に器局闊大、襟度宏量に
してよく人を容るゝの抱擁性に富み、東京府會
屈指の將器たり。清白高朗にして名利に恬淡
其廉直の人格は衆庶の深く推敬する所たり。
國家社會の前途に關して常に思を濟め、政治
にのみ心身を捧げ、趣味如きものすら寸刻を
費すことなき高義清節の士たり。因に雅子夫
人は明治廿五年福岡縣人青柳正次郎氏の四

器工業組合理事に列して活躍し、又名古屋陶
磁器輸出組合代議員として同業者の爲めに種
々と盡力をなせり。斯界に於ける重鎮として
氏の存在は愈々重きを加ふ。尙ほその他に大
日本セロファン株式会社、實業株式會社、
道徳水閣株式會社各取締役に列り、廣く事業
界に活躍す。資質溫恭謹恪にして、うちに剛
毅剛直の氣魄を藏す。淡然泊如、清白高朗の
人格の持主にして、人に仰慕せられること深
し。町總代に推されて私財を投じて近隣の爲
めに盡し、或は公共事 の爲めに貴重時間
を割きて寄與する等、その功績枚舉に遑あら
ず。曩に國勢調査調査員、教育會副會長、社
會教育長、衛生組合長等幾多の要職に就きて
貢獻する所多し。岐阜縣那郡陶村大字水上
加藤平八氏の男として、明治二十一年十一月
に生る。趣味として圍碁あり。因に家庭には
タイ夫人あり、明治三十一年伊藤政助氏の令
嬢として生れ、明知町裁縫女學校を卒業す。
長男兵一郎君は名古屋第一商業學校に、次男
正平君は愛知市第一中學校に在學し、その他
に長女節子嬢あり。

(住所 名古屋市東區主税町四丁目)

株式會社 富士洋紙店

當店は紙類紙料及紙製品の賣買をなして、

その業陣の牢固たるを商況の殷盛なるを以て
關西新業の彩華を以て目せられ、その信用頗
る堅確なるものあり。當店は眞に王子製紙株
式會社と合併したる富士製紙株式會社の販賣
機關として設立せられたるものにして、その
出資に依りて創立せられ、専ら富士製紙の製
品を取扱ひ、事業頗る盛況を極めつゝありし
所、富士製紙、王子製紙と合併するに及び當
店は従來の特權を喪失して孤立無援に陥り、
その前途を多大に危懼せられしが、主幹部の
經營まことに妥當適切なりし所より、事業は
却つて盛大に向ひ、業運隆々として勃興を見
るに至れり。その創立は昭和四年十月にし
て、事業年と共に躍進し、現時資本金三百萬
圓の全額拂込済たり。販路は主として關西、
九州、朝鮮、滿洲、支那方面にして、神戸、
大連等に出張所を設置せり。毎期多額の利益
金を擧げ、業績年と共に好調の一途を辿りつ
ゝあり。資産内容に於ても頗る堅實にして、
その經營方針の堅確なると相俟つて、多大の
信用を博し事業は年を逐ひて發展をなせり。
大株主に王子製紙の姉妹會社王子證券株式會
社ありて、その業礎微動だにすることなし。
因に當社重役以下の如し。専務取締役今村金
三、取締役藤岡貞次郎、同取締役今村金
良之助、同取締役又七、監査役飯河安信、同田
中傳太郎、同取締役の諸氏あり。

專務取締役 今村金三 今村氏は頭腦高
敏にして才氣煥發、眞摯熱直業務に淬勵して
その敏腕を揮ひ、當店の發展に寄與貢獻する
所絶大なるものあり。氏は大分縣の産にして
夙に大分農學校の書記たりしが、野望滿々た
りし氏は同志を事業界に伸ばさんことを決意
し、富士製紙株式會社に入る。早出晩退、精
勵格勤して職務に没頭し、天稟鋭鋒を示して
上長より多大の信用を得たり。儕輩を抜いて
簡拔せられ、參事の要職に擧げらる。偶々富
士洋紙店の創立せられるや、氏は同店常務に
選出せられ、その經營の全權を依囑せらる。
富士製紙の王子製紙の合併せられるに至り、
同店は一時危機に逢着せしが、氏は確固不拔
の信念を以て社員を奮勵し、氏自ら又東奔西
走して難局打開に多大の辛勞を嘗め、遂に之
を克服して、今日見るが如き發展を達成する
に至れり。氏は智能犀利緻密にして用意周到
素志堅確にして精力絶倫の活動家たり。名利
に恬淡たると共に情誼に厚く、能く部下を指
導して慈父の如くに景仰せらる。傍ら富士合
同販賣、日本洋紙、昭榮紙店各取締役に推轉
せられ大阪新界に信望噴然たるものあり。氏
は明治十七年六月を以て生れ、其英才卓腕の
然らむる處前途大いに頭角を抜んでること
も期待せらる。

岡田商店主
岡田菊治郎
近時一般事業界の好調に依りて、大資本大
會社は云ふに及ばず、中小商工業者に於ても
これが恩澤を蒙り、多大の好成績を擧げつゝ
あるが、之等中堅事業家中に於て、商況甚だ
繁忙を呈し、近來頗る事業の發展をなして注
目せられる人に岡田菊治郎氏あり。氏は店舗
を東京市本所區東兩國に設置し、専ら鋼鐵鋼
及工業藥品、アルコール、カーバイド及藥品
用器類の販賣をなし、常に千客萬來して顧
客の來往繼るが如く、その取引日を逐ひて著
増なし、業績躍進の一途を辿りつゝあり、岡
田氏は明治十四年十二月一日岐阜縣人岡田茂
助氏の三男として呱呱の聲を發す。幼少より
頗る俊穎にして世人より多大に矚目せらる。
夙に大望を抱き、勵志を東都に於て伸ばさん
として上京す。淬勵勉勵して眞摯熱直活躍し
明治四十一年本所區東兩國の現時店舗の所在
する地に於て、小規模ながらも始めて事業を
創始して、業界に進出することゝなれり。氏
は幾多の擧起する障礙にも毫も屈することな
く、不撓不屈牢固たる決意を持し、粉骨碎身
して奮闘せり。優秀商品を吟味精選してこれ
を備ふると共に、更に販路の拓開の爲めに東

奔西走して寸時も時間を空費することなく、
まことに席の温まる迄なきまでに馳驅せり。
事業界には幾多の變遷ありて榮枯盛衰常なく
如何なる事業に於ても一張一弛は免れ難き所
なるが、氏の熱誠なる奮闘と鐵石の如き強靱
なる意志は常に逆境を打開して運命を左右な
し、次第に事業は發展に赴くことゝなれり。
氏の逢着せし幾多の難關は却つて氏の才腕を
鍛練し、嘗めし辛酸は賦性の頭才を砥礪して
一段と商才は鋭鋒を増し、その獨創の商陣は
日を逐ひて擴大せられるに至れり。偶々大正
十二年九月一日東京を中心とする關東一圓に
大震災勃發し、さしも豪華絢爛を誇りし帝都
は滿目唯燒野ヶ原と化し、幾多の大建築もあ
たら一片の灰燼と化し畢りぬ。殊に氏の店舗
は最も被害甚大を極めたる本所區に在りし爲
めに多大の損害を蒙りたり。富めるも貧しき
も一列一體に何れも唯體一つを餘すのみとな
りて、拱手して天を仰ぎて長嘆息するの有様
なりき。然るに氏はこの時早く腦裡を電光の
如くに一闪したる着想あり。直ちに燒土の中
に散亂する金物類の買入れを始めたりしが、
身に一物も所有せざる人々にとりては金錢の
多寡は論外にして、到底使用に堪えざる金物
類が金錢と交換せられることなれば欣然とし
て賣却をなせり。斯くて大量に買付せし金物
が、帝都復興工事の着手せられると共に著し

く昂騰するに至り、氏は一躍して多額の利益
を擧ぐることになれり。爾來氏の事業は目覺
しき發展を遂げて新界に重きを爲すに至れり
最近の事業界の活況に依りて當店は更に飛躍
的繁榮を見つゝあり。岡田氏はその敏腕を以
て業界に多大の聲望を博し、その温恭にして
廉直なる人格又大なる瞻仰を受くる所たり。
氏は温情に富みて仁侠心に厚く、好んで世の
爲に盡瘁して多大に推敬せらる。傍ら東京製
鐵監査役を兼ね。はま夫人は尾關甚四郎氏の
令妹にして、淑徳高き賢婦人として知らる。
(所在地 東京市本所區東兩國一丁目)

昭和毛絲紡績株式會社
彼の歐洲大戰を一轉機となして本邦各種工
業は遂次發展を遂げ、更に昭和六年勃發せる
滿洲事變を契機に其の躍進發達に顯著なる
ものありて、毛絲紡績工業の進歩發達せるこ
と亦た隔世の感なきを得ず。斯くて業界幾多
の優良會社出現し、合理的經營下に夫々製品
の優秀性を誇り業績の隆盛を競ひつゝあるも
當昭和毛絲紡績株式會社の如き正に群雄に伍
して一頭地を抜くの觀ありと云ふべし。抑も
當社は昭和三年六月を以て創立され、資本金
二千萬圓、毛絲紡績、毛織物整理加工等を業

小曾根貞松、同山村市郎、同三輪喜兵衛、同伊藤次郎左衛門、同神野金之助、同川西龍三、同櫻井靖、監査役松本鐵次郎、同毛戸勝元、同富田重助等の諸氏なり。

社 長 川西清兵衛

兵庫縣多額納税者の榮譽を膺ひ、其の長者の風格と悠容として迫らざる態度とを以て、功に焦らず名利に捉はれず、圓熟老練なる識見手腕を縦横に發揮し、關西實業界に堂々君臨する斯界の大立物、現在關係せる事業會社を列舉すれば、昭和毛織紡績社長を始め、オリエンタルホテル、日本毛織、山陽皮革、日伯拓殖、須磨俱樂部各社長、神戸生絲取締役會長、安田信託、兵庫大同信託、神戸瓦斯、東京火災保險、名港倉庫等各取締役等に推され、更に川西航空機、川西機械製作所、大同興業、伊丹製糖等の相談役日本航空輸送監査役、中央畜産會監事等の諸要職を兼ねて聲望隆々乎たること容易に他の企及を許さざるのみならず、人格識見高邁、稀に見る巨腕の所有者として幾多の顯職に擧げられ、而かも誠心誠意克く衷心より關係商工業の發達進歩を圖り、國家興隆の大局的見地に立ちて貢獻寄與する處甚大、斯くて神戸商工會議所顧問、日本商工會議所顧問、日本羊毛工業會理事長等の職務に在りて功績赫々たるものあり。

常務取締役 阿部 莊吉 氏は實業界の音宿たりし貴族院議員阿部房太郎氏二男として、明治三十二年六月に呱呱の聲を擧ぐ。資性聰明穎智にして操守頗る堅固、而かも人格圓滿なる好紳士として令聞高く、夙に東京帝國大學經濟學部に學び研鑽勉克く優秀なる成績を残し、大正十三年に卒業したる業界屈指の逸材たり。今や同社常務取締役の重職を帯びて卓腕を顯はれ、社運隆榮に資する處渺ならず。然かも年齒愈々熟し、鋭鋒益々芽えつゝある向後の活躍こそ、眞に期待すべきものあり。

(所在地 名古屋市中區廣小路六丁目)

大倉商事株式會社

内地樞要都市は勿論、海外各地に支店出張所を設け、廣汎多彩なる業務を遂行、以て内外商戰場裡に雄飛發展し、社名世界に鳴れるを大倉商事株式會社とす。抑も當社は明治四十四年十一月の創立にして、爾來經營宜敷を得て着々伸展を重ね、今や大阪、大連、倫敦、紐育、シドニー、ベルリン等に支店を設置せる一方、横濱、神戸、横須賀、吳、佐世保、舞鶴、京城、上海、天津、青島、巴里、新京、ハルビン、奉天、メルボルン等に出張所を設

け、度量衡計器其他物品販賣、請負業、代理業、仲立業、問屋業、倉庫業、鑛業、有價證券及不動産取得利用等を主たる業務に商況依然好調にあり。而して現在資本金一千萬圓、内拂込金八百萬圓にして、尙ほ第五十二回決算報告書に據れば、當期總收入金四千六十二萬二千餘圓を擧げ、一方總支出金は四千一萬五千餘圓、即ち當期純益金六十萬六千餘圓を得、之れが株主配當金は年一割、四十萬圓を算し居れり。以て堅實無比なる營業方針下に社礎愈々鞏固を加へ、斷然斯界に重きをなせるは、正に本邦財界の一王國、大倉系代表會社たるの名實に背かざるものあり。因に現在重役には取締役會長皆川多三郎、常務取締役今井文平、取締役石田直吉、同大倉彦一郎、同鈴木百一、同藤本實、同澤田富雄、常任監査役武田正巳、監査役速水篤治郎、同檀治諸氏等を擁し、更に門野重九郎、山田馬次郎兩氏相談役の任にあり。

取締役會長 皆川多三郎

明治十七年一月の出生、廣島縣皆川多八氏二男なり。夙に青雲の志を實業界に致し、同四十二年東京高商を卒業するや、斯界に驍足を伸して令名を高め、當社興隆に資する處渺ならず、即ち大阪支店長、取締役等に歷任才幹を揮ひ、遂に現職に就ける偉材の士。資性濃厚篤實にして

犀利たる手腕を有し、濃厚なる典型的紳士なり。尙ほ大倉紡機製造、中央工業、川崎造船所各取締役、川奈ホテル監査役等を兼ね。

常務取締役 今井文平

長野縣今井兼介氏の長男、明治十八年六月を以て呱呱の聲を擧げ、同四十三年東京帝大工科機械科を卒業す。爾來大倉組技師となりて精勵克く卓腕を充分に發揮する處、着々信望を高かめ、遂に紐育支店長に昇進し、更に取締役を経て現職に就き、曩に大倉鑛業取締役たりしことあり。現に中央工業會長、南部銃製造所大倉銃砲店各監査役として令名噴々たり。

(所在地 東京市京橋區銀座二ノ二)

京都淑女高等女學校主

田 島 教 惠

千古の史蹟と山紫水明を誇る洛陽の地は觀光都市たると共に、勉學の都にして寺院と學校の多きことは外來觀光客の齊しく吃驚するところなり。隨て知名の教育家頗る多く、宛ら衆星光を争ふの觀を呈せるが、其中に北斗の輝として輝けるが如き顯著なる存在を示せるものは田島教惠先生にして、其經營に係る京都淑女高等女學校が堅實にして明朗典雅なる理想的學園たるは世に既に定評あり。師は



田島教惠先生

あらせられたるを首めとして、大正四年大禮記念館落成の節は賀陽宮大妃殿下、賀陽宮女王殿下臺臨あり、同九年賀陽宮恒憲殿下御成宴を賜ひ、亦昭和三年御大禮記念館落成の際には久邇宮女王殿下臺臨、其他各宮殿下の臺臨を仰ぎしこと數知れず。更に今上陛下御成婚の御祝典に際し、師多年の功勞に依り特筆大書に値すべき無上の光榮に浴したるが如きは岡山縣の上代淑子女史の叙勳と共に我

國私立女學校校長として稀有の例に屬し、師の生涯に一段の光彩を齎せり。尙昭和三年一月廿八日宮中鳳凰間に行はせられたる御歌會の際、師を特に召されて陪席を許され約一時間半に亘り咫尺の間に、天皇、皇后兩陛下を首め奉り、高松宮並に各皇族宮殿下の尊容を拜し、無上の榮譽をして感涙に咽びたり。如上の光榮は淑女高等女學校に潑刺たる生氣を齎らし世評を高からめ、以て現時の隆昌を見るに至れるが、多年獻替の結果心身過勞せるため、往年令弟從六位田島祐雲氏(元福岡縣立小倉高等女學校教頭)を迎えて校長の職を譲り、相扶けて教育と經營に協力することゝなれるが、校舎の狹隘を感ずるに至れるを以て紫野大徳寺境内に四千三百餘坪の高燥の地を選びて移轉するに決し、目下其準備に多忙を極めつゝあり。因に師は一面著述家として知られ著はすところ淑女鑑、淑女の修養、淑女の友、女子日本帝國史、大内山、音楽教本、教訓和歌百首、宮中御歌會陪聽録等二十餘種に亘り、其中長くも天覽、臺覽の光榮に浴せるもの尠からずといふ。

(住所 京都市室町寺ノ内上西入)

新潟板紙株式會社

板紙、淺草紙の製造販賣をなして事業頗る

盛況を呈し、新潟事業界に不動の信用を築ける當社は、昭和十年二月の創立に拘り、資本金百五十五萬圓にして、内容堅實たると共に毎期成績甚だ良好なり。その生産設備を見るに沼垂工場は板紙日産二十噸、淺草紙日産三噸にして、附船町工場は板紙日産七噸、淺草紙日産三噸を有し、そのうち沼垂工場の板紙の生産設備は新式にして優秀なるを以て、品質優良なる上に市價亦高價なり。近來一般物價の昂騰に依りて板紙の價格頗る騰貴し、企業目論見當時の一般品價段七十圓と對比する時九十圓臺と約三割近く騰貴を見るに至れり勿論その反面に於て原料、賃銀その他の生産費の騰貴ありたれども、採算關係は頗る良好となれり。最近農家の賣惜しみと北越製紙との競争より、板紙製造の主要原料たる蘆の入手窮乏となりたる所、北越製紙とは完全に提携成りたるを以て、原料方面には聊かも懸念なし。又日支事變の勃發に依りて、從來多額に上りし板紙の對支輸出は全く杜絶するに至りしも、板紙界には鞏固なる生産統制行はれ市價の維持を圖れるに依り、業界の前途には何等の不安存せず。當社最近の業績を見るに毎期一刻程度の利益率を挙げ、五分配當を行ひて餘裕綽々たる決算を行へり。當社の今後一段と好調を辿るべく、その前途には大いに期待すべきものあり。當社重役は取締役社

長小林友太郎、取締役副社長高橋助七、専務取締役兼井榮吉、取締役青木仁三郎、同藤波又三郎、同山岸良雄、同石田友一、監査役川上十郎、同柴田石松、同朝木正藏、同荒木徳司、同田代三吉の諸氏なり。

事務取締役 兼井榮吉 新潟縣多額納税者にして近時新潟財界に名聲隆々として揚り、その卓効の才腕と高邁なる識見とを以て衆庶に瞻仰を受くること厚き人に兼井氏あり。氏は氣格俊邁にして心性潔白、胸中に一點の私心なく、新潟財界の爲めに奔走して貢獻する所多し。その念願とせるは新潟事業界の振興と新潟港の發展を圖らんとするにありて、これが爲めに同志と相結び、八方馳驅して新潟市の發展に盡瘁せり。明治二十一年生れにして、夙に新潟商業を卒業して後事業界に身を投ず。不撓不屈の努力と天稟の商才とを以て十數年の間、巨萬の資産を積めり。高義清節の士にして、人の爲めに陰徳を施し世人より多大の崇敬を受く。今後大いに財界に頭角を現すものと期待せられ當社の専務たるの外、新潟臨港、新潟人絹工業、新潟瓦斯各取締役、新潟市石炭商組合長並びに新潟商工会議所常議員に推されて敏腕を揮ひ、令名益々高きを加へ居れり。

(所在地 新潟市馬越)

須賀商會名古屋支店長 佐久間寅秋

株式會社須賀商會名古屋支店長として敏腕を揮ひ、事業日に月に躍進して社業まことに大をなし、中京事業界に於て名聲愈々昂揚せるを佐久間氏とす。幼少より智能聰敏にして學業頗る優秀なり。夙に東京高工に學び、大正五年須賀商會に入社す。その職に勤勉努力して、至誠眞實を旨となし、終始一貫變ることなし。その材幹を見込まれて拔擢せられ、要職に据えられるや大いに天稟の才を發揮し同商會の爲めに貢獻する所多大なるものあり。儕輩を抜きて登用せられ、昭和四年に至りて名古屋支店長となり、同支店の全權は擧げて氏の双肩にかゝれり。氏は奮闘努力、全力を盡くしてその業に精勵し、八方に奔走せり。誠實眞實を以て人に接し、信用を尊重して、親切丁寧を以て顧客に臨めり。その熱誠なる努力と圓滿なる人格は大いに人々の信頼を勝ち、顧客は日を逐つて激増するに至り、名古屋支店は飛躍的な繁榮を見ることとなれり。氏の手腕と人格は名古屋事業界に於て大いに認められ、その信用著しきものあるが、氏の存在によりて須賀商會名古屋支店は、中京に於て多大にその名を高むることとなり、商況頗る活氣を呈せり。現在支店

は同市西區西柳町二ノ七にあり。氏は濃厚篤實の人にして、圓滿從順の資質は人を魅了せずんば措かず。而も内に沸々として湧く熱情あり。意氣發刺として打てば響くの快男子たり。事業には極めて熱心にして責任觀念に強く、才略縱横の手腕家にして、勇斷敢爲の實行力は鬼神もまさに三舍を避くるの概あり。世事に通じ人心の洞察に長け、明朗闊達淡泊磊落の人にして、頗る交際廣くその信望亦甚だ高し。明治二十三年十月福島縣田村郡三春町佐久間彦三郎氏の二男として生る。

り各種事業は一齊に活況を呈し、戰時體制下に於て各事業會社何れも國策の指示する所に從ひて活躍し、直接間接に國力の増進に寄與なしつゝあり。客觀狀勢は既に成熟し、而かも再起して優秀品の供給を要する向勢しとせざる有様なるを以て、金子氏は茲に意を決して近々操業開始をなすこととなれり。賛伏すること早くも二年餘となれるが、この間氏は充分なる研鑽をなし、萬遺漏なき準備を整へ、且つ牢固たる決意を以て躍起したれば、その製品は舊に倍する聲價を博し、社業目覚しき進展を見ることならん。當社の前途まことに刮目するに値す。

事業的手腕を有せるまことに稀に見る英才たり。今回千思萬慮して慎重なる用意を整へ、勇斷果敢事業界に雄飛することとなりたるが今後の活躍こそ業界を躍目せしむるに至るべし。

日本毛織社員 坂梨増太郎

資本金五千萬圓、拂込資本二千七百五十萬圓の巨額を以て、我國毛織界の王座を占むる日本毛織株式會社の幹部社員中、俊敏萬才洋々たる前途ある人に坂梨氏あり。氏は大正五年京都高等工藝學校染色科を優秀の成績を以て卒業す。直ちに三井礦山染科工業所に入る。それより後母校京都高等工藝科工業所室に於て研究に従事す。氏は熱心に研鑽に精勵し、眞摯篤學の士として甚だ信望を得、聴敏犀利の知照と該博なる學殖を以てその前途を大いに囑目せらる。大正十四年八月に至り日本毛織株式會社よりの切なる懇請を受け、同社の囑託に就任す。同年十月日本毛織より同社の依囑により、人絹工場設立に關する調査研究の爲め歐洲各國へ出張せり。氏は熱心に技術に設備に、或は學理に各般の人絹に關する諸問題を研究し、寢食を忘れてこれに没頭す

東亞製藥合資會社

東亞製藥合資會社は昭和九年三月に創立せられたるものにして、専ら活性炭素の製造をなし、その優秀なる品質は多大の好評を博して需要大いに殺到し、頗る好成績を以て躍進の一途を辿りたり。然るに昭和十年十二月に不幸祝融に見舞れ、最新設備を有せし工場は鳥有に歸したり。各方面より再興を勸請せられることしきりなりしが、經營主金子健太郎氏密やかに期する所ありて、暫々に事を爲さず、慎重に對策を練り、萬端の準備を整へ、更に餘るに時機の到來を待ちしが、近時に至

經營者 金子健太郎 俊敏萬才にして犀利緻密の頭腦を有し、熱誠熱直の努力家にしてその卓効の才腕は世人の深く推敬措かざる所なり。夙に大阪高工を卒業して後大阪砲兵工廠に入る。氏は頗る學問を愛好し、寸暇を惜しみて化學の研究に没頭せり。學理の探求に一身を捧げ、眞理の堂奥に入らんと決意して砲兵工廠を辭職し、金子化學研究所を設立して専心研鑽を續けることとなれり。後に至り其研究は完成して之を事業化することとなり東亞製藥合資會社を創設して活性炭素の製造に手を執むるに至りたり。氏は眞摯なる學究にしてその學殖甚だ淵博なると共に秀拔なる

又各國を遍歴して斯學の權威者の門を叩きて

教を乞ひ、或は著名なる人絹工場を訪れて其
さに視察をなす等、その活動はまことに席の
温まる遠なき有様なりき。斯くの如く數年間
熱心に調査研究を継続し、充分にその目的を
達成して、昭和二年四月歸朝せり。日本毛織
は氏の立案に基づき、名古屋市に人絹工場を
建設す。氏の最新の知識と周到緻密の智能に
より、頗る秀ぐれたる案成り、同工場竣工に



坂よりて 梨 我國人 増 絹界は 梨 絹界は 梨 絹界は

となれり。氏は簡拔せられて同人絹工場工
務課長に任ぜらる。人絹に關する知識頗る深
達にして、名古屋人絹工場は氏の卓効なる指
導の下に操業行はれ來たりて、毎期多大なる
収益を挙げつゝあり。氏は設備の改善、品質
の向上、能率の増進に日夜苦心をなして非常
なる成功を収め、名古屋人絹工場は斯界に於
てその存在を顯著なるものとせり。氏の資性
濃厚、至直の人にして清廉潔白の人格の持主
たり。學識、手腕並に人格共備りて頗る信望
高し。因に氏は明治二十九年三月奈良縣高市
郡高取町に於て吉村清七氏の男として生る。

瀧田志摩吉氏の養子に迎へられ、更に後坂梨
家を繼承す。
(住所 名古屋市東區岩塚町一軒立切)

大湊冷蔵株式會社

當社は我國水産界の雙日魯漁業株式會社
及び日本水産株式會社、並に大倉財閥等の
共同出資に成るものにして、冷凍及冷蔵作業
水販賣を業として、事業頗る盛況を呈し、業
界に重きをなせり。昭和二年三月に創立せら
れ、創業以來事業順調なる發展をなし、毎期
好成績を挙げ、資産内容又頗る堅實なり。現
時公稱資本金五十萬圓にして、内拂込額三
十萬圓なり。その資本金額必ずしも大なりと
云ふを得ざるも、業礎鞏固にして前途の發展
又期待せられ、優良事業會社として推獎する
に足る。昭和十二年度業績は頗る好調を以て
推移し、前年度に比して格段の好成績を擧ぐ
るを得たり。昭和十二年度に於て大湊冷蔵庫
に保管したる冷蔵貨物は、多大の増増を見て
前年度に比し三十八萬餘圓を増加して總數百
七十八萬八千餘圓に達せり。右數量中前年度
繰越品は六十七萬九千餘圓にして、主として
之は日魯の新巻及び改良鮭四萬八千餘圓なり
しが、十三年五月迄に全部出庫をみたり。十

二年度入庫品は十二年七月下旬より九月下旬
に亘りて、日魯漁業の新巻鮭八萬二千餘圓
の入庫あり。更に近海産の冷凍鮭、冷凍柔魚
二萬九千餘圓の外に雜鮮魚、牛豚肉等の小口
入庫あり。斯くて十二年度入庫品合計百十萬
八千餘圓に達せり。右の内年度末迄に出庫せ
る數量は百六十三萬三千餘圓に上り、次期繰
越高は日魯の製品一萬餘圓、其他の小口在庫
品十五萬五千餘圓となれり。斯くて十二年度
入庫數量は昨年度に比し八千餘圓を増加した
るに對し、次期繰越高五十二萬四千餘圓の減
少を告げたり。製氷高に於ては十二年度千七
百八十四噸に、更に前年度繰越高一百七十九
噸を加へ、一千九百六十三噸に上る、うち十
二年度販賣高一千八百六十七噸にして、九十
六噸を次期に繰越せり。これを前年度に比す
れば、夏期一般の需要と新巻の貸車積出回數
の増加により七百二十一噸の賣上増加を見た
り。次に十二年度冷蔵魚類の積卸並に製氷積
取の爲めに大湊工場製船岸壁を使用したる船
舶は合計四十隻にして、其總噸數一萬七千九
百三十九噸に上りたり。之が荷役數量は積荷
千八百三十噸、揚荷四千十三噸、合計五千八
百四十三噸となれり。最後に工場引込線に依
り貸車積送せらる魚類の數量貸切扱五百七十
三噸、小口扱十三口にして、合計五千七百四
噸に達し、前年度に比し貸切貸車三百十八噸

を増加せり。これ等の好調は何れも時局關係
に依る一般財界の好況に基づくものにして、
これが爲めに十二年度は多大の好成績を擧ぐ
るを得たり。十二年度總收入八萬六千圓、總
支出五萬四千圓となり、差引當期利益金三萬
二千圓に達せり。株主に五分の配當を付す。
戦局は有利に轉回し、北支の自治政權の成立
中支の明朗化を見たと共に他面に於ては、
財政の膨脹に依りて時局産業は更に活況を迎
るべき筋合にあるを以て、當社の事業は今後
大いに好成績を見るに至るべし。因に當社重
役は以下の如し。取締役社長平塚常次郎、常務
取締役喜谷錦、取締役五代龍作、同山田馬次
郎、同加藤重治、監査役松下高、同長時茂の
諸氏なり。

常務取締役 喜谷 錦 頭腦明晰にして
眞摯熱誠業務に没頭し、多大に手腕を發揮し
て業界に甚だ信望あり。明治十六年七月東京
市淺草に生れ、同四十一年京都帝大法科を卒
業し、後外務省に入る。次いで中日實業會社
に轉じ大いに才腕を揮ひ事業界に名を成すに
至れり。現時當社常務たるの外興亞製藥監査
役を始め其他數社の重役に列し、事業界を八
方馳驅して卓効の手腕を顯はる。資質温恭謹
恪謙讓にして敦厚、衆庶の畏敬する所たり。

(所在地 東京市麹町區丸の内二ノ二)

株式會社 山 口 佐 助

茲に傳せんとする我が山口佐助氏の如き眞
に立志傳中の人物と稱揚して吾かならざるこ
ころなりとす。氏は明治九年三月を以て栃木
縣山口常吉氏の令弟として呱呱の聲を擧げ、
夙に學に志して上京、東京高等商業學校に入
りて切磋琢磨の功を積み、優秀拔群の成績を
以て卒業するや、横濱石川商會に入社して精
勵奮闘すること三星霜、克く全社員の模範と
して信望を博くせしが、思ふ處ありて惜まれ
つゝ職を辭し、明治三十三年茲に丸石商會を
創立するに至りたり。之れ實に氏の今日ある
礎石となりたるものにして、以來銳意専心、
業運の發展に傾注し、拮据經營以て着々其の
基礎を鞏固ならしめ、業勢の一大躍進を來た
せし一方、昭和三年には資本金百五十萬圓の
株式會社 大洋商會を設立して社長となり、土
地建物有價證券買賣業並に自動車、自轉
車及附屬品製造と廣範圍に亘り發展を伸張、
現時同商會の隆々の發展を見たるは、蓋し氏
の全力を傾注したる努力の結晶に外ならざる
は疑ふ余地なきところなり。

斯くて氏は今や大洋商會社長として、令
名を顯はるゝのみならず、國翼を八方に伸長

して、京豊自動車工業、大洋自動車、丸石染料、
大同チエン、丸石商會外數社の要荷にありて
帝都實業界を縱横に馳驅しつゝあり。向後の
飛躍は期して俟つべきものありと言ふべし。
資性清廉謹直にして公明正大、恭儉身を持し
て博愛衆に及ぼし、而も青少年の指導育成に
盡瘁するを以て本分となし、社員を愛撫する
こと慈父の如く、社員又氏を慈父と仰慕し、世
上見る如き單なる雇傭關係に提らはれず、主
従一體の融和をなすと言ふも、其の中に自ら
嚴然の律義を存せしむるの方策を有するを以
て、氏の如何に非凡俊豪の大家たるを窺知す
るを得るところなり。而して氏は表裡に躍る
空名を懸せず、飽まで事業哲理に立脚し、常
に内助的投資を以て多數の人に仕事を與へる
ことに依りて、事業報國を念する稀に見る人
物たり。純日本精神を以て生きる高潔なる人
格者にして、名利に恬淡たるは勿論、犠牲的
精神旺盛にして、力を致し功を讓りて責は自
から負ふの信念に燃ゆるところに、氏の眞價
ありと謂ふべきならん。

敷地神社から天神宮

(所在地 東京市神田區鍛冶町一丁目)
安産の守護神として古來有名なる敷地神

ら天神は近年に迫りて世俗の尊信愈々厚く、四時参者蟻集して夙に洛中名所の班に列し、股賑を極めつゝあり。奉齋主神は木華咲耶姫に在はし、太古葛野郡北山天神宮(金閣寺の北西裏)に降臨ありたるを齋き祀りて北山の神と稱へられるものにして、降臨の舊跡尙存す。類聚國史の記するところに據れば今を距る千有餘年、淳和天皇の御宇(天長五年)京中大降雨ありて北山一帯の地が水害を被りし時、朝廷司官を遣はして幣幣の事あり、應永四年足利義滿金閣寺を造營するに方り現在の地に遷座し奉れりといふ。賽者の希望に依り「安産御守」祈禱はら帯」及「神矢(夜泣ぎの禁呪)」を授け、毎月九日には授乳祈禱あり、甘酒を給するのを例とし、靈驗の顯著なるを以て聞ゆ。攝社として六勝神社及稻荷大神あり、借に稻倉魂命を主祭神として六柱神を奉祀せり。此兩社は平安遷都の際、舊都奈良より遷し奉れるものにて貞觀元年(千七十年前)に至り始めて祭祀を行ひ、永享嘉吉の頃(五百年前)は猿神樂の奉獻あり、頗る殷盛を極めたり。世々勝利開運立身成功商賈繁昌の神として尊崇信仰の賽客多し。本社神前の綾杉神木は綺杉明神の稱あり、名木として尊重せらる。傳へ云ふ、神功皇后懷妊し給へるとき此樹の下にて御腹帯を結ばせ給へり、と。平安朝初期の歌人清原元輔が源遠古朝臣

家の出産祝ひに此綾杉に因みて

生ひ茂れ平野の原の綾杉よ

こきむらさきに立ちかさぬべく

と、一首の和歌をものせりとの記録あり。惜むべし、明治二十九年八月の暴風雨に倒木せり。樹齡を累ぬること千有餘年、樹根尙存し、婦女の受胎祈禱をなすもの多し。現今は神社前半町の所に市電停留所ありて参拜に頗る便なり。

社司 蓮井 一郎

蓮井家は代々北野神社の社家にして氏は先代幾太郎氏の長男に生れ、育英界に在ること多年、昭和四年當社の社司となる。爲人謹厚質實にして参拜者に師父の如く信愛され、餘既に古稀を超えたれど尙ほ嬰孺として壯者を凌ぐの概あり。

(所在 京 都 市 平 野)

神戸紅門病院長

中 村 英 倫

神戸紅門病院々長として關西醫界に盛名高きを中村英倫氏なりとす。福岡縣企救郡東谷村の出身にして、中村源三郎氏の二男として明治十年十月を以て生る。幼少より伶俐にして學を好み、その前途を矚目せらる。夙に刀圭界に鷹翼を張らんことを志し、熊本醫學專

門學校に學ぶ。明治三十九年同校を優秀の成績を以て卒業し、直ちに一年志願兵として入營す。除隊後更に醫術の研究を積まんと欲して上京し、東京紅門病院に勤務して孜々として日夜を分たず研鑽に没頭せり。それより轉じて東京顯微鏡病院に職を奉じ、更に東京胃腸病院に入り、寢食を忘れて研究に熱中して他事を省みず。その熱心なる精進は先輩同僚の嘆稱の的とさる。大正元年に及んで切磋琢磨の功を積むと共に、東京を去りて神戸に赴き、神戸區北長狭通りの現在の地に於て開業す。氏は其天性學究肌の人物にして謹嚴寡黙高潔清廉の士たり。醫療の餘暇は擧げて研究に身を投じ、多年の間精勵し來りて、今日に至る。學識淵博にしてその經驗と蘊蓄の豊富なる、既に一方の權威者として仰がる。寡言謹直なると共に又飽くまでも柔和にして、瀟々として波めども盡きせぬ程に温情味豊なり。寡慾恬淡世俗に超越して一風格を備ふ。患者に對しては極めて親切にして、氏の診断の精確にして治癒の迅速なるまさに神技の如しとして信頼を拂はる。病院の施設又極めて完備し醫員看護婦何れも懇切丁寧にして、紅門病に關しては關西屈指の病院としての信用あり。嘖々たる好評と共に門前市をなすが如くに盛觀を呈せり。同病院の繁榮に伴ひ、氏の名望愈々高まる。長男充氏は山口高校に學び、長

女雅香嬢は兵庫縣立第一高女を卒業して、土田孝徳氏に師事し日本畫を良くす。子女何れも秀才にして家庭圓滿、氏は淨瑠璃、園藝を趣味となし深詣なり。

(所在地 神戸市神戸區北長狭通四丁目)

名 望 家

笠 原 音 五 郎

山口商工會議所會頭の要椅にある、笠原音五郎氏の山口縣土木界に於ける名聲は、正に旭日昇天の概を示し、遠からず我が土木界の笠原たらんとするの躍進をなすつゝあるは、業界定評の存する所なり。氏は地方土木界の覇權を握ると共に、山口財界にも敏腕を顯し、商工會議所會頭に擁立せられしが、これと云ふも其の過去の惡戰苦闘の賜に外ならず。茲に氏の刻苦勉勵の経路の跡を辿り、以て之れを録すは蓋し意義多大なるものあらん歟。

氏は福岡縣築上郡南吉富村に明治二十年四月を以て生を享く、幼少より大志に富み。長ずると共に郷土に蟄伏するを厭しとせず、上京東京工學院土木工學科に學びて大望貫徹の緒に着く。蛇は寸にして人を呑むとか、氏の度量大にして衆を凌ぐ敏才は、氏の恩師工學博士久米民五郎氏の注目する處となり、遂に恩師の下に土木現場係として採用せらる。久米

民五郎氏は斯界の大先輩にして、嘗て宮城二重橋設計並に架設工事御下命の光榮に浴したる權威者たり。氏は此の恩義に感激日夜表裏の別なく粉骨碎身し、その精勵振りに久米氏も痛く信認、簡拔して遠く臺灣、滿洲、朝鮮等各地現場監督に出張せしめたり。氏亦よく之の重大使命を達成して遂に久米組の至寶とまで激賞されるに至れり。斯くて大正五年三十



氏 郎 音 原 笠

歳の若冠にして工事主任となり、同組請負に拘る彼の篠目隧道大工事には卓腕を揮ひ數百に餘る土方、勞役人夫を使用し見事大難工事を完成せしむ。久米氏大いに之れに感激せり。以て非凡なる氏の敏腕を知るべし。大正拾年久米氏老齢に依りて隱退し、久米組を解散するや、之が後繼者たる氏は久米氏の衣鉢を次で大正十一年六月土木建築請負を目的とする東亞工業合資會社を創立し其代表社員に就任今日に迫る。此處に氏愈々縦横無盡の手腕發

揮の機に到達したり。即ち長府下關間二號國道工費五十萬圓、富士電力株式會社箱根水力工事工費一十萬圓、帝國人絹株式會社岩國工場工費五十萬圓、岩徳線工事工費三十萬圓、其他鐵道建設工事多數に上り、現に東洋紡岩國工場工事並に備後三江線建設工事等を施行中なり。如斯地方土木界に於て、鋭鋒を顯し我が土木界に貢獻する處亦多大なり。猶特筆すべきは、山口商工會議所の前身、山口市商工會時代是れが會長に推薦せらるゝに及び同市商工業界の前途を憂慮し、之れが整備確立を期し奔走遂に商工會議所の認可を受くるに至れり。此の認可問題は歴代商工會長の多年奔走せし所なるが之れを達成し得ず、氏の幹旋にて之が創設を見たるは其功勞大なりと云ふ可し。今や正に圓熟の機會に達す。氏の將來期待すべきもの多々あり。

(住所 山 口 市 後 河 原 町)

合 資 會 社 葎 野 鐵 工 所

磨ナット、引拔シャフト及び高級諸機械製作業を營みて本邦屈指の一大工業都市、大阪に於ける業界に隠然侮る可らざる實勢力を扶殖し、其の各種製品の優秀確實にして國產品の最高峰を往き、而かも將來の一大發展を期

待されつゝあるものに合資社設野鐵工所の儼然たる存在あり。抑も當社は昭和十年十一月資本金三十萬圓を以て設立營業の端を發し兩來星霜を閱する事未だ二年有餘なるに拘はらず、既に斯界に鞏固不搖の地盤を築き、業運隆盛發展して恰も旭日昇天の概あるは、即ち刻下未曾有の工業黄金時代に善處し、經營首腦者の努力勉勵、殊も的を失せず。而かも鋭意工業報國の大信念に基きて、拮据經營せる賜と云ふべく、殊に日本標準規格に精密的確なる「當り矢」印各種磨ナットを始め、其他製品の品質優秀にして機能卓絶せる、寔に他の追隨を許さざる國産優秀品の稱あるが如き、實に當市斯業界屈指の新興優良工場として推稱措かざる處たり。今や當社製品年産高はナット七十萬圓、シャフト百五十萬圓を超え、更に最近東京、大連方面に一大販路を開拓、以て需要界の好評賞讃を博しつゝある處其の大量注文日夜殺到し、工場内の活氣旺盛せること宛然戰場の如き觀あり。即ち川崎、三菱兩造船所を始め神戸發動機、滿鐵等の一流大會社と取引を有し、壓倒的信用を贏ち得たるものなり。斯くて業運異數の躍進發展を齎せしも、更に將來の飛躍に備ふべく、只管工場施設の完備充實を圖り、或は傳統的優秀を誇る技術に、更に不斷の研究練習を加へ、其の實績着々として擧れる處、信用益々高ま

り、社名燦然光輝を發するに至れり。因みに當社出資人員は九名にして、代表社員設野藤吉氏を筆頭に、山田義一、坂宗太郎、設野日二、岡田正其他、錚々たる逸材たり。

代表社員 設野藤吉 夙に斯業界に入りて業務修得の星霜を累ね、其後奮然獨立創業して兩來二十有餘年、常に國産ナット、シャフト等の改善向上を圖り、斯界の發達に貢獻寄與せること甚大、現に業界屈指の偉材として斷然重きをなす奮闘成功傳中の人物なり。
(所在地 大阪市西淀川區野里町四一)

教育家 小松原國乘

近時我國の學校教育は形式的に流れて、精神的訓育をば閑却し、或は習性に偏して徳育を疎になす等の傾向絶無とは云ひ難く、夙に識者の密そかに憂ひし所なり。然るに小松原國乘氏は早くよりこの弊風を致し、自己が憎惡にある所より精神的訓育に力を盡さんと欲して、教育事業に身を投じて多大の貢獻あり。師は明治四十二年に東京胸澤大學を卒業し直ちに研究生として研鑽を爲せり。師は聰敏にして眞摯、その優秀の穎才と熱誠なる努力は、その前途大いに矚目せられること、

なれり。幾何もなくして同校圖書館主任に任命せられ更に生徒監督に推される。任に就くや至誠を以てその柄に當り頗る手腕を示せり。大正六年に至りて名古屋永安寺の住職に推統さる。その學識、人格は大いに檀徒に推重せられ、名望愈々高し。續いて名古屋第三師團布教師を拜命す。大正九年に至りて佛敎專修學校長に任ぜらる。宗門内に於ける信望高まりて、三期間宗會會議員となり、其間副議長たりしことあり。斯くて名古屋中等學院を建設し、教育上にまで手を伸してその活躍極めて多面に亘り、更に曹洞宗師家教化委員長、名古屋佛敎聯盟常務理事、免因保護委員等の要職に推される。師は宗門の教義の眞髓を極め悟徹徹底せる善知識たり。道念堅固、徳操嚴正、その高德は衆庶の崇敬措かざる所なり。謹恪温恭、廣量仁慈甚だ人を欣慕せしむること深し。宗門の爲めに貢獻する所大にして、衆生済度に己を犠牲として八方奔走し、或は後進の教導に意を注ぐと共に更に教育事業に又社會事業に活躍して、絶大なる功績あり。一面頗る勉強家にして餘暇あらば讀書研精に努め、時代の進展に關しても、一隻眼を有せり。人物圓熟して人情の機微にも通達し、經驗修業具りて、その一言人生の鑑戒と爲すに足る。因に師當歳五十三句たり。
(住所 名古屋市中區宮出町六七)

深川製磁株式會社

一ヶ年の輸出總額四千萬圓突破の我が陶磁器の海外進出は近年我が國の國際地位の向上躍進と共に著しき増加を來し、其の崇高なる美術工藝品としての眞價は燦然として輝き、世界市場に牢固たる存在となれり。就中美術有田燒の驍名は夙に知らるゝところなり。我が深川製磁株式會社はこの美術有田燒の總本家にして明治四十四年個人事業を鍋島侯其の他知名士の絶大なる援助の下に株式組織に變更設立されたるものにして、今日世界の有田燒として眞價を識られたるは、前社長深川忠治氏の偉大なる奮闘の賜にして、東京高等商業學校を卒へたる氏は、祖父の業に入るや、夙に歐米に渡航すること數回、美術有田燒の發展を圖り各國に代理店を設け、優秀無比なる有田燒の紹介に奔走したり。曩にシカゴ萬國博覽會に出品して大に得るところあり、歸朝後本格的製陶工場を設立する外、長崎に支店を設けて之が海外輸出の端を開き、兩來明治三十三年の佛國巴里萬國博及同三十七年の米國セントルイス萬國博に縣視察員として渡航、歸朝後工場を擴大して生産の高度化を計り今日に至る。其間同四十三年内省より

兩陛下御食器並に御陪食用食器の謹製調達の光榮を拜命、引續き宮内省御用達の恩命に浴し、大正五年には海軍省指定、同年には長くも大正天皇九州大演習御統統行幸の砌、松浦侍從御差遣の光榮を賜る。今や第二工場を



長社川深と都工畫社會磁製川深

建設して生産を白熱化する外、夙に支店を福岡、出張所を東京、佐賀、佐世保、長崎、熊本の各地に設置し、全面的躍進と共に斯業の爲不斷の努力を續けつゝあり。

社長 深川 進 氏は前社長故忠治氏の長男にして、明治三十一年三月十二日を以

近江喜平

て生れ、佐賀中學校を経て慶應大學に學びて卒業するや、父を助けて能く今日深川製磁會社の基礎を築き上げたものにして、昭和五年、劍道範士大藤勇治氏と共に歐米に旅行し有田燒の眞價を高め歸朝し、翌年社長に就任す。氏は學生時代より劍道選手として勇名を轟かせたる猛者にして、人格清廉、温厚篤實なる青年紳士なり、加之東京帝大出身の秀才令弟勇氏を専務兼東京出張所長として敏腕を揮はさしめつゝあり。當社今後の隆盛は正に旭日の如く、斯界の發展に寄與するところ大なりと謂ふべし。
(所在地 佐賀縣西松浦郡有田町)

石巻市を本據として、各種事業に手を伸し近時その活躍一段と顯著となりたる人を近江氏とす。氏は今より二十年前石巻に於て開口一間の丸北運送店なる微々たる事業を開始し事業界進出に著々として歩武を進む。氏頭腦周密にして事に處するに沈思默考、明晰果敢決然として決行す。剛毅不屈幾多の辛酸に屈せず奮勵し、忍苦經營あらゆる難關も毅然としてこれを克服す。苦行續行と共に事業は年と共に躍進し、東北各驛有數の大運送店とな

り、鐵道省への納金十數萬圓を下らず、全國屈指の運送業者として、その大を誇るに至れり。氏は常に服部金太郎氏の信條即ち「他人に迷惑をかけぬこと、一約束は必ず實行すること」を座右の銘として奉じ、更に自己の眞宗による信仰上の經驗を基として事業活動に没頭せり。氏の事業活動は多方面に及び、鐵道省に於ける一驛一店主義の發表に先んじて共同運輸を創設し、公認運送店實施に先立ちて倉庫を設置する等、氏の燭眼と才腕まことに俊敏卓効、人の追従を許さざるものあり。町内有志を糾合して産業の發展に力を盡し女川港開發に手を舉め、或は住宅經營植林事業に進出する等、其活躍まさに三面六臂、行くとして可ならざるはなき状態なり。氏の主たる事業を掲ぐれば、近江屋製氷冷蔵工場、石巻土地合名代表社員、石巻共同運輸取締役副社長、海上商事取締役、石巻庶民金庫監事、活動常設館東北館經營等々まことに多岐多岐に及び。因に氏は明治十六年二月住吉林七氏の二男に生れ後近江家を繼ぐ。

(住所 宮城縣石巻市鑛錢場)

神宮奉齋會京都本部

最近思想界の紛亂甚しく國體明徴の聲宇内

に喧しきに迫り、敬神興國の指標を高く掲げて西日本の教界に君臨せる神宮奉齋會京都本部の活躍は、宛然北斗の衆星の間に臨むが如き觀を呈し、刮目に値するものあり。同本部は最も古き歴史を有し、明治六年七月神宮司廳より始めて出張所を京都に設け、皇道宣布講社、結核の事に當れるを以て實に其嚆矢とし、近畿樞要の地に教會を設置し、風教に資するところ渺からず。明治三十二年九月同所解散と同時に神宮奉齋會を設立し、京都を本部とし既設各教會を支部と稱することとなり兩來官制の改革其他の事情に依り、本部及支部に幾多の改廢變更を見たが、神徳の廣大なると當局者の企畫其宜しきを得たるに由りて逐年好果を収め以て今日に至れり。同本部が斯の如き異數の發展を示せるに就ては猶其他に二三の原因を擧示するを得べしと雖も、前本部長篠田時化雄氏の功最も多きに居るや言を俟たざるところ。

故篠田翁は桑名藩の家臣にして幼時より敬神の念頗る厚く、苦學力行の末神職界の人となり、明治十六年京都本部長に就任以來六十有餘年の長きに亘り、常に敬神立國を標榜して同本部永遠の基礎を確立し、昭和十一年天壽を完うして易質したるが、其精神界に及ぼせる功績は、斯界の記録に特筆大書せらるべきものなりと信す。

本部長篠田周之 凡そ一事を企圖若くは恢興せんとするに方り、力量識見卓抜の士ありて顯著なる實績を挙げたりとするも、若し後繼者其人を得ざるに於ては所謂九叔の功を一篋に闕くの結果を將來することなしとせず。然るに同本部が幸にして現首腦者篠田周之氏(從四位勳四等)の如き人格に於て力量才幹に於て間然するところなき人材を得、教務上に進一層の好果を収むるに至れるは實に同本部のためのみならず、實に我が精神界のために慶祝すべきところなり。氏は福井縣本郷の人、餘知命を越ゆる僅に二三、教界の人として猶春秋に富めり。郷里の學堂を出でて京都一中より第三高に進み、同校在學中篠田家の養子となり、帝大文科を卒へてのち京都府屬として學務部社會課に勤務したるが、官場は久戀の園にあらずとして育英界に志し辭して東京府立第四中學の教諭となり、大正九年國立高等學校の増設さるゝや選ばれて佐賀高等學校教授に轉じ、在任實に十六年の久しきに及び、昭和十年三月岳父の後を承けて現職を繼ぎ、精華高等女學校長を兼ね以て今日に至れり。

(所在地 京都市下京區寺町四條下ル)

會社重役

保田宗治郎

我國運の隆々たる勃興は、萬邦無比金匱無缺の國體を有し、申すも長きはみながら、上御一人の御稜威に依るは云ふまでもなく、下國民に於ても朝野を擧げて國勢の伸張を圖り俊英の士賦翼の才腕を揮ひて幾多新事業を創始し、以て國力の増強に寄與せる功績又夥しとせず。近年の我經濟界の顯然たる進展に依りて、數多の新興事業開闢生したるが、就中舊日本産業株式會社の如きは、既成大財閥の牙城に迫らんとするの業勢を示したり。氏は日産事業開闢指の剛將にして其才幹は事業界に多大の推服を受くる所たり。氏は夙に東京外國語學校及び臺灣協會專門學校を卒業して、明治四十一年南滿洲鐵道株式會社に入社す。撫順炭礦或は滿蒙方面の鐵山の業務に携り、眞熟熱誠その職に刻勉して、大いに手腕を發揮せり。その題材を認められ、簡拔せられて山本鐵道管理部長として派遣せられ、溜川炭礦採掘並に販賣に従事して多大の功績あり。而して後ち久原鐵道株式會社に轉じ、馬來半島及ボルネオに渡航し、炭山鐵等の開發に従事し、同社の爲めに貢獻せる所鮮少なからず。踵で九州の炭礦王貝島家より聘徵せられて同

家の爲めに活躍することとなり貝島石炭礦業株式會社取締役を擧げらる。續いて日本産業株式會社より招かれ、同社の樞機に參畫し、豐富なる經驗と該博の蘊蓄を傾けて、同社の發展に寄與せし所甚大なるものあり。曩に日本産業取締役兼調査部長の要職に推され、現に山田炭礦、宇部鐵業各會長、日産化學工業事務取締役、中央土木取締役その他幾多の重役に列して才腕を揮へり。氏は頭腦まことに明晰にして、事業界各段の事情に精通し、その經驗また頗る他面に亘り、材器は砥礪せられて非凡の才腕を具へ、眞に練達堪能の士たり。氣格俊敏にして意氣豁大、高邁なる識見と遠大なる抱負を有し、財界稀に見る偉材たり。資性温恭謹恪、品性又清高にして名利に甚だ恬然として、他面人情の機微に通じ、寛大にして敦厚、後進の指導に力を盡くして衆庶より師父の如くに敬仰せらる。因に氏は明治十二年十一月山梨縣人保田宗治郎氏の二男として生れ、後襲名せり。嚮に正七位勳七等に叙せらる。

(住所 東京市澁谷區代々木初臺町)

株式會社 安田銀行

本邦事業界に不拔の業陣を布ける安田王國

を背景となし、業礎牢固として動かす、金融界に馳驅して絶大なる指導力を有し、我國私立銀行の先驅としてその歴史に於て、その信用に於て斯界に並ぶものなきが我安田銀行なり。抑も當行の沿革はまさに我國近世金融界の發達史にして、元治元年三月安田家の始祖安田善次郎翁幾多の辛酸を経て、蓄積せし金二十五兩を資本として、日本橋區乘物町にさゝやかなる兩替店を開きしがその淵源たり。慶應二年小舟町に轉じて幕府の御用を勤むることとなり、茲に至りて善次郎翁の燭眼大いに芽え、迅速に商機を把へて逸するなく、古銅、古金銀の買占めに依りて巨利を博し、安田家の基礎は之に依りて築かれるに至れり。明治維新の際の經濟界混亂の爲めに兩替店の倒産續出せしも、安田商店は愈々大を成し、兩替取引多大に殷盛を極めたり。明治五年銀行條例發布せられて、第一國立銀行の創立を見、同八年條例の改正に依りて私立銀行の設立可能となるに及び、翁は率先して第三銀行を創立し、次いで十三年には安田兩替店を安田銀行と改稱、資本金二十萬圓の會社として經營を始め、我國私立銀行創始者たるの尊耀たる榮譽を擔ふに至れり。我國一般産業界の發展と共に當行は年と共に躍進し、金融界を縦横に馳驅して我國事業界の發展に貢獻する所多く、斯界の重鎮として隆々たる盛況を呈

することゝなれり。明治四十五年一月時代の進運に副ふべく業務に一大刷新を加へて、株式會社安田銀行として改組をなし、資本金も一千萬圓に増額して、堂々金融界に覇を伸すに至れり。大正七年四月には二千五百萬圓に増資し、同十二年八月安田系十一銀行を合併して、資本金は一億五千萬圓の巨額に達して、業界に不抜牢固の覇權を確立し、我國經濟界の覇者として今日に至る。顧みるに僅々半世紀を出ること若干にして世界銀行史稀有の驚異的發展を遂げて、凡百の事業は舉つて當行の威力に跪坐し、銀行界の最高峰として斯界に君臨し、事業界の發展の爲めに、日々絶大なる寄與をなすつゝあるは、まさに全世界を驚倒せしむるに足らん。當行は安田王國直系事業中のナンバーワンにして、その支店數百二十六、出張所數十二を算し、全國的に廣大なる營業網を張り、その關係銀行には日本晝夜銀行、第三銀行、大垣共立銀行、十七銀行、肥後銀行、四國銀行、九十八銀行三十六銀行、正隆銀行等の有力銀行あり。財界の如何なる變動にも微動だにすることなき鞏固たる基礎を誇り、毎期決算に於ても多大の好成績を挙げつゝあり。昭和十二年十二月末現在の業態を見るに、法定準備金四千六百五十萬圓、法定積立金二千四百萬圓を有し、更に各種預金合計十億八千六百六十七萬一千

圓、諸貸付金合計七億一千二百八十五萬八千圓に上り、又十二年下期に於ける手形割引高七億九千八百六十五萬二千圓に達し、期末所有價證券三億三千一百五十九萬二千圓となれり。十二年下期末決算に依れば、總收入三千九百六十一萬五千圓、總支出三千七十六萬二千圓となり、差引當期利益金八百八十五萬三千圓を擧ぐ。右利益金中より四百四十萬圓を各種の償却に當て、法定準備金に一百萬圓、行員退職手當基金に四十五萬圓をそれ〴〵計上し、株主に七分の配當をなせり。時局の重大化と共に、金融界に指導的地位を占むる當行の任務まことに重大なるものがあるが首腦部は國策の線に副ひて、我國金融界の安定と、事業界の生産力擴充の爲めに惜むなき助勢をなして、躍進日本の時局突破に貢献なしつゝあるは注目なすべきなり。當行の重役には當代一流の人材網羅せられ、俊秀の實務家として卓抜なる手腕として、何れも鏘々を以て稱せられ、その堅實にして國家本位の經營方針は夙に江湖の敬服を受くる所なり。重役陣は、取締役頭取安田一、取締役副頭取藤廣藏、常務取締役岡部清、同濱田勇三、同齋藤順三、取締役安田善五郎、同前田利定、同川崎清男、同藤崎四郎、同宮崎繁三郎、同安田楠雄、同安念精一、常務監査役岩瀬恒太郎、監査役川西清司、同安田彦四郎の諸氏あり。

取締役副頭取 廣藏 頭腦敏密にして俊敏萬才、その卓効の才腕は金融界に令名噴然たり。鳥取縣森甚十郎翁の三男として明治六年二月を以て生る。同三十年東京高商を卒業して直ちに横濱正金銀行に入り、上海、牛莊、倫敦各支店に歴勤し、頭才を認められて神戸支店支配人、倫敦支店副支配人に擧げられ、後懇望せられて臺灣銀行に入りて取締役副頭取となり、更に頭取に推される。昭和四年に至りて安田銀行より招聘せられ、同行副頭取に就任して今日に至る。傍ら合名會社安田保善社理事、安田ビルディング會長、安田信託、三井信託、九州電力、熊本電氣、淺野セメント各取締役、日本無線電信、東京興信所各監査役、滿鐵監事、日本銀行參與等に推されて財界に重きをなせり。夙に東京手形交換所理事長の要職に選出せられ、金融界を八方馳騁して多大の貢獻あり。資性溫恭謙遜にして質實堅確、名利に超脱して人格甚だ清廉にして、財界に多大の信望あり。我國金融界の耆宿として衆庶に絶大なる崇敬を受く。
(所在地 東京市麹町區大手町)

株式會社 山文商店

資金の運用利殖の手段たるものに、郵便貯

金、銀行預金、乃至地所、家屋等の不動産、或は株式公社債等の有價證券その等幾多の方法を擧げ得るも、數多の有利なる特徴を具備する點に於て有價證券投資に優るもの他に非ざらざるなり。即ち、有價證券投資は利殖に於て郵便貯金、銀行預金の利子を遙かに凌ぎ、意のままに賣却なし得るを以て現金に等しく之を擔保として容易に資金の融通を受くるを得。而も現今の如く、貨幣價值の低下なしつゝある際に於ては之が價值低落に因る損失を蒙むる危險の少きこと等、その特徴を一々列擧するの煩に堪へざるものあり。斯る有利なる特質を具ふる有價證券投資も之れには又種々なる専門的知識を必要とし、更に取引店に就きても、充分なる選擇を要するは言を俟たざるなり。然るに當山文商店は大量の投資相談所として、懇切鄭重に顧客の有價證券買賣の辨察をなし、その經營方針甚だ堅實を極め業礎又頗る鞏固にして、何人も安じて之が取引一切を委託して誤りなき商店たり。當店は東京株式取引所々屬の長期取引、短期取引、實物取引、國債取引の各取引員にして、その堅實無比なると内容の充實せるとを以て業界に多大の名聲を博し、商況又頗る殷盛を呈せり。大正十五年四月東京株式取引所短期取引員の免許を得て開業し、昭和八年一般取引員の免許を受け、翌九年十二月組織を變更して資本金一百

萬圓の株式會社となし、次で二百萬圓(拂込百五十萬圓)に増資して今日に至る。當店は調査機關を特設して世界經濟の動向、證券市場の大勢、各種銀行會社の内容調査を爲し、數多豊富の資料を有せり。顧客の有價證券買賣に關する一切の質問に關しては、懇切に説明を與ふるが故に、如何なる種類の有價證券に關しても、詳細なる知識を得られ證券投資に資産の運用に最上の指針として、之を利用するを得べし。斯様に當店は他店に見ざる内容の堅實なると顧客に對して洵に親切至らざるなき所より多大の好評を博し、毎期の業績頗る好成績を擧げつゝあり。即ち昭和十二年下期には十四萬七千圓の利益金を擧げ、一割配當を爲せり。勿論當店の經營方針は單に利益の多きを目的とせざるものに非ず。顧客の利益の多からんことを念頭となし、之が爲めに細心周到の配慮を費しつゝありて、この點又顧客に了解せられて、絶大なる歡迎を受く所以とす。

取締役社長 武田 次七 頭腦敏密にして才略縱橫、その裁斷流るゝが如く、商機を把へるに應の如くに敏捷にして、斯界錚々たる材として衆庶の景仰を受くるが武田氏なり。氏は又玲瓏玉の如くに練達せられたる人格者にして、その舉措悠揚迫らず、磊々落落、疎

々々々々。名利に超脱して小事に拘泥せず、仁情に厚くして好んで人の難に赴き、氏の盡きせぬ温情に浴して救恤せられ、或は斡旋を受けし者數算なく、その高風慈父の如くに欽慕せらる。氏は明治十四年一月武田次郎八氏の二男として静岡縣新居町に呱呱の聲を發す。神奈川縣成美小學校に學び、四十二年一月横濱取引所仲買人廣瀬商店に入る。氏は若くして甚だ機敏にして、孜孜として業務に淬勵し夙起晩寢して諸般の事業の研修に意を注ぎ、既に儕輩と大いに異なる所あり。後更に萩原保太商店に轉じ、銳意奮勉砥礪し、倦むことを知らず。且暮精進して多大に其銳鋒を現せり。氏はその快手を兜町の檜舞臺に於て伸長せんと欲して後東京米穀商品取引所仲買人平井文三商店に入る。天賦の英才に遺憾なくその光采を放つに至り、商戰劇甚を極むる角逐場裡を縱橫に飛躍し、その獨創の商陣常に人の意表に出で、炯眼常に商況の前途を人に先んじて看取する等、氏の存在はまさに業界の明星の如くに赫耀たるものあり。平井文三商店總支配人として大いに名聲顯然たるものありしが、大正十五年四月東京株式取引所短期取引員の免許を受け、茲に始めて株界に進出するに至れり。多年砥礪せられたる才腕は一段と光輝を發し、氏の眞摯熱直の努力と相俟つて事業は日覺しく發展を告げ、業陣日を選ひ

事業家
今岡正一

氏は中京事業界第一線に於て活躍し、その手腕を以て命名高し。夙に大垣中學校を卒業後、舞鶴海軍工廠補習科に入る。大正元年以降、同廠造船部工務課、造船部工務課等に勤務、その間貴族院議員造船中將大久保立氏、造船



今岡正一氏

中將齋藤真氏等の指導を受けて、人格の修養並に技術の鍛錬に研鑽したりしが、氏の率直にして眞摯、且つ勤勉にして誠實なる資質はよく磨かれて後日の大成に資する所妙しとせず。幾何もなく京都府會議員柳川龍兵衛氏に囑望せられて、大正七年今岡家の養嗣に迎へらる。翌八年帝都土木建築界に於て重きをなせる東京芝區所在日本工業合資會社に入りて機械部主任の重責を託せらる。氏は日夜研究

に没頭して種々と新技術の採用に苦心し、斯くして以て幾多の創案實現せられ、機械を應用せる土木工作は、逸早く斯界の注目を引く所となり、俄然氏の名聲は高まる。爾來重要工事は殆んど氏に委ねられるに至り、揖斐川電力第二發電所、日本發電瀬戸發電所、東京電燈新倉發電所、岐阜電力上麻生發電所、鐵道省高山線等の大工事は何れも主任となりて大いにその手腕を發揮せり。その間に於て同社の姉妹會社たる大和サツシュ株式會社の常務代理として、業務に大刷新を加へ、業績向上に心血を注ぎしに依り、瀕死の状態にありし社運は恢復し更生を全うし得たるを以て氏の手腕は愈々高く評價さる。その他幾多の功績を残してその存在は業界に牢固たる地歩を獲得す。昭和七年名古屋市栗田製作所の懇切なる要望を受けて、同社の専務取締役就任す。従来の經營方針を一新し、内容の改善と業務の改革に力を盡してまさに快刀亂麻の手腕あり。斯くして名稱も金城巖製鐵株式會社と改め、同社の根本的再建に成功す。爾後社運更らに隆昌に向ひ、内外の信用高まりて業績一段と向上し、氏の盛名赫々たるものあり。最近同社は一舉百萬圓の大増資を斷行して生産設備の大擴張を行ひ更に時局に鑑みて新たに軍需品製作部門を確立して一大飛躍を遂げんとせり。尙昭和十年十月には岐阜

て擴大せられるに至り、斯界は飛昇日進して氏の躍進に驚愕せり。即ち昭和八年一月東株一般取引員の免許を得、翌九年十二月には組織を變更して、資本金一百万圓の株式會社山文商店となし、氏は推されて専務取締役となり、社長平井文三氏を輔佐して社業の發展に盡瘁せしが、後平井社長の衣鉢を襲ひて取締役社長となり、次いで資本金を二百萬圓に増資し、その業績の顯著なる向上には業界の矚目する所となれり。斯業に關する該博なる蘊蓄と豊富なる經驗を有し、斯界の鬼才と稱せられて、その名聲噴然たるものあるが、他面に於て氏は業界稀れに見る濃厚謙裕の人格者にして、心性頗る潔白なるを以て多大の信望あり。氏は極めて無慾恬淡の人にして、顧客の利益するを見て無上の喜びとなし、或は部下の指導誘掖に力を注ぎてその立身の爲めには如何なる支持をも惜しまず、又業界の發展の爲めには多忙の時間を割きて奔走する等、氏の清高なる心情何人も崇敬を拂はざるはなし。業界屈指の徳望家にして、世人より深く畏敬せらる。氏は當社を総理する傍ら、推されて共同電氣取締役社長たり。尙ほヨシ子夫人は明治十五年、神奈川縣に生れ、内助の功高く、賢夫人として令名四隣に周し。

(所在地 東京市日本橋區兜町一丁目)

縣有力財閥と共にナカノジヤアントモータース株式會社に參與し、後同社販賣部を分離獨立せしめてモータース販賣株式會社を創立して専務取締役に就任す。同社も又氏の才腕に依り頗る好成績を挙げつゝあり。今後の活躍は多大に期待せらる。因に氏は明治二十七年二月、岐阜縣大垣市吉村家の二男として生る。趣味は野球に關し、就中菊の栽培は最も得意とする所なり。

(住所 名古屋市熱田區東町横田四五)

新潟荷役株式會社

新潟市は各種物産の集散地として、或は又交通の要地として、近時商工業頗る發展を加へ、全國各地よりの人の往來繁く、市街頗る活況を呈して多大の繁榮をなせり。新潟荷役株式會社は新潟港に於ける石炭、コークスの荷役業を営みて甚だ盛況を極め、新潟事業界に牢固たる地盤を有せり。近來新潟港背面地帯に於ける各種工場の新設相次ぎ、これが爲めに原料製品の荷動きは日を送りて激増を見つゝあり。殊に新潟港は滿鮮方面との交通の要衝地となりたるを以て、日滿鮮の通商關係の發展に伴ひて、當社は多大の好影響を蒙るに至れり。その主たる取扱貨物は石炭、

コークス等にして、その數量は年月と共に著増し、社運隆々として勃興せり。現時資本金二十四萬圓にして、毎期頗る良好なる成績を擧ぐ。新潟商工業の發達、滿洲國諸産業の勃興と北鮮開發の進展に依る滿鮮通商關係の發展等當社の前途には幾多の好材料あるを以て今後の躍進大いに期待すべきものあり。尙ほ當社が兼に新潟臨港株式會社その他と相圖りて創立せる新潟上屋倉庫株式會社並に當社の出資八割に及ぶ新潟運送株式會社は、近時業績好轉して當社の収益増加に資する所妙しとせず。因に當社の重役は左の如し。専務取締役藤田儀平、常務取締役小林誠彌、取締役敦井榮吉、同中野四郎太、同村田三郎、監査役川上十郎、同幸田慶三郎の諸氏とす。

専務取締役 藤田儀平 新潟市材木商組合長、新潟縣製材同業組合長の要職に就き、新潟商工會議所の副會頭に推選せられること二期に及ぶ氏は、新潟財界に赫々たる聲望あり。中正妥當にして理路整然たるその言説は多大の重きをなせり。高義清節の士として推重せらる。

常務取締役 小林誠彌 港灣に關する蘊蓄頗る該博にして、今日まで新潟港の發展に寄與貢獻せる所絶大なるが氏なり。資質温醇

濃厚氣格俊逸にして才氣煥發、新潟財界に八方馳驅して名聲甚だ高し。曩に魚沼鐵道、栃尾鐵道等に關係して才腕を揮ひ、續いて新潟健康會事務に選任せられ、後同社が新潟臨港として改組せられるや常務に推され、溥勳刻勉して多大の實績を擧ぐ。當社の設立せられるに及び、常務として社務を執掌し、天簫の手腕を示して當社今日の發展を齎せり。新潟事業界の重鎮として深く欽仰せらる。新潟荷役常務たるの外新潟臨港參與、新潟運送専務、新潟上屋倉庫常務、新潟合同自動車取締役等の要職にあり。

(所在地 新潟縣中浦原郡大形村河渡新田)

會社重役
森 輝

本邦事業界に確乎不拔の基礎を築き、業運旭日の如くに勃興なせる新興財閥の森輝コンツェルンの主宰者森輝氏の名聲洵に顯然たるものあるが、氏の令弟森輝氏は令兄の良佐として樞機に參畫し、眞摯熱直業務に没頭して大いに業績を擧げ、俊英の智能と卓犖の才腕世人の敬重を受けること又多大なるものあり。森輝氏は明治二十九年四月千葉縣人森爲吉氏の二男として呱呱の聲を發す。幼少より聰敏にして學を好み、才學業に拔んづ。擔費

を優秀の成績を以て卒業し、後早稲田大學文科に入る。大正八年同校を卒業するや直ちに二六新報に入社して操縦界に於て大いにその才腕を發揮せり。傑出せる文才に時流を抜く萬敏の眼識は同社に於ても多大の異彩を放ち前途を大いに矚目せられたり。然るに氏は内に澁刺たる霸氣を藏し、鬱勃たる熱情ありて操縦界の天地に於て躊躇するに堪へず、鵬翼を事業界に於て伸べんとして大正十二年山縣製本印刷會社に入りて常務取締役就任す。印刷事業に於て氏の天稟の才腕始めて發揮せられ、早出晩退して業務に耽勉し、同社の事業は大いに躍進を見るに至れり。後令兄森島視氏より招かれて森コンツェルンの経営に參畫することとなり、各種の事業に關係して、その手腕一段と砥礪せられ、俊敏の智能愈々精彩を加へ、嶄然事業界に頭角を拔んで、名聲大いに揚れり。氏は頭腦緻密にして周匝犀利、素志甚だ確く渾動刻勉して業務に盡瘁し格勤精勵して他事を顧みず。機を見ること頗る敏にして、その才略又縱橫秀技の手腕を揮ひて獨創の業陣を布き、森コンツェルン屈指の俊魁として重きをなせり。資性温順謹厚、器局壯大にして磊落恬淡、心性高雅にして頗る清廉の人格者たり。襟度広く抱擁力に富み部下の指導誘掖に努め、部下より師父の如くに景仰せらる。現に東京商工會議所議長に選

出せられ、朝鮮鐵業、大江山ニツケル鐵業各代表取締役、昭和鐵業、實城興業各常務取締役、樺太炭業、昭和人絹、昭和産業、石原産業海運、富栖金山、森興業各取締役、日本火工、日本電氣工業、日東鐵業汽船、早山石油各監査役等の要職にあり。意氣奮達少壯放腕の前途洋々たる事業家にして、將來大いに驥足を伸すに至るべし。
(住所 東京市王子區稻付町四丁目)

日本車輛製造株式會社

事業界の顯著なる活況、滿洲國の輝しき成長等を受けて、車輛工業界近時の盛況には眞に目覺しきものありて、事業界の耳目を聳たしむる所なるが、斯界の彩華としてその規模に於て、將た又其製品の優秀なるに於て群技を以て稱せらるゝ當社が、社業飛躍に次ぐ飛躍を以て躍進を呈せるは何等異となすに足らざるべし。當社は業界に翺を唱ふる事久しく其製品頗る多岐に亘り各種機關車、客車貨車、電車、ガソリン・デイズル客車、自動車(アツタ號)、轉轍器、橋梁、鑄鋼、鑄鐵品、その他鐵道用品一式に及べり。多年の研究に依る技術と最新式精銳設備に依りて製品は他社の追従を許さず、好評噴然たるものありて、需要發到して之れに應ずるを得ざるの盛況を呈せり。その創業は明治二十九年八月資本金五十萬圓を以て創立せらる。爾來躍進の一途を辿り、相次いで増資せられて現時資本金一千萬圓(拂込七百五十萬圓)の所、今回倍額増資決定す。工場は名古屋市外、埼玉縣蕨に廠工場、朝鮮仁川に仁川工場あり。仁川工場は最近新設せられたるものなるが、朝鮮鐵道局よりの註文殺到して早くも設備の不足を感じ、今後更に一大擴張をなし、管に貨車の組立のみならず、將來は一般機械の製作にも手を染むる方針なりと云ふ。當社の主たる需要先は鐵道省、滿鐵、私鐵等にして、近時事業界の活況に依りて需要大いに激増を見るに至りしが、今後國鐵の積極的車輛改良、滿鐵、朝鮮鐵道局等よりの新規需要、或は北支、中南支の明朗化に伴ふ該方面よりする注文等期待せられ、將來の發展期して俟つべきものあり。尙ほ投資會社に大連機械製作所、同和自動車工業等ありて、昭和十二年上期末現在に於ける投資金一百九十九萬六千圓に上る。何れも業績多大の好調を呈し、當社の収益に資する所鮮少なからざるなり。每期四割内外の利益率を擧げ、一割の株主配當を行へり。昭和十二年下期に於ては前期に比して十萬圓の増益を見て一百三十七萬六千圓の利益金を擧げ、利益率三割六分七厘となれるも、

手堅く一割配當を踏襲せり。毎期多額の利益金を内部に保留せるに依り、資産内容極めて堅實たり。經營の多角化に力を盡くす方針なるを以て、今後の躍進には刮目すべきものあり。尙ほ重役には取締役社長三瓶勇佐、副社長秋山正八、常務取締役岩垂拾三、取締役三輪喜兵衛、同門野重九郎、同後藤英一、監査役青柳一太郎、同龜山佛吉、同天野文司の諸氏あり。

取締役社長 三瓶勇佐

氏は資性温順謹恪にして人格清高、襟度宏くして抱擁力に富み、温情滾々として盡きせず、眞に拘すべきものあり。思慮圓熟して德操甚だ堅く、その洩らす一言よく鑑戒となり、その行ふ一行よく人生の典範となりて、世人より多大の崇敬を受く。部下を愛撫し、後進の指導に力を盡くし、困窮せるものには常に救恤の手を差伸べて人の轉旋に努め、その濼容に接する者何人も慈父の如くに敬仰せざるはなし。氏は夙に横濱英語學校に學び、後雄圖を事業界に伸ぶることとなり、事業界裡を八方馳騁す。ジャーデンマゲソン商會を代表して臺灣に赴き事業經營に當りて大いに才腕を揮へり。それより後農商務省實業練習生に選ばれ、米國へ留學す。コロンビア大學に入りて殖民政策を研鑽し、多大に新知識を得て歸朝し、野村組

に入りて支配人に擧げらる。風起晚寢して業務に洋勵し、秀技の才腕を發揮して非常なる成績を擧げ、その貢獻せる所多大なるものあり。次いで日本車輛製造株式會社に入り、推されて社長となり、眞摯熱誠社業に傾倒し、内容の整備充實を圖ると共に獨創の業陣を布き、勤勉砥勵して縱橫に活躍し、遂に現時見るが如き輝耀たる社業の發展を達成するに至れり。頭腦明晰にして博學多識、その蘊蓄頗る該博にして、識見又高邁たり。腹中遠大なる經綸を抱き、その認識は時流を抜き、思索なりて筆をとれば立所に經國の大論策成りて警世の大文字世人や奮起せしむ。その名著に「太平洋の優越者」、「政治の八面觀」を始め數多あり。傍ら大連機械製作所取締を兼ね、まことに我財界出色の偉材にして衆庶の瞻仰を受くること厚きは故なしとせず。明治四年九月宮城縣士族三瓶盤翁の長男として生る。
(所在地 名古屋市熱田區東町)

事業家

岡部亭藏

九州一圓に名聲冠たりし吉田磯吉氏の輩下を振出しに、隆々今日吉田氏を凌ぐ者に、岡部亭藏氏あり。氏の傘下に集まる者今や無量數千飛ぶ鳥を落す程の勢力あるは何に起因す

るや。云はずと知れた氏の高邁なる人物に外ならず、知遇を求めて集まる者、其の後を断たざる地下に眠る天下の次郎長清水を髣髴せしむものあり。此の天馬空を行くの勢力者、岡部亭藏氏の今日あらしめし過去の活躍こそ一巻の血涙奮闘史に編まるべきものあり常人の到底成し得ざるものと云ふ外なし。志を樹て、若松に出で吉田磯吉氏の傘下に參じたりとは難、氏の大威の糸口は只努力あるのみなりき。乍然生來の氣性は争ふ餘地なく、強きを挫き弱きを助く義侠的精神は、歩一步と確然たる地歩を築き數年を出でずして、親分吉田磯吉氏の注目する處となりて此處に果然、名聲を擧ぐに至りたるが、素より官途に於ける榮進と異なりて、其の間の辛苦亦絶大なり。氏克く難業苦道を克服し得て、努力請負業共同組を組織し、之れが社長となり茲に始めて世人の認識を得たり。

偉大なる氏の風骨は巷間に知悉せられるに至りて、同市市會議員に推されて當選す。過去十數年間市會議員たる職責を省み、同市々政改革の爲心血を注ぎたる努力は遂に參事會員に互選せられて、名實共に強固不動の地位を得るに至れり。

當世稀に見る義俠家にして、恰も清水次郎長に彷彿たるものありて、熱ゆるが如き正義觀、公共的個人的たる問はず、水火を辭せ

ざるの義侠心、誠に偉大なる材器と云はざるべからず。嘗て昭和五年、若戸丸沈没の際、遭難者救護に死體捜査に、輩下を激務晝夜兼行の活躍を爲せるは、冷く世人の記憶に新たなる處、以て氏の一面を窺ふに充分なり。

無名一介の勞働階級より身を立て遂に今日の地位を獲得し、當地方比肩する者なき威望を有するに至れる氏の生涯こそ、又立志傳の第一頁を飾るに足らん。國家の前途益々多事多難、憂慮禁じ能はざるの秋、義侠的精神に依りてこそ、此の難事を始めて克服解消なし得るものにして、氏に期待するもの亦多大なるものあり、自愛の上益々邦家の爲健闘されんことを祈りて罷ます。

(住所 福岡縣若松市四番町)

森永製菓株式會社

終始一貫堅實主義を持して遂次異様の業績を挙げ、躍進に次ぐ躍進を以てし、信用漸次博大して販賣地盤鞏固たること無双、今や斯業界最古の業歴を誇示する斯界の元老的存在たり。嚮に支那事變勃發するや、逸ち早くその錯錮たる賁祿を示すに製品過程の再検討を爲して、各製品の質的に更に利益を度外視しての精製に努力し、以て「製菓報國」を達成

して感望更に噴々として四春を週照するの勳あり。

凡そキャラメルといへば、直ちに當社を聯想せられるが如く、森永製菓の名は廣く人口に膾炙し、如何なる山間僻處に至るも當社製造の菓子を見ざるなき有様にして、少年少女より慈母の如くに親まれ、斯界の彩華として廣く世上に馳名を馳せり。その創業まことに古く、明治三十二年森永太一郎翁米國より歸朝するや、直ちに東京赤坂溜池に於て小工場を設け、森永商店と號して西洋菓子の製造を創始せしがその濫觴たり。翁は拮据困勉して經營に當り、夙起晩寢して多大の努力を傾注したりしに依り、事業は目覚しき發展を遂げ明治四十年には芝罘田町に工場を設け、次いで四十三年之を株式組織に改めて資本金三十萬圓の森永製菓株式會社に生誕す。爾來社運歴年興隆し、數次増資を経て現時資本金一千萬圓、拂込資本八百五十萬圓たり。工場を東京、鶴見、塚口、大連、三島、福岡の各地に設置し、その規模の大なること世界有數の大製菓會社として知られ、その躍進は業界の驚異とせられる所なり。尙ほ附帶事業に於ても各方面に進出し、大正六年製菓原料の自給自足を旨として乳製品の製造を創め、昭和五年ミルトブランドを設け、東京横濱兩市に於て業界第一位たるの地歩を占む。又大正十二

年丸ビルに我國最初の試みとして最新式設備と經營法とによる直賣組織のキャンデーストアを開設し、多大の好評を博せり。次いで全國に三十に近き直賣店を開設して多大の盛況を見つゝあり。最近に至りては果汁飲料、果實の罐詰及び紅茶、珈琲その他家庭食品類の新方面にも進出して何れも好成績を擧ぐ。以上の事業は附帶事業の域を脱し、森永煉乳、森永キャンデーストア、森永食品工業、昭和煉乳其他山城製茶、新潟製菓、八丈島煉乳等の各社の經營下に屬し、當社の統制下に益々發展過程を進れり。その投資額は三百十五萬五千圓に達し、當社の収益に資する所多し。當社の製品はキャラメル、チョコレート、ドロップス、チウインガム、ビスケット、ウエハース、ビスその他數多の種類ありて、風味佳良たると共に新鮮にして榮養に富み、多大の讚辭を受く。賣行きは年を遂ひて著増し殊に支那事變勃發以來代用食ビスケット類の需要殺到し、又キャラメルの如きは出征兵士慰問品として需要激増せり。海外輸出に於ても滿洲、北支方面頗る良好たると共に、その他に於ても順調を進れり。

十三年上期に於ける製品賣上高は待望の一千万圓を突破すること實に百八萬一千圓に達し正に記録的賣上を現出せり。當期總收入金一千百二十一萬六千圓に對し總支出金一千二

十萬圓にて差引九十一萬五千圓の利益金を計上、年八分配當を餘裕裡に行へり。前期に於て一分増配の七分分配當を行ひしが更に一分増配を斷行せり。利益金處分割合は社外分配三十二萬二千圓、社内保留五十九萬三千圓にて利益金の六割五分を社内保留し、償却金も此處二十萬圓たりしを三十萬圓に引上げる等躍進實に目醒しきものあり。而も子會社たる森永キャンデーストア、同煉乳、同牛乳、同食品工業各社亦頗る順調にして全森永の十三年上期總賣上高は實に一千七百十六萬六千圓に達せり。更に今期は一段と成績向上を期待され、恐らく全森永の今期賣上高は一千八百萬に達するならん。

因みに重役陣に以下の諸氏列せり。社長松崎半三郎、常務大申松次、同辻清次郎、取締役男爵益田太郎、同中村芳三、同白川順一、監査役武智直道、同櫻井小一の諸氏。

社長 松崎半三郎 溫篤謹厚にして品性清廉、思慮練熟して操守甚だ堅固なるを以て財界に信望頗る高し。明治二十九年立教大學を卒業し、同三十六年森永商店に入る。犀利緻密の頭腦と勤恪熱直の資質を以て多大の信用を得、三十八年同店支配人に擧げらる。眞摯經營に没頭し、群抜の才腕を示して森永商

店の發展に寄與する所多く、四十三年株式會社に改組と共に専務取締役に推さる。次いで昭和十年社長に就任せり。尙ほ日本食品工業南洋貿易信用 森永キャンデーストア、森永牛乳各社長たるの外、幾多の重役として列し、事業界に重きを爲せり。

庶務課長 眞田 武 資性冷頭快手にして然も義氣を藏す。常に機を見るに敏感にして業務の刷新、内外の接衝に人心の融和に、所謂八面六臂の才幹たり。現社長松崎半三郎氏の欽仰すること深厚にして、社の爲、社長の爲には身命を賭するに辭せざる底の熱腸漢なり。且暮格勤十年一日の如く、當社今日の盛業に資する亦多大なるは社内外の齊しく認むるところにして、全従業員より慈父の如く敬慕されつゝあり。

(所在地 東京市芝罘田町一丁目)

實業家 水谷藤太郎

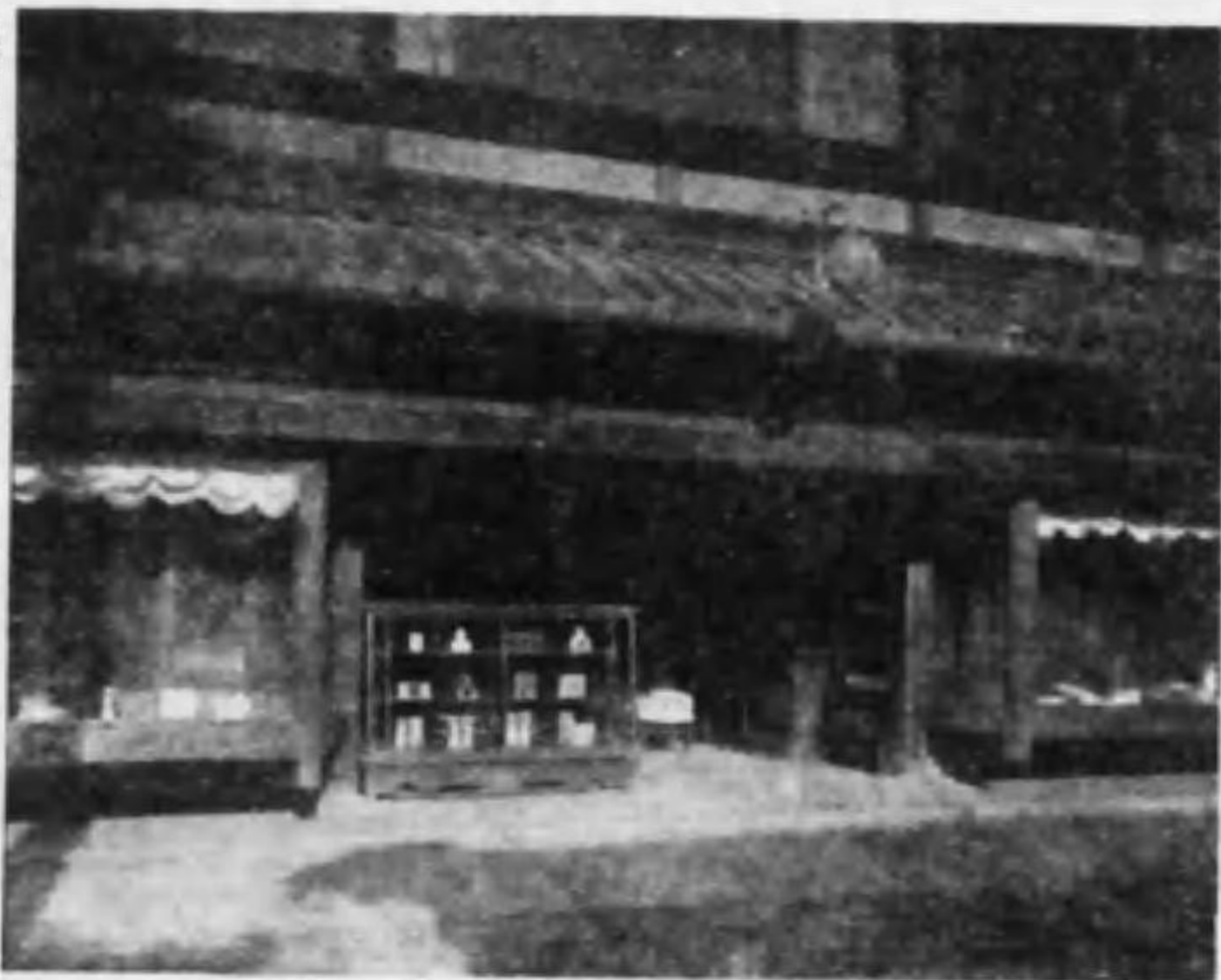
羅紗卸商として東海地方に覇を唱へ、鬱然たる勢力を有するが水谷氏なり。羅紗卸商を營む外關西整絨所取締役に列し、尙ほ名古屋羅紗同盟會々長、名古屋羅紗商業組合常任理事、商業組合全國聯合會監事、日本羅紗商協會役員等の重職に就き頗る聲望あり。氏は名

古屋市水谷美之助翁の長男として明治二十九年二月名古屋市に生る。夙に名古屋商業學校を卒業し、後先代の業を繼承す。嚴君美之助翁は安政四年生れにして、美濃羽島郡上中島村の出身たり。若くして名古屋市東區研屋町河原彦兵衛商店に業務見習として入る。勤直にして又頗る商才あり。店主に認めれて後、同店の總支配人に登用せらる。明治二十一年獨立して洋服古着商を經營し、同二十八年羅紗商に轉ず。奮勉砥勵して事業に全力を盡き春風秋雨多年の活躍は遂に今日の大を成すに至れり。齡八十歳に達せるも壯者を凌ぐ慨腕ありて現在家督を令息藤太郎氏に譲りて、悠々自適の生活に入る。藤太郎氏は溫厚實實の人にして、事業には熱誠を籠めて當り、又頗る商才に富みて家業愈々盛大を極む。尙ほ業界の爲めに献身的に活躍して寄與貢獻する所大なるものあり。その圓滿なる人格と幾多の功績により、業界に多大の信望を集め、牢固たる地盤あり。前記の如き公職に推され、東奔西走して席の温まる邊なし。令弟安平、貞治の兩氏を事業經營の相談相手として、東京大阪方面の一流商店と取引をなして商況甚だ殷盛たり。現在使用人數十人に上り、協力一致して事業の發展に盡瘁す。中京に於ける有數の羅紗商として家道愈々榮ゆ。

(住所 名古屋市西區御幸本町三ノ一二)

駿河屋總本家

古來隨一の茶葉たる羊羹の起原は往古支那に於いて回教の料理として用ひられしものにして、所謂佛教徒の精進料理として用ひしものと傳へられるが、亦一説には洛陽の人重陽の節羊羹餅と稱するものを副食物として食せしが其味尤も美味なりし爲、其型を後世に傳へんとし種々苦心の結果羊肝と稱するものを造り、後世羊羹と誤記されて傳へられしものと謂はる。其起原の如何を問はず由來羊羹は總て上流家庭の茶葉として用ひ來れるものにして、京都に於ける古き業歴を有し、羊羹製造業として京名物の最高權威として其名を知らるゝ駿河屋は、豊臣秀吉桃山御殿に住せし頃、紀州九郷の星船戸の住人鶴屋善衛門と稱して製菓を業とせる巧人あり、寛正二年六月現當家所在地たる伏見京町三丁目に轉住し來りて、専ら豊臣家御用の菓子司となる。之れ實に當駿河屋總本家の濫觴にして四百七十年、十三代の店歴を誇りて今日に至る。次で徳川氏の天下に號令するに迫んで、其御用菓子司となり傍ら紀州家御用達を兼ねるに至り創業一百餘年後にして、紀州和歌山に分家を創設し頗る繁榮を辿りたるが、不幸、寛永



駿河屋總本家

二十年火災に罹りて家實、系圖等を烏有に歸せしも業礎に支障なく逐次發展せり。而して和歌山分館創始以來本店主之れを兼營實權を掌握せしも種々不便を感ぜざる爲四代前本、分館各主人を設くる事と爲し、當時の店主の同

公の命名せしものなり。現在本家の古門は桃山城の御成門を拜領して保存今日に及ぶ由緒あるものなり。殊に明治聖代に及んで、畏くも宮内省の御用の光榮に浴し、益々家運興隆、京都名物中の唯一菓子司として累代高貴高官の愛顧を受けり。尙ほ支店を市内、和歌山、大阪、堺其他十有數軒を擁し居れり。

經營者 岡本善一郎 氏は先代善一郎氏の長男、明治四十一年當所に呱呱の聲を擧ぐ。長じて京都同志社高商部に學び、昭和五年優秀の成績を以て之を卒業す。資性明朗近代型紳士にして養に父君の計に遵ひ家業を繼承し今日に至る。

(所在地 京都市伏見區京町三丁目)

株式會社 田中久商店

舊都京都是名勝舊蹟に富み、全国各地は素より遠く海外よりの遊覽客絶へず。四季當地を訪れる者蜂散蟻集し。その名聲世界的に顯然たるものあり。乍併、京都の名を頼みに高からしむるもの當に名勝舊蹟のみに非らず。一千年の傳統を索く平安文化の精粹籠る優美精緻の美術工藝に於て京都の名は更に精彩を加ふるものあるを知らざるべからず。當店は

直にして謙讓業庶の瞻仰を受くること厚し。養子田中吉次郎氏は頭腦敏密にして用意周到天性の才腕を揮ひ、岳父の良佐として赫耀の業績を擧げ、事業界に多大に景仰せらる。(所在地 京都市下京區室町通り高辻角)

吉原製油株式會社

本邦製油界の覇者として、關西の事業界に威風をせる同社の盛況は世人の嘆稱するところにして、工場は西宮市今津港に隣せる、廣袤一萬五千餘坪の敷地を擁し、工場建坪七千餘坪、原料消費年額十萬噸、油生産高三萬噸、同じく油粕六萬噸、石鹼六萬噸に及び、販路は陸海軍、鐵道其他の官廳納入を首め、全國著名工場及油問屋を網羅せるのみならず海外各國に及び、植物性油輸出量の大半は同社の製品なりと稱せらる。同社は舊幕時代より江戸積油問屋の老舗たる吉原家の家業に其源を發し、明治二十七年現社長吉原定次郎氏が主宰として起つに及び、油精製工場を設けて植物性油の精製を開始し、帝國海軍用油納入の指名を受くるに至り、偶ま日清戰爭の起るや、軍需白絞油の大量需要に應急對處、これを機として引續き海陸軍、鐵道、滿鐵其他官廳納入を繼續せり。其後日露戰爭を経て明



吉原製油株式會社 代表取締役 田中久之助

治四十年二月吉原油工場の名の下に植物性の精製加工業を開始、次いで滿洲大豆油、麻實等に着眼して、歐洲方面へ輸出の途を拓き、更に荏油の原料「蘇子」を内地に輸入する等事毎に斯業の先端を切つて進展し、大正初葉には歐亂に由る急需に對應すべく天津に、翌年には大連に假工場を設け、カストル油の精製を創始して、本来の製油と共に此を歐米に供給し戰時的貢獻に於て著大なる記録を印せり。同六年一月堺市に合名會社堺製油所を創設して搾油に着手、同十三年二月には堺市所在關西製油株式會社を賃借して鏡意生産力の増加を計り、次いで兵庫縣今津町所在帝國製油株式會社を活用して吉原製油今津工場として經營、斯くて逐年躍進向上の結果、生産力の集中統一と合理的經營の必要に基き昭和七年九月上記の諸設備を集結すると共に、新式に依る施設擴張を斷行して、茲に最新的一次製油工場の出現を見るに至り、此れに現今の

京都市室町通り高辻角に宏壯なる店舖を開きショール、洋傘、毛布、その他の呉服雜貨の販賣をなし、その目も綫爲す華麗なる商品は行人の目を聳たしめ、京都室町通りの名花として咲き誇れり。當店の創業は明治四十年のことにして、専らショール、洋傘、毛布の製造並に卸商を營み、常に意匠、色彩、圖案等には銳意創案に心魂を砕き、その製品は新流行の尖端を切りて、流行界を風靡するに至れり。事業は年と共に多大の發展をなし、商況頗る殷盛を呈して斯界の彩華として仰がれたり。昭和六年十二月時代の趨向に鑑みて、組織を改めて株式會社となして、資本金五十萬圓とし、業態に大刷新を行ひて一大商陣を張ることとなれり。爾來愈々飛躍の一途を辿りその商品は流行界の寵兒として斯界の絶頂湧くが如し。毎期多大の好成績を擧げ、現に店員數十名を擁し、頗る殷盛を極めり。因に當店の首腦部以下の如し。代表取締役田中久之助、専務取締役田中吉次郎、支配人高田佐市の諸氏なり。

代表取締役 田中久之助 資性濃厚篤實にして質實堅確、眞實業務に没頭して獨創の商才を揮ひ、業界に聲望噴々たるものあり。明治十一年七月京都府田中光氏の子として生れ、大正八年分家す。寛容にして敦厚、廉

稱號を附し、資本金一百萬圓を以て一新紀元を創し、勇躍邁進、一方これが根幹たる株式會社吉原定次郎商店も逐次發展の一途を辿り昭和十二年七月之を吉原製油株式會社と改め同時に舊吉原製油株式會社を合併、資本金を倍額の金四百萬圓とし今日に迫り。

取締役社長 吉原定次郎 明治八年十二月兵庫縣有馬郡の舊大家榮三郎翁の三男として生る。幼名長平、弱年にして上阪、其兩替店に見習として勤務したるが、夙に凌雲の志を抱き以來雄飛の素地を作るべく碩儒藤澤南岳翁の宰たる葉山塾に入り漢籍を學ぶ。其志操の高大堅實なる、蚤くも實成吉原治翁（吉原家先々代）の認むるところとなり、其望に依り養嗣子として同家に入籍し、先代定次郎氏急逝の跡を承けて、治助氏指導の下に家業に精勵、幾くもなくして治助氏の世を去るや弱冠の身を以て敢然奮起、千代子未亡人を扶けて家運の復興に力め明治卅年家督相続と同時に先代の名を襲ぎ、家業を督して蕃戰健闘以て現時の昌榮を致せり。機を見るに敏にして事を斷するの速なる、守るに堅くして進むに勇なる、是れ氏の特徴にして、當社の驚異的發展の要素たるは解事者の齊しく首肯するところ。氣宇寬潤にして仁情に富み、人と交りて信あり。其關涉の範圍は多方面に及び、

社會に寄與するところ甚大。功に依り往年紺綬褒章を賜り、又財團法人日本産業協會總裁宮殿下より表彰状を拜受、現に日本全國製油聯合會理事、大阪肥料協會副會長、社團法人大阪商工協會理事として聲譽隆々たり。
(所在地 大阪市北區中之島三丁目)

大場 秀吉

今上陛下東京殿下に御在せし御時、御渡歐に際し、理髮職として隨行を命ぜられ、無上の光榮に浴したる大場秀吉氏の令名は夙に著聞する處なり。
氏は明治十一年十二月を以て、神奈川県人渡邊歌之助氏の次男に生れ、大場誠之助氏の養嗣子となる。齡十五才の若冠にして、上海に渡る。その膽力の大なるには人皆驚嘆せざるはなかりき。上海に於て小間物化粧品販賣に従事せしが、理髮業の有望なるを觀取し熱心に之を研修して其技術を收め、明治三十三年歸朝す。最初横濱グラントホテル内に開業せしが、氏の技深く愛好され漸次繁榮を招來するに至れり。後帝都に進出し、芝區田村町一ノ四に堂々店舗を構へ、氏獨特の技術を揮ひ、信望を蒐め今日の大成を爲すに至る。名聲更に四隣に轟き、支店を帝國ホテル内、

太田 鐵工所

技術優秀、製品の卓絶せるを以て帝都城東の一角に牢固たる地歩を占め、名聲燦たる太

田鐵工所は創業以來十有餘年、業界の雄嶺として斯界に君臨せり。大正十二年創始以來數多の難關に遭遇せしも、能くこれを克服して着々として發展に向ひ、昭和七年現在の地に敷地二千坪、工場連坪四百坪の新工場を新築す。堂々たる外觀に添ふるに最新技術の粹を網羅せる設備を内容として、その製品は優秀なるは斯界の過ぐ認むる所たり。その製品は現代機械工業の最尖端を行く精密機械を中心となし、特に英式旋盤、正面旋盤、シエバー、ボールペン、堅削り盤等の諸機械に主力を注ぎ、時局景氣愈々活況を呈する折柄、當所は益々發展に向ひ業礎鞏固に成程飛躍的に向上す。今後の躍進更に著しきものあるべし。

はす、現在の地に新工場を建設して驚異的發展をなし、世人を大いに矚目せしむるに至れり。現在従業員八十餘名を使用し、盛況を極め業界に於ける氏の名聲赫々たるものあり。
(所在地 東京市葛飾區上小松川町二九六)

新潟合同自動車株式會社

近來自動車は全國津々浦々にまで普及して地方の交通の發展促進、産業開發の進展に資する所甚大たり。當社に於ても新潟地方の發展に資すること不尠、毎期業績頗る好調を呈し、規模又年と共に大を加へり。當社は大正十二年資本金三十萬圓を以て設立せられたる新潟合同自動車株式會社に始まる。昭和七年六月、新潟自動車商會並に兩新自動車會社を合併して、資本金を三十三萬五千圓となし

新潟合同自動車株式會社と改稱す。同年十月新松交通遊覽會社を、翌八年六月には新潟市街自動車會社をそれらに併合して、資本金は一躍六十萬圓に膨脹せり。超へて九年八月白根自動車を買取の上増資して七十五萬圓となし、十年二月には新社屋建築の爲めに十萬圓を増資して八十五萬圓となせり。續いて佐渡乗合自動車會社を合併して資本金は一百萬圓に増

資せられ、乗合自動車業の外渡船業をも營む。毎期好成绩を挙げ、八分の高率配當を行へり。將來まことに有望なるものあり。

専務取締役 等々力治藤太 明治十九年長野縣に生れ、明治四十五年新潟縣廳に入る。その職に精勵して大いに認めらる。相次いで拔擢せられて保安課技手となる。然るに氏は兼めて事業界に雄飛せんとする志あり。大正七年縣廳を辭するや新潟市磯町に新潟商會を設立し自動車及銃砲火藥類の販賣を開始す。これ本縣に於ける自動車事業の嚆矢たり。次いで大正十四年新潟自動車商會を設立して専務取締役に就任、昭和七年新潟合同自動車生誕するや、専務取締役に選出せらる。誠實眞摯にして手腕又卓抜、當社の發展に寄與すること大にして、社長中野四郎太氏の信任厚し。現に新潟商工會議所常議員たり。

支配人 高橋友治郎 明治三十一年本縣に生る。大正十五年新潟新聞編輯主事として入社し、以來操縦界に活躍して大いにその才を認めらる。次いで編輯長兼主筆として敏腕を揮ふ。昭和十年中野社長並に等々力専務の懇望を受け支配人として入社す。資性濃厚にして人望高く當社の中堅として重きをなせり。
(所在地 新潟市 流 作 場)

所主 太田 金吉 氏は堅忍不拔、着實堅確の事業家にして、頭腦俊美頗る經營の才に秀づ。大正九年志を立て、上京し、鐵工業に従事して専心研精を重ね、大正十二年本所區龜澤町に工場を設立して獨立を執行す。開業日ならずして大震災に遭遇し壯圖空しく潰ゆに至りしが、氏は少しも屈せず、直ちに本所區太平町に移轉して再起を決す。爾後氏の強靱なる意志と烈々たる闘志は荊棘の道を切り拓きてよく事業を發展せしめ、順風滿帆年と共に躍進せり。昭和七年に至るや、從來の規模を以てしては、激増する需要に應ずる能

田鐵工所は創業以來十有餘年、業界の雄嶺として斯界に君臨せり。大正十二年創始以來數多の難關に遭遇せしも、能くこれを克服して着々として發展に向ひ、昭和七年現在の地に敷地二千坪、工場連坪四百坪の新工場を新築す。堂々たる外觀に添ふるに最新技術の粹を網羅せる設備を内容として、その製品は優秀なるは斯界の過ぐ認むる所たり。その製品は現代機械工業の最尖端を行く精密機械を中心となし、特に英式旋盤、正面旋盤、シエバー、ボールペン、堅削り盤等の諸機械に主力を注ぎ、時局景氣愈々活況を呈する折柄、當所は益々發展に向ひ業礎鞏固に成程飛躍的に向上す。今後の躍進更に著しきものあるべし。

角野皓

國勢の消長を左右すべき利下の重大事項は言ふまでもなく産業立國策に據る自給自足の確立と輸出貿易の振興にあり。然も歐米直輸入の模倣、既にして行き詰りを來したる今日只一つ残されたる活路は、日本の獨創力に訴へ、科學的研究による發明の天地を開拓することにある。今や日本は將に斯の如き時代に直面し、従つて生産事業の如きは、累年重きを加へ遂に社會最高の地位と稱せらるゝの機運に至る。然りと雖も未だその機運は全面的に及ばず、遅々として姑息、進展の域に達せざる幾多の事物あり、即ち我が製紙界の如きも一面斯の如きにして、優秀卓越せる製品は總て海外品に壓倒されたるの觀を呈するは遺憾なりと云ふべし、熱血熱ゆる愛國心と剛志に滿てる智技を以て、斯業の第一線に立ち、之が全面的躍進に健闘しつゝあるは、我が角野皓一氏なりとす。氏は明治四十一年十月を以て軍都吳市に生れ、大正十五年南海工業專門學校を卒業するや、雄圖を抱いて大連機械製作所に入り、斯業を研鑽すること數年、後歸郷して當時小規模なりし株式會社吳野製紙所に入りたり。斯くて氏は斯業を以て漸く自己



角野皓 氏

の天職たる確信を得、本社及小倉、東京の各出張所に歴任、更に吳出張所に轉じ其間斯業の發達宣傳に全力を傾注したるは言を俟たず。昭和十年大阪出張所長に轉ずるや、安土寺橋の店舗より現地西區立賣場北通一丁目に移轉、晝夜を兼行して、大いに業務の開發に勵精したれば業績は大いに擧り、近々三年にして實に跳躍的の營業成績を示すに至り、斯業製品は全面的に堂々進出するの機運に到達せしむるに至りたるは、實に氏に負ふところにして止まず、本年に至り社員を増員して一舉に覇權を獲得せんとする氏の意氣正に天を衝くの概あり。年餘漸く三十一歳、弱冠よく國家的事業の進展に立脚したるは蓋し絶讃するに餘りあるものあり。人格高邁にして頭腦明敏、資性温良にして廉直方正、而も近代的の理想紳士なり。天稟澄明、機を見るに敏、然も卓勁緻密の資華に富み、赤心誠意以て奮闘努力、初志を貫徹せずんば罷ざるの活動家にして手腕家なり。更

王子製紙株式會社

終始一貫我國製紙業界の鉗錫として斯界を壟斷し、その設備の優秀宏壯を誇り、社礎の鞏固にして規模の壯大を謳はれ、以て多年産業界に貢献すること多大なる王子製紙株式會社は、その創立洵に古く、明治六年二月に屬して名實共に本邦斯業界の大系たり。即ち、故澁澤清淵翁の發起に依りて、三井組、小野組、島田組、古河組相提携して資本金十五萬圓の一抄紙會社として設立せられたるに遑勵し、其後同二十六年會社法の適用を受け、王子製紙株式會社と改稱、超えて大正十年朝鮮製紙と合併し、同十二年には小倉製紙を併合し、翌十三年東洋製紙を傘下に收め、更に昭和八年四月に至るや、富士製紙に樺太工業と合同して茲に完全に製紙界の制覇成り、堂々業界に君臨す。相次ぐ増資と合併に依り、現在實に公稱資本金三億圓、内拂込二億二千四百九十九萬四千圓の巨額を擁し、本邦製造

工業會社中資本金の巨額なるに於ては、日本製鐵株式會社に次ぐ大會社たり。當社の主要事業は各種洋紙及び製紙用パルプ並に人絹用パルプなるが、他に附屬事業として電力供給、木材販賣等も行へり。工場總數三十三、即ち東京、静岡、愛知、岐阜、富山、京都、大阪、兵庫、和歌山、福岡、熊本、各府縣、北海道、樺太、朝鮮の各地等全國に設置せらる。又洋紙の製造高一ヶ年十五億封度を上り内新聞用紙類(ザラ紙を含む)七億三千萬封度、印刷用紙類三億四千萬封度之に次ぎ、其他四億三千萬封度となれり。日本製紙聯合會所屬十二製紙會社の製紙高の八割を占め、更に原料パルプに至りては、その製造高は一段と多額を占め居れり。當社は三井物産會社中の儲々たる存在にして、直系の三井物産、三井礦山と對置せられる特異の存在にして、王子證券を通じて幾多の存會社に投資せり。即ち日本人絹パルプ、北鮮製紙化學工業、日滿パルプ製造、山陽パルプ、鴨綠江製紙、富士川製紙、東洋製紙、八代製紙、北海道電力、樺太電力、雨龍電力、北海道鐵道、樺太鐵道、樺太鐵業、其他フェルト、全網の製造會社を始め礦業鐵工所埠頭經營、洋紙販賣店等及び關係會社の數五十社に達せり。昭和十二年下期決算に依れば總收入計一億三千九百八十二萬七千圓、總支出一億一千五百九十九萬九

千圓となり、差引利益金二千四百八十二萬七千圓に達せり。右利益金中より六百萬圓を固定資産消却に當て、一百萬圓を公益事業並に従業員の幸福増進寄附基金に計上し、年一割の配當を行へり。當社は經營方針頗る堅實にして、資産内容又頗る優秀たり。製品種類甚だ多岐に及び、収益力の大きなりと規模宏大なると共に我製紙界に於て他の比喩を許さず。斯界の最高峰たり。當社重役左の如し。社長 藤原銀次郎、副社長高島菊次郎、専務松本弘造、同田中治朗、同井上憲一、同足立正、取締役大橋新太郎、同原邦造、同田中榮八郎、同井上周、同大川鐵雄、同一御貞吉、同眞島幸次郎、監査役井坂孝、同益田信也、同小池厚之助、同小西喜兵衛の諸氏にして何れも事業界一流人物を網羅せり。

取締役社長 藤原銀次郎 資性卓犖豪毅にして器局宏量、その名聲は我財界に牢固不拔にして、而かも識見高邁視野頗る廣く、殊に社會問題に關する蘊蓄に至りては我が財界に並ぶものなし。明治二年六月を以て生れ夙に慶應義塾を卒業し、曩に松江日報を創刊して是が經營に當り、後三井銀行に入り更に三井物産に轉じ、頭角を現して臺北支店長、木材部長と擢進す。後ち王子製紙に入りて大いに手腕を揮ひ、當社今日の發展を齎らすに至れり。

取締役社長 足立 正 鳥取縣人足立繁太郎氏の長男として明治十六年二月に生る。東京高商を卒業して實業界に入り、天賦の才腕を揮ひて大いに財界に名を成し、今日の地歩を築くに至れり。寛容にして敦厚、上下の

専務取締役 松本 弘造 明治十五年八月大阪府に生る。東大法科を卒業して、大藏省に入り、日本興業銀行に轉ず。大阪支店長、理事に榮進して、樺太工業専務となり更に當社専務に選出せらる。資性質實堅確にして心性峻潔、頭腦緻密の敏腕家として名あり。

専務取締役 田中 治朗 温厚篤實にして職務に對しては眞摯熱直、淬勵刻勉してことに當り、大いに手腕を示せり。明治六年十一月山口縣に生る。日本大學を卒業して當社に入り、參事、調査課長を経て取締役となり、専務に選出せらる。

専務取締役 井上 憲一 素志健剛の努力家としての名聲は財界に高し。頭腦綿密にして周匝緻密、製紙業に關する知識頗る該博たり。明治十四年一月福岡縣人井上誠造氏の長男として生る。下關商業を卒業して三井物産に入り、後王子製紙に轉じ榮進して今日に至れり。

信望甚だ厚し。

(所在地) 東京市王子區王子町

(本社事務取扱所) 東京市麹町區有樂町三

信ビル内)

會社重役

早川孝平

名古屋橋倉庫株式會社取締役支配人たる早川孝平氏は、岐阜縣惠那郡付知町早川孝二氏の長男として、明治二十二年四月を以て生る。夙に早稻田大學政治科を卒業し、付知町助役に就任す。然れども胸中密やかに大志を包蔵せる氏は是れに甘ぜず虎視眈々時流の變遷に留意意らざりき。氏遂に機會を得て出郷し、岐阜電力株式會社に轉ず、以來孜々として社業に勵精、能く難事を突破克服して、手腕を信認さるに至る。次いで東京電力に入社せるが、同社偶々東京電燈に合併さるや、同社に轉任す。後東邦電力に其の材幹を認められ聘徴さるに及び氏の手腕愈々發輝し功績頗る見るものありしが、昭和八年、名古屋橋倉庫に取締役兼支配人として招かれ、遂に同社に轉じて今日の基礎を築くに至る。社業に對しては頗る熱心にして、一意専心業績の顯揚に精勵したるを以て、同社の今日誠に隆盛を極む。蓋し氏の功績没すべからざるもの多

大なり。氏の人となり温恭篤實、經綸の才、先見の明、共に時流を抜き、氣宇又闊達にして誠に典型的紳士たり。尙ほ氏は長浦海關土地、泉樂園各監査役を兼ね居り。令室かつ子夫人は、明治二十七年を以て岐阜縣人、三尾圓六氏の長女として生れ、内助の功頗る多大にして貞淑を以て知られ、子女の訓育に對しては頗る嚴にして世の範として仰がる。長男昂吉君は大正十年に生れ、熱田中學を昭和十三年に卒業し、次男正克君は大正十五年に生れ、三男力君は昭和四年に生る、長女美代子嬢は、大正十三年生れにして、縣立刈谷高女在學中。二女淑子嬢は、昭和七年生れ、三女榮子嬢は、昭和十一年生れにして三男三女あり。家庭頗る圓滿にして和氣瀟々たり。

(住所) 名古屋市外鳴海町平手二七

明治鑛業株式會社

時局以來各種産業の全面的活況は、支那事變勃發にて一層拍車を加へられ、重工業中心の生産力擴張は必然的に石炭需要の激増を刺激し、就中電力、製鐵、人造石油、化學工業の需要趨勢は、事變を轉機として一段と増加を示現せり。即ち商工省發表に依れば、石炭

績は實に著大なるものあり。即ち昭和十年年度の利益金三百二十七萬七千圓、利益率二割二分五厘、配當年一割。十一年度の利益金二百六十五萬二千圓、利益率一割七分七厘、配當年七分。十二年度は三百三十六萬圓の利益金を擧げ、この利益率二割二分四厘、一割の配當を敢行せり。十二年度決算後の總資産は實に二千七百八十五萬四千圓を抱擁し、内外部負債は僅か五百六十九萬三千圓にして差引純財産二千二百六十六萬一千圓、之が對拂込資本割合は一割五分を算出し、その内容の盤石を誇示するものあり。今年には支那事變を織り込みて既に増産に拍車をかけつゝあれば、利益率も一層躍動するものと期待さる。

因に當社の人的要素を述べれば、社長松本幹一郎、専務兼鑛務部長堀内敏義、常務兼經理部長兼秘書課長小西春雄、取締役安川寛、同小林爲之介、同松本茂、同兼昭和鑛業所長中島勇三、監査役小出英男、同安川第五郎、相談役松本健次郎、東京支店長泉俊一の諸氏なり。

取締役社長 松本幹一郎

我國事業界の巨頭松本健次郎氏の長男、安川敬一郎氏の令孫として、明治二十七年六月に出生。大正七年神戸高商を卒へ、直ちに渡米費府大學に學び、同九年學成りて歸朝、以來當社に入社し

昭和二年神戸出張所主任、次で東京支店長に就任し、遂に現職に推さる。天稟明朗快活にして氣鋭萬丈、曠古の少壯事實家たり。

東京支店長 泉 俊一

福岡縣人泉藏氏の長子として明治二十五年同縣に誕生す。長じて神戸高商に學び、大正五年優秀の成績を以て之を卒業す。同年明治鑛業に入社、以來二十餘年間致々として精勤す。曩に東京支店販賣主任たりしが、榮進して現職に就く。天分濃厚實績にして名探題として絶讃さる。

(本社所在地) 戸畑市戸畑

(東京支店) 京橋區銀座西七丁目

土木設計監督業

大場宗憲

産業の興振と國防の充實は、皇國の興廢浮沈に至大の關係を有する處なり。就中、鐵道港灣、橋梁、道路、河川等の土木事業は、此の産業と國防に必須缺くべからざる側面的存在として、其使命は洵に重且つ大なるものと云ふべし。然りと雖も如何に土木工事に全力を致したりとは云へ、其の根幹を爲す設計監督技術の低劣ならんか百萬の施設も一朝にして無となる無きにしもあらず、斯界が實しく之が向上優秀を競ふ所以なり。我が大場宗憲

増産五ヶ年計畫最終年度たる需要量は七千五百萬圓と豫想され、從て翌二、三年間を出ずして供給不足は事實として現はれ、時局の段階如何に依りては、石炭需要の異和問題は重大化するに至らん。斯かる情勢裡に在りて斯業界に巨然として此情勢に對應すべく、邁進するは我が明治鑛業なり。由來當社は過ぐる明治四十一年一月事業界に驚々たる安川、松本兩家の直系會社として設立せられ、石炭、金銀、滿庵の採掘を目的と爲す。而して事業規模は石炭鑛山七ヶ所、金屬鑛山二ヶ所、發電所一ヶ所、使用鑛夫八千數百名を算し、就中著名なる事業地は所謂筑豊炭田の濃床と稱する福岡縣嘉穂郡田村に明治鑛業所を、同縣田川郡上野村に赤池鑛業所を、同縣糟屋郡勢門村に高田鑛業所を所有する外、北海道龍神沼田町に昭和鑛業所を、朝鮮黃海道鳳山郡文井面に朝鮮鑛業所を、更に滿洲國奉天省西安縣に明治西安鑛業所を有せり。而して之が販賣機關として東京、大阪、門司、博多、平壤、留萌、若松、神戸、留萌、等に支店並に出張所を設置す。現資本金二千萬圓を擁し、昭和十一年度の出產高百七十八萬九千餘圓、販賣高百六十二萬五千圓を擧げ、その傘下に平山鑛業、嘉穂鑛業の兩雄を措き、今や斯業界に破竹の勢を以て精進しつゝあり。而して當社近年の業績を窺ふに、時局以來の成

氏は土木設計監督業として、帝都土建界に其の特異の存在を以て重きをなすものにして、優秀なる設計は未だ曾て不成功の歴史を有せず。現に三井信託不動産分譲地の設計監督を請負ひ絶大なる信頼を博し、業績は氏の信望と共に隆々の發展を遂げつつあり。氏は明治三十年五月を以て、東京府土族大場宗明の三男として北海道札幌市南二條に生る。夙に工學博士丹羽勲彦に就き、斯業を修め、大正十一年獨立開業の傍ら丹羽事務所勤務、同年和知工務所を繼承し大場土木設計監督事務所と改稱し今日に至る。氏の技術は既に定評あるところにして、而も一人一業主義を以て終始一貫する熱意は依つて事業に全智全能力を傾注し、克く今日の隆盛を來たしたるものにして、之實に氏の對策縱横百折挽ます、凡ゆる血慘史をたぐりたる結果と謂ふべし。資性温厚柔和にして、而も謙讓の徳を備へ、快活明朗にして何人にも障壁を設けず、抱擁力大なるが爲め、所員は慈父の如く氏を尊信し、和協一致真に主従一致の實を擧げつつあり、加ふるに一片の俠骨稜々たるものあり。かるが故に社會公共的事業に盡瘁する處からず氏の將來こそ正に旭日昇天の進展、期待して待つべきものありと謂ふべし。

(住所) 東京市澁谷區代々木宮ヶ谷一四二五

惠那ラヂウム株式會社

ラヂウムがキネリ夫人に依りて發見せられて以來、その偉大なる効驗を以てして、幾多の難病を治癒し、人類社會に新らたなる曙光を投げるが、その價格まことに高價にして而も取扱上危険の伴ふにより、到底一般人はこれが恩恵に浴する能はざりき。然るに岐阜縣産出の惠那ラヂウム礦砂が當社に依りて江湖に紹介されるに及び、全人類のラヂウムに對する渴仰は極めて低廉なる費用を以て充足されることとなれり。惠那ラヂウム礦砂は岐阜縣惠那郡一帶より産出する惠那石、スナズ石、苗木石、フェルグソン石、ポリクレーンサマルスキー石等の放射性礦物を含有する砂にして、ラヂウムエマナチオンの放射量極めて多量にして、價格安く何等の危険なく永久に使用するを得。而も温泉以上の効果ありて一家族中居ながら温泉浴をなし得て時間と金の冗費を省き、經濟的にして衛生的なることこれに優るもの他になし。温浴に使用する外飲用に供すべき内用劑あり、激務に携りて頭腦を使用する人の爲めにラヂウム健腦枕あり。浴用としての醫治効用はラヂウムエマナチオンが呼吸器或は皮膚より體內に浸入し來

たり、諸細胞を刺戟して病細胞を破壊に導き新陳代謝機能を旺盛ならしむ。外傷性諸病疾患、慢性及關節ロイマチス、慢性濕疹、痔疾ヒステリー及神經衰弱、婦人科諸疾患、腺病質、諸病恢復期、中樞及末梢性麻痺、慢性攝護腺炎等に特効あり。内用劑は一般虛弱質、病後回復期、新陳代謝疾患、ロイマチス、關節疾患、神経系疾患、血脈亢進症、消化器、呼吸器、泌尿器等の諸疾患に卓効を有す。又惠那ラヂウム健腦枕は腦に故障ある人或は種々の激務に携る人、これを使用せば頭腦爽快となり、或は疲勞を恢復し、能率の増進に驚くべき効果あり。惠那ラヂウム礦砂が一度世間に紹介せられるや、學界は驚つてこれが研究に着手し、何れも稀有の放射性能ある礦物として口を極めて推稱し、これが醫療上効果の甚大なるを證明せり。又愛用者は廣く社會各方面に及ぶ、年と共に之れが需要激増す。當社は販賣網を全国的に擴大し、東京、大阪の各百貨店を始め各地に特約店を置き販賣せしめ、更に惠那ラヂウムチェン薬局を設けてこれが普及に力を盡くせり。

の才略手腕まさに男優りといふべし。女史は單に營利を目的として、その事業を營めるものに非らずして、國家公共を思ふの念に厚くして、才暇を裂きて該方面の事業に力を盡し、現に非常時局下に於ける家庭婦人の責任重大なるものあるに鑑み「健康母の會」を設立して自ら會長に就任せり。尙ほ同會は名流婦人理事に列し又多數の名士を顧問として同會の爲めに支援を惜しまず。これを以て見るも女史の社會的信望の程を知るに足るべし。

日本冶金株式會社

特殊金屬の製鍊加工に独自の力量を顯はること本年、時局以來特に股輪を極めて業績亦一段と發顯し、終始不撓の研究は能くタンダステン接點の熔接に於て成功し、今や諸省の指定工場の名を負ひ、我が化學工業界に跳躍しつゝある會社なり。由來當社は、大正七年十一月、イルヂニウム、バナヂニウム、タンダステン、モリブデンの製鍊加工、其他難熔金屬製鍊加工及び電球製造販賣を目的として設立せられたるが、以來特殊なる新進事業として、其動向を重視せられ、一面大塚社長始め各重役諸氏の眞摯熱心の研究振りを讃嘆

せられ、業況逐期好調を辿り以て今日に至れり。

近時我が産業界の躍進振りの物凄きは、邦家國運の爲めに慶福に堪えざるものあり。就中電氣諸機器の進歩發展は、官民一致國産品奨励の氣運澎湃として興り、以て長足の進歩を促進しつゝあり。斯かる時勢の要求は絶えず當社の躍起をも惹起し、爲に當社の發展振りは眞に目覚しく、殊に時局以來は一段と光彩を放つに至れり。當社は夙に海軍省指定工場として知らるゝが、曩に通信、鐵道兩省の指定工場に列し、其他航空隊、民間自動車工業、電氣醫療機械工業界にも進出し、其の優秀なる技術を絶讃されつゝあると共に、當社は同業界に於て最も至難として苦酸を嘗めたる、タンダステン接點熔接に凡ゆる研究努力を拂ひたるが、見事之れに成功し、曩に「帝國特許四二二六號」を獲得し、以て日本科學史に絢爛たる一頁を加ふるを得たり。而して當社の業績は設立以來順調の一途を辿り來れるが、近年の成績は特に高利益率を示現し、十年上期に於ては普通配當一割、特別配當一割計二割配當を敢行し、業界を震撼せしめ、爾來六分乃至一割配當を餘裕裡に行ひつゝありて其將來は眞に多多く汪洋たるものあり。因に現資本金は八十萬圓、整備せる工場を門司市小森江に設置し、東京市麹町區丸之内一

丁目海上ビルに東京出張所を有す。

取締役社長 大塚 清次 關西事業界に多年雄飛せる旗將として諸々の名を馳せつゝあり。終始事業に執掌、遂に能く今日の日本冶金を在らしめたる功勞者たり。明治十九年十一月、兵庫縣人山下傳次郎氏の三男として出生、後ち大塚源三郎氏の養子となる。天分頭腦精緻、圓轉滑脱にして、事業經營に超凡の手腕力量を有す。曩に櫻葉酒、日本輪業護謨、阪神築港等の重役に推され、現に當社を主宰する傍ら太陽會連、日本織條兩社相談役たり。

平田 佐矩

三重縣下に於て製網事業家として、その名聲顯著にして、その他各種事業に敏腕を揮ひ三重財界切つての圓將として、近時頭角を抜んずるが平田氏なり。氏が事務取締役として主宰せる平田製網株式會社は、その創立古く製品優秀にして、斯界に信用高し。その創立は明治元年に拘り、年と共に事業繁榮し、多年の經驗に基づく同社製品は他に比倫すべきものなく需要激増して規模宏壯となり、近畿

にこれに並ぶものなきまでの發展をなせり。現時資本金一百萬圓、毎期業績頗る良好を示しつゝあり。平田氏は夙に立教大學文科を卒業し、直ちに家業に従事す。熱誠を以て事業の諸般に亘りて研究し、技術に經營に倦まず摺まず研鑽努力す。其後大正七年組織變更せられて平田製網株式會社設立せられるに及び氏は取締役に選任せられ、同社の樞機に參畫することとなるや、愈々その職に精勵し、萍勵勉全力を傾注せり。俊英の材幹はよく事業の各般に精通し、温恭謹慎の資質は社の内外に信望を集め、大正十五年嚴父平田佐次郎氏の穩退するに及び、その後を襲ひて事務取締役に就任せり。同社は創立古くその製品の優秀なるを以つて斯界獨歩の地位を占むと雖も、氏は決してこれに安んぜず、設備の改善と技術の向上に日夜心血を注ぎて遺憾なくこの目的を以て曩に歐米諸國を巡遊して、新業の視察調査をなせり。斯くして幾多の發明創案を爲して斯界の驚嘆を受くる所となり就中編網機の考案に對しては、大日本發明協會より表彰せられたる斯界の權威たり。氏の熱意漲る努力と秀抜なる手腕により、同社は愈々繁榮に向ひ、家道大いに勃興せり。氏は平田製網事務たるの外、三重織布株式會社取締役三岐鐵道株式會社社長に太洋マニルト株式會社監査役に推選せらる。又町會議員として富洲

原町の町政に盡瘁し、事業界に公共方面にその活躍多方面に亘り、名譽愈々高し。因に氏は明治二十八年九月三重縣平田佐次郎氏の令息として生る。茶道骨董を趣味となす。
(住所 三重縣三重郡富洲原町富田一色)

會社役員

國吉信義

成功は努力なり、之れ正に千古の金言と云ふべし。我が國吉信義氏にありても、努力の結晶が克く今日の地位を得るに至らしめたるものにして、云ふに易くして、容易に成し得ざる努力奮闘に一貫せる氏の過去を見よ。寒村險邊宇部の小串に、明治十六年五月に生れ、幼時既に敏才を以て隣人を驚愕せしむ。同三十四年東京高等工業學校を卒業、次で海軍技手、海軍少尉に任ぜられしも、生來の氣性軍人に適せざるを覺りて官を辭し、明治三十九年歸郷す。時恰も日露戰捷の氣分に全國舉つて、之れが祝福に亂舞雀躍の有様なりしが氏は此の浮薄なる世事に惑はされる事なく來る及き日本帝國將來の動向を賢察し、本邦工業界の幼稚不振を慨歎し、重大性を有する此の工業方面に貢献せんと、密に之が手段方法に餘念なかりし時、義兄藤本閑作氏社長たる東見初炭礦會社に入社し、同社發展の爲め



國吉信義氏

に苦心慘憤心血を注ぎたる努力は、筆舌よく之れを盡し能はざる處にして、同社の業績顯著を加ふるに至り、氏の力量手腕此處に始めて發揮せられ、將來飛躍の基礎定まれば、一度基礎固まるや放腕縱橫無盡、昭和十一年には曹達會社の設立を計畫し遂に之れを完成し、宇部曹達株式會社の社長となる、同十二年には、本見初炭礦株式會社社長に就任し、宇部市金融界を支配する宇部銀行、宇部紡績株式會社、宇部鐵道株式會社各取締役の要務に就き同市切つての實業家となるに至り。他面政治方面に於ても、山口縣會議員に當選して才腕を揮ひ名譽を博せるは冷く人の知れる處、昭和四年四月に追んで宇部市會全員一致の推薦を以て、宇部市長に當選し、絶大な信頼を得るに至りたり。一度市長に就任するや、誠心誠意宇部市政の爲活躍せるは、蓋し今猶市民賞讃の聲たへざる處なり。氏をして市民は、名市長とまで絶讃するに至らしめ

たり。名譽愈々揚り儼たる存在は、氏閑地につくの暇なく、昭和十二年十一月には衆望一致宇部市會議員となり、次いで市會滿場一致市會議長に推薦されたるは、如何に氏の徳望絶大なるかを證するに餘りあり。如斯公人としての氏、政治界に實業界に放腕致らざるなきの逸材なりと雖、氏個人としても亦一世の師表と仰ぐに足り、資質極めて濃厚着實にして、敬神の念厚く、質素を旨とし頗る節儉の思慮豊にして經濟觀念に強く、所謂質實剛健と云ふ可く、又世事人情に厚く正義に立脚せる行動に對しては、假例個人的たると公事たるを問はず、卒先之れが精神的經濟的援助を惜まざるの氣風、現人敢て個人主義的に陥りて我利自利のみ念とする輩と比較對照して、切に氏の徳望多大人を思はしむるなり。氏之れを欲すると否とに不拘、今や宇部市民は、氏に絶大なる信頼を拂ひ、聲望赫耀として高くその言説大に推重せらる。折角自愛の上健闘を望む。氏に期待するもの亦、切なるものあり。
(住所 宇部市上町)

日本毛織株式會社

本邦唯一の綜合羊毛工業たるのみならず、

東洋一の新業界の元勳にして、其生産部門はトツプ、毛糸、モスリン、セル、ネル、羅紗毛布、フェルト、人絹、メリヤス、綿羊飼育等の多岐に亘り、而も其生産品は國産最優秀品にして、舶來品を凌駕し「ニツケ」の商標は六合に震憾せるは周知るところ。由來日本毛織株式會社は、遠遡明治二十九年、川西清兵衛氏等主唱の下に、資本金五十萬圓を以て、設立せられたる業界の始祖にして、兵庫縣加古川町に毛織工場を起して以來幾多の苦難と研究を累ねて、以て今日の偉大なる業績を昂揚するに至り。其間時運と興隆に應じて増資を重ねる事屢次、大正八年には日本毛織株式會社を合併し、今や資本金五千萬圓、總資産實に一億四千萬圓を包蔵し、其屬翼下に共立モスリン、日本モスリン、昭和毛織紡績其他の俊銳會社を收め、堂々八絃一宇の威望を發揮しつつあり。而して現時の生産能力は梳毛月産百五十五萬封度、紡毛月産七十五萬封度にして之が製産工場を加古川、印南、姫路、明石、岐阜、名古屋並に人絹専門工場を名古屋に設置し、その年産額一億數千萬圓を計上し、内地は勿論、支那、濠洲、印度、南洋各方面に輸出し、各市場に於て常に外國品を席捲しつつあり。殊に毛糸は繊細なる最番手の織編毛糸より優良なる太番手の手編毛糸に至る迄、數種の市場標準品を製出し、

モスリン亦多年新界の最優良標準品として周く内外に其聲價を博せり。尙新興纖維工業の寵兒たる人絹にも逸早く進出併營し、毛織物への配合は既に試験済にて濼毛輸入抑制の結果は、人絹生産と同時に、その混用も着手の豫定なるが、勿論その製出も優良品を目標と爲せり。曩に當社は之等製品を直接消費者に紹介する目的を以て、東京丸ノ内ビルヂングに「ニツケショールーム」を、亦大阪心齋橋には「ニツケ宣傳部」を設置、兩大都市の需要者に即賣を行ひ、其至便に資す。當社近年の成績は毎期頗る堅實なる決算を行ひ、内容餘裕綽々たるものあり、毎期一割二分配當を踏襲し、殊に十二上期配當は記念配當五分を加へて一割七分配當を行ひたり。之を要するに當社は濼毛制限に據る打撃はあると雖も永年の堅實經營は社礎盤石、社業益々隆昌にして而も新興纖維工業への進出は之れ正に名譽千里の志として大に刮目されつつあり。因に當社の人的要素を述べれば、會長川西清兵衛、専務川西清司、常務小倉喜一、同櫻井靖、取締役田村市郎、同小曾根貞松、同八馬兼介、同財田秀一、監査役松本鐵次郎、同毛戸勝元、同佐野彌三郎、相談役塚脇敬二郎支配人太田成彦。

取締役會長 川西清兵衛 天稟冷頭熱腸に

して凌雲の氣骨あり、關西實業家に號名を顯はるゝ長老たり。日本毛織創立以來四十餘年終始一貫事業經營に専心し、その眼明手快は温健なる經營振りと、堅實なる業礎を築き擧げた功勞者たるに俱に、我が産業界發展に貢献せる偉傑なり。現に當社を統轄する傍ら山陽皮革、神戸生絲各會長、オリエンタルホテル、昭和毛織紡績各社長、安田信託、神戸瓦斯各取締役、川西航空機相談役其他數社の重役を兼ね、日本商工會議所、神戸商工會議所各顧問其他事業團體の重職に推舉され、兵庫縣多額納稅者にして、曩に紺綬褒章飾版を賜ひ、正六位勳三等に叙せらる。
(所在地 神戸市兵庫區西出町)

山口赤十字社病院長

伊勢良男

我が刀圭界に斷然偉彩を放ち、現に山口赤十字社病院長として名聲赫々たる醫學博士伊勢良男氏の今日あるは、蓋し氏多年の努力の結晶と云ふべきなり。古語に、醫は仁術と云ふ。然るに功利的利己的觀念の現代社會に蔓延し、爲めに醫道の失墜を憂ふるの聲なきにしも非ざるは是れ火の無き所に煙の立たざる理の如く、我國醫界の通弊を示唆するものといふべし。

名譽世界に赫々たる、我が刀主界に人多しと雖、氏の如き人物まことに得難し。斯學研究に對する熱意は絶大にして終始一貫、學術研究に、臨床的研究に、我が國醫學界の進歩發達に資する功績頗る顯著なり。

爰に一例を挙げんか。肝臟機能障礙時に於ける血液並に尿中ビリルビン及び膽汁酸含有量に就てと云ふ、我が醫學界にありて最も研究難事とせらるゝ該研究を完了して、學位論文を提出し、醫學博士の學位を獲得したるに徴するも、斯界に對する蘊奥の深遠なることの一斑を窺ふに足れり。

氏は明治十九年十一月、東京市四谷區須賀町二四に生る、長じて、明治四十二年第三高等學校を卒業し、大正二年九州帝國大學醫學部を卒業。次で同年同校副手となり内科學第一講座勤務を命ぜられしが、幾何もなく之を辭し、大正六年十一月、臺灣總督府醫院醫官拜命、高等官六等四級俸を賜はり、臺南醫院勤務を命ぜらる。同年十二月正七位に叙せられ、以後果進して、同十五年には高等官四等、正六位に叙せられ、次で仙南醫院、醫局長となり、内科部長並に小兒科部長の兼務を命ぜられたりしが、同年八月に休職となる。氏一度休職となるや、好機逸す及からずとなし、直ちに、母校九州帝國大學醫學部大學院に席を置き、斯界の名手稲田龍吉、高山正雄、

金子康太郎の諸博士を師として斯道の奥義を極む、昭和六年に至りて高知病院内科長に招聘され、越へて同十年山口赤十字病院院長兼内科部長となり今日に及ぶ。氏の最も優秀なる技能は内科―消化器病にして、該病に對する研究頗る該博にして、且つ臨床體験亦豊富なり。今や斷然斯病研究の第一人者として推されるに至れり。資性極めて温厚にして典型的紳士たり、名醫手として衆庶より絶大なる瞻仰を受く、我が刀主界の爲、更に我が醫學の發達の爲め益々健闘を望む。

るものあり。日本橋區吳服橋の本店に陳列所を設け、芝浦南濱町にサービス部を置き、又芝區芝浦町にボデー工場を設立して、整然たる營業陣を備へたり。當店內外の信用を受くること厚く、上下協力して事業の發展に邁進し、懇懇懇切に顧客に接し、商品も充分なる吟味検査を加へたる後に供給するに依り、好評噴々たるものあり。

エンパイヤ自動車商會

近時急激なる文明の進展に依り、スピード化の要望愈々熾烈と化し、自動車の需要と普及は益々増大を見るに至れり。斯くして我國に於ける自動車關係の事業は著しく、躍進を加ふるに至りしが、中にも東都に於ける業界の中堅の地歩を占むるエンパイヤ自動車商會は最近著しく興隆を遂ぐ。現在リンコン自動車總代理店、トラクター東日本一手販賣並にフォード自動車特約販賣店等を営むのみならず、純正部品、各種タイヤその他附屬品一式を取扱ひ、その商勢まことに隆々たる

店主柳田諒三氏は明治十六年長野縣人白田哲彌太氏の次男として生れ、後長野縣小諸の富豪柳田茂十郎氏の養嗣子に迎へらる。夙に専修大學に學び、後一年志願兵となり陸軍少尉に任ぜらる。明治四十四年財界に雄飛せんことを志して上京し、エンパイヤ自動車商會を創立す。當初電氣器具及自動車並に附屬品の販賣修繕を業とせり。後自動車事業のみに専念し、年々繁榮して大正二年現在の地に店舗を移すと共にフォード代理店を兼營す。人物剛毅調達、才略縱橫。業界屈指の手腕家にして今日の大を成すは偶然に非らず。現に日本自動車業組合聯合會會長を始め、萬歳貿易商會顧問に推舉せられその他數會社の重役を兼ね居れり。曩に東京市會議員、日本橋區會議員等に推されて市政、自治に減私努力を爲し、寄與貢獻するところありき。

(所在地 東京市日本橋區吳服橋一ノ二)

合名十字屋樂器店

明治維新以來泰西文化の輸入せらるゝに至りて西洋音樂の移植を見ることとなり。古來より我國に於て獨特の發展を遂げたる日本音樂と相共に我國音樂は茲に絢爛多彩を加ふるに至り、天性藝術を好む我國民性の眞面目を發揚せり。此處に音樂に對する深き理解と、眞摯たる研鑽をなして京都に樂器商を營む。十字屋樂器店あり。同店は明治三十年頃先代田中傳七氏の創業に成り、京洛繁榮の巷三條寺町に豪壯なる店舗を構へ、音樂愛好家の人氣を蒐め、洵に隆々たる營業振を誇示せしが後店主傳七氏の死去の悲運に際會し、其の前途に暗影を生じたりしが、ゆき子未亡人は敢然奮起して、遺業を繼承し、拮据經營に當りしに依り、家業大いに隆昌を見ることとなれり。ゆき子夫人は男優りの女丈夫にして、斯業經營に二兒調育に心膽を砕くこと多大にして、人知れず幾多の勞苦を嘗めしが、能く難業を克服し營業の發展を招來したるのみならず、二兒の調育を全うして、貞女の譽高く、まことに日本婦人の驕子といふべきなり。今や斯業界の老舗十字屋樂器店として、京洛に多大の名聲を博せり。曩に當店は時流に應じ

て合名組織に革め其經營に刷新を加へ、店頭

は世界の首位を占めんとするまでに至れるが

の裝飾、商品の陳列にも周到なる配慮をなし、新鮮發刺たる気分常に店頭に漲溢せり。又顧客に對しては頗る鄭重にして多大の好評あり猶同店の營業品目は、ピアノ、蓄音機、レコード其他樂器一式、樂譜、書物等なり。

當社は創立日未だ淺きに拘らず、斯界の新銳として大いにその將來を注目せらる。即ち、昭和九年資本金三百萬圓(内拂込百五十萬圓)を以て設立せられ、十二年四月末落成式を舉行し、直ちに試験營業を開始す。その製品は豫期以上に優秀にして各地に於て好評を博せり。最初日産能力三萬三分を目標とせしが、同業會社に對抗上中途に於て五萬に増加し、數地も一萬五千歩に擴張す、これが爲めに建設費二百五十萬を要せり。生産設備は世界最優秀のオスカコーホン式製法を採用し、設備上の諸條件頗る合理的にして、業界に虧るに足るものあり。近來ステイブル・ファイバーに對する認識は一段と高まり、濠洲との通商關係爲替問題は非常時對策として、これが利用は愈々旺盛に赴き、ステイブル・ファイバーの用途は無限なること、價格の低廉なること等を以て、將來多大の増加をなすものと期待せらる。當社は夙にこの趨勢を看取して、これが生産設備をなして、充分に備ふる所あり。尙ほ生産能力は前述の日産三萬三分より五萬に、更に近く十萬に増加せんとするの計畫あり。而して當社の設備は頗る優秀にして、その製品又甚だ良好なり。操業以來幾許も経ずと雖も、今後の發展こそ大いに期待せらるゝところ多大と謂ふべし。

新潟人絹工業株式會社

近年我國人絹業の躍進著しく、その生産額